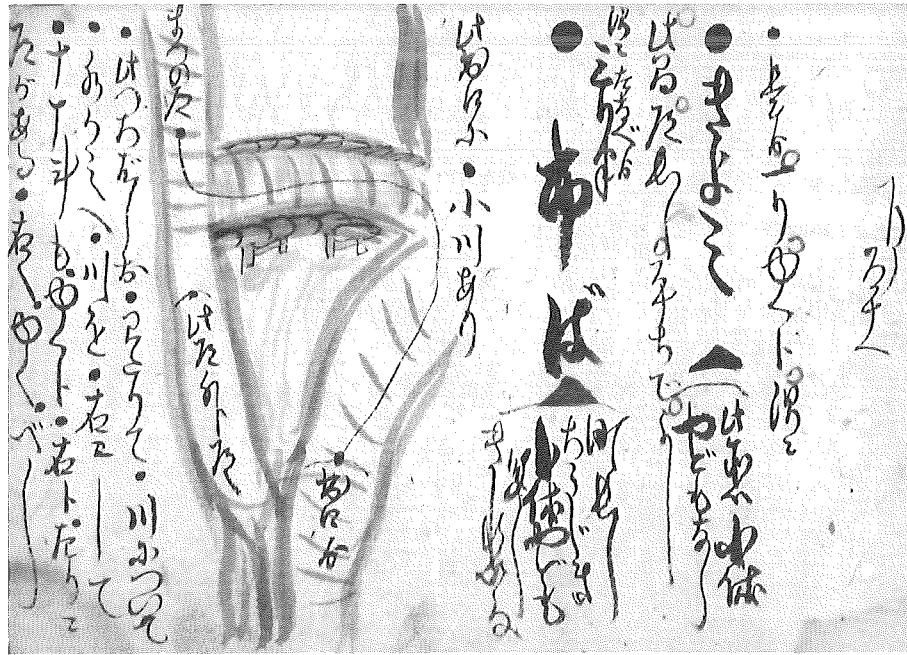


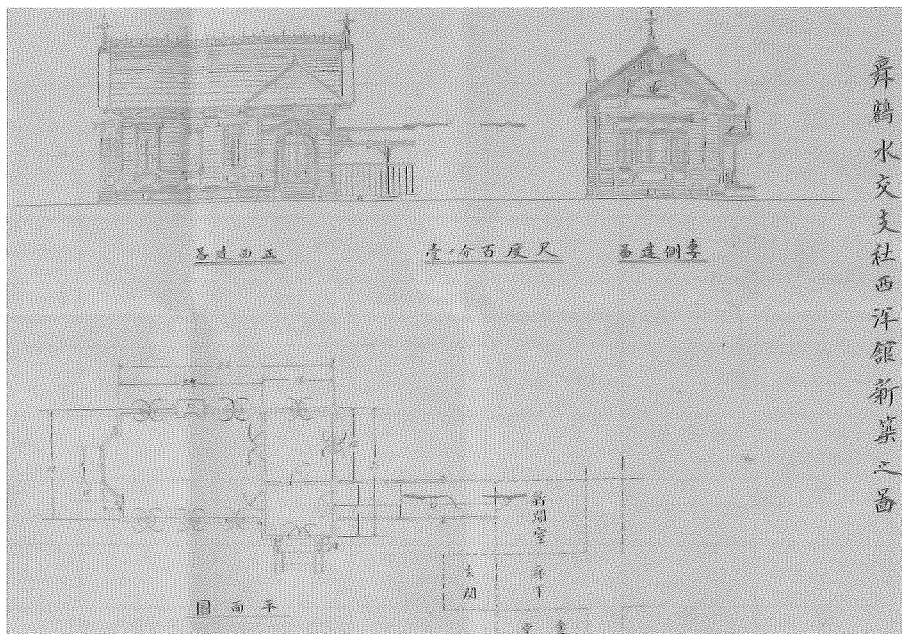
口絵1 文化10年(1813)「作方年中行事」(井上奥本家文書)  
2019年1月21日東舞鶴高校授業教材

1 休日、雑煮	2 休日、神へ参り 参り	3 休日	4 卯辰の忌等 参り	5 薪燵	6 →	7 休日、幸、雑煮
雑煮、氏神へ参り	雑煮、氏神へ参り	休日	男の、女の参り	→ 他何れ	7王謡 七草	うゑの正月
8 薪燵	9 →	10 →	11 三才徳 古くは参り	12 参り、参り	13 →	14 氏神へ参り 参り、本参り
			参りへ参り 参り	大神宮詣 参り	→	参り、参り
15 休日、小豆汁	16 薪燵	17 →	18 参り、参り	19 参り	20 薪燵、参り	21 参り、参り
参り、参り	参り、参り					
22 →	23 →	24 参り、参り	25 参り、参り	26 休日 参り	27 参り、参り	28
		参り、参り	参り、参り			
29	30	31		参り、参り	参り、参り	
				参り、参り	参り、参り	

口絵2 東舞鶴高校生が「作方年中行事」から作った200年前の正月カレンダー  
2019年1月21日東舞鶴高校授業



口絵3 文政3年(1820)「西国巡礼略打道中記」市場付近(舞鶴市糸井文庫)  
2018年11月12日東舞鶴高校授業教材



口絵4 舞鶴水交社西洋館新築之図(井上奥本家文書)  
2019年2月舞鶴市郷土資料館出張展示「鎮守府と中舞鶴」展示

京都府立大学文化遺産叢書 第16集

舞鶴の地域連携と世代間交流  
井上奥本家文書調査報告

## 刊行にあたって

京都府立大学文学部歴史学科では、京都府下を中心に、地域の歴史や文化遺産に対する研究をおこない、その成果を文化遺産叢書として2008年度以来公刊してきた。その第16集となる本書は、舞鶴市に関する京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）である「丹後地域の高大連携、世代間交流を核とした文化遺産活用」（2018年度）をまとめたものである。舞鶴では、本叢書同第11集『舞鶴地域の文化遺産と活用』（2016）、同第12集『「丹後の海」の歴史と文化』（2017）、同第14集『舞鶴・京丹後地域の文化遺産』（2018）につづく4冊目の調査研究の成果となる。

本書には、数年間にわたる共同研究のなかで実施した、舞鶴地方史研究会との井上奥本家文書調査、東舞鶴高校との連携授業、藩校サミット舞鶴大会実行委員会との連携、舞鶴市多門院地区の地域おこし活動、また舞鶴市の歴史文化基本構想、舞鶴引揚記念館の活動の成果、研究をまとめている。

いずれも舞鶴地方史研究会・舞鶴市郷土資料館や京都府立東舞鶴高校、藩校サミット舞鶴大会実行委員会、多門院長生会など、地域で活動する方々のご協力を得ており、またみなさん自身に地元の歴史、文化遺産活用をまとめていただいた。大学のみでは、調査範囲・方法に限られることも多く、このような地域との協働作業が今後の調査・活用では重要となる。

これまでの舞鶴地域のACTRで調査・研究を進めた舞鶴幼稚園資料は、舞鶴幼稚園の新校舎完成に伴い、展示準備が進んでおり、そのパネルや解説パンフレット製作にも関与している。舞鶴の調査・研究・活用は7年目に入るが、これから一層、地元のみなさんと進めていきたい。

京都府立大学文学部歴史学科



## 例 言

一、本書は、2018年度に実施された、以下の京都府立大学地域貢献型特別研究の成果の一部である。

「丹後地域の高大連携、世代間交流を核とした文化遺産活用」

(研究代表者)	東 昇	文学部准教授
(研究分担者)	菱田 哲郎	文学部教授
	小林 啓治	文学部教授
	諫早 直人	文学部准教授
(研究協力者)	小室 智子	舞鶴地方史研究会
	廣瀬 邦彦	京都府立東舞鶴高等学校教諭
	新谷 勝行	京丹後市教育委員会文化財保護課係長
(研究費用)	1,525,000円	

一、本書の執筆には、上記の者のほかに、新谷一幸（多門院の将来を考える会会長）、松本達也（舞鶴市文化振興課文化財係長）、長嶺睦（舞鶴引揚記念館学芸員）、竹中友里代（京都府立大学特任講師）、舞鶴地方史研究会、京都府立大学文化情報学研究室があたった。

一、本書の編集は、東昇がおこなった。

一、表紙に利用した写真掲載にあたり次の個人より提供・許可を受けた。

廣瀬邦彦・松岡秀雄

○調査協力者・機関（敬称略、五十音順）

上井孝雄 於久田推 公文公雄 小西とも子 高橋聡子 福嶋将人（以上、舞鶴地方史研究会）

金田吉孝（東舞鶴高校） 水谷悦之 門仲雄一郎（以上、藩校サミット舞鶴大会実行委員会）

舞鶴市郷土資料館 舞鶴市文化振興課 舞鶴引揚記念館 舞鶴地方史研究会 京都府立東舞鶴高校、藩校サミット舞鶴大会実行委員会

○調査参加者

京都府立大学文化情報学研究室、史学専攻の大学院生

## 目次

刊行にあたって	3
例言	4
第Ⅰ部 舞鶴の地域連携、世代間交流と文化遺産活用	
舞鶴の地域連携と文化遺産活用	
井上奥本家文書・パンフレット・舞鶴幼稚園	(東 昇) 8
舞鶴市郷土資料館出張展示「鎮守府と中舞鶴」	(小室 智子) 11
京都府立東舞鶴高校と京都府立大学の連携授業	
「古文書とフィールドワークを通してみる舞鶴の歴史」	(廣瀬 邦彦) 14
東舞鶴高校における高大連携	
古文書とフィールドワークを通してみる舞鶴	(水野 拓也) 16
舞鶴地方史研究会の活動	(小室 智子) 22
多門院地区の世代を超えた連携と古文書を活かした取組	(新谷 一幸) 24
舞鶴歴史文化基本構想の策定	(松本 達也) 26
博物館の地域の連携	
—世界記憶遺産登録よってうまれたもの—	(長嶺 睦) 28
「地域史料研究会やわた」の活動	
—古文書の保存と活用をめざす協同調査—	(竹中 友里代) 30
第Ⅱ部 井上奥本家文書調査報告	
井上奥本家文書解題	(東 昇) 32
井上奥本家文書目録	(京都府立大学文化情報学研究室・ 舞鶴地方史研究会) 38
井上奥本による明治42年「余部町史稿」編纂	(東 昇) 134
翻刻 作方年中行事・山論・献立・日露戦争	(京都府立大学文化情報学研究室・ 舞鶴地方史研究会) 140
奥付・文化遺産叢書リスト	

# 舞鶴の地域連携と文化遺産活用

## 井上奥本家文書・パンフレット・舞鶴幼稚園

京都府立大学文学部  
歴史学科 准教授  
東 昇

### 6年間の ACTR 調査

歴史学科では、2013年より現在まで6年間にわたって、舞鶴市において地域貢献型特別研究（ACTR）を継続している。これまで、古地図や街道、石造物をはじめ、各地区の祭礼・聞き取り調査を実施した。すでに調査成果の報告書として、文化遺産叢書 11『舞鶴地域の文化遺産と活用』（2016年3月）、12『「丹後の海」の歴史と文化』（2017年3月）、14『舞鶴・京丹後地域の文化遺産』（2018年3月）の3冊を3年連続で刊行している。2018年度は、舞鶴地方史研究会、京都府立東舞鶴高校、第16回全国藩校サミット舞鶴大会実行委員会、京丹後市教育委員会の提案を受け、ACTR「丹後地域の高大連携、世代間交流を核とした文化遺産活用」（研究代表東昇）として以下4つの事業を進めた。

### 「舞鶴地域の地域連携、世代間交流と文化遺産活用」報告会

まず第1に、この第I部では、これまでのACTRの調査・成果のなかで、地域連携、世代間交流を軸とした、地方自治体・博物館・高校・区・研究会など各種団体とともに実施してきた事例を紹介している。これらの内容は、2019年3月2日（土）、舞鶴市政記念館 ホール（舞鶴赤れんがパーク）で開催された、「地域貢献型特別研究（ACTR）成果報告会 in 舞鶴」（京都府立大学京都地域未来創造センター主催、舞鶴市、京都府、京都府教育委員会後援）における、つぎの各報告を基にしている（写真1）。

- 東 昇「舞鶴幼稚園資料の調査と活用」
- 松本 達也「舞鶴歴史文化基本構想の策定」
- 廣瀬 邦彦「東舞鶴高校と府立大学の連携」
- 小室 智子「舞鶴地方史研究会の活動」
- 新谷 一幸「世代を超えた連携と「多門院地区歴史探訪」への取組」
- 長嶺 睦「博物館の地域連携～世界記憶遺産登録によって生まれたもの～」



写真1 「地域貢献型特別研究（ACTR）成果報告会 in 舞鶴」チラシ

## 井上奥本家文書の調査・整理と活用

第2に、第Ⅱ部で紹介する井上奥本家文書の調査・整理、そして文書を活用した展示・授業に関する報告をまとめた。井上奥本家文書の鎮守府関連資料の展示について、小室智子氏に「舞鶴市郷土資料館出張展示「鎮守府と中舞鶴」として寄稿いただいた。また東舞鶴高校では、200年前の正月カレンダーを作るという第3回授業で「作方年中行事」を、授業のテキストとして利用した（口絵1.2）。この授業は廣瀬邦彦氏の報告と、ゼミ生であり母校京都学園高校の非常勤講師を勤める水野拓也君（文学研究科史学専攻博士前期課程1回生）の「東舞鶴高校における高大連携」に詳しい。廣瀬氏、水野君と3人で、毎回授業案を検討し、授業に臨ませていただいた。

井上奥本家文書の調査・整理では、舞鶴地方史研究会、舞鶴市郷土資料館と共同で作業を行った。詳しくは小室氏の報告に譲るが、年数回のゼミ生のみでの調査では、2年間という短期間で約3600点もの文書整理は不可能であった。またそれぞれの作業、蔵出し・ラベル貼りは舞鶴市郷土資料館との共同、目録は舞鶴地方史研究会、撮影はゼミ生と分担することにより、それぞれの興味関心、整理能力に応じた調査を実施することもできた。これは舞鶴地方史研究会が、菅原憲二元千葉大教授とともに長年にわたり文書整理に携わってきたこと、地域にとって文書整理、目録作成、資料翻刻の基礎作業が重要であるという、歴史研究の基本を十分に理解されているからだといえる。それは、研究誌『舞鶴地方史研究』や『舞鶴市史』という、自らの歴史を、自らの手で調べ、自らのために調査・研究してきた蓄積の結果ともいえる。このような民間の歴史研究団体の比較参考事例として、八幡市の研究会活動について、竹中友里代氏（京都府立大学特任講師）に寄稿いただいた。また舞鶴・八幡における大学との地域調査と成果公開については、東昇「近世石清水神人と文書—京都府八幡市地域の調査から—」（『日本史研究』678、2019）で概説している。

## 藩校サミットとパンフレット作成

第3に、これまでの成果をわかりやすく紹介するパンフレット制作（テーマ選定、文章やデザイン・レイアウト）を文化情報学ゼミ生とともに取り組んだ。「舞鶴の歴史アラカルト」（写真2・3）と題し、これまでの舞鶴幼稚園、堂奥・多門院・成生の文書・祭礼調査を紹介している。また日常の文書調査やゼミの活動、ブログ・ツイッターによる情報発信の様子も掲載した。各テーマは、田辺藩との関係を軸にしており、2018年9月29日（土）舞鶴市総合文化会館で開催された、第16回全国藩校サミット舞鶴大会で参加者約500人へ配布し、舞鶴の歴史、ゼミの活動を知っていただくよい機会となった。その後、10月21日両丹地方史研究者発表大会、10月22日京都府立東舞鶴高校での連携授業、先述した2019年3月2日の報告会等でも配布している。



写真2 「舞鶴の歴史アラカルト」表面



写真3 「舞鶴の歴史アラカルト」内面

## 舞鶴幼稚園の資料調査と活用

第4に、2013～2016年に調査を行った舞鶴幼稚園の資料調査と活用である。舞鶴幼稚園は、明治17年（1884）に開園し今年で135周年、京都府下では現存する幼稚園として最古、全国6番目に古い歴史を持つ。舞鶴幼稚園には、明治～昭和の園児教材や作品を中心とする資料があり、その整理を行った。2014年11月の130周年には記念事業として、幼稚園・同窓会とともに、記念誌『舞鶴幼稚園130年のあゆみ—受け継ぐ文化遺産—』を編集・刊行した。同時に記念講演を行い、ゼミ生は記念展示の準備、解説をしている。また2016年3月には、京都府立大学文化遺産叢書11集『舞鶴地域の文化遺産と活用』に、幼稚園資料の目録・解題・画像などを掲載し、全体像をあきらかにした。そのうち889点が、2017年1月舞鶴市指定文化財となった。幼稚園の所蔵資料が文化財になるのは、全国的にみても大変珍しいことである。その後、舞鶴幼稚園は、2018年度園舎が建て替えられ、2019年4月から舞鶴こども園と改称する予定である。

2018年10月、椋本有加理園長から園舎建て替えに関して展示スペースが作られる予定であり、そこに掲示する資料紹介パネルと配布するパンフレットの作成の依頼があった。そのため、「舞鶴の歴史アラカルト」を編集・デザインした実績のある、ゼミ生の濱本めぐみさん（文学部歴史学科3回生）に、A0パネル21枚とA3パンフレットの編集・デザインを依頼し、2019年2月に完成した（写真4.5）。

舞鶴幼稚園は、1896年の水害で記録類が失われ、1945年戦争の悪化により休園、数回の移転・建て替えを経験し、何度も資料散逸の危機にあった。しかしそのたびに、幼稚園の教職員や保護者、地域住民の努力により守られ、現在に継承されている。2019年4月舞鶴こども園と改称されるが、このように幼稚園資料を文化遺産として継承し、展示やパネル、パンフレットにより紹介、活用していくことにより、舞鶴幼稚園135年の歴史を後世に伝えていくことができる。これらは、舞鶴幼稚園の教職員・園児・保護者、地域の人々、舞鶴市・郷土資料館、府立大学の諸団体が連携協力して実施できたといえる。今後も連携を継続し、文化遺産として幼稚園資料を収集・保存・活用していくことが重要である。

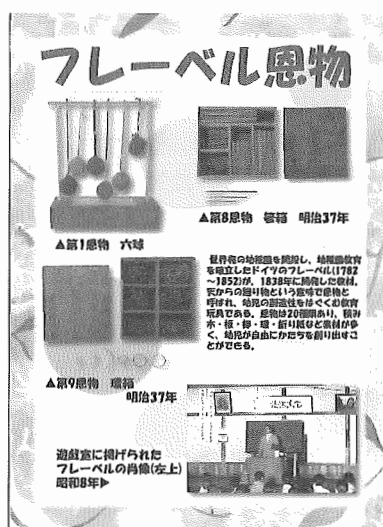


写真4 舞鶴幼稚園資料紹介パネル

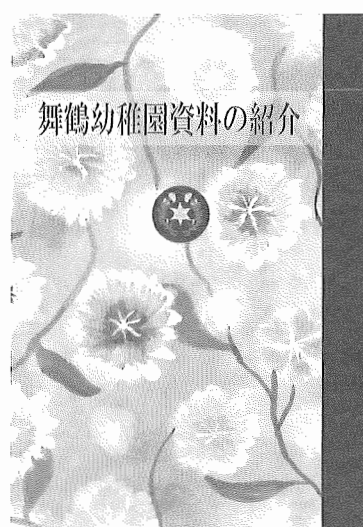


写真5 同 資料紹介パンフレット

# 舞鶴市郷土資料館出張展示 「鎮守府と中舞鶴」

舞鶴市郷土資料館 学芸員  
小室 智子

舞鶴市郷土資料館では2019年2月13日(水)より3月3日(日)まで「鎮守府と中舞鶴」と題する展示を赤れんがパーク3号棟(智恵蔵)特別展示室で開催した。

江戸時代には田辺と呼ばれた舞鶴は城下町を中心に発達してきた。町といわれる地区はこの田辺城下町と市場などごくわずかな地域でほとんどは農山漁村である。そのような舞鶴の余部下地区に鎮守府設置が決まるとその周辺に市街地が建設されたのである。建設当初「余部鎮守府」といわれたように鎮守府の西側に広がる余部下・余部上・長浜・和田の4地区は、海軍軍用地となる面積も大きく最もその影響を受けた地域である。この4地区は、古来長浜地区にある高倉神社の氏子であり、1876(明治9)年余部校(現中舞鶴小学校)を設置して共に学んでいた地域である。1901(明治34)年舞鶴鎮守府が開庁したことにより、人口1500人程の村が10000人を超える町になったのである。鎮守府開庁の翌年には人口が倍となり、この4地区で余部町を設置した。さらに1919(大正8)年には人口12000人を超え、中舞鶴町となった。また鎮守府の東側に位置する浜村にも、鎮守府設置によって舞鶴に住むこととなる海軍軍人や軍属・工廠関係者やその家族のための市街地が建設されたのである。当時は現在の東地区にあたる新市街を新舞鶴、現在の西地区で旧来の城下町を舞鶴、地理的にその中間に位置する現在の中地区を中舞鶴と呼んだのである。

この中舞鶴地区の歴史を語る余部上地区の庄屋井上奥本家文書の目録が2018年・2019年のACTRによって完成した。このACTRは舞鶴地方史研究会が提案し、京都府立大学文学部歴史学科東昇准教授の指導のもとに行われたものである。舞鶴市郷土資料館ではこの調査に協力し、当館が所蔵する余部下地区の布川家文書や瀬野家文書、長浜地区の梅垣家文書などとともに、今回の成果の一部を企画展「鎮守府と中舞鶴」として紹介した。内容は、鎮守府開庁以前の中舞鶴、鎮守府、市街地造成、道路建設、軍や工廠主催のイベントなどであり、展示数45点である。特に井上奥本家所蔵の鎮守府建物の外観図や間取り図、館蔵布川家文書の道路や市街地設計図など貴重なものである。また、井上奥本家の『餘部案内』(当時の余部町の概要を記した出版物)は当館にもなかったもので、その中の「構内観覧手続」は昨年ACTRで実施したシンポジウム「海とともに生きる舞鶴―丹後の海再考」の中で上杉和央准教授が紹介したものの同様に軍港内を観覧する時の手続き法である。

今回の調査で余部上と余部下の両庄屋の文書が揃ったことになり、さらに中舞鶴地区の歴史が分かってきたのである。鎮守府開庁によって大きく変貌する中舞鶴の姿を是非企画展にしたいと考え、所蔵者である井上奥本家に相談した所、快諾を得、今回の展示となったのである。文書所蔵者である井上家ははじめ舞鶴地方史研究会、府立大学、当館

に文書を寄贈していただいた布川家・瀬野家・梅垣家、その他たくさんの方々の協力で今回の企画展を開催できたことに深く感謝している。

今回展示できたのは井上奥本家文書約 3500 点、布川家文書約 3500 点のうちの極一部である。これを機にさらに研究が深まれば幸いである

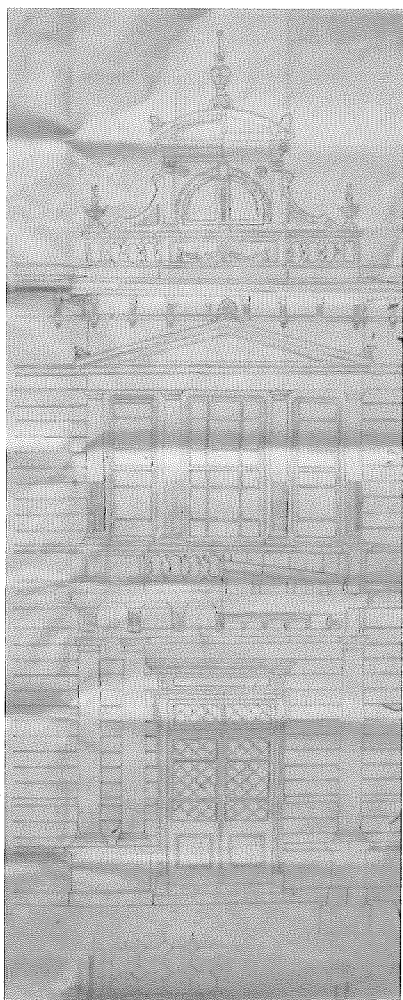


写真1 鎮守府正面外観図（井上奥本家文書）



写真2 鎮守府本部絵葉書（舞鶴市郷土資料館蔵）

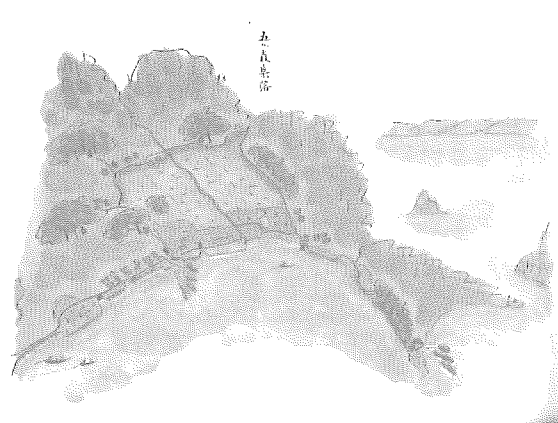


写真3 全戸軍施設設置のために移転させられた長浜地区五森の風景画（館蔵梅垣家文書）



写真4 展示の様子  
「鎮守府設置前の中舞鶴」

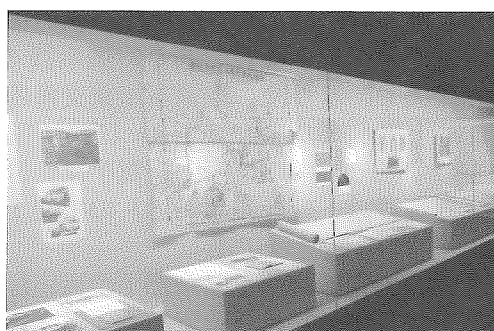


写真5 展示の様子  
「戦後の中舞鶴」



舞鶴市郷土資料館出張展示「鎮守府と中舞鶴」展示目録

テーマ	表題	年	所蔵	
古文書調査	[手紙]	明治 38 年 (1905)	井上奥本家蔵	
	[ビスケットの中包紙]		井上奥本家蔵	
	古文書調査風景写真			
鎮守府設置前 の中舞鶴	京都府加佐郡余部付近之図	明治 39 ~大正初期	館蔵	
	雲門寺写真コピー	昭和 13 年 (1938)	館蔵	
	高倉神社写真コピー		館蔵	
	五ツ森想い出の画集コピー	平成 7 年 (1995)	館蔵梅垣家文書	
	丹後国加佐郡町在日記	享保 16 年 (1731)	館蔵布川家文書	
	[余部上村下村山論裁許絵図]	宝暦 10 年 (1760)	館蔵	
	作方年中行事	文化 10 年 (1813)	井上奥本家蔵	
鎮守府設置	軍港市街記	明治 29 年 (1896)	井上奥本家蔵	
	本字新市街契約書	明治 29 年 (1896)	館蔵布川家文書	
	呉佐世保視察書	明治 31 年 (1898)	館蔵布川家文書	
	鎮守府玉座正面	明治 33 年 (1900)	井上奥本家蔵	
	舞鶴鎮守府家屋营造物配置図其 2	明治 44 年 (1911)	海上自衛隊 舞鶴地方総監部蔵	
	初版舞鶴鎮守府例規全	明治 35 年 (1902)	井上奥本家蔵	
	鎮守府建物外観・間取り図		井上奥本家蔵	
	鎮守府絵葉書コピー		館蔵	
	舞鶴水交社西洋館新築図		井上奥本家蔵	
	水交支社絵葉書コピー		館蔵	
	市街地建設	加佐郡餘部町餘部上地図		館蔵布川家文書
		余部上本町通写真コピー		館蔵布川家文書
		余部上本町通写真コピー		館蔵布川家文書
加佐郡餘部町字餘部下新市街地図			館蔵布川家文書	
余部下本町通写真コピー			館蔵布川家文書	
引き札 (舞鶴軍港餘部上本町 3 丁目高見商店)			井上奥本家蔵	
女髪結営業届		大正 3 年 (1914)	館蔵瀬野家文書	
興行届		明治 37 年 (1904)	館蔵瀬野家文書	
観物御届		明治 37 年 (1904)	館蔵瀬野家文書	
中舞鶴共楽公園絵葉書		昭和 11 年 (1936)	館蔵	
道路建設	『[矢谷・深田・由里ノ下設計埋立計画図]』		館蔵布川家文書	
	道路開鑿之義ニ付稟請	明治 35 年 (1902)	井上奥本家蔵	
	和田湾ヨリ鎮守府ニ達スル街道 道路開鑿 工事設計書 加佐郡餘内村	明治 33 年 (1900)	館蔵布川家文書	
	軍港附近道路開通式順序コピー	明治 35 年 (1902)	井上奥本家蔵	
	中舞鶴小学校運動場地鎮祭紀念写真コピー	昭和 7 年 (1932)	館蔵	
	軍艦行進曲 SP レコード盤		館蔵	
軍のイベント	餘部案内	明治 44 年 (1911)	井上奥本家蔵	
	第 9 駆逐艦進水命名式式場案内図 (コピー)		館蔵瀬野家文書	
	駆逐艦楓進水記念絵葉書		舞鶴市政記念館蔵	
	駆逐艦進水式写真コピー		館蔵	
戦後の中舞鶴	舞鶴市所在国有財産利用図		館蔵	
	旧軍港市転換法	昭和 25 年 (1950)	館蔵	
	海上保安学校一期生写真コピー		個人蔵	
	中舞鶴線写真コピー		館蔵	
	中舞鶴線お別れ列車写真コピー		館蔵	



# 京都府立東舞鶴高校と京都府立大学の連携授業 「古文書とフィールドワークを通してみる舞鶴の歴史」

京都府立東舞鶴高校 教諭  
廣瀬 邦彦

京都府立東舞鶴高校（全日制）は全校生徒 500 名あまりの普通科単独の高校である。

本校では、地歴公民科の授業の一環として、東昇准教授と大学院生の皆さんによる連携授業を実施した。当初は年間に 5 回の授業予定であったが、第 1 回（7 月 9 日）が悪天候により中止となったため、結果的に 4 回の実施となった。

連携授業の獲得目標は次のとおりである。①暗記科目となりがちな歴史の学習であるが、探求する心が大切であることに気づかせること。②歴史は教科書に載っているような中央の出来事だけでなく、舞鶴など地方にも豊富にあることに気づかせること。③大学での研究の一端を体験させ、自己の進路選択の一助とさせること。こうした取り組みを通じて、地域の歴史に興味をもち自ら学ぼうとする生徒を育てたい。

今年度の授業に参加したのは、2 年生 4 組・5 組（アドバンスコース）の生徒のうち、「日本史 B」を選択している生徒 32 名と、「世界史 B」を選択している生徒 29 名の計 61 名であった。会場は本校の視聴覚教室を利用した。

普段の高校での授業とはひと味違う探求活動に、生徒は熱心に取り組んだ。自分の身近な地域や行事にも意外な歴史が宿っていることに、生徒はとても興味を持った様子であった。また年齢が近い大学院生とのふれあいを通じて、大学生活へのあこがれも強まったものと思われる。当初はフィールドワークを取り入れたいという思いがあったが、生徒の人数や授業時間数など高校側の制約のため実施できなかったことは残念だった。

東先生には、探求活動のテーマ設定から、高校生の目線に立った指導教材の工夫まで、毎回時間をとって準備していただいた。また大学院生の皆さんにもたびたびご来鶴いただき、授業の補助などをお世話になった。多忙な中ご協力いただいた府立大学の皆さんにこの場で感謝申し上げたい。

## 第 1 回 「桐油・桐実からみる舞鶴の歴史」

日時 10 月 22 日【月】 1・2 時間目（以下、1 時間は 50 分間）

授業の前半では、東先生、大学院生から京都府立大学での研究と学生生活（一人暮らし、サークル活動、アルバイトなど）の紹介。後半は舞鶴での桐油・桐実生産についての授業。舞鶴市が全国有数の桐油の生産地であったことを紹介した上で、舞鶴市堂奥の村絵図（明治 13 年）で桐畑の多さを確認。その後、「加佐郡村誌」（明治 15 年）からとった村ごとの桐実生産高のデータを白地図に記入し、班ごとに明治時代の桐畑の分布の特質について考えさせ発表させた。

## 第2回「200年前の東舞鶴高校付近」

日時 11月12日【月】 2時間目

東舞鶴高校の生徒通学路は江戸時代の街道筋と重なっている部分が多い。「西国巡礼略打道中記」(文政3年)には、東舞鶴高校周辺(市場、小倉、鹿原)についての江戸時代の情報が豊富に含まれている。今回はこの史料を利用して、生徒が毎日目に行っている風景を歴史的な視点から再発見させた。生徒には現代の地図を配布し、「西国巡礼略打道中記」の記事を読ませて、当時の街道ルートの復元に挑戦させた。また、古文書への導入としてくずし文字の解読にも挑戦させた。

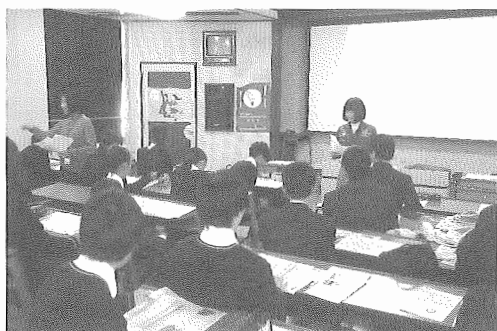


写真1 ワークショップの様子

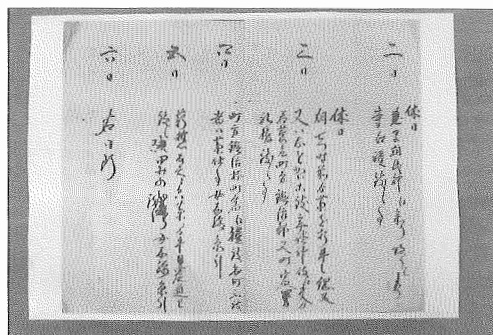


写真2 古文書のプリント

## 第3回「200年前の舞鶴の正月行事」

日時 1月11日【月】 1・2時間目

今回は史料「百姓作方年中行事」にもとづいて、舞鶴市餘部上・成生という異なったタイプの二つの村を素材とし、それぞれの江戸時代の正月行事を考察した。生徒には白紙の正月カレンダーを配布し、餘部上村と成生村の正月行事を記入させ、現代と江戸時代の正月行事の違い、また農村である餘部上村と漁村である成生村の正月行事の差異について班ごとに考えさせた。

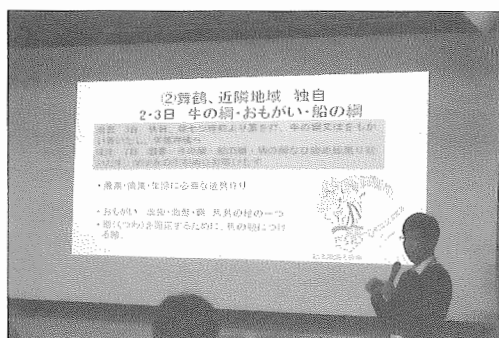


写真3 正月行事の講義

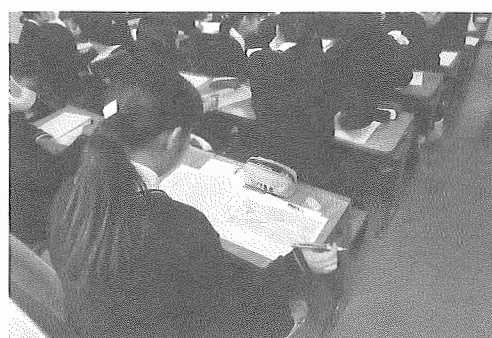


写真4 課題に取り組む高校生

## 第4回「歴史研究と大学生活」

日時 2月18日【月】 2時間目

一年間の連携授業のまとめとして、東先生や学生院生から、各自の歴史研究に対する思いや目標などを紹介していただいた。

# 東舞鶴高校における高大連携

## 古文書とフィールドワークを通してみる舞鶴

京都府立大学文学研究科  
博士前期課程 1 回生  
水野 拓也

### はじめに

2018 年度、京都府立大学歴史学科文化情報学研究室は、京都府立東舞鶴高校との高校・大学の連携授業を行った。主に京都府立大学の舞鶴地域での調査（古文書整理）・フィールドワークから、地域の歴史を中心に各授業を組み立てた。また今回の高大連携授業を通して、普段学んでいる歴史と住んでいる地域の歴史との相互関係を意識し、歴史への興味・関心を高めることを大きな目標としつつ、各授業における個別のねらいを設定した。主に参加者は、文学部の東准教授と院生・ゼミ生と東舞鶴高校の社会科教員廣瀬邦彦先生、金田吉孝先生と、同校の 2 年 4・5 組の日本史・世界史の受講生 61 名である。以下は実際に行った授業の内容と授業を通しての考察・まとめである。

### 授業の展開

10 月 22 日の授業（授業案 100 分：2 時間分）

- ・ねらい：近代の桐実生産から舞鶴地域の地名と産物の特徴をつかむ
- ・授業方法：パワーポイント・加佐郡白地図・郡村誌桐実分布図・加佐郡誌桐実生産の表・「加佐郡村名地図」・青と緑色のシールを使用したグループワーク

#### ・実施した授業

学習内容	主な学習活動	時間 (分)	支援及び留意点	評価の観点・方法・項目
着席指導	本時の座席を指定し作業に向けての準備を行う。 7 グループに分かれて、ワークショップの時に作業を行う。	5	○グループで作業をすることを話し、周囲の友達と確認し合うよう促す。	【知識・理解】 ◆舞鶴の地名や桐実の歴史について理解できている。 ◇桐実の分布や規模から植生や要因を考察し、知識を身につけている。 【技能・表現】 ◆「気づいたこと・学んだこと」が 1 つ記述でき、本時のねらいを理解したと認められる。

趣旨説明	大学教員からの趣旨説明など	5	○自己紹介や本時の説明などを行い内容の確認を行う
大学生生活と研究について	学生・院生から普段の大学生生活や研究についての紹介を行う。	10	○紹介を聞いて、疑問などがあれば作業中に回答するように配慮する(時間超過に注意する)
舞鶴の桐生産	幕末から明治にかけての舞鶴での桐実生産をパワポを用いて説明する。 ①映画「海賊と呼ばれた男」より油の用途をイメージさせ、ロケ地として登場した舞鶴との身近さを持たせる。 ②その後、桐実の画像・実物を見せる。 ③全国の桐実の生産量をグラフにしたものを提示し、産業としての規模を理解させる。	10	○事前に作業担当の学生がテーブルの周囲にいて、適宜補足を加える。(時間超過に注意する)
ワークショップ	加佐郡白地図に、桐実生産の表をもとに村名ごとの生産量を記述していき、舞鶴の地名と桐実の分布を視覚的に理解し、どの様な所に多いかなどに注目し、考察させる。	20	○郡村誌のコピーを見せ、記載情報の資料を具体的にイメージさせ、普段の大学生生活を引き合いに出しながら作業を開始する。 ○生徒の知っている地名を答えてもらえるように促す。 ○わからない地名に関しては、適宜生徒と競い合うように地名を指し意欲の向上に配慮する。 ○生産高の表示には適宜シールを使用しても良い。
休み時間		10	
ワークショップ	同上	25	○現在の舞鶴の地図と白地図を比較させ、どのような場所に分布しているか(高低差や植生)に注目して、田地の条件なども適宜説明を行い、考察を促す。
発表とまとめ	白地図から考察した内容をいくつかのグループをあて、発表させる。 その後、パワポを使い、桐の分布と植生について説明を行う。	10	○できる限り、植生・高低差などの条件以外が出た場合積極的に取り入れる。 ○他のグループで出た内容があれば適宜記述するように促す。
アンケート	本時についてのアンケートの実施。	5	感想や要望を記入してもらい、率直な意見を書いてもらえるようにする。

11月12日の授業（授業案50分：1時間分）

- ・ねらい：「西国巡礼略打道中記」の古文書読解を通して江戸時代の街道の様子を考察し、史料の特性・性格から刊行物の一般民衆化をみる
- ・授業方法：パワーポイント・「西国巡礼略打道中記」・明治26年地形図・国土地理院地図・レジュメを使用し、道中記に示された道筋を現在の地図と合わせて考察する。

・実施した授業

学習内容	主な学習活動	時間(分)	支援及び留意点	評価の観点・方法・項目
着席指導	本時の座席を指定し作業に向けての準備を行う。	5	○グループで作業をすることを話し、周囲の友達と確認し合うように促す。 ○時間調整に注意する(早く終われば、作業説明もしくは、ワークショップに5分追加する)。	【知識・理解】 ◆学校近辺の街道について理解ができてい る。 ◇「道中記」という史料の性質・特徴を理解できている。 ◆いくつかの「くずし字」を読むことができる。 【技能・表現】 ◆「気づいたこと・学んだこと」が1つ記述でき、本時のねらいを理解したと認められる。
作業説明	本時の作業内容についての説明を行う。 【発問】「江戸時代の道について、調べるとしたら何をを使うか？」→【生徒の反応】「地図(古地図・国絵図)など」 【発問】「国絵図をみながら現在の道を想像できるか」→【生徒の反応】「難しい・可能」 →次に「道中記」の記載内容(どのような情報が記載されているかなど)を紹介する。	5	○過去の街道について「国絵図」から文字史料へと注意を促し、「道中記」の性質などの説明はせず、街道について記載されていることのみ紹介する。	
ワークショップ	①「道中記」を使用しながら、現在使用されている地図と明治時代に作成された地図を使用し江戸時代の街道のルートを考察させる。 ②「道中記」自身の性質・特徴について文字や絵図などに注目し、考察させる。 ③何文字か指定された「くずし字」の読解を行う。	20	○ルート考察の際に、周囲の村や寺の情報を与えながら考察を促す。 ○「道中記」の文字(平仮名・片仮名・漢字)の配分や史料の対象(誰のために記述したのか・どのような目的で作成されたのか)は何なのかをコピーを用いて考察させる。 ○複数人の指導補助が行える場合は、生徒をいくつかのグループに分けて、少数での考察・作業を行えるようにする。 ○「くずし字」の読解に関しては、紙に崩されていく過程を書きながら解説する。	

まとめ	前方で、パワポを用いて、ルート15の考察結果を共有し、「道中記」の解説を行う。	○江戸の出版物や庶民の旅行について言及し、史料の理解を促す。
-----	---	--------------------------------

1月21日の授業（授業案100分：2時間分）

- ・ねらい：「作方年中行事」の翻刻文を中心に当時の年中行事と村での生活の実態をみる。作業を通して、朝廷の行事が江戸時代には、民衆への浸透をみせることを取り上げる。
- ・授業方法：パワーポイント・「作方年中行事」の翻刻文・1月カレンダーを準備し、現在・近世の餘部上・成生両村の正月における行事・作業などを記入し、現在・または村と村を比較し、考察する。

・実施した授業

学習内容	主な学習活動	時間(分)	支援及び留意点	評価の観点・方法・項目
着席指導	本時の座席を指定し作業に向けての準備を行う。	2	○グループで作業をすることを話し、周囲の友達と確認し合うように促す。 ○時間調整に注意する(早く終われば、作業説明もしくは、ワークショップに5分追加する)。	【知識・理解】 ◆2つの史料から一定の情報抜き出し、語句の理解と比較検討が行える。 ◆正月の作業と生業の関係に気づくことができる。 【技能・表現】 ◆「気づいたこと・学んだこと」が1つ記述でき、本時のねらいを理解したと認められる。 ◆史料からカレンダーの作成と行事内容がまとめられている。
導入	本時に際して、教科書における農民の生活、太陽暦・太陰暦、不定時法、十干十二支についての概説をパワポを用いて行う。	8	○特に史料にある「朝七ツ時」などは作業を行う際に再度確認し、現在との差異を指摘する。	
作業説明	本時の作業内容について説明を行う。 【発問】「200年前の舞鶴ではどんなお正月を過ごしていたのか？上の欄に記入する」 →【生徒の反応】 「お年玉、初詣、羽根つき、カルタ」など  →「作方年中行事」（餘部上・成生）と1月のカレンダー、舞鶴村別地図を配布し、当時の年中行事についての記載をみる →行事・作業・休日などをカレンダーに記載する	5	○現在のお正月で行う物事や何日までを正月と認識しているかなど、現在のお正月のイメージを持たせる。	

ワークショップ	①「作方年中行事」の餘部上・55 成生の兩村の記述をそれぞれ 記入していく。  ②記載されている年中行事に ついて辞書や討論をふまえて、 調べる。  ③2つの村の年中行事の違い について考察する。	○行事や作業の内容を適 宜補足説明を行い理解を 促す。 ○2つの村を対比的に見 ながら記載内容への議論 を展開させるようにする。 ○記載されている村の立 地条件を意識させるよう に発問を行う。「この村は どのようなところにある のだろうか」 ○古代・中世における年 中行事の有無などを想起 させるように発問を行う。
まとめ	①配布した地図から2つの村 を見つける。  ②兩村の生業の違いから作業 が異なること  ③雑煮・どんど焼・七草など の朝廷文化（年中行事）の民 衆への浸透を指摘  ④狐狩りなどの舞鶴独自の行 事の解説	○ワークショップの作業 をふまえて、①から④の 内容についてグループへ の問いかけを行う。 ○作業の内容をふまえて、 古代から現代における年 中行事や村の生業につい て通史的にまとめる。
文書調査の案内	普段実施している古文書調査 への案内を行う。	○場所・日時やどの程度 の作業を行うか明確に指 示する。

2月18日の授業（50分：1時間分）

- ・ねらい：4回の授業のまとめとして、学生の進路決定の過程をそれぞれ、パワーポイントにして紹介し、進路への具体的なイメージを持つ。
- ・授業方法：パワーポイント・アンケート用紙を使用し、センター試験や筆記試験以外の小論文を活用した様々な受験方法について考察する。

・実施した授業

3回生が5分ほど自身の高校生活・大学を受験した理由などを紹介し、続いて大学院生・4回生が同様に自身の経験を紹介した。その後、東先生自身の高校時代・学生時代の話を通して、自身のキャリア形成の過程で得た経験・今後の舞鶴での調査や関心について25分程度発表した。その後、高校の先生から、受験勉強についての質疑応答が行われた。

## 授業を通して

2018年度の京都府立大学・東舞鶴高校との連携授業は、2月までに4回実施した。授業ごとに時間が1から2時間分と変化することもあった。

1回目は大学・高校とも最初の授業ということもあり、大学の紹介などに時間をあてたが、作業は近代の史料を用いて、史料から抽出したデータを使用して授業を行うというものであった。この教科書の情報だけを使って作業するのではなく、史料からの考察を取り入れることによって、以後の授業への円滑化や近世・近代の史料を身近に感じてもらうことを狙いとしたものである。

2回目の授業においては、江戸時代における一般民衆の出版文化や旅行の増加など文化史的な内容から、実際の史料のコピーを配布して、翻刻文は用いるものの記載されている絵や内容から現在との関わりを意識させることを狙いとした。一般的に古地図などの資料から地理的な内容や歴史を体験する授業は多いものの、「道中記」という文字情報が主体のものを用いて、授業を行うことで、地図とは異なり、経路や場面の経過などを想起させるようにした。

3回目の授業では、現在の正月と江戸時代の正月を舞鶴地域の村を例に比較を行い、現在に残っているものや消失してしまったものなどを取り上げた。ここから朝廷の年中行事が江戸時代には一般民衆にまで浸透していたことや、現在との断絶などを意識してもらうことを狙いとした。

以上の高大連携授業を通して、古文書調査の成果を利用し、その地域の史料を使うことで当該地域の地域史教育の役割を果たす一方、高校教育で大きく扱う政治史とは異なり、一般民衆の立場から歴史像や年中行事・出版文化などの通史的な歴史を紹介することができた。これは、昨今の高校教育での歴史総合や、まだ社会科での記述式の導入はされていないが、大学入学共通テストにおいても社会科思考力・判断力・表現力の獲得を目指す中で、社会科の授業でその能力を養う際に、史料を使った授業形式は効果的ではなかろうか。

また高大連携授業を通して、大学教員が抱く研究者の目線と高校教員が持つ目線の差異を調整する重要性を感じた。これは、専門的な物事を題材に一定の知識や関心のある学生を対象に行う大学の授業と、様々な興味・関心を持つ高校生を対象とする高校の授業の生徒層の違いと扱う範囲の違いなどを考慮する。そして、専門的な物事を理解しやすいようにし、研究者としての物事の面白さを高校生に伝える工夫を行えるようにすることで、より効果的な連携授業が実施できると感じた。そのような効果的な授業を行うには、高校教員が研究者の関心への理解や知識の蓄積、逆に大学教員も研究の成果や内容を高校生が理解できるように授業を組み立てるといった課題があるだろう。



# 舞鶴地方史研究会の活動

舞鶴地方史研究会  
小室 智子

舞鶴地方史研究会は1964年（昭和39）に結成された研究会で現在会員50人である。毎月1回例会を持って研究発表の場としており、分科会として田辺藩裁判資料研究会・中世史研究会・大浦歴史研究会が活動している。また毎年夏と秋に元千葉大学文学部史学科菅原憲二教授の指導のもと、城下町竹屋町の古文書調査を実施している。

これらの活動に加えて、2017年からは京都府立大学のACTRに参加することになった。2017年度は藤本仁文文学部歴史学科准教授のもとで「海とともに生きる舞鶴～丹後の海再考」と題して舞鶴の歴史を海から見直すシンポジウムを開催した。これは2016年宮津市で実施されたシンポジウム「海からみる丹後の歴史・文化」を受けて開催された。このシンポジウムでは、丹後は大陸から都への南北の道と日本海を東西に交流する道の交差点にあたることと、経ヶ岬の東西で文化がかわることが確認された。経ヶ岬の西は日本海に直接面しており、東は若狭湾である。また、丹後の中でも舞鶴は少し違うと言われるが実際何がちがうのか？若狭の影響なのか？この疑問に明確に答えられる人はいない。まずは舞鶴の歴史を海から見直してみようということになった。そして実現したのが「海とともに生きる舞鶴～丹後の海再考」である。縄文丸木舟が出土した古代から引揚記念資料がユネスコ世界記憶遺産に登録された現代までを7人がリレートークした。舞鶴市は行政区を加佐地区・西地区・東地区・大浦地区の4地域に分けており、文化的にも加佐地区は縄文や弥生の桑飼下遺跡や由良川舟運、西地区は近世城下町、東地区は近代鎮守府、大浦地区は縄文丸木舟を代表とする浦入遺跡や冠島など若狭湾文化を伝える地とされている。今回のシンポジウムでは、実はそんな単純なものではなく、明治時代の舞鶴湾には帆をかかげた和船と鋼鉄の軍艦が浮かんでいたように、もっと面も時間



写真1 例会千歳ウォークの様子、例会は研究発表のほかにフィールドワークや古文書講座も取り入れている。

軸も絡み合いジグザグと進んできている実態が明らかになってきた。個人的には舞鶴の歴史はどの地域もどの年代も面白いと感じてきたが、このシンポジウムでそれがからみあうことでさらに疑問がわき調べたくなるのだと実感した。

また、東昇准教授のもとで多門院文書調査や余部上井上奥本家文書調査を実施し、11月には多門院公民館で「多門院調査報告会」を実施した。余部上井上奥本家文書調査は舞鶴市郷土資料館（舞鶴ふるさと発見館）で毎月曜日に会員が集まり、目録を採った。井上奥本家は余部上の庄屋や戸長を務めた家で江戸中期から現代に至る古文書がある。市内の他の庄屋文書でも1800年代からのものが多く、井上家のように古いものが良い状態で残っているのは珍しい事例である。この文書を後世に伝えていこうとする井上家の気概を感じることができる。

この年は、藩校サミット実行委員会よりイベントとして牧野家に関わる連続講座を共同開催してほしい旨の申し入れがあり、全6回の内、2回を当会会員が、1回を府立大学東昇准教授が担当した。

2018年度は、2017年に実施したシンポジウム「海とともに生きる舞鶴～丹後の海再考」の内容をさらに深めるためにシンポジウムの発表者から4人が例会で発表した。中世丹後の海賊が舞鶴湾を拠点とした可能性や由良の北前活動を行う船頭が北海道だけでなく朝鮮にまで渡っていたことを知り、さらに海からの歴史を知りたくなった。本当に舞鶴は丹後の他の地域とちがいがいいのか？お隣の若狭はどうなのか？次は丹後と若狭のシンポジウム開催が期待される。

また、引き続き実施した余部上井上奥本家文書調査は当会会員による目録採りと、東昇准教授が学生達を連れて一泊二日の授業を実施された甲斐あって約3500点の目録が完成し、今年度の文化遺産叢書で紹介されることになった。文書調査に協力した舞鶴市郷土資料館では余部下の庄屋布川家文書をはじめ中舞鶴地区の文書を所蔵しており、今回の文書調査で余部上・下両庄屋の文書が揃ったことになる。これを機に「鎮守府と中舞鶴」と題する展示を赤れんが3号棟（智恵蔵）で出張展示した。

今年は舞鶴山城研究会や舞鶴高専とも例会を共同開催し、藩校サミットの舞鶴開催もあり、他の団体との交流が進んだ。当会を介して様々な団体や個人が交流し、研究が広がっている。舞鶴は江戸時代の村が約120か村ある。同じ東地域でも市街地になった浜村と祖母谷に位置し若狭国境に近い多門院とでは大きくその歩みが異なる。それぞれの地域には歴史に関心を持つ人や古文書を保管する人がいる。これからも地道な資料調査と広範囲な交流によって舞鶴の歴史を明らかにしていきたいと考えている。



写真2 「海とともに生きる舞鶴～丹後の海再考」の拡大バージョンの例会。熱心な受講者が多く、海から見た歴史への関心の高さを感じた。

# 多門院地区の世代を超えた連携と 古文書を活かした取組

多門院長生会 会長  
新谷 一幸

## はじめに

多門院地区の世代を超えた取り組みについては、すでに昨年度刊行された『舞鶴・京丹後地域の文化遺産』14（京都府立大学歴史学科、2018年）に、「世代を超えた連携と「多門院地区歴史探訪」への取組」「多門院歴史探訪」において、詳しく述べている。ここでは、その概略と、その後の古文書を活かした取組について述べていきたい。

## 多門院とは

地理的には、祖母谷川の源流に近い位置にあり、京街道や若狭道等の交わる三国岳の8合目あたり、胡麻峠の舞鶴側に降りたところである。ここは、古くから「京文化」や「若狭・小浜」等の文化が早く入り、仏像等も平安後期の「毘沙門天立像（国重要文化財）」や「延命地藏半跏像（市指定文化財）」、南北朝時代の黒部区管理の「毘沙門天立像（市指定文化財）」、室町時代の自然石に刻まれた「大乘妙典石板」等多く存在する。現在、大字多門院のなかに、小字集落荒倉・多門・材木・黒部がある。



写真1 稲の虫送り



写真2 桜や紅葉の植樹祭

## 子供会との合同行事での連携

### 1. 「稲の虫送り」

平成 25 年（2013）に 60 年ぶりに多門院長生会が主体となり復活させ、現在も継続中、毎年 7 月第 1 土曜日に開催する。

### 2. 「桜や紅葉の植樹祭」

平成 24 年から多門院地区の中央部にあり、丹後風土記残欠等に出てくる「倉部山＝現在ハシキ林」を、地区の公園化と車で早期避難場所として整備する計画の一環として、子供会と合同で毎年 12 月初旬に植樹する。

### 3. 「多門院地区歴史探訪」ウォーキング等の開催

地区内の歴史的遺産や仏像、狛犬等の調査、伝説や云われを子供達やその父兄（地区外を含む）と一緒に訪ね歩き、地区の歴史を後世に伝えたいという思いから企画した。地区外の各種団体との連携もし、幅広く多門院の事を知ってもらうのが目的である。

## 京都府立大学の「多門院区所有古文書調査」に同席して

平成 28 年京都府立大学の東昇准教授に、地区にあった木箱の中の古文書調査を依頼した。2 年間の調査で、江戸後期から明治中期の 280 点の目録が完成した。古文書は、アブラギリ栽培や村山の権利争いの裁判記録等があった。平成 29 年 11 月 23 日には、多門院公民館で「多門院古文書調査報告会」があり、多くの区民や地区外の人が、その成果を熱心に聞き入った。

現在は、調査資料の中の「明治 5 年調、戸主一覧表」を基に、地区内の「屋号」の調査をしている。古い「過去帳」等は、全て「屋号」で書いてあり、若い人や住職でさえ、どこの家の「屋号」か分からない。このままでは「屋号」が、全く分らなくなるので、今のうちに調査完了しなければならないと考えている。

## おわりに

このように「京都府立大学の古文書調査」を契機に、少しずつ多門院の江戸後期から明治にかけての生活状態や村の状況等が分って来た。これらの事を参考に子供会やほかの団体等と連携し合って、今後とも「村おこし」に励みたいと思っており、このような取り組みを続けて行くためには「担い手」の養成も急務と考えている。



写真 3 「多門院地区歴史探訪」ウォーキング



写真 4 多門院古文書調査報告会

# 舞鶴歴史文化基本構想の策定

舞鶴市文化振興課文化財係長  
松本 達也

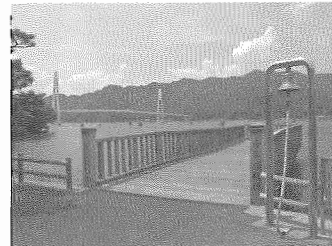
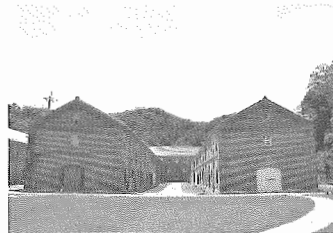
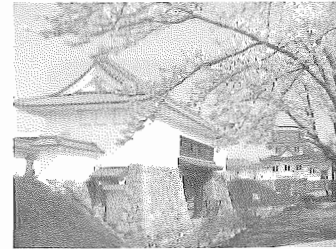
## 舞鶴の歴史文化基本構想

本市の特色ある文化財や歴史的資源を周辺環境まで含めた歴史文化遺産として総合的に保存・活用し、個性と魅力あるまちづくりを進めるためのマスタープランとして「舞鶴市歴史文化基本構想」を策定した。

「新たな舞鶴市総合計画」(H23.8)「新たな舞鶴市総合計画を推進するための後期実行計画」のまちづくり戦略のなかで、「歴史・文化都市創造への取り組み」を掲げ、「歴史資源の活用によるまちづくりを進める方策」として歴史文化基本構想の策定をあげている。この策定に際して、京都府立大学歴史学科教員を含む委員会で検討した。

## 舞鶴の歴史文化の特徴

- 多様な自然に育まれた歴史文化  
多様性の高い自然が育んできた歴史文化。
- 人と海との関わりが息づく歴史文化  
古代から近代さらに現代へと続く村々が豊かな海の恵みを活かし、拓いてきた歴史文化。
- 山と里の信仰と交流が培った歴史文化  
山と里の信仰と祭りを今日に伝えてきた歴史文化。



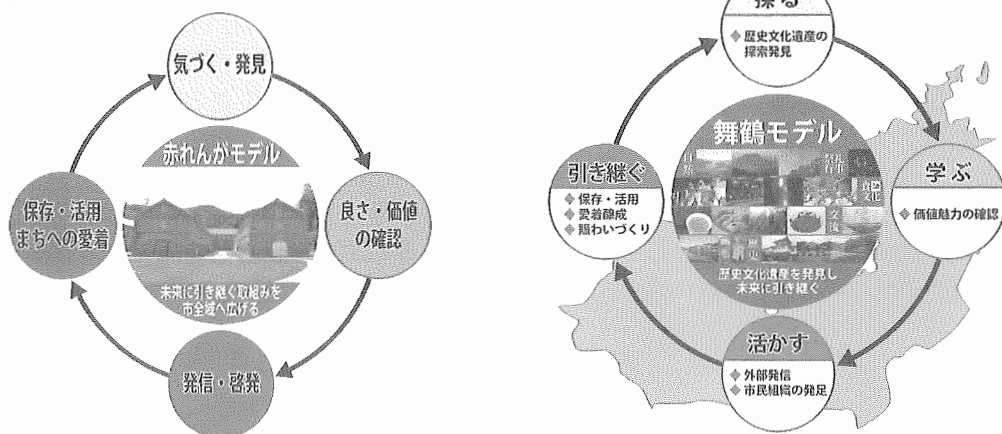
- 近世城下町によって形づくられた歴史文化  
近世城下町の陸と海の交流から生まれ、花開いた歴史文化。
- 海軍鎮守府開庁により築かれた歴史文化  
舞鶴市の近代を支え、現代まで継承されてきた建造物や技術が織り成す歴史文化。
- 引揚者を迎え入れた歴史文化  
大陸からの引揚者を温かく迎え入れ、おもてなしを行った歴史文化。

### 舞鶴市における歴史文化を活かしたまちづくりの取り組み

- ・ 伝統行事の保全支援 文化財保全補助金
- ・ イベントの開催 赤れんがフェスタ、田辺城まつり
- ・ 地域資源の活用 赤れんがパーク、映画・ドラマ等のロケ地

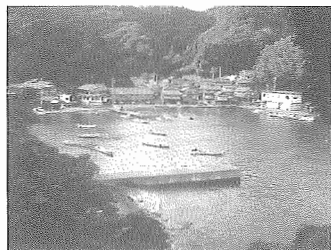
### 歴史文化を活かしたまちづくりの基本理念

歴史文化の魅力を探り、学び、活かし、引き継ぐ



### 舞鶴市における歴史文化を活かしたまちづくりの基本方針

- 基本方針1：歴史文化の魅力を探る・学ぶ
- 基本方針2：歴史文化の魅力を活かす
- 基本方針3：歴史文化の魅力を引き継ぐ



# 博物館の地域の連携

## —世界記憶遺産登録よってうまれたもの—

舞鶴引揚記念館 学芸員  
長嶺 睦

### はじめに

第二次大戦終結から70年の節目を迎えた2015年10月10日、舞鶴引揚記念館が収蔵する資料の中から570点がユネスコ世界記憶遺産(以下 記憶遺産)に登録された。この記憶遺産登録が、地方博物館と地域との連携を生み出すこととなり、そうした連携の中には、私たちが想像もしなかったような取り組みも次々と誕生し、記憶遺産登録がもたらした地域との連携や地域への活力について述べる。

また、今回の発表は2019年9月に京都国際会館(京都市)で開催されるICOM(国際博物館会議)のプレ大会として、2018年9月30日に開催されたICOM舞鶴ミーティングで世界の博物館関係者へ発表した内容をもとに再構成したものである。

### 記憶遺産登録の取り組み

舞鶴引揚記念館は2012年4月に指定管理者制度から舞鶴市の直営施設となり、減少する来館者の対策とあわせて、シベリア抑留と引き揚げの史実を後世へ伝える取り組みを開始した。直営化とあわせて、記念館資料の記憶遺産登録へ向けた取り組みが始まった。

記憶遺産登録へ向けた取り組みの中で、市民団体が登録応援署名を集める活動を申し出たことにより、登録へ向けた市民の機運醸成を後押しすることとなった。これが、引揚記念館における地域との連携の始まりとなったといえる。



写真1 市民による署名活動の様子



## 記憶遺産登録決定によってうまれたもの

記憶遺産登録の理念は、薄れゆくシベリア抑留や引き揚げの史実を後世へと伝え、世界へむけた平和への想いを発信するものであった。記憶遺産登録によって、記念館に集積された多くの資料が世界的な遺産であることに改めて気づきを得た市民、とりわけ戦争の惨禍を知らない小中高校生が次世代への継承への取り組みを自主的に始めるきっかけとなった。

記憶遺産登録直後には、東舞鶴高校の生徒によるシベリア抑留を伝える紙芝居「クロ物語」の英訳とインターネットによる発信、2016年2月には倉梯第二小学校の6年生によるシベリア抑留から帰還までを伝える自主製作の舞台劇など幅広く、かつ様々な手法による史実の継承がおこなわれた。倉梯第二小学校6年生の舞台劇は、生徒自ら脚本・演出を手がけ、教員のサポートをほぼ受けず見事な完成度だった。

また、2019年2月8日には新舞鶴小学校の6年生が、同校の体育館で抑留と引き揚げを紹介する「新小引揚記念館」を開催した。各クラスの班が抑留中の労働の体験や生徒たちが作った手作りのアルミスプーンの展示をおこなうなど、博物館も驚くような柔軟な発想に基づいた展示をおこなった。

中舞鶴小学校の6年1組は総合学習の年間の研究テーマとして、抑留と引き揚げを取り上げて体験者からの聞き取りや記念館での自主学習を重ね、2018年2月1日から2月28日まで舞鶴市内の金融機関でポスター展示をおこなったほか引揚記念館のPR動画を作成して上映をおこなった。



写真2 高校生による英語の紙芝居(スライド上映)



写真3 倉梯第二小学校による舞台上演

### 中学生語り部の誕生

2017年1月には、舞鶴の中学生3人が自主的に語り部となり、次世代へ抑留と引き揚げの史実の継承をはじめた。舞鶴引揚記念館には、成人の語り部がボランティアガイドとして活動していたが、中学生が記念館で語り部として活動するのは初めてのことだった。戦争の記憶を伝えるガイドとして活動する中高生の事例は広島・長崎・沖縄で見られるが、中学生が自発的に活動に参加することは、全国的にみても未だ稀なケースと考えられる。

### これからの取り組み

2018年4月に舞鶴引揚記念館は開館から30年の節目を迎えた。これまでの記念館のあゆみを記録するために、記念館の開館に携わった元舞鶴市職員や市民からの聞き取りを府立大学の上杉和央准教授とおこなっている。記念館の設立には多くの市民が関わったことが大きな特徴で、30年のあゆみを記録するために市民との連携は欠くことができない。



# 「地域史料研究会やわた」の活動

## —古文書の保存と活用をめざす協同調査—

京都府立大学文学部 特任講師  
竹中 友里代

近年、急速に失われつつある古文書について、緊急に保全の取り組みを民間レベルにおいても真剣に考えなくてはならないと強く感じ、八幡における古文書の調査と保全について考え、実行する会として著者を含め市民有志が集い「地域史料研究会やわた」が2015年3月に発足した。

本会の最初の取り組みとして、八幡市八幡西高坊にある神応寺の古文書調査に入る。『神応寺文化財調査報告』(2003年、八幡市教育委員会)の調査時には、すでに多くが失われ、古文書目録・典籍目録が所載されているが、その後市場に流出した古文書等を住職の努力で買い戻された。豊臣秀吉朱印状2通、徳川家康はじめ歴代將軍領知朱印状や右衛門佐局書状など10通に、江戸参府日記等合わせて32点である。およそ1年をかけて調査を行い、追加古文書目録を作成し、写真撮影・翻刻等を行った。同時に壇所町にある念佛寺の古文書についても追加目録と写真撮影を行い、史料整理方法や写真撮影の経験を積み、日々改良と研鑽を重ねている。これらの成果は、神応寺の朱印状翻刻史料と念佛寺古文書調査として『石清水門前寺院・南山城地域の古文書—京都府歴史資料の調査—』(2016年、京都府立大学文化遺産叢書第10集)に掲載した。

その後、当時神応寺に預けられていた「片岡光次家文書」に、墨跡や絵画資料等を含め31点を目録に追加し、全155点の写真撮影を行った。神応寺の信徒である旧所蔵者は、当主が他所へ移転し古文書の管理が困難になり、寺院に集う会の活動に信頼を寄せ、所有権と保管の責務を寺院に託されたものである。

これらの調査経験を通して、各会員の古文書解読能力はゆるぎないものとなり、2015年～17年『祇園祭山鉾鉦金具調査報告書』の史料編の翻刻にも協力している。

2017年1月には、橋本の旧家橋本家の古文書が借用でき、調査の機会を得た。橋本家は、石清水八幡宮の社士(侍)で徳川家康から代々將軍領知朱印状を拝領し、中祖初代の橋本等安は連歌師里村紹巴と親交があり、豊臣秀吉の御連衆という。橋本惣町の自治や朝鮮通信使人足徴発などの文書810点があり、興味深い資料群である。2018年7月までの作業の成果は『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報』第5号(2019年)で紹介している。今後は内容に踏み込んだ調査を進める予定である。

ここで、メンバーが属す八幡の歴史を探究する会の部会「八幡の道探究部会」を紹介しよう。市内各所には、昭和2・3年頃三宅安兵衛が建立した道標をはじめ近世の道標が多く残り、『やわたの道しるべ』が1982年(2002再版)に郷土史会から出されている。

当時としては道標から古道と地域史を知る画期的な一冊であるが、ここで東高野街道の名称がはじめて使われ、近年行政でも古道の名称として定着していた。ところが市内に東高野街道を刻む近世の道標が存在しないことから、この名称に疑問を持ち、2015年10月八幡宮参詣道を示す近世の道標を探索する部会として立ち上がったのである。

この成果は2017年刊行の『石清水八まん宮道』に誘う道標群—江戸時代の八幡道標—で銘文・写真に所在地を記録している。調査の中で元の場所から移転されたり、転倒したまま放置された道標も発見され、歴史資料の喪失を懸念していた。この時壇所町の青林庵内に横倒しにされていた近世の道標を古道「立枯道」の角に建て、銘文解説板も設置し、記録にとどまらない活動を展開している。市内外からの共感・情報を得て周辺地域の21基の道標を追加した増補版が翌2018年10月に出された。今回は、地図はネット上でも位置確認が可能で、現地を訪れやすいよう配慮がされている。道標から江戸時代と現在を繋ぐまさに「みちしるべ」の一冊となっている。

メンバーは、これまでも「松花堂昭乗研究会」や「八幡の歴史を探究する会」(2010年～)・「古文書の会八幡」(2009年～)などでも活動し、『島田市郎家文書翻刻』1～7冊・『翻刻瀧本菜』・『翻刻柏亭日記』などの史料集を出し、石清水八幡宮の門前町である八幡地域の特徴ある歴史に関心を寄せている。とりわけ各メンバーは、市が所蔵する古文書の写真撮影を2012年頃から現在に至るまで定期的に継続してボランティアで奉仕している。この古文書原本に接する機会によって、古文書に記される史実に遭遇するたびに、原文書が発する魅力とその重要性を肌で感じただろう。市民が古文書の保存に実際に関わる効用は大きかったといえる。各自が研究を進めるなかで、既存の歴史像への疑問を解き明かし、より詳細かつ正確な史実を追求するには、原本閲覧等のレファレンスは欠くことが出来ない。これが容易であれば地域の歴史研究は進展し、学校教育での地域学習や生涯学習、観光資源の発掘にも繋がり、わが町の誇りとなるとの思いが膨らんだのではないだろうか。史料として公的機関で保管されるものは、研究者だけでなくそれを望む誰に対しても、原則として広く開かれてほしいものである。こうした市民の長きにわたる熱心な奉仕活動に対して、どのように応えるべきだろうか。古文書の適切な保存措置とともに、撮影データを含め貴重な地域の歴史・文化等の資産を積極的に公開し、様々な機会を通じて活用を望むものであり、また協力を惜しまないつもりである。

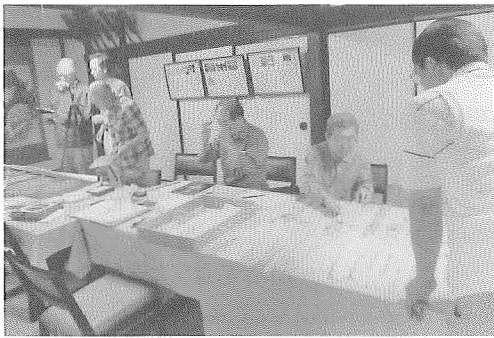


写真1 神応寺での朱印状調査の様子

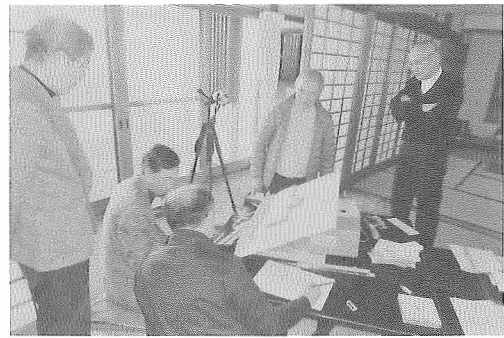


写真2 念佛寺書院での古文書写真撮影

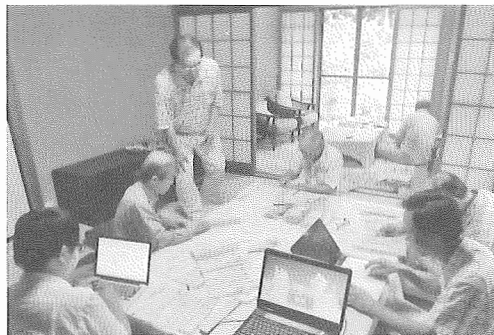


写真3 橋本家文書目録採取の様子



写真4 研究成果の刊行

# 井上奥本家文書解題

東 昇

## 1 文書の調査過程

井上奥本家文書は、舞鶴市井上元氏が所蔵する合計 3421 件 3594 点の文書群である。奥本とは後述するが、井上家の屋号である。文書の調査は、2016 年 12 月 9 日小室智子氏（舞鶴市郷土資料館）とともに、井上家へ事前調査に訪れ、12 月 26 日京都府立大学歴史学科文化情報学ゼミ生と舞鶴地方史研究会会員が、目録作成、写真撮影を開始した。その後、主に舞鶴地方史研究会が番号付与、目録作成、ゼミ生が写真撮影を分担し、2018 年 11 月 12 日全点終了した。その後、2019 年 1 月から目録の見直し、1 月 21 日に井上家において再調査を行った。また翻刻の内、近世の山論文書については、2018 年度後期の文化情報学実習Ⅱにおいてゼミ生が解読し、近代の献立、日露戦争期の書簡は、舞鶴地方史研究会会員が行った。

## 2 文書の概要

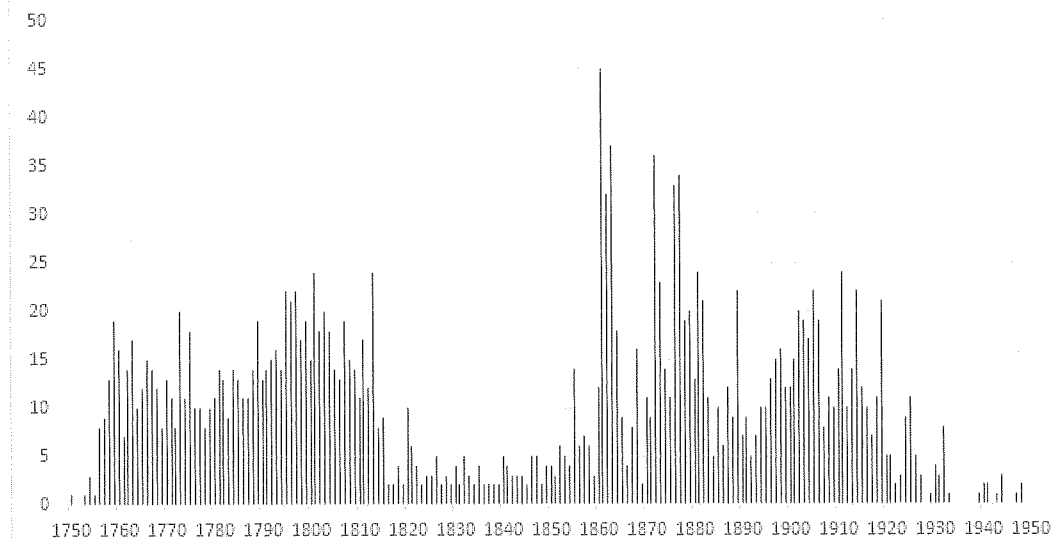
井上奥本家文書は、蔵の 2 階、長持 3、筆笥 1 に納められており、長持 1（文書番号 1～873、以下同）はダンボール箱 9、長持 2（874～2458）はダンボール・塗箱計 10、筆笥（2459～3111）は引き出し 5、小長持（3112～3421）と区分されている。

文書を収納別にみると、長持 1 は、ほぼ近世の横帳類、長持 2 は、近世の一紙物類、明治大正期の文書である。この長持 2 棹は、大部分が形態、表題で分類されており、文書作成後いずれかの時期に整理されたと考えられる。筆笥は、1 段目（2459～2555）典籍、近世の一紙物類、2 段目（2556～2637）明治大正期の稲刈数覚帳、田畑作付人別帳、日記の横帳類、3 段目（2639～2846、3405～3408）明治大正期の建物売買、賃貸関係、後見人書類、4 段目（2847～3005）明治大正期の金品出納証、明治 10 年代の余部校関係、明治 38 年（1905）日露戦争に看護長として出征した井上奥本書簡、5 段目（3006～3111）明治 30 年代の新市街地形成期の建物落成届などがある。小長持は、明治 10 年代の地券が 143 点と大部分を占める。この筆笥と小長持は、形態別保管といえるが、ある程度内容別にまとめられており、袋など原状維持されていることから、作成・保管時のものと考えられる。

文書群を年代別にみると、年紀が判明するものが全体の 61%にあたる 2193 点、内近世（1607～1867 年）1211 点（55%）、近代（1868 年以降）982 点（45%）と近世が多い（図 1）。近世文書で最も古いものは、慶長 7 年（1602）の慶長検地帳と考えられる「丹州加佐郡大内倉谷村御検地帳」（791）である。この検地帳は、余部上村のもの

ではなく、戦後、別の家から譲渡されたと伝えられているが、表紙に「井上次郎助」とあることから、井上家との関係も想定した可能性もある。

図1 井上奥本家文書年代分布 (1750~1950)



注：1877 (107件)・1881 (27件)の地券数は含んでいない

### 3 余部上村の概要

井上家が居住してきた舞鶴市余部上は、古代は余部郷、中世は余部里庄に含まれ、京都の鹿王院領であった（以下、『日本歴史地名大系』京都府の地名、1981を参照）。元禄9年（1696）「土目録」（821、2530）によると、石高は294石7斗1升、田275石1斗9升5合、畝20町8反2畝22歩、畠19石5斗1升5合、畝6町5反9畝22歩半と、田が94%を占めていた。小物成は夫米12石9斗6升7合3勺、竈役米5斗5升、鍛冶炭代米1斗2升9勺、諸運上は家運上22匁5分、入木240束は15軒分、雉子代10匁、次物は大豆4石8斗6升3合、胡麻6斗4升9合、麻苧6貫630目であった。

田辺藩士が享保期に編さんした地誌「旧語集」によると、長浜・余部下・北吸・和田・下安久とともに高倉神社を氏神とした。また余部下村の普明国師草創と伝える雲門寺が、余部上・余部下・長浜・和田・北吸の寺と記されている（『舞鶴市史』史料編、1973）。近世、田辺藩領に属し、大庄屋は池之内組であった（『舞鶴市史』通史編上、1993）。

明治に入ると、明治2年（1869）田辺藩が舞鶴藩、同4年7月舞鶴県、11月豊岡県編入、同9年京都府、宮津支庁管轄となった。明治前期の余部上村については、明治17～18年頃京都府が編纂した「丹後国加佐郡村誌」に詳しい（「丹後国加佐郡村誌」3、京都府立京都学・歴彩館所蔵、京都府地誌34）。戸数は49戸、社1戸（小西神社、祭神應神天皇、祭日6月6日）の計50戸、人数は男119人・女95人の計214人、1戸あたり4.3人である。牛は、牡牛5頭、牝牛10頭、計15頭を所有していた。田畑・税などの項目として、税地は田28町8反19歩、畑6町4反7畝9歩、宅地1町7反19歩、計36町9反8畝21歩、荒地6畝11歩とある。「土目録」と比較して、畑は変化ないが田は8町、約1.4倍増加している。それらの貢租は、地租462円3銭6厘、山税81銭5厘、計462円85銭1厘である。川は余部川が榎峠から余部下村境まで流れている。土地の色は赤黒、質は下等、稲粱に適せず桑茶がよい、水利が不便で時々旱魃になる。物産は、大豆3石6斗、菜種3石1斗2升、民業は男女ともに農業専業とある。参考として、郡

村誌調査の前提となった、明治16年「皇国地誌編輯之例則調査」(2234)の翻刻を掲載する(翻刻④)。

明治22年4月余部上村他11村が合併し余内村、舞鶴鎮守府が開設されると市街地となり、明治35年6月には余部町として分立した。その後、大正8年(1919)に中舞鶴町と改称、昭和13年(1938)新舞鶴町他と合併し東舞鶴市、昭和18年舞鶴市となる。

#### 4 井上家の概要

井上家は、近代作成されたと考えられるペン書きの「[先祖戒名調]」(3199)によると、最も古い当主は天和元年(1681)死去の七右衛門である。その後、3人同名の七郎右衛門が続き、3人目の七郎右衛門が安永7年(1778)54歳で死去している。つぎに七郎左衛門(文化13年(1816)70歳没)、七郎左衛門(万延2年(1861)74歳没)、七郎右衛門と続く。文書には、寛保2年(1742)「[物成帳]」(1407)の七郎右衛門が初出である。

近代では、明治9年「[家族書]」(2912)によると、井上七郎左衛門の息子として、奥本・豊治郎兄弟が記される。現当主の話によると、近世最後の七郎右衛門と明治9年の七郎左衛門は同一人物である。つぎの豊治郎は、若狭国大飯郡石山村武藤團の息子で、七郎右衛門娘たきの夫である。豊治郎は大正14年1月30日没、文書でも明治9～大正13年に登場する。つぎの奥本は明治4年10月18日生、昭和8年4月20日没である。豊治郎から奥本への交代は、明治10年5月10日「地券」(3261)の裏書によると、明治17年5月15日奥本への家督相続の所有者変更から判明する。文書では文化6～昭和6年の長期間登場するが、近世の奥本は、明治の奥本本人ではなく、家名(屋号)ある。なお明治29年5月「軍港市街記」(2201)他の井上春光は、奥本の雅号とこのことである。

奥本がまとめた大正13年「井上家重宝射術皆伝巻物写し」(3164)によると、井上氏宗家主人清兵衛が、「射術皆伝巻物」15巻を分割して相続させた。分家井上清兵衛の保管分は散逸したが、奥本家の8巻(3156～3163)は現存すると記す。そしてこの巻物を、元禄9年「土目録」(821、2530)と共に「当家重代宝物」とするよう記している。現存する文書群にも17世紀のものは、この土目録と、貞享2年(1685)「若狭国佐柿国吉籠城之覚」(1995)、慶長検地帳の4点であり、余部上村に関する土目録を「当家重代宝物」としていることから、奥本は文書全体を調査していた可能性がある。

また「井上家重宝射術皆伝巻物写し」に挟まれている、「乍恐奉願上口上之覚」は、万延2年7月余部上村清兵衛から奉行所へ出された文書の写である。そこには「余部上村清兵衛、同村前者七郎左衛門と申候、且今之奥本と同家に御座候へ共、本家相分り不申候」とあり、清兵衛は奥本家と同家であるが、本家はいずれの家か不明とある。続けて、そのことについて両家で争論はしていない、清兵衛以前の者が高100石を預っていたと伝えている。ただし御弓印可・系図は焼失し、雲門寺の吟味ではここ200年位はわかるが、それ以前は不明と回答があった。そのため上様に本家調査を依頼したいとある。清兵衛は、井上家は100石取の武士で田辺藩士ではないかと推定しており、藩の文書での解明と本家の確証を得たいと考えている。先述した「[先祖戒名調]」(3199)には、元禄12年没の清兵衛母が記載されており一族といえる。

このほか、井上家の家政に関する文書も多いが、明治43年「おすゑ縁附心覚帳」(2993)他、婚姻などに関する献立関連の資料が多く翻刻に掲載した(翻刻⑬～⑳)。なお、同じ献立資料として、上井壱雄氏が「史料紹介『井上奥本家文書』」(『舞鶴地方史研究』50、2019)で「万事記録覚帳」(314-5)を紹介している。

## 5 井上家の役職

井上家は、近世から明治にかけて余部上村の村役人を勤めた。村役人として最初に文書に登場するのは、年寄七郎右衛門であり、宝暦4年(1754)12月「永代売渡申田地之事」(1571)から宝暦6年11月「田地本物書入借用申米之事」(1652)までである。翌宝暦7年8月「余部上村御年貢米小通」(269)には庄屋七郎左衛門とあり、文化12年まで庄屋七郎左衛門が登場する。このことから七郎右衛門が年寄、初代七郎左衛門が庄屋となり死去まで庄屋を勤めた。前述の「〔先祖戒名調〕」(3199)によると、庄屋は清兵衛(～享保7(1722))、弥五兵衛(～宝暦4)、七郎左衛門(宝暦4～)とあることから、七郎左衛門前後は別の家であった。また寛政・享和期には、寛政3年(1791)8月16日「亥之北吸村御年貢納惣百姓小通」(152-1)他、40点程の北吸村文書があり、余部下村庄屋兵左衛門とともに北吸村を兼帯したと考えられる。兵左衛門から北吸村年寄にあてた、享和2年(1802)8月10日「相渡申帳面之覚」(1604、翻刻⑪)から、文書の受け渡しがあったことがわかる。この時期には、周辺村との山論も発生しており、宝暦10年余部下村、文化10年上安村、文政期北吸村との文書が現存する(翻刻②～⑩)。

文久元年(1861)井上家が再度庄屋に就任した。関連文書として、同年11月22日「覚」(2529、翻刻⑫)は前庄屋武兵衛から庄屋奥本、同市左衛門へ、村方文書や道具を譲った目録、11月「万事記録覚帳」(1390、翻刻⑬)には、庄屋役披露儀式に必要な白米、酒などの量・代金、献立、役の任命が17日であったことが記される。同年の文書数も44件となり、庄屋奥本と記載された文書が増えている。この時期、市左衛門が同役として併記されており2人体制であった。その後、文久4年18件と減少するが、同年庄屋を交代している。

文書数をみても、庄屋期の宝暦7～文化12年は年平均文書14件、非庄屋期の文化13～万延元年4件、庄屋期の文久期33件と、庄屋勤務による文書数の増加がみられる。これらは、ほぼ恒例化した藩による介抱米の差紙が、正徳3年(1713)以外、宝暦7～文化11年、文久3年と、井上家の庄屋期に限定して現存していることからわかる。

近代にはいると、奥本は明治5年余部上村副戸長、明治7、12年に戸長となっている。また豊治郎は、明治10～15年戸長、戸長制度廃止後、明治21～22年余部上村総代を井上奥本(2代目)が勤めている。明治22年余内村合併後は、明治29年旧12月29日「村諸帳面并諸道具附送簿」(2243)、明治30年旧6月18日「村諸帳面并諸道具受取簿」(2051)によると、明治30年1～6月には区長を勤めた。「軍港市街記」(2201)には、明治35年6月1日余部町の町長代理者、中舞鶴町役場編の昭和7年『置町参拾年史』(2334)では、同年9月～明治36年1月助役、明治40年4月～大正4年第12区長、明治35年8月初期、大正3年8月第1回、大正7年8月第2回、大正11年8月第3回の議員を勤め、大正15年10月には功労者となっている。

奥本は、日露戦争期、明治38年5月書簡(2922、翻刻⑭⑮)「第10師団臨時衛生隊附井上奥本」、同年8月15日書簡(2925)「出征第4師団第16補助輪卒隊附看護長井上奥本」とあり、中国大陸へ出征したことがわかる。また明治39年9月20日(3183)陸軍2等看護長勲8等井上奥本への明治37.8年戦役に関する感謝状が出されている。

## 6 国語学者井上奥本

井上奥本は、区長や町長を勤める一方で、和歌の会を開催するなど文芸にも関心を持ち、特に在野の国語学者としても業績が知られている(図2)。金田一春彦『国語アクセントの史的研究 原理と方法』(塙書房、1974)によると、奥本は、「日本語アクセント



史の研究の開祖」として紹介される。奥本の執筆した論文は、「語調原理序論」(『国学院雑誌』22巻1-4,7-10号、1916)、「語調の基礎と其の形式」(『国学院雑誌』27巻8-9号、1921)、「日本語調学小史」(『音声の研究』2、1928)、「舞鶴地方のアクセント」(『音声の研究』3、1930)などがある(大阪大学岡島昭浩氏のWEB「国語学論文集」、京都府立大学附属図書館)。井上家文書には、奥本の研究資料の大正7年4月「記紀中の国語の声符」(3120)や大正8年11月「蔵書目録」(2016)、元禄13年風観齋施点「伊勢物語」(3113)、寛政7年9月『重刻発字便蒙解』(3114)などが所蔵されている。

また「大正三年一月名家手簡」(3134～3155)として、学問の交流のあった当時の学者の書簡、葉書が現存する。点数が多いのは、国語学・国文学者の吉澤義則(大正8年京都帝国大学教授、書簡の時期に近い所属など、以下同、『国史大辞典』吉川弘文館、1997)、音楽教育と吃音矯正研究者の伊沢修二の各3点である。その他各1点、言語学者の新村出(明治42年京都帝国大学教授)、方言学者の東條操(大正2年東京帝国大学文科大学助手)、国語学者の保科孝一(明治35年東京高等師範学校教授、東京帝国大学助教授、改訂新版『世界大百科事典』平凡社、2014)、歴史地理学者の吉田東伍(明治34年東京専門学校、大正7年死去、『日本大百科全書』小学館、1994)、言語学者の藤岡勝二(明治43年東京帝国大学教授、『日本人名大辞典』講談社、2001)、国語学者で『言海』を編集した大槻文彦(明治44年帝国学士院会員)、国文学者の三矢重松(國學院大学教授、『日本人名大辞典』)、保科とともに東京帝国大学の上田万年の助手を勤め、『日本文学者年表』(大日本図書、1902)など多数の著作のある赤堀又次郎、歌人・伯爵の冷泉為系である。この他、本目録以外に奥本の研究資料が保管されているが未整理であり、今後の調査研究に期したい。なお奥本の息子井上充夫(1918～2002)は、戦後、横浜国立大学教授となり、建築史研究者として活躍している。

## 謝 辞

本解題の執筆にあたり、井上奥本の国語学における業績、関係者について、本学文学部日本・中国文学科藤原英城教授、鳴海伸一准教授、藤本灯講師、大阪大学大学院文学研究科岡島昭浩教授に、数多くのご教示をいただいた。ここに記して感謝申し上げたい。

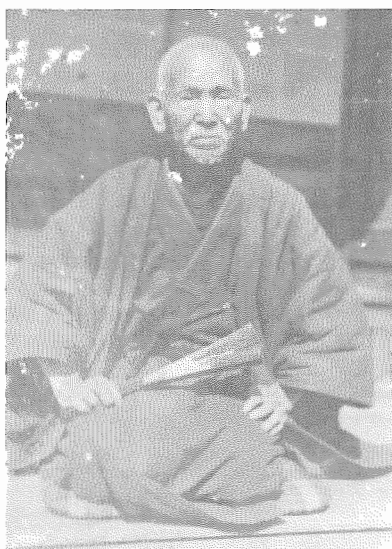


図2 井上奥本写真

## 凡 例

- ・井上奥本家文書は、京都府舞鶴市に伝来する近世から昭和にかけての3421件の文書群である。
- ・袋・包紙などは文書に付属して採用しているが、単体のものは個別に番号を付与した。
- ・表記は原則として常用漢字を用い、常用漢字がないものは正字を用いた。ただし一部の仮名（江、茂）などはそのまま使用した。なお餘部は余部に統一した。
- ・虫損などで文字が判読できない場合、字数が明らかなものは□で記し、字数が不明なものは〔 〕で表記し、年月日に記述がない時は「―」で表した。
- ・年月日は原則として作成年代を採り、年月日が内容・干支などから推定できるものは（ ）で記した。
- ・表題は原則として原題を採り、原題のみで内容がわからないものは（ ）で内容を補った。また、原題のないものは適宜文書名を付け〔 〕で記した。
- ・作成は文書の表記の通りに記し、印判で推定できる場合は（ ）で補った。印がある場合は（印）と表記した。作成と宛名は「→」で示している。
- ・宛名は文書の表記の通りに記し、殿・様・御中などの敬称もそのまま記した。
- ・形態は古文書学の形状分類により、近代文書で分類にあてはまらないものは適した名称を記した。点数が複数の場合のみ数字を付した。
- ・内容は、文書の概要の他、一括状況や包紙・貼紙・端裏・奥書の有無とその記載内容、地名など上記で表せなかった内容を記載した。
- ・所蔵者と相談の上、個人情報に関する文書2663～2728は目録上から削除している。



番号	年月日	表題	作成→宛名	形態	内容・備考
1-1	明和元年 12 月	水役御年貢米帳		横帳	御中間米割等、1-1～3こより
1-2	申ノ 12 月	預ケ口覚	上村七郎左衛門→つほや	横帳	
1-3	明和元年 12 月	御年貢 [ ]		横帳	又助等、表紙下部欠
2-1	明和 2 年 12 月	水役御年貢米帳		横帳	又之丞他、2-1～2こより、こよりに文書
2-2	明和 2 年 12 月	御年貢米差引帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	又助他
3	明和 3 年 12 月	御年貢米差引帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	又助他
4	明和 4 年 12 月	御年貢米差引帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	又助他
5	明和 8 年 8 月	御年貢米之付覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
6-1	明和 7 年 12 月	御年貢米 [ ] (差引帳)		横帳	七左衛門他、6-1～2こより、表紙下部破損
6-2	明和 7 年 12 月	水呑御年貢米之帳		横帳	下村通他
7	明和 8 年 12 月	御年貢米指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	七左衛門他、こよりに文書
8	明和 5 年 9 月	御蔵なわ俵入用帳		横帳	
9-1	明和 5 年 12 月	水呑御年貢米之帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	三郎左衛門通他、9-1～2こより
9-2	明和 5 年 12 月	御年貢米 [ ] (差引帳)		横帳	又助他、表紙下部欠
10-1	-	御中間米割		横帳	役儀代割他、10-1～2こより
10-2	明和 6 年	御年貢米指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	又助他、表紙下部欠
11	安永 6 年 12 月	御年貢米指引帳	余部上村庄屋藤右衛門→	横帳	七左衛門他
12-1	安永 5 年 12 月	水呑御年貢米帳	余部上村藤右衛門→	横帳	御中間米他、12-1～2こより
12-2	安永 5 年 12 月	御年貢米指引帳	余部上村藤右衛門→	横帳	次左衛門他
13-1	安永 4 年 8 月 21 日	御年貢米覚帳	余部上村庄や七郎左衛門→	横帳	13-1～3こより
13-2	-	田地覚		横帳	
13-3	安永 4 年正月	七郎右衛門田地預ケ口帳		横帳	
14	安永 2 年 12 月	御年貢米差引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	七左衛門他
15	寛政 7 年 12 月	卯之御年貢米指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	卯ノ小通、次左衛門他
16	寛政 5 年 12 月	余部上村御年貢米差引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	丑小通他、破損
17	寛政 4 年 7 月	御年貢米俵数覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	太左衛門他
18	寛政 4 年 12 月	余部上村御年貢米小通	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	子之年小通、次左衛門他
19	寛政 3 年 12 月	余部上村御年貢米差引帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	亥之年次左衛門他
20	寛政 2 年 12 月	余部上村御年貢米差引帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	戌之年小通、次左衛門他
21	寛政元年	余部上村田地ましへ引帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	次左衛門他
22	寛政 12 年 12 月	御年貢米差引小通	余部上村庄屋 [ ] →	横帳	申之小通、次左衛門他、表紙下部欠
23	寛政 11 年 12 月	未之御年貢米差引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	未之小通、次左衛門他
24	寛政 10 年 12 月	午之御年貢米差引帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	午之小通、次左衛門他
25	寛政 9 年 12 月	巳之御年貢米指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	巳之小通、次左衛門他
26	寛政 8 年 12 月	辰之御年貢米指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	辰之小通、次左衛門他
27	文化 2 年 12 月	御年貢米指引帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	丑之小通、次左衛門成詰他
28	文化 3 年 3 月	御年貢米指引帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	寅之小通、次左衛門他
29	文化 4 年 12 月	御年貢米指引帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	卯之小通、次左衛門他
30	文化 5 年 12 月	辰之年御年貢米指引帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	辰之小通、次左衛門他
31	文(化)6 年 12 月	巳之年御年貢米指引帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	巳之小通、次左衛門他
32	文化 5 年 12 月	午之年御年 [ ] (貢米指引帳)		横帳	午之小通、次左衛門他、表紙下部欠
33	文政 7 年 11 月吉日	申之年小通指引写		横帳	
34	文化 8 年 12 月吉日	未之年御年貢米指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	未之小通、次左衛門他

35	文化9年12月吉日	諸事指引小通覚帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	申之年小通、次左衛門他
36	万延元年12月	申之小通差引帳	庄屋武兵衛→	横帳	申小通、次左衛門他
37	文化10年12月吉日	余部上邑小通指引帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	西之年小通、次左衛門(印)、表紙綴紐に付箋
38	文化元年12月	御年貢米指引帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	子之小通、次左衛門他
39	享和3年12月	御年貢米指引帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	亥之小通、次左衛門他
40	享和3年8月吉日	亥之北吸村御年貢米帳	庄屋上村七郎右衛門→	横帳	亥之小通、三郎左衛門他
41	享和2年12月	御年貢米指引帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	戌之小通、次左衛門他
42	享和元年12月	御年貢米差引通	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	酉之過米他
43	享和元年8月	余部上村酉御年貢米納通	庄屋七郎右衛門→戸野半兵衛(印)	横帳	
44	享和元年8月	北吸村酉御年貢米納通	庄屋余部下村兵右衛門、上村七郎右衛門→戸野半兵衛(印)	横帳	
45	享和2年(力)8月	余部上村戌之御 [ ]		横帳	表紙破損
46	享和3年7月	北吸村亥御年貢米納通	庄屋余部上村七郎右衛門→戸野半兵衛(印)	横帳	表紙綴紐に付箋
47	享和3年7月	余部上村亥御年貢米納通	庄屋七郎右衛門→戸野半兵衛(印)	横帳	表紙綴紐に付箋
48	寛政12年7月	北吸村申之御年貢米納通	庄屋余部下村兵右衛門、同上村七郎右衛門→戸野半兵衛(印)	横帳	表紙綴紐に付箋
49	寛政12年7月	余部上村申之御年貢米納通	庄屋七郎右衛門→戸野半兵衛(印)	横帳	表紙綴紐に付箋
50	寛政元年8月	余部上村酉之御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→駈野傳兵衛(印)	横帳	表紙綴紐に付箋
51	寛政2年8月	余部上村戌年御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→駈野傳兵衛(印)	横帳	
52	寛政3年8月	余部上村亥之御年貢米納通	庄屋七郎右衛門→駈野傳兵衛(印)	横帳	
53	寛政4年7月	北吸村子之御年貢米納通	→駈野傳兵衛(印)	横帳	
54	寛政4年7月	余部上村子之御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→駈野傳兵衛(印)	横帳	
55	寛政5年8月	余部上村丑之御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→駈野傳兵衛(印)	横帳	
56	寛政6年8月	余部上村寅御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→野田弟之丞	横帳	
57	寛政7年8月	余部上村卯之御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→野田弟之丞(印)	横帳	
58	寛政9年7月	余部上村巳御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→野田弟之丞(印)	横帳	奥書：今西作右衛門(印)
59	寛政8年8月	北吸村辰御年貢米納通	庄屋余部下村兵右衛門、同余部上村七郎左衛門→野田弟之丞(印)	横帳	
60	寛政8年8月	余部上村辰御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→野田弟之丞(印)	横帳	表紙綴紐に付箋
61	天明元年7月	余部上村丑御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→内田弥五太夫(印)	横帳	
62	天明6年8月	余部(部)上村午御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→高取助七(印)	横帳	
63	天明3年8月	余部上村卯之御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→内田弥五太夫(印)	横帳	
64	天明8年8月	余部上村申之御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→高取助七	横帳	
65	天明7年8月	余部上村未之御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→高取助七(印)	横帳	表紙綴紐に付箋
66	文化元年8月	余部上村子御年貢米納通	庄屋七郎右衛門→戸野半兵衛(印)	横帳	表紙綴紐に付箋
67	文化2年8月	余部上村丑御年貢米納通	庄屋七郎右衛門→寺嶋助太夫(印)	横帳	
68	文化3年8月	余部上村寅之御年貢米納通	庄屋七郎右衛門→寺嶋助太夫(印)	横帳	
69	文化4年8月	余部上村卯之御年貢米納通	庄屋七郎右衛門→寺嶋助太夫(印)	横帳	表紙綴紐に付箋

70	文化 5 年 8 月	余部上村辰御年貢米納通	庄屋七郎右衛門→寺嶋助太夫(印)	横帳	表紙綴紐に付箋
71	文化 7 年 9 月	余部上村午之御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→筒井権平(印)	横帳	
72	文化 8 年 8 月	余部上村未之御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→筒井権平(印)	横帳	表紙綴紐に付箋
73	文化 9 年 9 月	余部上村申之御年貢米納通	庄屋七郎右衛門→筒井権平(印)	横帳	表紙綴紐に付箋
74	文化 10 年 9 月	余部上村酉御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→荒川儀十郎(印)	横帳	
75	安政 2 年 8 月	余部上村御年貢米納通	庄屋七郎右衛門→池内又市	横帳	辰之小通、太郎兵衛他
76	文久元年	余部上村酉之御年貢米納通	庄屋武兵衛→石黒易兵衛(印)	横帳	表紙綴紐に付箋
77	宝暦 6 年 8 月	余部上村子之年分入木通	庄屋弥右衛門→幕谷又内	横帳	束数、納入先
78	宝暦 9 年 8 月	余部上村卯年分入木通	庄屋七郎左衛門→伊東次郎右衛門	横帳	束数、納入先
79	宝暦 13 年 8 月	余部上村未年分入木通	庄屋七郎左衛門→伊東次郎右衛門	横帳	束数、納入先
80	宝暦 12 年 7 月	余部上村午之年分入木通	庄屋七郎左衛門→伊東次郎右衛門支配所	横帳	
81	8 月	余部上村亥之入木通	庄屋七郎左衛門→川崎友八(印)	横帳	
82	明和 2 年 7 月	余部上村酉年分入木通	庄屋七郎左衛門→川崎友八(印)	横帳	
83	明和 3 年 8 月	余部上村戌之入木通	庄屋七郎左衛門→川崎友八(印)	横帳	
84	明和 6 年 8 月	余部上村丑年入木通	庄屋七郎左衛門→荒川儀兵衛	横帳	
85	明和 5 年 8 月	余部上村子年分入木通	庄屋七郎左衛門→戸野長兵衛	横帳	
86	明和 7 年 8 月	余部上村寅年分入木通	庄屋七郎左衛門→荒川儀兵衛	横帳	
87	明和 8 年 8 月	余部上村卯年分入木通	庄屋七郎左衛門→荒川儀兵衛	横帳	
88	明和 9 年 8 月	余部上村辰年分入木通	庄屋七郎左衛門→荒川儀兵衛	横帳	
89	安永 3 年 8 月	余部上村午之年分入木通	庄屋七郎左衛門→筒井権平	横帳	
90	天明 2 年 8 月	余部上村入木通		横帳	
91	天明 5 年 8 月	余部上村巳年分入木通	→高取助七	横帳	
92	天明 6 年 8 月	余部上村午年分入木通	庄屋七郎左衛門→高取助七(印)	横帳	
93	寛政元年 8 月	余部上村酉年入木通	庄屋七郎左衛門→駈野傳兵衛支配所	横帳	
94	寛政 2 年 8 月	余部上村戌年分入木通	庄屋七郎左衛門→駈野傳兵衛支配所	横帳	
95	寛政 3 年 8 月	余部上村亥年入木通	庄屋七郎左衛門→駈野傳兵衛支配所	横帳	
96	寛政 8 年 8 月	余部上村辰年分入木通	庄屋七郎左衛門→野田弟之丞支配所	横帳	240 束
97	寛政 9 年閏 7 月	余部上村巳年入木通	庄屋七郎左衛門→野田弟之丞支配所	横帳	432 束
98	寛政 10 年 8 月	余部上村午年分入木通	庄屋七郎左衛門→今西作右衛門支配所	横帳	240 束
99	寛政 11 年 8 月	余部上村未年入木通	庄屋七郎左衛門→戸野半兵衛支配所	横帳	240 束
100	寛政 12 年 7 月	余部上村申之年分入木通	庄屋七郎左衛門→戸野半兵衛支配所	横帳	240 束
101	享和元年 8 月	余部上村酉年入木通	庄屋七郎右衛門→戸野半兵衛支配所	横帳	240 束
102	享和 2 年 8 月	北吸村戌年分入通	→戸野半兵衛支配所	横帳	224 束
103	享和 3 年 7 月	余部上村亥之年分入木通	庄屋七郎右衛門→戸野半兵衛支配所	横帳	240 束

104	享和3年7月	北吸村亥之年分入木通	庄屋余部下村七郎右衛門→戸野半兵衛支配所	横帳	224 束
105	文化元年8月	余部上村子之年分入木通	庄屋七郎右衛門→戸野半兵衛支配所	横帳	240 束
106	文化2年8月	余部上村丑年分入木通	庄屋七郎右衛門→寺嶋助太夫支配所	横帳	240 束
107	文化3年8月	余部上村寅年分入木通	庄屋七郎右衛門→寺嶋助太夫支配所	横帳	240 束
108	文化4年8月	余部上村卯年分入木通	庄屋七郎右衛門→寺嶋助太夫支配所	横帳	135 束御春屋入
109	文化7年9月	余部上村午年分入木通	庄屋七郎左衛門→筒井権平支配所	横帳	52 束御春屋入
110	文化8年8月	余部上村未年分入木通	庄屋七郎左衛門→筒井権平支配所	横帳	
111-1	文化9年9月	余部上村申年分入木通	庄屋七郎左衛門→筒井権平支配所	横帳	
111-2	文化10年9月	余部上村酉年分入木通	庄屋七郎左衛門→荒川儀十郎支配所	横帳	76 束御春屋入
111-3	安政2年8月	余部上村入木納通	庄屋武兵衛、七郎右衛門→池内又市	横帳	89 束御春屋、表紙綴紐に入木覚、卯11月19日
111-4	文久元年	余部上村酉之入木納通	庄屋武兵衛→石黒易兵衛支配所	横帳	表紙綴紐に入木覚
112	文化5年12月	水呑御年貢指引帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	辰之小通、曾兵衛他
113	文化6年12月	水呑御年貢米指引帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	下村通他
114-1	文化9年11月吉日	水呑御年貢指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	申之年小通、与三兵衛他、114-1～2 綴
114-2	文化9年11月吉日	頼母子小通ノ書帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
115	文化10年11月	水呑小通指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	酉之年小通、甚兵衛他
116	文化8年10月吉日	水呑御年貢指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	未之年中間かへ割他
117	寛政10年12月	水呑御年貢米差引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	御中間給り割他
118	寛政9年12月	水呑御年貢米差引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	巳之年三ノ丸米他
119	寛政12年12月	水呑御年貢米差引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	藤左衛門たのもし他
120	寛政11年12月	水呑御年貢米差引帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	御中間給り他
121	享和元年12月	水呑御年貢米差引帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	酉之小通、伊左衛門他
122	享和2年12月	水呑御年貢米差引帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	御中間給り割他
123	享和3年12月	水呑御年貢米差引帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	御中間給り割他
124	文(化)元年12月	水呑御年貢米指引帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	
125	文化2年12月	水呑御年貢米指引帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	御中間給り他
126	文化3年12月	水呑御年貢米指引帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	
127	文化4年12月	水呑御年貢米指引帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	他ノ上納大豆他
128	文化9年正月吉日	惣遣万割物帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	桐実上覚他
129	文化9年12月	惣遣割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
130	文化10年12月	惣遣小割帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	
131	文化10年正月	惣遣万割物覚帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	
132	文化10年12月	惣遣割帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	
133	文化12年正月吉日	惣遣万割物覚帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	
134	文化8年正月	惣遣万割物覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
135	文化8年12月	惣遣割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
136-1	文化6年正月	惣遣万割物帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	136-1～2 綴
136-2	文化6年正月	大福帳	余部上村井上七郎右衛門→	横帳	
137	文化6年12月	惣遣割覚帳	余部上村庄や七郎右衛門→	横帳	
138-1	文化5年正月	惣遣万割物帳	余部上村七郎右衛門→	横帳	138-1～2 綴
138-2	文化5年正月	大福覚帳		横帳	
139	文化5年12月	惣遣割帳	余部上村→	横帳	
140-1	文化4年12月	惣遣割帳	余部上村→	横帳	140-1～2 綴
140-2	文化4年正月	大福帳	余部上村井上七郎右衛門→	横帳	
141	文化4年正月	惣遣万割物帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	
142	文化口(3年)寅ノ[ ]	惣遣[ ](割帳)		横帳	表紙他下部破損
143-1	文化3年正月	惣遣万割物帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	143-1～2 綴

143-2	文化3年正月	大福帳	余部上村七郎右衛門→	横帳	
144-1	文化2年正月	惣遣万割物帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	144-1～2 綴
144-2	文化2年正月	大福寛帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	
145	文化2年12月	惣遣割帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	
146-1	安政4年	余部上村年賦銀札請取通	安久兵左衛門→御懸り山根伊右衛門様、庄屋奥本様、同市左衛門様	横帳	146-1～2 綴
146-2	文久元年12月	酉之小通差引帳	庄屋勘定番奥本→	横帳	酉小通、次左衛門
147	文化元年11月	子之北吸村新助分勘定帳		横帳	子之小通
148	享和2年8月	北吸村御年貢米指引小通帳	庄屋上村七郎右衛門→	横帳	戌之小通、三郎左衛門
149-1	享和元年8月	酉之北吸村米方諸色割物帳	庄屋下村兵右衛門→	横帳	初納所米割、149-1～2 綴
149-2	享和元年11月	酉之北吸村分取頼母子覚帳		横帳	
150	享和元年8月吉日	酉之北吸村他村指引通		横帳	酉之通、大庄屋重左衛門
151-1	享和元年8月吉日	酉之北吸村御年貢米納り惣百姓小通	庄屋下村兵右衛門、同上村七郎右衛門→	横帳	酉之小通、三郎左衛門、151-1～2 綴
151-2	享和元年8月吉日	酉之北吸村小屋敷水呑小通		横帳	
152-1	寛政3年8月16日	亥之北吸村御年貢納惣百姓小通	庄屋余部上村七郎左衛門、庄屋同下村兵右衛門→	横帳	亥之小通、次右衛門、152-1～2 綴
152-2	寛政3年8月16日	北吸村他村指引通	庄屋余部上村七郎左衛門、庄屋同下村兵右衛門→	横帳	
153-1	寛政5年8月11日	北吸村御年貢米納り惣百姓小通	庄屋上村七郎左衛門、同下村兵右衛門→	横帳	丑之小通、次右衛門、153-1～2 綴
153-2	寛政5年8月吉日	北吸村他村指引帳	庄屋上村七郎左衛門、同下村兵右衛門→	横帳	
154-1	寛政7年8月吉日	卯之米方諸色割物覚帳	庄屋下村兵右衛門、同上村七郎左衛門→	横帳	154-1～3 綴
154-2	寛政7年11月	卯之頼母子分取覚帳	北吸村→	横帳	
154-3	寛政7年12月	卯之北吸村過不足借入帳		横帳	
155-1	寛政11年8月吉日	未之北吸村米方諸色割物帳		横帳	155-1～3 綴
155-2	寛政11年12月	未之頼母子分取覚帳		横帳	
155-3	寛政11年12月	未之北吸村過不足米覚帳		横帳	
156-1	寛政7年8月吉日	卯之北吸村御年貢納り惣百姓小通	庄屋下村兵右衛門、同上村七郎左衛門→	横帳	156-1～2 綴
156-2	寛政7年8月吉日	卯之他村指引覚帳	北吸村→	横帳	
157-1	寛政11年8月吉日	未御年貢米納り惣百姓小通	北吸村、庄屋上村七郎左衛門、同下村兵右衛門→	横帳	157-1～3 綴
157-2	寛政11年8月吉日	未小屋敷惣小通	北吸村、庄屋上村七郎左衛門、同下村兵右衛門→	横帳	
157-3	寛政11年11月	未之他村指引覚帳	庄屋下村兵右衛門→	横帳	
158-1	寛政9年11月吉日	巳之北吸村米方諸色割物帳	庄屋上村七郎左衛門、庄屋下村兵右衛門→	横帳	158-1～2 綴
158-2	寛政9年12月	巳之北吸村過不足米覚帳		横帳	
159-1	寛政9年8月吉日	巳之北吸村御年貢納り惣百姓小通	庄屋余部下村兵右衛門、同余部上村七郎左衛門→	横帳	159-1～3 綴
159-2	寛政9年8月吉日	巳之北吸村小惣分物小屋敷方小通		横帳	
159-3	寛政9年11月	巳之北吸村他村指引覚帳		横帳	
160	天明7年12月吉日	余部上村御年 [ ]		綴	次左衛門、横帳、表紙下部欠、54枚
161	天明6年12月吉日	余部上村御年貢米 [ ]	庄屋七郎左衛門→	綴	次左衛門、横帳、表紙下部欠、57枚
162	天明2年12月吉日	御年貢米差引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	



163	天明元年 12 月吉日	御年貢米差引口	余部上村 [ ] →	横帳	表紙下部欠
164	明和 2 年 12 月	大福帳	上村七郎左衛門→	横帳	
165	明和元年 12 月	大福帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	綴に「覚」
166-1	安永 9 年 12 月吉日	大福万覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	166-1 ~ 2 綴
166-2	安永 9 年 12 月	元利差引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
167	安永 8 年 12 月吉日	大福万覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
168	天明 7 年正月吉日	大福帳	余部上村庄屋 [ ] →	横帳	表紙下部欠
169	天明 6 年正月	大福帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
170	天明 5 年正月吉日	大福帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
171	天明 3 年正月吉日	大福帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
172	明和 8 年 12 月 26 日	大福覚帳	上村庄屋七郎右衛門→	横帳	
173	明和 7 年 12 月	大福帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
174	明和 7 年	大福帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
175	明和 4 年 12 月	大福帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	
176	明和 3 年 12 月 24 日	大福帳		横帳	
177	天明 8 年正月吉日	大福帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
178-1	天明 9 年 [ ]	大福帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	178-1 ~ 2 綴
178-2	-	[酉年祠之覚]		綴	
179	安永 2 年 12 月	大福帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	
180-1	安永 3 年 12 月	大福覚帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	180-1 ~ 2 綴
180-2	-	[ころび代他書上]		綴	
181	安永 4 年 12 月	大福覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
182	安永 5 年 12 月	大福帳	余部上村庄屋藤右衛門→	横帳	
183	天明 4 年 12 月	大福帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	綴紐破損
184	文化 10 年 12 月	惣遣小割帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	
185	天明 5 年 12 月	惣遣割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
186-1	宝暦 10 年 [ ]	惣遣寄 [ ]		横帳	186-1 ~ 2 綴、表紙下部破損
186-2	-	[宗門銀・遺物代引書上]		綴	
187	明和 3 年 9 月	万触覚帳	上村七郎左衛門→	横帳	
188	安永 5 年 2 月	万割物帳		横帳	宗門銀割等
189	安永 4 年 10 月	万割物帳		横帳	粗割等
190	安永 3 年	万割物帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	村入用割諸記録
191	安永 2 年 9 月	万割物帳		横帳	内惣分等
192	天明 4 年 3 月	万割物帳		横帳	村入用割諸記録
193	安永 8 年 2 月	万割物帳		横帳	村入用割諸記録
194	安永 10 年 3 月吉日	万割物帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	村入用割諸記録
195	天明 2 年 2 月	万割物帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	村入用割諸記録
196	安永 6 年 3 月	万割物帳	□□(余部)上村藤右衛門→	横帳	村入用割諸記録、表紙、中紙破損、反古紙
197	安永 2 年 3 月	万割物触覚帳		横帳	村入用割諸記録、反古紙
198	宝暦 8 年 8 月	万覚帳		横帳	
199	宝暦 13 年 12 月	万差引覚帳		横帳	
200	宝暦 8 年 2 月	万ふれ帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	
201	宝暦午(12)年 12 月	万給用覚口		横帳	表紙下部欠
202-1	宝暦 4 年 12 月	万覚長(帳)		横帳	202-1 ~ 2 綴、表紙下部破損
202-2	宝暦 4 年 7 月 27 日	御年貢米覚		横帳	
203	明和 9 年 11 月	万差引帳		横帳	
204	明和 5 年 10 月	万割物帳		横帳	
205	明和 5 年正月 17 日	万割物触帳		横帳	

206	明和4年10月	万割物覚帳		横帳	
207	明和3年11月	万割物覚帳		横帳	
208	明和2年10月	万割物覚帳		横帳	
209-1	明和元年10月	万元利請取り帳		横帳	209-1～3 綴、綴に文書
209-2	-	[俵数書上]		横帳	
209-3	-	[俵数書上]		横帳	
210	天明元年11月	高成詰覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
211	天明2年	高成詰帳		横帳	
212	天明3年11月吉日	高成詰帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
213	天明2年12月	元利覚帳		横帳	
214	天明5年10月	高成詰帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
215	天明6年	高成詰帳	余部上村庄や七郎左衛門→	横帳	
216	天明6年12月	惣遣割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	村入用覚書き上げ
217	天明7年	高成詰帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
218	-	密書医書密に見る		横帳	血道のぼせ他、民間療法
219	-	正味取覚		横帳	痛数、反古紙
220	天明6年9月	稲かり上覚帳	余部口口(上村)七郎左衛門→	横帳	田地別稲束刈上げ覚、表紙下部欠
221-1	慶応3年正月吉祥日	田はた預ヶ口覚帳	井上奥本→	横帳	221-1～3 綴
221-2	慶応3年11月	万米方差引覚帳	井上奥本→	横帳	
221-3	-	卯小通		横帳	奥本
222	元治2年3月	田畑預ヶ口人之名寄せ覚帳	奥本→	横帳	
223	元治2年正月吉祥日	田畑預ヶ口人之名寄せ帳	奥本→	横帳	
224	文久4年正月吉日	田畑預ヶ口人之名寄せ帳	井上氏奥本→	横帳	
225	寛政7年12月	太兵衛田地割符帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
226	万延元年正月吉日	田畑預ヶ口覚帳	井上七郎右衛門→	横帳	
227	万延2年正月吉祥日	田畑預ヶ口覚帳	井上奥本→	横帳	綴に文書
228	嘉永5年正月吉日	田畑預ヶ口覚帳		横帳	
229	嘉永7年正月吉日	田畑預ヶ口覚帳	奥本→	横帳	
230	寛政3年2月	又左衛門孫三郎田地割賦覚帳	北吸村→	横帳	
231	寛政元年12月	文四郎田地割賦帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
232	寛政9年12月	余部上村文四郎田地山畠共割符帳		横帳	
233	安永2年9月吉日	つほや田地割長(帳)		横帳	
234	天明元年12月	五郎左衛門つぶれ[ ]		一紙	表紙下部損、綴外
235	明和8年口口	御いせ[ ]		横帳	表紙下部破損
236	明和4年2月	つほや田地預ヶ口覚帳		横帳	
237	明和元年12月	つほやは田地立合二而預ヶ口覚		横帳	
238	享保14年9月	長左衛門五兵衛七左衛門田畑割符帳	庄屋三助→	横帳	綴に文書
239	享保15年正月	清兵衛七右衛門田地割賦帳		横帳	綴に文書
240	辰12月	上村惣分通	丸屋伊助→庄屋七郎左衛門様	横帳	こんぶ、あまだい、吸物、いさざ等
241	文化8年11月19日	御介抱割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
242	文久2年7月	諸運上入木代取立帳	庄屋奥本、同市左衛門→	横帳	人別運上(家、鳥)入木、綴に文書3、覚書
243	文化6年11月	巳之御介抱割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
244	文化4年12月	卯之御介抱割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	下部欠
245	文化3年11月	寅之御介抱割帳	余部上村→	横帳	
246	文化2年	御介抱割帳	余部上村→	横帳	
247	文化元年11月	御介抱割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	

248	享和2年11月	御介(抱)割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
249	寛政12年11月	申之御介抱割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
250	寛政11年11月	米(未)之御介抱割帳		横帳	
251	寛政10年11月	午之御介抱割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
252	寛政8年11月	辰之年御介抱割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
253	寛政9年11月	御介抱割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
254	寛政6年11月	寅之御介抱割帳	北吸村→	横帳	
255	寛政6年11月	御介抱万割物帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
256	寛政元年11月	御介抱割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
257	天明6年	御介抱割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
258	天明4年10月	御介抱割帳		横帳	
259	天明3年	御介抱割帳		横帳	下部欠
260	安永10年2月	余部上村高定引指引帳	上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
261	安永7年11月	御介抱割帳	庄屋藤右衛門→	横帳	
262	安永6年11月	御介抱割帳		横帳	
263	安永2年3月	先納銀割帳		横帳	
264-1	宝曆9年11月	遊行様組割銀札割帳		横帳	10匁2分8厘遊行様江、9匁6分組割、 $\approx$ 19匁8分8厘、人足、人別割付、264-1~2綴
264-2	宝曆9年9月	まつり入用割帳		横帳	人別割付、卯ノ御介抱割記入
265	宝曆3年11月	御介抱割帳		横帳	こよりに先納割綴2
266	明和6年8月	御年貢米俵数覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
267	宝曆9年7月	御年貢米帳		横帳	
268	宝曆10年12月	余部上村御年貢米差引口		横帳	表紙下部破損
269	宝曆7年8月	余部上村御年貢米小通	庄や七郎左衛門→	横帳	表紙一部破損
270	宝曆12年12月	御年貢米差引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
271-1	宝曆13年12月	御年貢米差引帳		横帳	271-1~3綴
271-2	-	預ヶ口覚		横帳	
271-3	宝曆13年12月	水役御年貢米帳		横帳	
272	宝曆6年11月	安久ゆら二借シ名寄帳		横帳	
273	文化5年11月	辰之御介抱割帳	余部上村→	横帳	
274	宝曆9年3月	余部上村大麦御拜借割帳		横帳	
275	宝曆9年12月	余部上村御年貢米手	庄屋七郎左衛門→	横帳	表紙下部破損
276	-	酉之小通	七郎左衛門→	横帳	
277	午5月	北吸村差引	上村七郎左衛門→北吸村三郎左衛門様	横帳	綴に文書
278	文化15年2月吉日	大福万覚帳	井上七郎左衛門→	横帳	
279	文化14年正月吉日	大福万覚帳	井上七郎左衛門→	横帳	
280	文化13年正月	大福覚帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	
281	寛政9年正月	大福割物覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
282	寛政8年正月吉日	大福覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
283	寛政7年正月吉日	大福万割物帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
284	寛政5年正月	大福覚帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	
285-1	寛政4年正月吉日	大福帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	285-1~3綴
285-2	寛政4年8月	祭入用割帳		横帳	
285-3	-	万[ ]		横帳	墨筆、紙、酒代、表紙欠
286	寛政2年正月	大福帳		横帳	表紙下部欠
287	寛政2年正月	大福帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
288	寛政寅(6)年正月	大福万覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	表紙破損部分
289	明和3年正月	いつみや田地代米覚帳		横帳	
290	慶応元年12月吉祥日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
291	慶応2年12月	元利差引万覚帳	井上奥本→	横帳	



292-1	慶応2年10月	万米方覚帳	井上奥本→	横帳	292-1～2綴
292-2	慶応2年正月吉祥日	元利差引万覚帳	井上奥本→	横帳	
293	慶応3年12月吉祥日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	こよりに付属紙
294-1	慶応4年4月吉祥日	種揃覚帳	井上奥本→	横帳	稲の品種と量、294-1～2綴
294-2	慶応4年正月吉祥日	田畑預ヶ口人々名寄覚帳	井上奥本→	横帳	
294-3	-	覚		横帳	田植え雇人他、こよりに付属紙
294-4	慶応4年正月吉祥日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	こよりに付属紙
295	慶応4年正月吉祥日	元利差引控覚帳	井上奥本→	横帳	こよりに付属紙
296	慶応3年正月吉祥日	元利差引覚帳控	井上奥本→	横帳	
297	午12月	覚	茂兵衛→七郎右衛門殿	継紙	桐実、大豆代他
298	安政7年正月21日	御高成詰帳	七郎右衛門→	横帳	
299	元治2年正月吉祥日	万差引覚帳	井上奥本→	横帳	
300	-	[元利書上]		綴	
301	-	[諸品代金書上]		綴	かます、ねぎ、そうめん等記載
302	万延2年正月吉祥日	年中万算用控帳	井上奥本→	横帳	
303	万延元年12月	惣遣割覚帳	庄屋武兵衛→	横帳	
304	万延2年正月吉祥日	年中万算用 [ ]		横帳	表紙下部破損
305	嘉永3年正月吉日	戌之年万帳	奥本→	横帳	
306	文久2年正月吉祥日	戌之年久七人夫覚帳	井上奥本→	横帳	
307	-	戌之年切上勘定之覚		横帳	
308	文久2年12月	他所出割帳	庄屋勘定番市左衛門→	横帳	
309	文久3年10月	諸事預り物覚帳	庄屋奥本→	横帳	
310	文久3年9月	晩田見分雑用覚帳	庄屋市左衛門、同断奥本→	横帳	
311-1	文久3年11月	万落シ米覚帳	庄屋奥本→	横帳	
311-2	-	[長左衛門高書上]		綴	
312	天保元年12月吉日	元利指引帳	奥本→	横帳	
313-1	文久元年12月	惣遣出入覚帳	勘定番奥本→	横帳	惣遣札記帳、313-1～3綴
313-2	-	[鹿王院頼母子講銀等覚]		横帳	
313-3	文久元年12月	御拝借名寄帳	勘定番奥本→	横帳	御上様より11貫目拝借
314-1	文久3年正月	高成詰仕立様之難方覚帳	庄屋奥本→	横帳	高成詰仕立之事 元高とゆう八定引入た高也、314-1～314-5綴
314-2	-	覚		横帳	役義代覚、田地高覚
314-3	-	成詰仕立覚帳		横帳	12月18日改算用也、田地高覚、書付紙を使用
314-4	-	嘉左衛門分覚		折紙	成詰の高記入
314-5	文久3年8月	万事記録覚帳	庄屋奥本→	横帳	鉄砲威筒願書認様、奉願口上之覚、庄屋役披露之式、晩田大検分拵之覚
315-1	安政3年8月	高成詰帳		横帳	315-1～3綴
315-2	-	覚		折紙	夫米・庄屋給
315-3	安政6年12月	高成詰帳		横帳	
316	安政4年正月13日	諸色祝義貰物覚帳	井之上氏→	横帳	
317	安政2年10月	運賃米斗上覚帳	庄屋武兵衛、七郎右衛門→	横帳	

318	安政7年正月吉日	高成詰仕立帳	余部上村→	横帳	
319	安政6年正月吉日	未之年万覚帳	井上奥本→	横帳	酒代他
320	安政2年3月吉祥日	万費物 [ ]		横帳	河森外宮様御普請に付 河田山城守と申大夫より 寄進云云、表紙下部欠
321	安政卯(2)年5月 吉祥日	草鞋覚帳		横帳	
322	文政12年12月22 日	元利指引帳	奥本→	横帳	
323	文政11年12月吉日	元利指引帳	奥本→	横帳	
324	文政10年12月	元利指引帳	奥本→	横帳	
325	文政9年12月吉日	元利指引帳	奥本→	横帳	
326	文政8年12月吉日	元利指引帳	井上奥本→	横帳	
327	文政7年12月吉日	元利指引帳	奥本→	横帳	
328	文政6年12月	元利指引帳	奥本→	横帳	下部にこより貫通箇所
329	文政5年12月吉日	元利指引帳	奥本→	横帳	
330	文政4年12月吉日	元利指引帳	奥本→	横帳	
331	文政3年12月吉日	元利指引帳	井上氏→	横帳	
332	文政3年正月吉日	大福覚帳	井上七郎左衛門→	横帳	
333	文政2年正月吉日	大福万覚帳	井上七郎左衛門→	横帳	
334	文政2年12月	元利指引帳	井上七郎左衛門→	横帳	
335	文政元年12月	元利指引覚帳	井上七郎左衛門→	横帳	
336	明治14年12月	寺頼母子帳	組親井上奥本→	横帳	
337-1	明治14年	寺頼母子元割帳	戸長井上豊次郎→	横帳	337-1 ~ 2 綴
337-2	-	組合記		横帳	
338	文久元年7月	融通割合帳面	発起余部上村奥本→	縦帳	
339	安政未(6)年12月 吉祥日	頼母子差引覚帳	いのうへ於久毛登→	横帳	
340	万延元年12月吉祥 日	頼母子差引覚帳	井上七郎右衛門→	横帳	
341	安政4年12月	頼母子元利差引帳	七郎右衛門→	横帳	
342	安政3年12月吉日	頼母子元利差引帳	井上氏→	横帳	
343	安政2年12月吉日	頼母子元利指引帳	奥本→	横帳	下部にこより貫通箇所
344	嘉永7年12月10日	頼母子元利指引帳	奥本→	横帳	下部にこより貫通箇所
345	嘉永6年12月吉日	頼母子元利指引帳	奥本→	横帳	下部にこより貫通箇所
346	安政5年12月吉日	頼母子元利指引覚帳	井上於久毛登→	横帳	
347-1	嘉永5年12月吉日	頼母子元利差引帳		横帳	347-1 ~ 2 綴
347-2	-	覚		綴	
348	嘉永4年12月吉日	頼母子元利指引帳	奥本→	横帳	
349	嘉永3年12月吉日	頼母子元利指引帳	奥本→	横帳	
350	嘉永2年12月吉日	頼母子元利指引帳	奥本→	横帳	
351	嘉永元年12月吉日	頼母子元利指引帳	奥本→	横帳	
352	文久2年8月	早田稲痛願帳	余部上村→	縦帳	
353	安永2年12月	惣遣割帳		横帳	

354	天明 8 年正月	惣遣覚帳	余部上村→	横帳	表紙一部欠
355	安永 4 年 12 月	惣遣覚帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	
356	天明 7 年正月	余部上村惣遣帳	年寄六郎右衛門、庄屋七郎左衛門 →大庄屋武左衛門様	竖帳	銀札 258 匁、百姓分不 残立合割上調
357	文久 3 年 12 月	縄俵割帳	庄屋奥本、同役市左衛門→	横帳	
358	-	伊佐津川除人足扶持 米		横帳	御台場人足扶持米覚
359	明和 4 年 12 月	水役御年貢米帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	
360	寛政 8 年 12 月	御拝借利割帳	余部上村→	横帳	
361	天明 8 年 12 月	安右衛門ぶ礼割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
362	寛政 6 年 9 月吉日	早田痛荒米 [ ]		横帳	下部破損
363	文久 2 年 8 月	早田稲痛帳	余部上村→	竖帳	下部破損
364	安政 2 年 9 月 4 日	晩田稲痛下見帳	庄屋月番武兵衛→	横帳	
365	安政 7 年正月吉祥日	田畑預ヶ口覚帳	七郎右衛門→	横帳	
366	文久 3 年 12 月	戌之年勘定不足帳	市左衛門→	横帳	
367	文久 3 年 9 月晦日	晩田稲痛正味取覚帳、 無斗り也	庄屋奥本、市左衛門→	横帳	
368	文化 2 年 8 月	丑ノ年奥田晩取稲痛帳	余部上村→	横帳	
369	寛政 6 年 12 月 5 日	寅之上納胡麻割覚帳	北吸村→	横帳	
370	寛政 6 年 12 月	寅之年貢不足帳	庄屋余部下村兵右衛門、同上村七 郎左衛門→	横帳	
371	文久元年 12 月	宮寺太夫口 (様) 覚帳	庄屋奥本、市左衛門→	横帳	中央部破損
372	文久 2 年 7 月	諸証文奥印形帳	庄屋市左衛門、同奥本→	横帳	永代壳譲り申一札
373	文久 3 年 12 月	黒大豆小豆覚帳	庄屋奥本、市左衛門→	横帳	
374	文久 3 年 12 月	胡麻過不足覚帳	庄や奥本、市左衛門→	横帳	
375	文久 3 年正月吉祥日	田畑預ヶ口覚帳	井上奥本→	横帳	綴に文書
376	文化 10 年 8 月吉日	御年貢米俵数覚帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	
377	文化 3 年 6 月	寅之六月卯之年分先 納銀帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
378	-	余り米斗上之覚		横帳	表紙他前欠、綴じ紐欠、 4 紙
379	文久 4 年 2 月	桐実斗上覚帳	余部上村庄屋奥本→	横帳	
380	文化 10 年 2 月	酉之年先納銀割帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	
381	文化 3 年 3 月	寅之先納銀割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
382-1	文化 4 年 4 月	卯之先納銀割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	382-1 ~ 2 綴
382-2	文化 5 年 6 月	辰之先納銀割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
383	-	[弥助通]		一紙	横帳外
384	文久元年 12 月	味 (未) 進差引覚帳	庄屋奥本、同断市左衛門→	横帳	
385	文久元年 12 月	桐実斗上覚帳	余部上村役人中→	横帳	綴文書、鍋屋重兵衛か ら余部上村庄屋中様、 酉「産物会所」(印)、 桐実代札、綴に文書 3
386	明和 3 年 12 月	水役御年貢米帳		横帳	
387	明和 8 年 5 月 21 日	先納銀割帳		横帳	綴に文書
388	宝暦 7 年 10 月	寅ノ町借り米帳		横帳	
389	文久 3 年 9 月	余り米斗上覚帳	余部上村→	横帳	
390-1	文久元年 12 月	切分ヶ味 (未) 進成行 覚帳	余部上村庄屋奥本、同市左衛門共 →	横帳	390-1 ~ 6 綴
390-2	文久元年 12 月	年賦之委細覚帳	余部上村庄屋奥本、同断市左衛門 →	横帳	
390-3	文久元年 12 月	年賦建札掛辰覚帳	余部上村庄屋市左衛門、同断奥本 →	横帳	綴に文書、「覚貸し金返 済之件」
390-4	文久元年 12 月	安久兵左衛門年賦覚 帳	余部上村庄屋市左衛門、同断奥本 →	横帳	
390-5	文久元年 12 月	附送味 (未) 進覚帳	余部上村庄屋市左衛門、同断奥本 →	横帳	綴に文書 3
390-6	文久元年 12 月	附送味 (未) 進切分覚 帳	余部上村庄屋市左衛門、同断奥本 →	横帳	
391-1	文久 3 年 12 月	余り米覚帳		横帳	391-1 ~ 2 綴
391-2	文久 3 年 3 月	農料米拝借覚帳		横帳	
392	文化 6 年 5 月	巳之年先納銀割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
393	寛政 9 年 10 月	先納銀元割帳	余部上村庄や七郎左衛門→	横帳	

394-1	文化7年正月	惣遣万割物覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	394-1 ~ 5 綴
394-2	文化7年正月	大福覚帳	余部上村井ノ上→	横帳	
394-3	文化7年5月	午之年先納銀割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
394-4	文化8年6月	未之年先納銀割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
394-5	文化7年7月	諸雲定(運上)入木代割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
394-6	-	余り米覚		横帳	
395	文化9年7月	先納銀割帳	上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
396	-	余米斗上覚		横帳	
397	文久3年12月	見分割覚帳	庄屋市左衛門、同断奥本→	横帳	
398	安政2年6月	大麦拝借麻苧胡麻割帳		横帳	
399	安政5年8月吉日	早稲晩稲刈上覚帳	井上七郎□□□(左衛門力)→	横帳	表紙下部破損
400	文久3年12月	大豆過不足割帳	庄屋奥本、市左衛門→	横帳	
401	寛政3年12月	惣遣割帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	
402	寛政6年2月	先納米代銀寄帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
403	文化6年7月	諸雲定(運上)入木代割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
404	寛政8年12月	先納銀元利割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
405	文久3年12月	材木割覚帳	庄屋奥本、同市左衛門→	横帳	
406	-	[入木代書上]		横帳	表紙破損
407	明和2年仲春吉日	酉之年稻かり上帳	藤右衛門→	横帳	表紙に花図
408	元治元年正月	万事取かへ物覚帳	奥本→	横帳	
409	天保8年12月吉日	元利指引覚帳	奥本→	横帳	
410	天保7年12月吉日	元利指引覚帳	奥本→	横帳	
411	天保6年12月	元利指引帳	奥本→	横帳	
412	天保5年12月	元利指引帳	奥本→	横帳	
413	天保4年12月吉日	元利指引覚帳	奥本→	横帳	
414	天保3年12月吉日	元利指引帳	奥本→	横帳	
415	天保2年12月吉日	元利指引帳	奥本→	横帳	
416	寛口(宝曆)9年12月	寅ノ御用銀元利差引帳		横帳	表紙一部破損
417	寛政12年11月	元利差引帳	上村七郎左衛門→	横帳	
418	寛政11年12月	元利指引帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	
419	寛政10年12月	元利差引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
420	寛政9年11月	元利覚帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	
421	寛政8年12月	元利差引帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	
422	寛政7年11月	元利差引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
423	寛政6年11月	元利指引覚帳	余部上村→	横帳	
424	寛(政5年)丑ノ1□□	元利[ ](差引帳)	[ ]→	横帳	表紙下部破損
425	寛政4年12月	元利差引帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	
426	寛(政)3年12月	元利差引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
427	寛政2年12月	元利差引帳	余部上村→	横帳	
428	天明8年12月	水呑御年貢米帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
429	寛政元年12月	水呑御年貢米帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
430	寛政2年12月	戌之御年貢水呑小通帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
431	寛政5年12月	余部上村永(水)呑御年貢米帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
432	寛政7年12月	水呑小通指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
433	寛政8年12月	水呑小通指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
434	天明7年12月	水呑御年貢米帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
435	天明5年12月	水呑御年貢米帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
436	天明4年12月	水呑御年貢米帳	余部上村庄屋[ ]→	横帳	表紙破損
437	天明3年12月	水呑御年貢米指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
438	天明2年12月吉日	水呑御年貢米指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	下部にこより貫通箇所

439	安永6年[ ]	水呑御年貢米帳	余部上村[ ]→	横帳	表紙破損、下部にこより貫通箇所
440	安永4年12月	水呑御年貢米帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	下部にこより貫通箇所
441	安永2年12月	水呑通指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	下部にこより貫通箇所
442	安永元年11月	水呑御年貢米帳		横帳	下部にこより貫通箇所
443	明和8年12月	水呑御年貢米之帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	下部にこより貫通箇所
444-1	宝暦12年12月	手(水力)役御年貢米差引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	444-1～2綴、下部にこより貫通箇所
444-2	—	預ケ口覚		綴	
445	宝暦10年12月	辰之年御達貢米水役通		横帳	下部にこより貫通箇所
446	宝暦7年8月	丑ノ年御年貢米水役町小通	庄屋七郎左衛門→	横帳	下部にこより貫通箇所
447	弘化5年正月吉日	申之年万覚帳	奥本→	横帳	下部にこより貫通箇所
448	天保12年正月吉日	丑之年万覚帳	奥本→	横帳	下部にこより貫通箇所
449	天保13年正月吉日	寅年万覚帳	奥本→	横帳	山代覚等
450	安政3年正月吉日	辰之年万覚帳	奥本→	横帳	手前取年貢覚(個人割付)等 個人別貸付
451	安政4年正月吉日	巳之年万覚帳	井上氏→	横帳	山うり覚等
452-1	安政2年正月吉日	卯之年万覚帳	奥本→	横帳	個人別貸付、451-1～2綴
452-2	—	卯免覚		折紙	
453-1	安政5年正月吉祥日	午之年万覚帳	いのうへ奥本→	横帳	452-1～2綴
453-2	正月12日	覚	上根村太右衛門→余部上村七郎左衛門様	切紙	内金覚、453-1こよりに付
454	安政7年正月吉祥日	申之年万覚帳	井上奥本→	横帳	150匁桐実札12月に受取置、150匁桐実札喜右衛門分正月5日に受取
455	天保14年正月吉日	卯之年万覚帳	奥本→	横帳	人別貸付
456	天保15年正月吉日	辰之年万覚帳	奥本→	横帳	人別貸付
457	嘉永2年正月吉日	酉之年万覚帳	奥本→	横帳	人別貸付
458	弘化3年正月吉日	午之年万覚帳	奥本→	横帳	人別貸付
459	弘化4年正月吉日	未之年万覚帳	奥本→	横帳	人別貸付
460	天保16年正月吉日	巳年万覚帳	奥本→	横帳	人別貸付
461	寅	[米数量書上]	七郎左衛門→	折紙 2	
462	嘉永5年正月吉日	子之年万覚帳	奥本→	横帳	人別貸付
463	嘉永6年正月吉日	丑之年万覚帳	奥本→	横帳	人別貸付、綴に文書
464	嘉永7年正月吉日	寅之年万覚帳	奥本→	横帳	人別貸付、綴に文書
465	享和3年12月	元利覚帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	
466	享和2年12月	元利覚帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	
467	享和元年11月	元利指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
468	天明8年12月	元利書出帳	余部上村庄や七郎左衛門→	横帳	
469	天明5年12月	元利覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	下部にこより貫通、別綴じ
470	天明4年11月	元利指引帳		横帳	下部にこより貫通
471	天明元年12月	元利指引覚帳		横帳	下部にこより貫通
472	安永8年12月	元利指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	下部にこより貫通
473	安永6年12月	元利指引帳	上村藤右衛門→	横帳	下部にこより貫通
474	安永5年11月	元利指引帳		横帳	下部にこより貫通
475	安永4年10月	元利指引帳		横帳	下部にこより貫通

476	安永2年10月	元利差 [ ]		横帳	表紙一部欠
477	明和8年11月	元利差引帳		横帳	下部にこより貫通
478	文久元年12月	元利差引覚帳	庄屋奥本→	横帳	下部にこより貫通
479	文久2年12月	元利差引覚帳	奥本→	横帳	下部にこより貫通
480	文久2年正月吉日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	下部にこより貫通
481	文久2年正月吉日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	下部にこより貫通
482	文久3年正月吉祥日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	下部にこより貫通
483	文久3年正月	元利差引控覚帳	井上奥本→	横帳	下部にこより貫通、綴に文書
484	文久4年正月吉祥日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	下部にこより貫通
485	文久4年正月吉祥日	元利差引控覚帳	井上奥本→	横帳	下部にこより貫通、綴に文書
486	元治元年12月	元利差引万覚帳	井上奥本→	横帳	下部にこより貫通
487-1	文久元年12月	惣遣割覚帳	庄屋奥本、市左衛門→	横帳	487-1～2綴、下部にこより貫通
487-2	文久元年12月	[武兵衛分年貢勘定]		横帳	下部にこより貫通
488-1	文久4年正月	年中儀助人夫覚帳	井上奥本→	横帳	488-1～3綴、下部にこより貫通
488-2	万延2年正月	北吸村文政年中無勘定帳	余部上村七郎右衛門→	横帳	下部にこより貫通
488-3	-	[人別書上]		横帳	
489	文政6年12月吉日	未之年指引帳	奥本→	横帳	
490	丑12月	上村惣分書出シ帳	丸屋伊介→御庄屋七郎左衛門様	横帳	下部にこより貫通
491	文久2年12月	万米方割物覚帳	役中用物奥本、市左衛門→	横帳	下部にこより貫通
492	文久元年12月	年賦改取立覚帳	庄屋市左衛門、勘定番奥本→	横帳	下部にこより貫通
493	文久元年12月	年賦取立覚帳	役人中→	横帳	下部にこより貫通
494	文久2年2月吉祥日	万雑用取替物奥本分控帳	庄屋奥本→	横帳	下部にこより貫通
495	文久3年正月	万取替帳		横帳	下部にこより貫通
496	文久3年12月	御台場人足扶持米割帳	庄屋市左衛門、同断奥本→	横帳	下部にこより貫通
497	-	[人別人足書上]		横帳	文久元年11月「当座諸事覚帳、庄屋奥本、市左衛門」の反古紙
498	文久2年4月	万上納大庄屋通控帳	庄屋奥本→	横帳	
499	文久3年12月	諸事切上算用并味(未)進受取帳	前庄屋奥本、同断市左衛門→	横帳	
500	文久3年12月	直シ賃割帳	庄屋奥本、市左衛門→	横帳	
501	文久元年12月	万取替物覚帳	井上奥本→	横帳	由兵衛豆腐覚、綴に覚2通
502	文久4年2月	御台場人足出人覚帳	余部上村庄屋奥本→	横帳	人足数、賃料
503	文化11年3月	農料米借用帳	余部上村→	横帳	
504	文化10年閏11月	米方割物帳	七郎左衛門→	横帳	初御納所割
505	文化8年5月	未之年先納銀割帳	余部上村庄や七郎左衛門→	横帳	
506	文化10年8月	祭礼入用割覚帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	
507	文化7年8月	祭り入用割帳	余部上村庄や七郎左衛門→	横帳	
508	文化4年	高成詰帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	綴に文書
509	享和元年12月吉日	酉之北吸村過不足覚帳	庄屋下村兵右衛門→	横帳	過米人不足人覚
510	享和2年	高成詰帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
511	寛政10年	高成詰帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
512	寛政7年11月	高成詰帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
513	寛政4年	高成詰帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
514	寛政2年	高成詰帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
515	寛政元年	高成詰帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
516	寛政〇年12月	免割帳		横帳	表紙破損
517	文化10年7月	諸運上入木代割帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	
518	文化9年7月	諸運上入木代割帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	
519	文化8年7月	諸運上入木代割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	こより破損



520	文化4年7月	諸雲成(運上)入木代割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
521	文化2年7月	諸雲成(運上)入木代割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
522	文化元年7月	諸雲成(運上)入木代割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
523	享和3年7月	諸雲成(運上)入木代割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
524	享和3年7月	亥之運上銀并二入木割帳	北吸村→	横帳	
525	享和元年7月	諸雲成(運上)入木代割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
526	寛政11年7月	諸雲成(運上)入木帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
527	寛政元年7月	諸雲定(運上)入木帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	
528	寛政10年7月	諸雲成(運上)入木代帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	むき、鳥運上等
529	寛政8年7月	諸雲成(運上)入木代帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
530	寛政8年7月	諸雲成(運上)入木代帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
531	寛政7年7月	諸雲成(運上)入木代帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
532	寛政5年7月	諸雲成(運上)入木代帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
533	寛政4年7月	諸雲成(運上)入木代帳		横帳	
534	寛政3年7月	諸雲成(運上)入木代帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
535	寛政12年7月	諸雲成(運上)入木代割帳	余上村庄屋七郎左衛門→	横帳	家運上、入木代割付
536	寛政元年7月	諸雲成(運上)入木代帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	
537	天明8年7月	諸雲成(運上)入木帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	こより外、紙紐結
538	天明7年7月	諸雲成(運上)入木帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	
539	天明6年7月	諸雲成(運上)入木帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	
540	天明4年7月	諸雲成(運上)入木之帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
541	天明3年7月	諸雲成(運上)入木之帳		横帳	
542-1	天明元年7月	諸運上入木代割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	542-1 ~ 2 綴
542-2	-	[入木人別割付]		折紙2	
543	安永8年7月	諸運上入木代割帳		横帳	
544	安永6年7月	諸運上入木代割帳		横帳	家運上割
545	安永5年7月	諸運上入木代割帳		横帳	
546	安永4年7月	諸運上入木代割帳		横帳	
547	安永3年7月	諸運定入木代割帳		横帳	
548	安永2年7月	諸運定入木代割帳		横帳	
549	明和9年7月	諸運定入木代割帳		横帳	
550	明和6年7月	諸運定入木代割帳		横帳	
551	明和5年7月	諸運定入木代割帳		横帳	
552	明和3年7月	諸運上入木代割帳		横帳	
553-1	明和4年7月	諸運定入木代割帳	余上村庄屋七郎左衛門→	横帳	家運定割、553-1 ~ 2 綴
553-2	明和3年9月	入木小付覚帳		横帳	
554	明和元年7月3日	諸運上入木代割帳		横帳	
555-1	宝曆13年7月朔日	諸運上入木代割帳		横帳	555-1 ~ 2 綴
555-2	-	入木小付覚		横帳	
556-1	宝曆9年正月	つほや与一左衛門借り米之覚帳		横帳	寅ノ秋ノ借り入差引、556-1 ~ 3 綴
556-2	宝曆8年9月	上村与惣兵衛・惣兵衛御不達人跡取之帳		横帳	
556-3	-	[米貸付明細]		横帳	
557-1	宝曆11年7月	諸運上入木代差引帳		横帳	557-1 ~ 2 綴、下部欠



557-2	-	駕(力)運上割		横帳	下部欠
558	宝暦7年6月	諸運上割覚帳	余部上村七郎右衛門→	横帳	
559	宝暦8年7月	諸運上入木割覚帳		横帳	綴外
560	-	ころひ付覚		横帳	
561	元治元年5月	亥之勘定差引覚帳	余部上村→	横帳	味進受取に付間損
562	元治元年4月	御台場人足買入勘定帳	余部上村→	横帳	
563-1	元治元年5月	亥之勘定差引覚帳	余部上村→	横帳	亥之勘定に付間損、 563-1 ~ 2 綴
563-2	-	[嘉右衛門年貢勘定]		横帳	
564	元治2年正月吉日	万勘定差引控覚帳	井上奥本→	横帳	こよりに勘定覚1通、覚 1通(六兵衛→奥本)
565	天明元年12月吉日	水呑御年貢帳	余上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
566	寛政5年8月吉日	北吸村米方諸色割帳	庄屋上村七郎左衛門、同下村兵右衛門→	横帳	
567	享和4年2月	北吸村判人呼出し [ ]	口屋 [ ] →	横帳	表紙下部欠
568	天明2年8月	御年貢米帳	余上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
569	文政3年11月	御年貢米差引帳		横帳	
570	文化6年□□	頼母子万覚帳	余上村□七郎左衛門→	横帳	表紙一部欠
571	文化5年12月	頼母子万覚帳	余部上村井上七郎右衛門→	横帳	
572	文化3年8月	頼母子万覚帳	余上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
573	文化4年	頼母子万覚帳	余上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
574	文化2年	頼母子万指引帳	余上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
575	文化元年12月	頼母子万指引帳	余上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
576	享和3年2月	大頼母子掛銀割帳	北吸村庄屋上村七郎左衛門→	横帳	
577	享和3年	頼母子万覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
578	享和2年	頼母子万覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
579	享和元年	頼母子万覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
580	寛政12年2月	大頼母子掛ケ銀割覚帳	北吸村→	横帳	「酉之二月」とあり、寛 政13年力
581	寛政12年	頼母子万覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
582	寛政11年11月	頼母子万覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
583	寛政10年2月	大頼母子掛ケ銀割覚帳	北吸村→	横帳	
584	寛政10年10月	頼母子万覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
585	寛政9年9月	頼母子万覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
586	寛政8年	頼母子万覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
587	寛政8年2月	大頼母子掛ケ銀割覚帳	北吸村→	横帳	
588	寛政7年10月	頼母子万覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
589	寛政6年	頼母子万指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
590	寛政4年8月	頼母子万覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
591	寛政3年11月	頼母子万指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
592	寛政2年10月	頼母子万指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
593	宝暦8年12月	ころひ寄口覚帳		横帳	
594	宝暦8年2月	惣兵衛・与三兵衛つづ れ人割帳		横帳	
595	宝暦13年8月	万割物帳	上村七郎左衛門→	横帳	
596	宝暦7年12月	村夫寄帳		横帳	綴に文書「ころび直段、 6月16日」
597	宝暦5年2月	高物成定引帳	余部上村庄屋弥左衛門→	横半 帳	
598-1	宝暦13年8月	高物成定引帳		横半 帳	598-1 ~ 2 綴
598-2	-	[代銀割書上]		綴11	
599	宝暦13年11月	高成詰帳		横帳	
600	宝暦13年10月	高成詰名寄帳		横帳	
601	宝暦12年10月	高成詰帳		横帳	
602	宝暦11年10月	高成詰帳		横帳	
603	宝暦10年10月	高成詰帳		横帳	
604	宝暦8年9月	高物成帳		横帳	表紙下部破損
605	宝暦8年3月	高定引ひかえ帳	余部上村庄や七郎左衛門→	横帳	
606	宝暦卯(9)年10月	高物成帳		横帳	右部分破損
607	宝暦6年10月24日	高成詰名寄帳、上り帳 控	余部上村→	横帳	

608	明和 7 年 10 月	高物成詰帳		横帳	
609	明和 4 年 10 月	高物成詰帳		横帳	表紙下部破損、綴に「覚」
610	明和 3 年 10 月	高物成詰帳		横帳	
611	明和 3 年 3 月	預ヶ口覚与一左衛門田地帳		横帳	反古紙再
612	明和 3 年 12 月 15 日	いろいろ覚帳也	余部上村藤左衛門→	横帳	
613	明和 2 年 10 月	高物成詰帳		横帳	
614	明和 2 年 10 月	高物成定引帳		横半帳	
615	明和元年 10 月	高物成詰帳		横帳	
616	-	物事言上心覚帳		横帳	平助申口之事、ちよんかれ
617	安永 9 年 11 月	高成詰帳	余部上村庄屋七郎□□□→	横帳	表紙下部分破損
618	安永 4 年 10 月	高成詰名寄帳		横帳	
619	安永 3 年 2 月	万役儀触割物帳		横帳	
620	-	桐実覚		横帳	
621	安永 4 年 10 月	頼母掛米帳		横帳	前半反古紙
622	安永 3 年 10 月	高物成名寄帳		横帳	
623	安永 2 年 10 月	高物成詰帳		横帳	
624	安永 2 年 8 月	入木二付覚帳		横帳	反古紙
625	安永 2 年 9 月	高物成定引帳		横半帳	反古紙の 3 紙添付
626	弘化 4 年 12 月吉日	頼母子元利指引帳	奥本→	横帳	
627	弘化 2 年 12 月吉日	頼母子元利指引帳	奥本→	横帳	
628	天保 15 年 12 月吉日	頼母子元利指引帳	奥本→	横帳	
629	天保 14 年 12 月吉日	頼母子元利指引帳	奥本→	横帳	
630	天保 13 年 12 月吉日	頼母子元利指引帳	奥本→	横帳	
631	天保 12 年 12 月吉日	頼母子元利指引帳	奥本→	横帳	
632	天保 11 年 12 月吉日	頼母子元利指引帳	奥本→	横帳	
633	天保 10 年 12 月吉日	頼母子指引元利帳	奥本→	横帳	
634	天保 9 年 12 月吉日	頼母子元利指引帳	奥本→	横帳	
635	文政 4 年 12 月吉日	米方指引頼母子帳	奥本→	横帳	
636	文化 9 年正月吉(日)	頼母子掛銀帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
637	文化 8 年 10 月吉日	頼母子小通ノ書帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
638	文化 7 年	頼母子万覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
639	文久 4 年 2 月	万取替物覚帳	庄屋奥本→	横帳	
640	文久 3 年 2 月	御会講利足下ヶ金渡シ帳	庄屋市左衛門、同断奥本→	横帳	
641	文久 2 年 2 月	頼母子掛札受取帳	発起奥本→	横帳	表紙破損
642	文久 2 年正月 8 日	御会講札受取帳	庄屋奥本、市左衛門→	横帳	
643	安政 4 年 9 月	年賦取立覚帳	庄屋武兵衛→	横帳	
644	寛政 6 年 12 月	寅ノ惣遣割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
645	寛政 5 年正月	万御用惣遣帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
646	寛政 5 年 12 月	惣遣書出割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
647	寛政 4 年 12 月	惣遣割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	文書こよりに綴じ
648	寛政 3 年正月吉日	万御用惣遣覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
649	天明 9 年正月	惣遣覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	破損
650	天明 7 年正月	惣遣覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
651	天明 7 年 12 月	惣遣書出割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
652	天明 5 年正月	惣遣覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
653	天(明) 5 年 12 月	惣遣覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	

654	天明 4 年 12 月	惣遣書出帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
655	天明 3 年 12 月	惣遣書出帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
656	天明 3 年 12 月	惣遣覚帳		横帳	表紙下部破損
657	安永 9 年 12 月	惣遣書出覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
658	安永 6 年 12 月	惣遣書出覚帳	余部上村→	横帳	
659	安永 5 年 12 月	惣遣書出帳		横帳	
660	安永 4 年 12 月	惣遣割帳		横帳	ころひ付横帳こよりに綴
661	安永 2 年 12 月	惣遣帳		横帳	下部破損
662	天明 2 年 12 月吉日	惣遣覚帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	
663	安永 3 年 12 月	惣遣覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	借用銀勘定挟込
664	明和 4 年 12 月 23 日	惣遣覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
665	明和 7 年 12 月	惣遣割帳		横帳	
666	明和 4 年 12 月	惣遣割帳		横帳	
667	明和 3 年 12 月	惣遣割帳		横帳	帳 3 こより綴
668	明和 2 年 12 月	惣遣名寄割帳		横帳	
669	明和元年 12 月	惣遣覚帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	
670	宝暦 13 年 12 月	惣遣覚帳		横帳	
671	宝暦 13 年 12 月	惣遣寄割帳		横帳	帳 2 こより綴
672-1	寛 (政) 13 年正月	惣遣万割物帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	672-1 ~ 2 綴、帳 2 こより綴
672-2	寛政 13 年正月	大福覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
673	宝暦 12 年 12 月	惣遣割帳		横帳	表紙破損、こよりに切紙 5 枚綴 (田地高内訳、覚書付、タンコタナへ宮津屋藤兵衛 (紙屋))
674	文化元年 12 月	惣遣割帳	余部上村→	横帳	
675	享和元年 12 月	惣遣割覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
676	文化 11 年正月	惣遣万割物帳		横帳	付箋つき
677	享和 2 年 12 月	惣遣割覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
678-1	享和元年 7 月	戌ノ先納銀割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	678-1 ~ 3 綴
678-2	享和 2 年 7 月	諸雲定 (運上) 入木代割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
678-3	享和 2 年正月吉日	惣遣万割物帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
679-1	享和 3 年正月	惣遣万割物帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	679-1 ~ 3 綴
679-2	享和 3 年 2 月	先納銀割帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	
679-3	享和 3 年 6 月	子之年分先納銀割帳		横帳	
680	-	午小通	七郎左衛門→	横帳	9 月 20 日 ~ 11 月 3 日、大波孫三郎頼母子掛米代等
681	-	午之小通	七郎左衛門→	横帳	680 と同じか
682	文政 3 年 12 月	御年貢米指引帳	井上七郎左衛門→	横帳	
683	宝暦 11 年 12 月	水役御達貢米差引帳	余部上村→	横帳	
684-1	寛政元年 8 月吉日	北吸村米方諸色割物帳	庄や下村兵右衛門、同上村七郎左衛門→	横帳	684-1 ~ 2 綴
684-2	寛政元年 11 月吉日	酉之北吸村頼母子分取覚帳		横帳	
685-1	享和 2 年 8 月吉日	戌之北吸村米方諸色割物帳	庄屋上村七郎右衛門→	横帳	685-1 ~ 3 綴
685-2	享和 2 年	戌之過不足覚帳	北吸村庄屋上村七郎右衛門→	横帳	
685-3	享和 2 年 3 月	戌之北吸村頼母子分取覚帳		横帳	
686-1	享和 3 年 8 月吉日	亥之北吸村米方諸色割物帳	庄屋上村七郎右衛門→	横帳	686-1 ~ 2 綴
686-2	-	亥ノ過不足覚		横帳	
687	享和 3 年 12 月	惣遣割覚帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	
688-1	享和 4 年正月吉日	惣遣万割物帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	688-1 ~ 4 綴
688-2	享和 4 年正月吉日	大福覚帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	
688-3	享和 4 年正月	先納銀割覚帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	
688-4	文化元年 6 月	丑ノ先納銀割帳	余部上村→	横帳	

689-1	寛政 10 年正月吉日	惣遣万割物帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	689-1 ~ 2 綴
689-2	寛政 10 年正月	大福万覚長 (帳)	余部上村七郎左衛門→	横帳	
690	寛政 10 年 11 月	惣遣書出割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
691	寛政 9 年 12 月	惣遣書出割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	綴に付箋
692	寛政 8 年 12 月	惣遣割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
693	寛政 11 年 12 月	惣遣割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
694	寛政 7 年 12 月	惣遣割帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
695	寛政 12 年正月	惣遣万割物帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	
696	寛政 12 年 12 月	惣遣割帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	
697	寛政 11 年正月吉日	惣遣万割物長 (帳)	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
698	文化 14 年 12 月吉日	元利指引帳	井上七郎左衛門→	横帳	
699	文化 12 年 12 月	元利覚帳		横帳	
700	文化 8 年 12 月	元利指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
701	文化 6 年 12 月	元利指引覚帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	
702	文化 4 年 12 月	元利覚帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	
703	文化元年 12 月	元利覚帳	余部上村庄屋七郎右衛門→	横帳	
704	文化 11 年 12 月	元利指引覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	帳外
705	安永 2 年正月	余部上村高名寄帳		横帳	
706	宝暦 11 年 10 月	余部上村 (高) 名寄帳		横帳	綴に文書
707	文化 13 年 12 月吉日	元利指引帳	(裏に「井上七郎左衛門」)→	横帳	
708	文化 12 年 8 月	預ヶ口覚帳	井上氏→	横帳	
709	文化 9 年 12 月	元利指引帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	
710	文化 7 年 12 月	元利指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
711	文化 5 年 11 月	元利覚帳	余部上村井上氏→	横帳	
712	文化 3 年 12 月	元利覚帳	余 [ ]→	横帳	表紙下部破損
713	文化 2 年	元利指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
714	寛保 2 年 2 月	余部上村高名寄水帳		横帳	名前木製付箋
715	万延元年 12 月	余部上村高名寄水帳	庄屋武兵衛→	横帳	
716	文化 12 年 6 月	余部上村高名寄帳	井上七郎左衛門扣→	横帳	
717	文化 12 年 2 月吉日	余部上村高名寄水帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	
718	宝暦 9 年閏 7 月	余部上村卯之御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→伊東次郎右衛門 (印)	横帳	
719	宝暦 12 年 7 月	余部上村午之御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→伊東次郎右衛門 (印)	横帳	
720	文久 3 年 9 月	当座万覚帳	庄屋奥本、同断市左衛門→	横帳	
721	安永 9 年 12 月吉日	余部上村高名寄水帳	庄屋七郎左衛門 (印)、年寄六郎右衛門 (印) 他 4 人→	横帳	
722	寛政 11 年 8 月	余部上村未御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→戸野半兵衛 (印)	横帳	
723	寛政 10 年 8 月	余部上村午之御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→今西作右衛門 (印)	横帳	
724	寛政 9 年閏 7 月	北吸村巳御年貢米納通	庄屋余部上村七郎左衛門、同下村兵右衛門→野田弟之丞 (印)	横帳	
725	宝暦 6 年 8 月	余部上村子之御年貢米納通	庄屋弥左衛門→幕谷又内 (印)	横帳	
726	天保 10 年正月吉日	亥之年万覚帳	奥本→	横帳	
727	寛政 10 年 8 月	北吸村午之御年貢米納通	前庄屋余部上村七郎左衛門、同下村兵右衛門→今西作右衛門 (印)	横帳	
728	宝暦 10 年 8 月	余部上村辰之御年貢米納通	庄屋七郎□□□→伊東次郎右衛門 (印)	横帳	表紙他下部破損
729	明和元年 8 月	余部上村申御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→川崎友八 (印)	横帳	
730	明和 2 年 7 月	余部上村酉御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→川崎友八 (印)	横帳	
731	明和 8 年 8 月	余部上村卯御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→荒川儀兵衛 (印)	横帳	
732	安永 3 年 8 月	余部上村午之御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→筒井権平 (印)	横帳	

733	安永7年閏7月	余部上村戌御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→宮沢立右衛門(印)	横帳	
734	天保5年正月吉日	午年万覚帳	奥本→	横帳	
735	安永9年8月	余部上村子御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→内田弥五太夫(印)	横帳	
736	天明4年11月6日	憑母子之帳	発起岸谷村太郎左衛門→	竖帳	
737	天明8年	頼母子指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
738	天明7年	頼母子指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
739	天明7年12月	頼母子帳		竖帳	
740	天明2年	頼母子指引帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	
741	宝暦11年8月	余部上村巳之御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→□□右衛門(印)	横帳	表紙一部破損
742	明和4年8月	余部上村亥之御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→川崎友八(印)	横帳	
743	明和6年8月	余部上村丑御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→荒川儀兵衛(印)	横帳	
744	安永2年7月	余部上村巳御年貢米納通	庄屋七郎左衛門→荒川儀兵衛(印)	横帳	
745	安永6年8月	余部上村酉之御年貢米納通	庄屋藤右衛門→筒井権平(印)	横帳	
746	安永9年11月	頼母子指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
747	安永8年	頼母指引帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	
748	安永6年11月	頼母子之帳		竖帳	
749	安永5年11月	頼母子指引帳		横帳	
750	安永6年	頼母子指引帳	上村藤右衛門→	横帳	
751	安永5年8月	余部上村申之御年貢米納帳	庄屋七郎左衛門→	横帳	綴に切紙
752	安永3年	頼母子差引帳		横帳	
753	明和7年11月	頼母子差引帳		横帳	表紙汚損
754	明和8年11月	頼母子差引帳		横帳	
755	明和7年11月	組頼母子村扣帳		横帳	
756	明和4年9月	亥ノ頼母子掛米帳		横帳	綴に切紙
757	明和6年11月	頼母子差引帳		横帳	
758	明和5年10月	頼母子差引帳		横帳	
759	明和3年10月	戌ノ頼母子差引帳		横帳	
760	明和2年9月	酉ノ頼母子差引帳		横帳	
761	天明5年11月	頼母子指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
762	天明4年10月	頼母子覚帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	
763-1	宝暦12年10月	余部上村高名寄帳		横帳	
763-2	宝暦13年10月	頼母子掛米帳		横帳	
764	宝暦12年10月	頼母子差引帳		横帳	綴に切紙
765-1	宝暦10年11月	惣兵衛与惣兵衛頼母子帳		横帳	帳外
765-2	宝暦8年8月	下作差帳		横帳	帳外
766	宝暦7年10月	頼母子覚帳		横帳	
767	文政11年正月吉日	子之万覚帳	奥本→	横帳	
768	天保6年正月吉日	未之年万覚帳	奥本→	横帳	
769	文政5年正月吉日	万覚帳	奥本→	横帳	
770	文政7年正月吉日	申之年万覚帳	奥本→	横帳	
771	文政8年正月吉日	戌之年万覚帳	井上奥本→	横帳	
772	文政12年正月吉日	丑之万覚帳	奥本→	横帳	
773	文政13年正月	寅之年覚帳	奥本→	横帳	
774	天保7年正月吉日	申之万覚帳	奥本→	横帳	
775	天保4年正月吉日	巳之年万覚帳	奥本→	横帳	
776	天保3年正月	辰之年万覚帳	奥本→	横帳	

777	天保9年正月吉日	戌之年万覚帳	奥本→	横帳	
778	-	なわたわら覚		横帳	
779	天保8年正月吉日	酉之年万覚帳	奥本→	横帳	
780	文政8年正月吉日	酉之年万覚帳	井上奥本→	横帳	
781	文政10年正月吉日	亥之年万覚帳	奥本→	横帳	
782	天保11年正月吉日	子之年万覚帳	奥本→	横帳	
783	文化6年正月吉日	万覚帳	奥本→	横帳	
784	文政14年正月吉日	卯之年万覚帳	奥本→	横帳	
785	文政4年正月吉日	年内万覚帳	井上氏→	横帳	
786	宝暦8年10月	頼母子指引覚帳		折紙	表紙1枚の裏表に記入
787	寛政13年	高名寄扣帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	
788	-	江戸往來手本		堅帳	
789	-	覚		折紙	介抱割時11月29日いも
790	-	[役義代書上]		折紙	
791	慶長7年7月26日	丹州加佐郡大内倉谷村御検地帳	井上次郎助、大橋左京→	堅帳	
792	明治30年旧正月	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
793	明治29年旧正月	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
794	明治25年正月	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
795	明治24年正月	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
796	明治23年旧正月	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
797	明治22年旧正月上3日	元利差引覚帳	余部上村井上奥本→	横帳	
798	明治21年旧正月	元利差引覚帳	余部上村平民井上奥本→	横帳	
799	明治20年旧正月	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
800	明治19年旧正月	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
801	明治17年旧正月	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
802	明治16年旧正月	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
803	明治15年旧正月	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
804	明治14年旧正月吉日	元利差引覚帳	余部上村井上奥本→	横帳	
805	明治13年旧正月吉祥日	元利差引覚帳	余部上村井上奥本→	横帳	
806	明治12年旧正月吉祥日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
807	明治11年旧正月吉祥日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
808	明治10年旧正月吉祥日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
809	明治9年旧正月吉祥日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
810	明和6年11月	万差引覚帳	上村七郎左衛門→	横帳	
811-1	明治8年旧8月19日	徳言様方貰葉覚帳	井上内貰主をたき→	横帳	811-1 ~ 2 綴
811-2	明治8年旧正月吉祥日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
812	明治6年正月吉祥日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
813	明治5年正月吉祥日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
814-1	明治4年正月	万金方品数覚帳	井上奥本→	横帳	814-1 ~ 3 綴
814-2	明治5年正月	年中借用銀覚帳扣	井上奥本→	横帳	
814-3	明治4年正月吉祥日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
815	明治4年正月吉祥日	元利差引控覚帳	井上奥本→	横帳	



816-1	明治3年正月	金方万覚帳控	井上奥本→	横帳	816-1～3綴
816-2	元治2年正月吉日	万私用覚帳	井上奥本→	横帳	
816-3	明治3年正月吉日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
817	明治3年12月吉日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
818	明治元12月口	元利差 [ ]		横帳	表紙他下部破損
819	明治元年正月吉日	元利差引控覚帳	井上奥本→	横帳	
820-1	-	覚		横帳	小谷田普請覚ほか、 820-1～2綴
820-2	明治元年正月吉日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
821	元禄9年6月	余部上村土目録	余部上村庄屋清兵衛、同村年寄又右衛門→御奉行様	継紙	(端裏書)「土目録御公儀へ上り申候控、子ノ六月二差上ケ申候控」
822	正徳3年10月21日	差紙	中権左衛門(印)、山忠右衛門(印)→庄屋百姓中	切紙	余部上村10石介抱米、猪兵衛(印)裏書「表書之通不可相違也」、転用書き
823	宝暦7年10月	差紙	谷八郎兵衛(印)、塩九郎兵衛(印)→庄屋百姓中	切紙	余部上村10石介抱米、与左衛門(印)裏書
824	宝暦8年10月	差紙	谷八郎兵衛(印)、塩九郎兵衛(印)→庄屋百姓中	切紙	余部上村10石介抱米、六兵衛(印)裏書
825	宝暦9年10月	差紙	谷八郎兵衛(印)、塩九郎兵衛(印)→庄屋百姓中	切紙	余部上村10石介抱米、市郎兵衛(印)裏書
826	宝暦10年10月	差紙	梯勘助(印)、谷八郎兵衛(印)→庄屋百姓中	切紙	余部上村30石介抱米、権右衛門(印)裏書
827	宝暦12年10月	差紙	梯勘助(印)、吉与五左衛門(印)→庄屋百姓中	切紙	余部上村15石介抱米、伊織(印)裏書
828	宝暦13年10月	差紙	高孫左衛門(印)、阿平左衛門(印)→庄屋百姓中	切紙	余部上村23石介抱米、五右衛門(印)裏書
829	明和2年10月	差紙	高孫左衛門(印)、阿平左衛門(印)→庄屋百姓中	切紙	余部上村8石介抱米、市郎兵衛(印)裏書
830	明和3年10月	差紙	高孫左衛門(印)、阿平左衛門(印)→庄屋百姓中	切紙	余部上村8石介抱米、九郎兵衛(印)裏書
831	明和5年10月	差紙	高孫左衛門(印)、阿平左衛門(印)→庄屋百姓中	切紙	余部上村35石介抱米、伊織(印)裏書
832	明和7年10月	差紙	高孫左衛門(印)、阿平左衛門(印)→庄屋百姓中	切紙	余部上村60石介抱米、与左衛門(印)裏書
833	明和6年10月	差紙	高孫左衛門(印)、阿平左衛門(印)→庄屋百姓中	切紙	余部上村20石介抱米、五右衛門(印)裏書
834	明和8年10月	差紙	菅岡之丞(印)、高孫左衛門(印)→庄屋百姓中	切紙	余部上村高60石介抱米、権右衛門(印)裏書
835	明和9年10月	差紙	菅岡之丞(印)、高孫左衛門(印)→庄屋百姓中	切紙	余部上村高27石介抱米、九郎兵衛(印)裏書
836	安永2年10月	差紙	菅岡之丞(印)、高孫左衛門(印)→庄屋百姓中	切紙	余部上村高20石介抱米、伊織(印)裏書
837	安永3年10月	差紙	菅岡之丞(印)、高孫左衛門(印)→庄屋百姓中	切紙	余部上村高25石介抱米、九郎兵衛(印)裏書
838	安永5年10月	差紙	菅岡之丞(印)、速律右衛門(印)→庄屋百姓中	切紙	余部上村高32石介抱米、市左衛門(印)裏書
839	安永9年11月	差紙	菅岡之丞(印)、速律右衛門(印)→庄屋百姓中	切紙	余部上村高55石介抱米、一郎兵衛(印)裏書
840	天明元年10月	差紙	阿安太夫(印)、速律右衛門(印)→庄屋百姓中	切紙	余部上村高28石介抱米、五右衛門(印)裏書



841	天明 2 年 10 月	差紙	阿安太夫 (印)、速律右衛門 (印) →庄屋百姓中	切紙	余部上村高 45 石介抱米、内蔵丞 (印) 裏書
842	天明 3 年 10 月	差紙	阿安太夫 (印)、速律右衛門 (印) →庄屋百姓中	切紙	余部上村高 82 石介抱米、一郎兵衛 (印) 裏書
843	天明 4 年 10 月	差紙	阿安太夫 (印)、速律右衛門 (印) →庄屋百姓中	切紙	余部上村高 28 石介抱米、九郎兵衛 (印) 裏書
844	天明 5 年 10 月	差紙	阿安太夫 (印)、速律右衛門 (印) →庄屋百姓中	切紙	余部上村高 20 石介抱米、一郎兵衛 (印) 裏書
845	天明 6 年 10 月	差紙	阿安太夫 (印)、速律右衛門 (印) →庄屋百姓中	切紙	余部上村高 115 石介抱米、九郎兵衛 (印) 裏書
846	天明 8 年 10 月	差紙	阿安太夫 (印)、速律右衛門 (印) →庄屋百姓中	切紙	余部上村高 20 石介抱米、与左衛門 (印) 裏書
847	寛政元年 10 月	差紙	阿安太夫 (印)、速律右衛門 (印)、 入弥六左衛門 (印) →庄屋百姓中	切紙	余部上村高 68 石介抱米、与九郎 (印) 裏書
848	寛政 2 年 10 月	差紙	内木工、阿安太夫 (印)、入弥六左 衛門 (印) →庄屋百姓中	切紙	北吸村高 55 石介抱米、 与左衛門 (印) 裏書
849	寛政 2 年 10 月	差紙	内木工、阿安太夫 (印)、入弥六左 衛門 (印) →庄屋百姓中	切紙	余部上村高 27 石介抱 米、与左衛門 (印) 裏 書
850	寛政 3 年 11 月	差紙	阿安太夫 (印)、入弥六左衛門 (印) →庄屋百姓中	切紙	余部上村高 56 石介抱 米、半次郎 (印) 裏書
851	寛政 4 年 11 月	差紙	阿安太夫 (印)、入弥六左衛門 (印) →庄屋百姓中	切紙	余部上村高 20 石介抱 米、外記 (印) 裏書
852	寛政 5 年 11 月	差紙	阿安太夫 (印)、入弥六左衛門 (印) →庄屋百姓中	切紙	余部上村高 30 石介抱 米、伊織 (印) 裏書
853	寛政 6 年 11 月	差紙	阿安太夫 (印)、入弥六左衛門 (印) →庄屋百姓中	切紙	余部上村高 80 石介抱 米、源太夫 (印) 裏書
854	寛政 7 年 11 月	差紙	梯三郎兵衛 (印)、阿安太夫 (印) →庄屋百姓中	切紙	余部上村高 35 石介抱 米、源兵衛 (印) 裏書
855	寛政 8 年 11 月	差紙	梯三郎兵衛 (印)、阿安太夫 (印)、 速滋右衛門 (印) →庄屋百姓中	切紙	北吸村高 45 石介抱米、 源太夫 (印) 裏書
856	寛政 8 年 11 月	差紙	梯三郎兵衛 (印)、阿安太夫 (印)、 速滋右衛門 (印) →庄屋百姓中	切紙	余部上村高 25 石介抱 米、源太夫 (印) 裏書
857	寛政 9 年 10 月	差紙	梯三郎兵衛 (印)、速滋右衛門 (印) →庄屋百姓中	切紙	余部上村高 15 石介抱 米、与九郎 (印) 裏書
858	寛政 10 年 11 月	差紙	梯三郎兵衛 (印)、速滋右衛門 (印) →庄屋百姓中	切紙	余部上村高 7 石介抱米、 傳左衛門 (印) 裏書
859	寛政 11 年 11 月	差紙	速滋右衛門 (印)、城助之丞 (印) →庄屋百姓中	切紙	余部上村高 33 石介抱 米、源兵衛 (印) 裏書
860	寛政 12 年 10 月	差紙	速滋右衛門 (印)、城助之丞 (印) →庄屋百姓中	切紙	余部上村高 55 石介抱 米、伊織 (印) 裏書
861	享和 2 年 11 月	差紙	速滋右衛門 (印)、城助之丞 (印) →庄屋百姓中	切紙	余部上村高 23 石介抱 米、閑兵衛 (印) 裏書
862	文化元年 11 月	差紙	林六三郎 (印)、森太兵衛 (印) → 庄屋百姓中	切紙	北吸村高 8 石介抱米、 伊織 (印) 裏書
863	文化元年 11 月	差紙	林六三郎 (印)、森太兵衛 (印) → 庄屋百姓中	切紙	余部上村高 7 石介抱米、 伊織 (印) 裏書
864	文化 2 年 10 月	差紙	林六三郎 (印)、森太兵衛 (印) → 庄屋百姓中	切紙	余部上村高 17 石介抱 米、登 (印) 裏書
865	文化 3 年 11 月	差紙	庄豊蔵 (印)、林六三郎 (印) →庄 屋百姓中	切紙	余部上村高 6 石介抱米、 閑兵衛 (印) 裏書
866	文化 4 年 11 月	年貢米可納事	庄豊蔵 (印)、林六三郎 (印) →庄 屋百姓中	豎紙	余部上村高 294 石 7 斗 1 升、登 (印) 裏書
867	文化 5 年 10 月	差紙	庄豊蔵 (印)、林六三郎 (印) →庄 屋百姓中	豎紙	余部上村高 14 石 8 斗介 抱米、閑兵衛 (印) 裏 書
868	文化 6 年 11 月	差紙	庄豊蔵 (印)、林六三郎 (印) →庄 屋百姓中	切紙	余部上村高 34 石介抱 米、半太夫 (印) 裏書

869	文化8年10月	差紙	高織衛(印)、庄豊蔵(印)、林六三郎→庄屋百姓中	切紙	余部上村高6石介抱米、半太夫(印)裏書
870	文化11年11月	差紙	高織衛(印)、庄豊蔵(印)、吉藤九郎(印)→庄屋百姓中	豎紙	余部上村高42石2斗4升6合7勺介抱米、万之助(印)裏書
871	文久3年11月	差紙	平四郎左衛門(印)、城次郎兵衛→庄屋百姓中	切紙	余部上村高63石介抱米、奥右衛門(印)裏書
872	文久3年11月	差紙	平四郎左衛門(印)、城次郎兵衛→庄屋百姓中	切紙	余部上村高6斗7升砂入引、奥右衛門(印)裏書
873	明治44年4月10日	初鐘式撞木	神龍山雲門寺→	物品	木材、「第壱番井上奥本」、包紙
874	明和9年10月	丹後田之辺	余部上村、二、藤右衛門→	横半帳	金銭覚
875	明治9年旧11月6日	記	奥本→太郎兵衛殿	折紙	午～子利息、抹消
876	-	記	信秀(花押)→上参る	切紙	俳句10首
877	-	[下書]		罫紙	
878	(明治期)	[書状]		切紙	訃報仄聞に付、悔やみ不参の詫び状、裏面に品目書上
879	-	御書院箸		一紙	箸袋、印刷、879～884こより
880	-	新古地反別		罫紙	加佐郡第6組余部上村上野十右衛門、土地字、3行目より朱書
881	-	[書上]		切紙	こうがいさし、買物付
882	-	[書上]		切紙	
883	12月18日	[書状]	余下村戸長瀬野利右衛門(印)→余上村戸長井上豊次郎様	継紙	出町御談示
884	-	関簿上		切紙	印刷
885	明治7年3月	縁組送籍之事	余部上村戸長井上奥本(印)→万願寺村戸長御中	罫紙4	五ノ小区余部上村禅宗、上野嘉兵衛次女せい24才、其村嵯峨根和右衛門妻、885～923こより
886	-	[甲22号下書]		罫紙	豊岡県云々
887	-	[始末記]		罫紙	今般佐賀県土族征韓或は封建等之説を唱へ
888	7月30日	[書状]	井上奥本→湯浅勘兵衛様	罫紙	鶏一つがい貰い受け申度趣
889	明治7年3月	縁組送籍之事	余部上村戸長井上奥本(印)→四ノ小区万願寺村戸長役場御中	罫紙	885 関連
890	-	[山田反別書上]		切紙	反別24町5反19歩8夕、荒代引残り
891	-	[田地価書上]	持主井上奥本→	切紙	
892	-	[田地価書上]		罫紙	
893	-	[封筒]	副戸長布川範(印「丹後国加佐郡余部下村戸長印」)→余部上邨井上豊次郎殿、至急	封筒	反古、戸長(豊岡県拾五大区戸長印四小区)→副戸長高橋平左衛門殿・同布川範兵衛殿、893～917巻込み
894	3月26日	[書状]	副戸長布川範兵衛(印)→井上豊次郎殿	切紙	死亡届書の書法違、再認促状
895	明治9年旧3月日	万覚帳	井上奥本→	切紙	豎帳外
896	-	[袋]		一紙	上部破損
897	9月24日	[書状]	井上奥本→堀家新谷様	切紙	出張依頼状
898	-	[覚]	井上奥本→	切紙	文化13年9月8日生、3月19日埋葬
899	-	[覚]		切紙	当日入用米
900	旧4月9日	入口		折紙	下作米代、与三兵衛、米代金 町安久屋藤兵衛へ売

901	-	[書状下書]		継紙	
902	-	[書状下書]	(印、井上) →	罫紙	訃報聞き及び御悔遅参 詫状
903	旧 8 月 8 日	[書状]	井上奥本→江上泰助様	切紙	御出張依頼
904	-	[書状下書]		切紙	903 同文下書
905	-	[種籾覚]		折紙	丹後わせ、大山、いばら き、きんとき、京餅、裏「申 ノ十七才女」
906	-	覚		切紙	す、あげ豆ふ、白豆ふ、 こんにやく、こんふ、下た、 つぎはなを、焼豆ふ、付 木、燈しん、(井上) 押 印
907	-	[書状下書]		切紙	903 同文下書
908	旧 8 月 8 日	[書状下書]	井上奥本→江上泰助様	継紙	903 同文下書、端裏書「長 浜村保護人江上泰助様、 上村井上奥本」
909	-	記		切紙	金種覚
910	-	取替始		折紙	金銭覚、地券用
911	-	覚	余部上村庄屋惣兵衛→がつかう御せ わかた様	折紙	瓦枚数力
912	-	[地価書上]		罫紙	
913	-	[縁組送籍書状雛形・ 地価書上]		罫紙	
914	-	[書状下書]		罫紙	法事案内の処不参の断 り状、柱「十五大区」、 前・後欠
915	-	寺方布施		折紙	見舞到来覚
916	-	[種籾田地割振覚]		折紙	みやこ、かいね、丹後わ せ、裏面は人名一覧書 上
917	-	[有税地反別地価書 上]	第 15 区 4 小区余部上村→	切紙	
918	10 月	[書状]	矢野屋茂助→井上奥本様	切紙	芋 2 貫目調達依頼
919	-	[覚]		折紙	金銭覚
920	7 月 30 日	[通達]	副戸長 (印「丹後国、加佐郡余部 下村戸長印」) →余部上村受付上野 弥右衛門殿	罫紙	種痘調、25 歳以下集合
921	-	[薪炭等出金明細覚]		罫紙	瀬野利右衛門への払
922	-	[武兵衛勘定口上下 書]		折紙	裏、伊左衛門屋敷地、 安政 7 年正月
923	-	口上之覚		折紙	奥本勘定之仕方、与惣 兵衛屋敷地、安政 7 年 正月
924	-	[書状]	戸長 (印「丹後国加佐郡余部下村 戸長印」) →余部上村井上豊次郎殿	切紙	諸帳簿・山地券帳等返 却依頼
925	2 月 24 日	[書状]	石田→余部上村御社中様	継紙	年競催しの件
926	2 月 2 日	[書状]	真壁忠兵衛→余部上村御役人中様	切紙	酉暮の申入の返事催促
927	-	[書状下書]		罫紙	父への鮎進上添状、裏、 名前張数書上
928	3 月 15 日	[書状]	(若狭匡大飯郡高浜) 湯浅勘兵衛→ (丹後国加佐郡余部上村) 井上奥本 様	継紙	縁談の件伺い、封筒
929	10 月 21 日	[書状]	余部学校秋保勇年→同村井上豊次 郎様	罫紙	大試験 27 日に決定の通 知、裏、名前張数書上
930	-	御請書 (雛形)	豊岡県売捌人何之誰印他 2 名→豊 岡県大野権参事殿	罫紙	証券印紙売捌方御許容 の請書
931	-	御香料	西埜嘉右衛門→上	罫紙	木綿、金 20 銭他、包紙 のみ
932	-	御香資	高浜小林善右衛門→御霊前へ	罫紙	金 10 銭、包紙のみ
933	-	御香資	長浜村江上甚兵衛→仏前へ	罫紙	金 5 銭、包紙のみ
934	-	木綿料	村上忠兵衛→上	罫紙	30 銭、包紙のみ
935	-	[香典包]		切紙	金 10 銭、包紙のみ
936	-	御香資	湯浅勘兵衛→	罫紙	金 20 銭、包紙のみ

937	-	香料	矢野屋茂助→御仏前へ	豎紙	包紙のみ
938	-	夷屋へ売払之覚		横帳	人別石数
939	-	奉願口上之覚		横帳	北吸村へ貸付一件、紙背に木材等書上
940	-	[北吸村へ貸付一件]		横帳	紙背に木材等書上
941	明治9年8月20日	[山岳税法改正二付調査報告]	第15大区4小区丹後国加佐郡余部上村惣代人上野弥右衛門(印)、同上野武兵衛(印)、同井上豊次郎(印)→	豎紙	前欠
942	-	[地価計算書]		豎帳	田方畑方地価
943	明治7年4月14日	[書状]	余部上村戸長中→九小区宇留間御氏様	継紙	取調に及ばぬ件の上申
944-1	慶応3年12月	万事願立覚帳	井上奥本→	横帳	倉谷天神・高浜氏神等願事、944-1~9綴
944-2	-	辰之年廿五才男願立覚		横帳	金毘羅、伊勢両大神宮、高倉八幡宮、別所薬王寺、行永村医者取厄覚
944-3	慶応4年正月吉日	卯年庄屋勘定覚帳	井上奥本→	横帳	
944-4	文久元年12月	附送味(未)進覚帳	庄屋奥本、同断市左衛門→	横帳	
944-5	文久元年12月	百姓立合勘定雛方帳	庄屋市左衛門、同断奥本→	横帳	
944-6	文久元年12月	切分ケ味(未)進成行覚帳	余部上村庄屋市左衛門、同断奥本→	横帳	
944-7	文久元年12月	年賦元銀改帳	庄屋市左衛門、同断奥本→	横帳	
944-8	文久元年12月	年賦建札掛戻し覚帳	余部上村庄屋市左衛門、同断奥本→	横帳	
944-9	文久元年12月	年賦之委細覚帳	余部上村庄屋奥本、同断市左衛門→	横帳	
945	-	覚		横帳	金銭出入
946	-	従下作切米覚		横帳	次左衛門、946~950紙紐
947	-	覚		折紙	1~7番6名づつ名前
948	文久3年	文久三癸亥年雑用		横帳	
949	-	戌小通	奥本→	横帳	
950	-	過不足帳		折紙	
951	1月22日	[書状]	戸長(印「京都府管下丹後国加佐郡第六区印」)→余部下村、同上村	継紙	明23日詰所へ出頭依頼
952	25日	[書状]		切紙	3通金子受取通知
953	-	覚	みやづや太右衛門→あまむら三村松本様	切紙	札5匁、953~958紙紐
954	-	借用申一札之事		豎紙	金20円借用
955	-	覚		折紙	種代、紙背に書付
956	明治8年旧正月	借用申一札之事	借用主惣兵衛、受人、用掛太左衛門→村奥本殿	豎紙	金20円借用
957	-	覚		継紙	元利
958	-	借用申一札之事		折紙	金20円借用、下書、紙背に書付
959	-	応題		折紙	俳句習作
960	嘉永5年3月	不縁一札之事	京都室町四条下ル町 萬屋うの(印)母なか(印)、同町親類惣代右うの乍伯父証人萬屋又兵衛(印)、烏丸万寿寺下ル町同断仏師職長谷川与助(印)→丹後国田辺上町 百姓七郎左衛門殿、悴栄助殿、取囃人百姓清左衛門殿	継紙	不縁に付、困窮の処金9両助成願、端裏書「自分之勝手俣ヲ強而被申候故」
961	旧8月11日	[書状]	三ツ松村水谷茂平、同一瀬利右衛門、同一瀬長左衛門→丹後国加佐郡上村井上豊治郎殿	継紙	祭礼舞樂奉納、来駕招待、一部欠、961~1047籠
962	-	[伍長心得達]	→伍長江	折紙	村方事務、用掛り協儀の上取極
963	閏5月12日	[書状]	若狭国石山村武藤團(印)→丹後国上村井上奥本様キ下	罫紙	来訪依頼、柱「敦賀県第一大区」
964	-	諸雑用費物之覚		横帳	天台寺へ寄進、別所観音参詣、家祈祷

965	明治7年3月	[豊岡県達覚書]	副区長→村々戸長中	縦帳	15大区区长梅原六右衛門 学区取締兼務申付、舞鶴組士族森本従吾学務取締申付、柱「第十五大区」
966	-	彦山権現誓助剣、六ツ目		縦帳	浄瑠璃本、木版
967	明治12年7月7日	狩人雇入猪鹿撃攘願	加佐郡第6組余部上村惣代 瀬野喜佐吉、同井上豊治郎→加佐郡長野田新殿	縦帳	狩人雇入丹波国何鹿郡物部村赤松佐助
968	-	[香資]	濱村西田藤右衛門→	切紙	金10銭、白2升、料り物
969	-	行躰唐詩選	止通軒元明書、(印「本郷」)(印「元明」)→	縦帳	綴外
970	-	[書]		切紙	破損
971	-	[柵目紙]		切紙	下敷力、971～1000包紙
972	(明治)正月	[田・畑・屋敷地価書上]	井上奥本、井上豊治郎→	折紙	
973	-	[おみくじ]		切紙	17番上大吉、木版
974	-	[柴草山書上]		罫紙	余部上村共有地・北吸村入会
975	-	三十人講掛銀請取通	舎講元→余部上村七郎左衛門様	折紙	受取銀
976	-	此度平助殿と手前と詞争喧嘩之事		縦帳	おいねの婚姻に関して
977	-	[包紙]		切紙	
978	明治9年6月	[田畑畝数持主書上]	第15大区4小区余部上村井上豊治郎(印)→豊岡県権令三吉周亮殿代理豊岡県権参事大野右仲殿	罫紙	抹消
979-1	明治5年正月吉祥日	種揃並田畑預ケ口覚帳	奥本→	横帳	979-1～3綴
979-2	-	酉ノ御年貢差状割之写		横帳	
979-3	明治6年正月吉祥日	種揃並田畑預ケ口覚帳	井上奥本→	横帳	
980	旧4月7日	口演	下村セ世話方→上村御世話方御中(余部上村) 副戸長瀬野太左衛門、戸長井上奥本→敦賀県管轄若狭国大飯郡6区正副戸長御中	切紙	今日中に御越依頼
981	明治6年4月13日	[請取一札]		継紙	瀬野嘉右衛門二男久蔵離縁送状
982	-	[約定書]	組頭中惣兵衛(印)、喜右衛門(印)、佐平治(印)他2名→瀬野太左衛門殿、井上奥本殿	切紙	金10両
983	-	[習書]		継紙	
984	-	反物証文之事		切紙	上田3力年、20円借用
985	(明治)12年11月14日	[書状]	戸長役場→余部下村井上豊治郎殿	継紙	徴兵、役場出頭
986	12月22日	口上	井上奥本→学校秋保圓平様	切紙	集会日の変更
987	9月26日	[書状]	松尾村納所→余部上村井上七郎左衛門様	継紙	頼母子、天保銀、破損
988	-	奉願口上之覚		横帳	北吸村貸付勘定合に付
989	旧10月27日	記		切紙	炭
990	-	元利差引覚口		横帳	
991	(明治)10年2月28日	[書状]	矢野豊藏(印)→加佐郡余部上むら井上豊次郎様	継紙	新年の挨拶
992	6月9日	[書状]	上羽→余部上村戸長惣代中	切紙	山焼之事件
993	寅12月	覚		切紙	米勘定
994	亥2月26日	[差引書上]	壺屋→余部上村七郎左衛門様	継紙	前欠力
995	-	[習書]		切紙	反古紙
996	10月15日	[書状]		切紙	人形芝居の件に付
997	旧11月28日	[書状]	井上奥本→武藤圓様	継紙	御令室様御不快
998	5月19日	[書状]	松岡→井上豊治郎様	切紙	佐伎治神社7年祭招待案内
999	-	反物証文之事		切紙	下書、上田3力年、20円借用
1000	-	[書上]	余部上村布川與→	罫紙	下書

1001	-	証		折紙	金種計算書
1002	-	口上		切紙	口上下書
1003	3月21日	[書状]	下村瀨野利右衛門→上村井上豊次郎様	切紙	長濱村集會出席依頼、封筒
1004	-	[数え歌習作]		切紙	
1005	旧12月30日	記	井上奥本→藤左衛門様	切紙	亥ノ年無勘定不足金銭、抹消
1006	-	[断簡]	上村太左衛門→惣分惣代様御中	切紙	前欠
1007	-	[包紙]	丹後田辺堀畑井筒屋茂七→	切紙	現銀安売口口名薬所、木版
1008	-	覚		横帳	収獲高差引
1009	明治13年旧12月30日	[金銭勘定書]	井上奥本→瀨野源左衛門殿	切紙	前欠
1010	-	[数え歌習作]		切紙	1004 関連
1011	-	[石高書上]		切紙	断簡、1011～1013
1012	-	学齡人員取言口		罫紙	表紙下書
1013	-	正喜撰	御茶所柏屋勘助(印)→	一紙	茶袋
1014	-	御祝儀	村上忠兵衛→	切紙	包紙
1015	-	[人別石高書上]		横帳	
1016	明治9年8月8日	[通知]	第15大区4小区余部上村地券掛井上豊治郎、上野梅松→	罫紙	測量図差出に付、反別記載原簿差上
1017	明治6年4月	日家恵帳		横半帳	
1018	6月2日	覚	上村瓦屋惣兵衛→がっかう御せわかつた様	切紙	瓦内訳
1019	亥旧3月3日	覚	奥本→文七殿	切紙	田畑預ヶ年貢代受取
1020-1	-	早晚稲方雑用一切之分		横帳	915 匁 4分2厘、1020-1～3 綴
1020-2	-	[預口高年貢人別書上]		横帳	
1020-3	-	早晚稲方雑用之覚		横帳	白6升5合内見に付夕飯入用取かへ
1021	文久3年正月	万雑用取替物覚帳	奥本分取替手控→	横帳	林田一枝順達春夏二度之分頼に付差遣
1022	3月28日	[書状]	下村瀨野利右衛門→上村井上豊次郎様	継紙	学校屋敷所の件参集依頼
1023	旧8月11日	口演	雲門寺叟→上村井上奥本様啓上	罫紙	閣山忌御出席依頼
1024	-	口上		継紙	下村布川惣七弟和吉瓦職賃金未払に付、支払要請口上覚
1025	-	覚		切紙	地券入用、竈税・雉子税
1026	酉3月16日	覚	奥本→喜右衛門殿	切紙	庄屋表勘定清算書
1027	-	奉願口上之覚		横帳	北吸村貸付勘定合に付、口上覚
1028	文政9年正月	書入申証文之事	売主和田村庄左衛門判→余部上村七郎左衛門殿	切紙	借入金未返済に付質地渡、下田7畝20歩、所たものき、奥書：同村庄屋弥右衛門
1029	文化10年12月	借用申銀札之事	和田村借主庄左衛門判→上村七郎左衛門様	切紙	銀札1貫目
1030	-	願立之覚		継紙	各神社願立明細、倉谷天神へはだし参り、女房安産願
1031	-	御香料	上村井上奥本→	切紙	包紙、金5銭
1032-1	-	記		折紙	ぞふり、うふめん、1032-1～2 綴
1032-2	7月25日	覚	高野屋他三郎→上村宗介様	切紙	油
1033	子旧12月晦日	[断簡]		切紙	表諸勘定覚
1034	4月15日	覚	奥本→吉原町角屋定助様	切紙	米代受取
1035	-	[口上控]		継紙	清次郎両親に付、前欠
1036	6月29日	[書状]	下村保護人瀨野利右衛門(印)→上村保護人井上豊次郎様	継紙	生徒番出向依頼、生徒は弁当持参、前欠



1037	旧正月 20 日	口演	上安村仲井清次郎→余部上村井上奥本様	継紙	祖母 7 回忌祖父 23 回忌招待状
1038	文化 10 年 12 月	借用申銀札之事	借主和田村庄左衛門判→余部上村七郎左衛門様	切紙	銀札 1 貫目、1038 ~ 1039 こより
1039	文政 9 年正月	書入申証文之事	売主和田村庄左衛門判→余部上村七郎左衛門	切紙	借入金未返済に付質地渡、下田 7 畝 20 歩、所たものき、奥書：同村庄屋弥右衛門
1040	戊旧 2 月 4 日	覚	奥本→嘉右衛門殿	継紙	惣方預ケ口の勘定書
1041	-	覚		切紙	酒、油、せんき丸薬、せんべい菓子、紙背文書
1042	-	永代売渡し申ス一札之事		切紙	上田 4 畝 10 歩、所はずりの下
1043	-	[習書]		折紙	勘定反古
1044	-	右ニ付免下シ之次第		切紙	五郎右衛門、後欠
1045	-	[習書]		切紙	断簡
1046	-	[断簡]		切紙	願書、北垣国道
1047	-	[包紙]	新屋弥三兵衛→	切紙	
1048	-	覚		継紙	金利計算、前欠・紙背書状
1049	-	覚		継紙	木綿代札
1050	-	覚		折紙	いも・しやうが他数量
1051	3 月 28 日	[覚]		切紙	金札差引、前欠
1052	-	口上		切紙	豊岡行、下書
1053	-	覚		継紙	祭入用、神子寄進、破損
1054	-	覚		綴	田畝
1055	-	[断簡]		切紙	いね親もとへ戻る
1056	子 12 月	覚		継紙	元利、紙背書
1057	-	口上	→北吸村新左衛門様	切紙	下書、紙背書
1058	未 9 月 24 日	未之小通		綴	七郎左衛門、破損
1059	卯	卯米方勘定心見覚		綴	落米、早田免覚
1060	10 月 17 日	[書状]	兵右衛門→七郎左衛門様・与右衛門様	切紙	頼母子会上林屋開催通知
1061	11 月 12 日	[書状]	同断武兵衛→庄屋七郎右衛門	切紙	別家御普請願
1062-1	宝暦 10 年 4 月	勸化	不動院法印顕雄→余部上村御旦家御衆中	縦帳	月牌、常灯明、1062-1 ~ 2 綴
1062-2	-	かうや山方加銭		横帳	
1063	3 月 8 日	差引覚		横帳	預米差引
1064	8 月 4 日	[書状]	五郎兵衛→七郎左衛門様・与右衛門様	切紙	破損
1065	子 12 月 18 日	子銀方	壺屋与一左衛門→餘部上村庄屋七郎左衛門殿	横帳	
1066	-	利左衛門頼母子		切紙	よしわら町、長浜村、上安村
1067	文化 3 年	奉願下樵山之事		切紙	山 1ヶ所、下書
1068	辰 12 月 26 日	覚	作右衛門→奥本様	切紙	由兵衛頼母子掛札受取
1069	辰 11 月 17 日	胡麻過不足	いせや五郎右衛門、立会嘉右衛門→庄屋七郎左衛門様	横帳	ころび買口覚
1070	巳	[人別畝数書上]		綴	
1071	巳 12 月	[御用立金書上]	→松尾寺様	横帳	
1072	癸卯	癸卯年餘部上村惣分通	かうし屋忠兵衛→上村七郎左衛門様	一紙	こより外 3 枚
1073	明治 10 年 9 月	記	坂根善蔵→奥本様	継紙	ケイ紙代
1074	9 月 20 日	覚	口つや仙九郎(印「丹後舞鶴雉仙九郎」)→北吸村新蔵様	継紙	金銭
1075-1	丑(明治 10) 12 月 5 日	記	行永校保護人→余部校保護人御中	折紙	行永校・余部校與保呂校堂奥校、学校小試験入用割、1075-1 ~ 2 貼付
1075-2	(明治 11) 1 月 13 日	記	行永校保護人因幡治右衛門→餘部上村奥本様	切紙	元り丑 10 月小試験割



1076	明治 12 年 1 月 18 日	証	柏木勘助 (印「丹後舞鶴、柏木勘助、請取」) → 余部学校御中様	継紙	学校用品
1077	-	[ヨコテタツ人別書上]		折紙	マタブリ
1078	寅旧 12 月	記	せんすや吉左衛門 → 余部下村学校御役人中	切紙	学校用品
1079	2 月 10 日	記	鳥屋善蔵 (印「書籍、丹舞鶴榮正堂、坂根善蔵」) → 上	切紙	算学教授書 4 揃
1080	丑旧 7 月	記	鳥屋善蔵 (印「請取、鳥善」) → 余部御学校御中	切紙	学校用品
1081	寅 1 月 7 日	記	鳥屋善蔵 (印「書籍、丹舞鶴榮正堂、坂根善蔵」) → 余部御学校御支配様	切紙	学校用品
1082	丑 12 月 5 日	記	湊屋源右衛門 (印「丹後、木下、請取」) → 学校掛り御中	切紙	学校用品
1083	旧 12 月 26 日	記	下村保護人代 → 上村井上豊次郎様	切紙	8 円 14 銭 4 厘 9 毛学資金受取
1084	明治 10 年 8 月 31 日	学費割	余部学校 (印「第三大学区第九中学区加佐郡余部校」) → 余上村受付御中	罫紙	戸わり、8 円 40 銭 5 厘
1085	(明治) 10 年 9 月 30 日	[受取書]	土井市兵衛 →	切紙	石炭油代
1086	寅 2 月 23 日	証	柏木勘助 (印「丹後舞鶴、柏木勘助、請取」) → 余部学校御中様	罫紙	春霞半斤
1087	6 月 28 日	[支払依頼書状]	学校訓導 → 井上豊次郎様	罫紙	書林主人へ支払
1088	5 月 5 日	[購入依頼状]	余部学校 → 井上様	切紙	石炭油、中折
1089	明治 10 年 6 月 9 日	記	第拾区区務所 (印「京都府管下丹後国加佐郡第十区印」、「上羽」) → 余部校保護人井上豊次郎殿	罫紙	金銭差引、綴外・穴
1090	12 月 25 日	記	山内茂右衛門 (印) → 余部下村学校御中	切紙	ぬり板 1 枚代金受取書
1091	8 月 5 日	[封筒]	余下村保護人 (印「丹後加佐郡余部下村、瀬野利右衛門」) → 余上村保護人御中	封筒	
1092	-	[上田・中田・下田取分書上]		横帳	御捨見の反古紙カ
1093	-	奉願口上之覚		継紙	余部下村水無月船場へ上納物他持出妨、下書
1094	-	卯年米差引覚	奥本 →	継紙	下作預ヶ口有米、後半「落米」書上
1095	宝暦 13 年 7 月	永代売譲申田地之事	売の者上村作右衛門 (印) 同口人嘉右衛門 (印) 同庄屋七郎左衛門 (印) 同年寄八右衛門 →	切紙	下部破損 (焼痛)
1096	3 月 11 日	[雲門寺一件願書写差出達状]	小幡忠右衛門、藤野安兵衛 → 四ヶ村庄屋中	継紙	表書「余部上村庄屋奥本殿市左衛門殿」
1097	戌 3 月 14 日	口上	奥本 → 与右衛門殿	切紙	銀札工面出来
1098	-	譲渡ス証文之事 [下書]		継紙	其元悻弟儀助分宅思立に付、地所成行之次第委細書永代譲証文、破損
1099	丑 12 月 29 日	覚	奥本 → 太助殿	継紙	不足銀
1100	文久元年 7 月	融通割合御通	ほつき奥本 → はま村嘉左衛門様	横帳	
1101	巳 12 月 14 日	覚	源造 → 七郎左衛門	継紙	代金請取
1102	-	[書状]	濱村嘉右衛門 → 上村奥本様	継紙	米売買の件
1103	酉 12 月 28 日	覚	庄屋奥本 → 市平殿	継紙	諸勘定
1104	申 11 月 12 日	覚		切紙	取高
1105	丑 12 月 29 日	覚	奥本 → 太助殿	継紙	銀札受取、からうす
1106	午 12 月 12 日	[書状]	真口屋三治 → 余部上村七郎左衛門様	継紙	銀札払底、桐実受取
1107	戌 2 月 15 日	覚	奥本 → 惣兵衛殿	切紙	不足金、発起頼母子掛札
1108	6 月 15 日	[書状]	大庄屋兵左衛門 → 御用下安久村	継紙	殿様江戸へ出動、恐悦無用
1109	午 12 月	覚	上村庄屋七郎左衛門 → 上村孫兵衛殿	切紙	米利足、上部破損
1110	未 7 月 6 日	覚	奥本 → 喜右衛門殿	切紙	代金受取

1111	2月9日	〔書状〕	庄屋武兵衛→七郎右衛門様	継紙	未進方・拝借方勘定相調
1112	11月25日	〔書状〕	嘉右衛門→井上奥本様	継紙	田地売払
1113	2月12日	覚	武兵衛→七郎右衛門様	継紙	御未進不足調達銀、札受取
1114	9月20日	〔書状〕	雲門寺納所→竹屋町和泉屋孫右衛門殿	切紙	京にて大坂飛脚へ差出依頼
1115	酉12月	覚	庄屋奥本→五郎左衛門殿	切紙	差引勘定書、桐実
1116	-	覚	奥本→松尾寺様	切紙	銀札請取
1117	酉12月晦日	人夫覚酉年分	奥本→久七殿	切紙	
1118	子3月24日	覚	庄屋奥本→治左衛門殿	継紙	差引勘定書
1119	4月7日	口上	市左衛門→奥本様	継紙	調練場所へ立合、鉄砲御免
1120	-	覚		継紙	山本へ取札
1121	-	記		継紙	井上豊次部分
1122	11月朔日	〔書状〕	同断武兵衛→庄屋口郎右衛門	継紙	御収納運賃、破損
1123	3月23日	御用	大庄屋→万願寺村、境谷村、上安久村、余下村、余上村	継紙	立会所へ呼出
1124	-	別紙一札之事		切紙	江戸表公方様来春御所落(上洛)徳政伝聞、借用書手本
1125	6月3日	干葛葉		切紙	軒割、付紙
1126	亥9月13日	覚	御厩→余部上村	切紙	葛葉15俵半受取
1127	戌7月17日	覚	御厩→余部上村	切紙	葛葉受取
1128	亥4月16日	覚	御厩→余部下村	切紙	藁受取
1129	亥8月3日	覚	御厩→余部上村	切紙	葛葉受取
1130	亥6月3日	覚	御厩→余部上村	切紙	葛葉受取
1131	4月朔日	覚	御厩→余部上村	切紙	受取
1132	亥5月18日	覚	御厩→余部上村	切紙	葛葉受取
1133	4月25日	覚	御厩→余部上村	切紙	葛葉受取
1134	-	口上	寺方→上村御世話内	切紙	薪人足参集依頼
1135	-	御厩わら之覚	市右衛門→奥本様	切紙	
1136	5月2日	〔書状〕	大庄屋→余部役人衆中	継紙	北吸村入込山明に付、役人百姓総代出頭要請、表書「大至急之御用」
1137	4月19日	〔書状〕	大庄屋→余部上村役人中	継紙	上村内百姓六兵衛、同作右衛門、役人呼出
1138	丑2月	記	丹登屋仙九郎→余上村奥本様	切紙	罰紙等代金受取書
1139	2月7日	〔書状〕	大庄屋→余部上村役人中	継紙	論所済口案文にては下村調かね、下部破損
1140	6月27日	〔書状〕	あく兵左衛門→余部上村奥本様	継紙	別紙勘定書御算勘
1141	9月21日	〔書状〕	大庄屋→余部下村同上村	継紙	出町呼出、下部破損
1142	戌2月15日	覚	奥本→惣兵衛殿	切紙	頼母子勘定不足銀、下部破損
1143	-	覚		継紙	人別俵数
1144	正月7日	〔書状〕	中屋敷割元→余部村役人衆中殿	切紙	御中間奉公人清吉引取に付、代理人差出依頼状
1145	文久4年正月	奉差上口上之覚	余部上村庄屋市左衛門、同断奥本→	切紙	久七稲小屋損に付、取替木材を下小樵山の薪用利用届、紙中破損
1146	-	覚	奥本→儀助殿	継紙	あかし割雇賃・百姓雇賃・木挽作料賃
1147	6月18日	口上	奥本→茂介殿へ	継紙	無沙汰、空豆買度、紙中破損
1148	-	覚		継紙	諸勘定
1149	卯12月26日	覚	作右衛門→奥本様	切紙	利息支払残金借用状
1150	丑4月8日	覚		継紙	勘定書、矢野頼母子
1151	-	覚		継紙	節季勘定、切出し覚
1152	子正月22日	覚	雲門寺納所→奥本殿	継紙	勘定残高
1153	文久4年正月	奉差上口上之覚	余部上村庄屋市左衛門、同断奥本→公莊貫蔵様	切紙	久七稲小屋損建替届、紙中破損
1154	亥10月	奉願口上之覚	余部上村庄屋奥本、同断市左衛門→今西彦六様	切紙	稲小屋損じ元屋敷につづくり普請願

1155	-	覚		継紙	あかし割雇賃・百姓雇賃
1156	9月16日	覚	秋田宇右衛門→青井屋喜七殿	継紙	鏡台・針刺し依頼状
1157	亥10月	奉願口上之覚	余部上村庄屋市左衛門、同断奥本→石黒易兵衛様	切紙	稲小屋損じ栗丸太・松枝願、破損
1158	-	御台場人足覚		切紙	316人かかり
1159	4月13日	口上	北吸村庄屋与三左衛門→上村庄屋奥本様	切紙	寺一件参会日程申合状
1160	未12月	覚	奥本→喜右衛門殿	継紙	勘定書
1161	亥10月	奉願口上之覚	余部上村庄屋奥本、同断市左衛門→今西彦六様	切紙	弥左衛門居宅普請願、破損
1162	戊10月9日	覚	余部上村庄屋奥本→糶屋忠兵衛様	切紙	銀札410匁返却
1163	文久元年12月	覚		継紙	銀札200匁・100匁借用下書
1164	-	覚		切紙	嘉右衛門他9人5石7斗、破損
1165	-	奉願上口上之覚		切紙	水無月波止場、下村の新田開発により利用不可、訴下書、上部欠
1166	10月朔日	[書状]	つほや勘助→上村七郎左衛門様	切紙	約束の品天気よく船で届
1167	戊10月11日	覚	余部上村庄屋奥本→同村利助殿	切紙	桐実80石(1石に付84匁3分7厘)売渡、上部欠
1168	慶応元年10月13日	手形之覚	余部上村奥本→行永村今北様	切紙	杉8本売渡、残金分
1169	-	詠草	上村蚊羽→下村御社中様	継紙	俳句17句
1170	明治5年正月	借用申一札之事	借用主余部上村喜右衛門→	切紙	2貫500目、下書
1171	文久2年正月	覚	上村五郎左衛門→下村三右衛門様	継紙	銀札200匁・100匁借用下書、糊剥がれ
1172	-	手取覚	取人奥本、宇兵衛→	切紙	五郎右衛門他10名448匁
1173	戊2月18日	舌代	(丹田辺倉谷村)鍋屋重兵衛→余部上村庄屋市左衛門様	切紙	村方桐実を船頭に渡すよう依頼
1174	6月	[書状]	四郎右衛門→井上七郎左衛門様	切紙	由良村源右衛門発起頼母子加入勧誘、右上一部欠
1175	酉11月	覚	下村庄屋作兵衛→上村庄屋七郎左衛門様	継紙	頼母子米集め、下部欠
1176	11月27日	[書状]	菱野安兵衛→余部上村役人中	切紙	書状回覧依頼
1177	-	当村三郎左衛門頼母子受取		切紙	三郎左衛門他10名受取、左下欠
1178	丑12月	覚	長濱村太郎右口口→上村庄屋七郎左衛門様	切紙	6名分計51分受取、下部欠
1179	未12月	覚	余部上村七郎左衛門→	切紙	成詰内訳、一部欠
1180	10月22日	[書状]	今西彦六→余部上村役人中	継紙	弥左衛門居宅建替承知
1181	9月20日	[書状]	六兵衛→奥本様	切紙	殿様御奏者被仰付恐悦申上
1182	子12月13日	覚	奥本→宮津矢野屋茂助殿	切紙	頼母子金受取
1183	文久3年9月7日	覚		切紙	婚姻中の貸金返金受取
1184	酉9月	[触]		継紙	飛驒信濃百姓騒動、破損
1185	正月25日	覚	市左衛門→奥本様	切紙	勘定受取
1186	-	[触]		継紙	異変時の鉄砲所持に関して、前欠
1187	-	覚	夷屋喜左衛門→余部学校	切紙	石炭油
1188	子12月23日	覚	松尾寺納所→上村井上奥本様	継紙	頼母子掛金受取
1189	戌正月8日	覚	大庄屋→奥本様	切紙	金銭受取
1190	9月27日	[書状]	とり屋三右衛門→上村七郎左衛門様	継紙	夫物近村相済
1191	卯12月26日	覚	奥本→作右衛門殿	切紙	代札受取、反古紙
1192	未正月4日	覚	奥本→惣七殿	継紙	巳年勘定受取
1193	3月6日	覚	大庄屋兵左衛門→余部上村七郎左衛門様	継紙	10石かし
1194	11月7日	覚		継紙	落米安久長左衛門
1195	4月9日	[書状]	大庄屋→余上村役人中	継紙	全快問い合わせ、破損

1196	6月4日	覚	余部上村七郎左衛門→つほや与一左衛門様	切紙	酒3升代借用証
1197	12月	舌代	七郎左衛門→御師匠様	継紙	無沙汰の詫、糊剥がれ
1198	-	覚		切紙	米代内訳
1199	正月	塩木松枝伐手形之事	戸野長兵衛(印)→余部上村庄屋七郎左衛門	切紙	腰林の松を神崎村伐採通知
1200	10月28日	覚		切紙	茅57束請取
1201	-	預ヶ口覚		切紙	瀧谷畑他2石7斗2升、一部欠
1202	-	相定申頼母子之事		切紙	米高4石、余部上村八郎右衛門発起の頼母子規定、一部欠
1203	2月24日	御寺屋ねふき人足覚	下村作兵衛→余部上村庄屋七郎左衛門様	切紙	上村より3人依頼等
1204	-	覚		切紙	早晚正体取帳等11冊目録
1205	-	[覚]		切紙	38石余成詰・役義代・惣分
1206	文久3年2月	村送り状	余部上村庄口奥口(本)→行永村御役人様	豎紙	源左衛門妹、吉兵衛方嫁入、下部欠
1207	(明治)12年8月5日	[招集状]	余部下村保護人(印)→余上村保護人御中	罫紙	学校新築、参会依頼、下部欠
1208	7月29日	[書状]	小幡忠右口口→余部上村奥本様	継紙	鉄砲人足代人、下部欠
1209	-	口上		切紙	安産報告、園部姉伝言、下書、下部欠
1210	-	諸色御通	印「丹後田辺平野屋町船屋惣右衛門」→余部上村御家分	切紙	封筒のみ、破損多
1211	8月21日	口上	田辺日置屋嘉助→上村嘉右衛門様	切紙	米の件で来訪依頼
1212	旧12月27日	覚	夷屋喜左衛門→余部村学校御中	切紙	上石炭油代金受取
1213	-	[学校図面力]		切紙	「生徒」「ベンジヨ」「勝手口」
1214	-	覚		切紙	祈祷、角力等祭礼入用
1215	3月4日	覚	奥本→庄屋六兵衛様	切紙	雲門寺一件入用請取
1216	亥12月	覚	庄屋奥本→三右衛門殿	継紙	高割・宗門割、芋・素麺代等差引勘定書
1217	酉11月25日	覚	→庄屋七郎右衛門様	切紙	七郎左衛門へ1石3斗等相済
1218	亥12月	覚	庄屋奥本→孫右衛門殿	継紙	高割・材木割、かます・桐実代等差引勘定書
1219	亥12月	覚	庄屋奥本→武兵衛様	継紙	高割・材木割、波止場用4寸釘代・桐実代等差引勘定書
1220	亥12月	覚	庄屋奥本→善右衛門殿	継紙	高割・材木割、酒代・桐実代等差引勘定書
1221	亥12月	覚	庄屋奥本→久七殿	継紙	高割・材木割、丸太代等差引勘定書
1222	-	覚		継紙	大庄屋給年寄給算用、後欠、紙背に書状書きかけ
1223	4月21日	口上	余部上村奥本→大庄屋甚兵衛様	切紙	訪問依頼
1224	-	[書状]	市左衛門→奥本様	切紙	御家中奉公人届出のこと等通達、前欠
1225	-	[頼母子差引書]		継紙	前欠
1226	-	覚		継紙	御用捨引等入米と成詰等出米の勘定書、下部欠
1227	-	覚		継紙	太夫様割・狩人割算用、下部欠
1228	4月12日	[請取書]	夷屋義八→余部上村武兵衛様	切紙	みそ・砂糖等代、前欠
1229	3月7日	[依頼状]		切紙	御用捨人足10人手配、下部欠
1230	子10月	[石高書上]	上村七[ ]→行永村梶右衛門様	切紙	前欠
1231	-	[田地書上]		切紙	帳外
1232	-	[田地書上]		切紙	帳外

1233	-	〔田畑書上〕		切紙 2	帳外
1234	-	〔包紙〕	大庄屋兵左衛門→長浜村庄や甚兵衛殿	切紙	書状
1235	-	〔包紙〕	舟と屋兵左衛門→余部上村庄屋七郎左衛門様	切紙	
1236	-	〔包紙〕	東吉原町白木屋藤七、浄土寺→	切紙	人別送り状、前欠
1237	6月2日	〔包紙〕	同下村重右衛門→余部上村奥本様	切紙	
1238	-	〔包紙〕	従下谷村倉内四郎左衛門→余部上村井上七郎左衛門様参人々之御中	切紙	
1239	-	〔包紙〕	あ久兵左衛門→余部上村奥本様参人々御中	切紙	「御樽」木版
1240	-	覚		切紙	船屋惣右衛門にて
1241	-	□下女給分覚		継紙	上部破損
1242	-	覚		切紙	4ヶ年分利息
1243	10月19日	〔書状〕	従竹屋町永楽屋市兵衛→余部上村奥本七郎左衛門様	継紙	出町の節立寄依頼、下部破損
1244	-	武兵衛様勘定之事		切紙	利
1245	子12月	覚		継紙	勘定受取
1246	7月晦日	御拝借		切紙	213日分
1247	-	覚		継紙	村別石高
1248	-	覚		継紙	利
1249	-	有米覚		切紙	後欠
1250	-	預ヶ口有米之覚		継紙	
1251	-	覚		切紙	桐実、米他代札
1252	亥12月	〔覚〕	庄屋奥本→兵右衛門殿	継紙	材木割、桐実代札他、前欠、抹消
1253	-	〔俳句書上〕	余部上村赤雪→御清書様	切紙	前欠
1254	-	寺割番人共		切紙	寺入用他
1255	-	〔書上〕	田辺濱田屋→上村七郎左衛門様	切紙	材木代札、前欠
1256	-	〔小作作付帳〕		横帳	次左衛門やくしはたけ他、人別小作、表紙白紙
1257	-	荷数覚		横帳	くのぎ、雑木、こぶし、反古紙
1258	-	子ノころひ付覚		横帳	人別
1259	-	御蔵入米割		横帳	
1260	明治元年正月吉祥日	年中雜費覚帳	井上奥本→	横帳	年中支出明細
1261	-	地所譲状一札之事		継紙	天保5年勘定に付馬之背谷下田、又之丞屋敷跡質、下書
1262	-	[ ] 一札之事		継紙	余部下村争論約定、下書、前半破損
1263	-	奉願口上之 [ ]		継紙	勘定利息多分に付願出、下書、前半破損
1264	-	〔北吸村一件願書下書〕		継紙 一括	
1265	-	〔断簡〕		横帳 一括	横帳はずれ
1266	-	〔断簡〕		縦帳 一括	縦帳はずれ
1267	-	〔断簡〕		一紙 一括	
1268	-	〔断簡〕		一紙 18	手習他
1269	-	〔断簡〕		折紙 12	横帳はずれ
1270	-	預り札遣い配分覚帳		横帳	惣遣帳へ受取札覚
1271	-	酉之年小通惣分		横帳	
1272	-	〔人別成詰内訳書〕		横帳	
1273	-	辰之小通 七郎左衛門		横帳	
1274	-	晩田御検見だん入なおし帳		横帳	

1275	-	[中山村類焼小屋遣入用割他]		横帳	
1276	-	卯之小通		横帳	卯之年落米
1277	-	[寅之年落米]		横帳	
1278-1	文化 12 年 12 月	年々小通指引帳	井上七郎左衛門→	横帳	亥～辰、1278-1～2 綴
1278-2	-	辰之小通		横帳	
1279	-	未小通		横帳	
1280	-	申之小通		横帳	
1281	-	[介抱割帳]		横帳	
1282	安永 2 年 2 月	七郎左衛門高帳		横帳	
1283	-	胡麻不足		横帳	
1284	-	[人別田畑書上]		横帳	
1285	-	桐実覚		横帳	
1286	-	キ		横帳	不足胡麻割・胡麻ノ計口覚・小豆覚・黒大豆・大豆・本かいそうは立入用
1287	-	申之年先納		横帳	
1288	慶応 4 年正月吉日	天台寺寄進名寄せ帳	余部上村世話方武兵衛、奥本→	横帳	
1289	-	覚		綴	年賦金取覚
1290	-	亥ノ納り付覚		綴	
1291	12 月 16 日	村頼母子手取		横帳	
1292	3 月 6 日	亥之小通 武兵衛		横帳	村入用、綴に文書
1293	-	融通講割合帳写		横帳	発起与右衛門
1294	文久 4 年正月	諸事預り物出入覚帳	庄屋奥本勘定番→	横帳	文書綴
1295	文久元年 11 月吉日	御用日記控帳	余部上村庄屋奥本→	横帳	文書綴
1296	慶応 3 年 2 月	万事やとい人手間代覚帳	井上奥本→	横帳	文書綴
1297	宝暦 12 年 9 月 6 日	まつり入用割帳	余部上村(印)→	横帳	
1298	文久 2 年	雲門寺一件入用割帳	四ヶ村→	横帳	文書綴
1299	文久 2 年 3 月	宗門入用茅代割		横帳	
1300	万延 2 年正月吉祥日	北吸村勘定帳	井上七郎右衛門→	横帳	
1301	宝暦 10 年 8 月	辰ノ歩役代銀割		横帳	
1302	巳	巳小通、七郎左衛門		横帳	
1303-1	宝暦寅(8)[ ]	万割物[ ]		横帳	1303-1～4 綴
1303-2	宝暦 7 年 12 月 6 日	惣兵衛つふれ万差帳	余部上村→	横帳	
1303-3	宝暦 8 年 11 月	頼母子帳		横帳	
1303-4	-	[大庄屋年寄き]		綴	
1304	文久 2 年 2 月	万事雑用取かへ覚帳	庄屋奥本、同所市左衛門→	横帳	
1305	文久 2 年 3 月	酉之年惣遣勘定書		横帳	
1306	文化 7 年 12 月	午之年他邑指引帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横帳	
1307	文久 3 年 9 月 4 日	村祈禱湯上之儀覚帳	余部上村中→	横帳	
1308	宝暦 9 年 3 月	寺やねかえ銀札割帳		横帳	
1309	文久 2 年 2 月吉祥日	万事雑用控覚帳	庄屋奥本→	横帳	文書 3 綴
1310	文久元年 12 月	材木割覚帳	庄屋奥本、市左衛門→	横帳	
1311	申年	諸勘定雑方覚帳		横帳	武兵衛ノ附送り覚
1312	子年	北吸村年々米方指引帳		横帳	子之年成詰之内
1313	文久 2 年正月	大庄屋通控覚帳	庄屋市左衛門、同人奥本→	横帳	
1314	文久 2 年 4 月	大庄屋通味進上納控帳	庄屋奥本→	横帳	文書綴
1315	文久元年 12 月	味進成行覚帳	庄屋市左衛門、同断奥本→	横帳	
1316	明和 5 年 4 月	先納銀割帳		横帳	



1317-1	文久3年5月3日	御用日記控帳	庄屋奥本→	横帳	1317-1 ~ 2 綴
1317-2	-	御用松茸覚		横帳	
1318	-	年貢米覚		横帳	
1319	-	[年賦帳]		横帳	用材書、反古紙
1320	-	此度平助と手前と対論之事		横帳	別家預置女子
1321	子	子指引、北吸村		横帳	
1322-1	-	[人別石高書上]		横帳	1322-1 ~ 2 綴
1322-2	安永3年8月	先納銀割帳		横帳	
1323	安永9年	万割物 [ ]	上村庄屋七郎左衛門→	横帳	破損
1324	申	覚		横帳	申年勘定村方分
1325	9月4日	[ ] 覚	夷屋藤兵衛→余部上村庄屋様	横帳	
1326	12月25日	[勘定書上]		横帳	
1327-1	明治4年2月吉祥日	種揃田畑預ヶ口覚帳	井上奥本→	横帳	小作人別田地
1327-2	-	覚		横帳	午小通、落米
1327-3	-	未小通覚		横帳	
1328	-	[小作人別年貢米帳カ]		横帳	
1329	-	酉之年勘定覚帳		横帳	武兵衛殿方附送り勘定雛形 申之年御味進之事
1330	-	[役儀代米書上]		横帳	たのもし米太兵衛通・寺田村頼母子米 他
1331	-	[人別勘定]		横帳	入銀覚カ、前半分破損
1332-1	-	[入用割付帳]		横帳	北吸村小屋かけわり・御宮入用銀札割 他、前半分破損・反古紙
1332-2	宝暦10年8月	縄俵覚・万辰ノ覚帳		横帳	同
1332-3	-	[小豆割覚]		横帳	同
1333	-	干痛付覚		横帳	
1334	-	[人別石高書上]		横帳	
1335	-	大豆不足		横帳	
1336	文久元年12月	直し米賃割帳		横帳	
1337	-	人足買入		横帳	
1338	-	定大豆		横帳	縄俵覚
1339	-	[小作人別年貢米帳カ]		横帳	
1340	-	寺銀札割		横帳	
1341	-	つぼ屋田地売帳		横帳	
1342	申	勘定雛方吟味覚帳		横帳	武兵衛方附送り
1343	9月26日	[通帳]		横帳	御蔵惣分・役儀代通他
1344	-	[年貢書上]		綴	
1345	子	子小通、七郎左衛門		横帳	文書綴
1346	-	縄俵之覚		横帳	反古紙
1347	享和元年7月	酉之運上銀并二入木割帳	北吸村→	横帳	
1348	-	[勘定帳]		横帳	
1349	丑	[勘定帳]		横帳	前欠
1350-1	元元(治)2乙丑年6月19日	木挽人足覚帳	井上奥本→	横帳	1350-1 ~ 3 綴
1350-2	-	御介抱割雛方覚		綴	
1350-3	-	丑之年預け口年貢取米		横帳	
1351-1	-	惣遣奥本取かへ物覚		綴	1351-1 ~ 3 綴、文書3綴
1351-2	-	丑之小通之事		横帳	



1351-3	明治3年正月吉祥日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
1352	午	[元利差引覚帳]		横帳	
1353	巳	[元利差引覚帳]		横帳	
1354	-	[えん上田書上]		横帳	
1355	宝暦10年10月	頼母子差引帳		横帳	反古紙使用
1356	11月10日	[石高書上]		横帳	
1357	8月20日	干痛付覚		横帳	
1358	宝暦9年10月	頼母子差引帳		横帳	
1359-1	宝暦12年12月	惣夫物寄覚帳		横帳	1359-1 ~ 2 綴、文書綴
1359-2	-	井せ松足うめ銭		綴	
1360	宝暦12年7月	諸運上入木代割帳		横帳	
1361	辰9月12日	辰之小通		横帳	文書綴
1362	-	[田畑書上]		横帳	
1363	申10月24日	申小通、七郎左衛門		横帳	
1364	未9月16日	未之小通、七郎左衛門		横帳	
1365	酉10月6日	酉之小通		横帳	
1366	亥	亥之小通		横帳	
1367	戌8月朔日	戌之小通		横帳	
1368	-	ころひ付覚		横帳	
1369	卯	卯小通		横帳	
1370	-	[覚]		横帳	成詰他
1371	寛[ ]寅[ ]	大福帳		横帳	表紙破損
1372	-	[差引書上]		横帳	前欠
1373	-	太夫様入用覚		横帳	
1374	-	覚		横帳	代札
1375-1	-	[成詰書上]		横帳	
1375-2	-	[石高書上]		横帳	
1376	安永2年10月	高名寄帳	庄屋七郎左衛門、年寄六兵衛→	横帳	反古紙使用
1377	子	子通米		横帳	
1378	安永7年3月	宗門銀割覚帳		横帳	
1379	天明2年12月	弥右衛門つふれ帳		切紙	表紙のみ
1380	安政2年口月	御祭入用割覚帳		切紙	表紙のみ
1381	天明6年8月	御年貢米帳	余部上村庄や七郎左衛門→	切紙	表紙のみ
1382	文久元年11月吉祥日	諸事預り物覚帳	余部上村奥本→	横帳	
1383	-	[頼母子帳]		横帳	
1384	亥10月4日	亥米方、七郎左衛門		横帳	
1385	-	[人別高書上]		横帳	329枚、帳外
1386	-	酉之不足受取之事		横帳	戌之年受取札之事・通人え渡シ札之覚・酉之十二月味進×高之覚・戌の年味進立札返利へかけ×高之事
1387	-	酉之不足受取之札		横帳	戌之年不足受取札之分・通人え渡シ札之覚・預り札之事・酉之味進×高之覚
1388	文久元年12月	年賦十ヶ年成行覚帳	庄屋奥本→	横帳	辰之年之元銀札之内
1389	文久元年12月	百姓立合勘定雛形帳	余部村庄屋奥本、同断市左衛門→	横帳	下部にこより貫通箇所
1390-1	文久元年11月吉祥日	万事記録覚帳	余部村奥本→	横帳	庄屋役披露儀式、献立、配札覚、1390-1 ~ 2 綴、綴に文書
1390-2	-	高成詰仕立之覚		横帳	下部にこより貫通箇所
1391	-	申之年勘定附送り覚帳	庄屋市左衛門、同断奥本→	横帳	下部にこより貫通箇所
1392	文化10年8月	諸事書入	余部上村→	横帳	御免獵師鉄砲札願、下部にこより貫通箇所
1393	安政3年2月	宗門御改増減帳	余部上村→	横帳	下部にこより貫通箇所
1531	戊子12月	上村惣分入用通	丸屋口助→庄屋七郎左衛門様	横帳	下部にこより貫通箇所

1395	未	上村惣分通	かふしや忠兵衛→上村七郎左衛門様	横帳	下部にこより貫通箇所
1396	酉	御通	(印「タンゴタナベ、糶屋忠兵衛」) →余部上村御庄屋市左衛門七郎左衛門様	横帳	豆腐、ねぎ、蠟燭、下部にこより貫通箇所
1397	安永9年3月吉日	[七郎左衛門名寄帳]		横帳	下部にこより貫通箇所
1398	寛政7年8月	余部上村卯年分入木通	庄屋七郎左衛門→野田弟之丞支配所	横帳	下部にこより貫通箇所
1399	辰2月	[年貢皆済帳]	庄屋百姓中→伊東次郎右衛門	横帳	下部にこより貫通箇所
1400	文化5年8月	余部上村辰年分入木通	庄屋七郎左衛門→寺島助太夫支配所	横帳	下部にこより貫通箇所
1401	文化12年	[年貢勘定帳]	七郎左衛門→	横帳	下部にこより貫通箇所
1402	—	[年貢勘定帳]		横帳	下部にこより貫通箇所
1403	—	[年貢勘定帳]		横帳	破損、下部にこより貫通箇所
1404	9月3日	[万次物共納皆済帳]		横帳	
1405	—	[頼母子掛金書上]		横帳	
1406	明和4年亥正月	高成詰名寄帳	余部上村七郎左衛門→	横帳	
1407	寛保2年2月吉日	[物成帳]	七郎右衛門→	横帳	
1408	12月22日	[ころび・神子舞他受取]	(印「かうじや忠兵衛」)→	横帳	
1409	—	付送之覚		綴	6通、覚(文久元年12月27日)
1410	亥5月4日	御通	(印「タンゴタナベ、糶屋忠兵衛」) →余部上村御庄屋市左衛門七郎左衛門様	横帳	
1411	申正月	[高差引書上]	伊東次郎右衛門→庄屋百姓中	横帳	
1412	天保11年2月	丹後国大絵図 全	皇都池田東籬亭編、大坂藤屋彌兵衛、京山城屋佐兵衛、京吉野屋仁兵衛→	図	木版
1413	寛政12年11月28日	御手本		縦帳	丹後国田辺加佐郡余部上村井上亀之輔、取立申頼母子之事
1414	—	[御手本]		縦帳	綴り外
1415	寛政11年3月	[年中往来]		縦帳	
1416	寛政10年	[御手本]		縦帳	余部上村井上亀之助
1417	宝暦11年5月	丹後州宮津府誌 全	小林玄章謹識→	写本	書写、印「宮津関文庫」「清謙文庫」「丹後国歴史編纂期成同盟会創立者宮津関清謙」
1418	—	新ばん女ていぢよ、いせ道中ふうふづれ、世の中よしこのぶし	京松原けん仁寺町東入阿波屋定治郎はん 京亀村寅光戯作→	版本	上・下綴り
1419	文化11年2月	幾利死丹宗門御改帳	余部上村扣→	縦帳	家数52軒内24軒本百姓、28軒水呑、人数248人内128人男、120人女、牛12疋
1420	文久2年2月	幾利死丹宗門御改帳	余部上村控→	縦帳	家数48軒内34軒本百姓14軒水呑、人数228人内123人男、105人女、牛20疋
1421	文久2年8月	稲草帳	余部上村、庄屋市左衛門 同断奥本→大庄屋甚兵衛様	縦帳	品種
1422	万延元年7月	稲草帳	余部上村、年寄市左衛門庄屋武兵衛→	縦帳	品種、別に綴り 早田分戌年改・晩田方
1423	宝暦9年	勸化	高野山西谷不動院→上余部村御旦家御衆中	縦帳	日牌料、月牌料、常灯明料
1424	元文5年閏7月	御立藪ヶ所帳	余部上村庄屋弥五太夫→上安久村大庄屋伊左衛門様	縦帳	
1425	—	御調へ之節申上候加條の覚		縦帳	雲門寺先住証文利息一件、20年来の件、問い質し申開

1426	明治 11 年 8 月	[未進にて組合村々無 尽故障済口書]	加佐郡行永村惣代、余部上村戸長 井上豊次郎印、惣代瀬野太左衛門 印、外村同断→	綴 3	先年来の未進金多額の ため、11ヶ村受持ち和 議順約連印状
1427	-	[百姓各々割覚]		横半 帳	御上納大豆割覚・こま割 之覚・麻苧割之覚、反 古紙
1428	明治 3 年 12 月	請券	雲門寺知事(印)→上村奥本氏	切紙	仏間造営、1428 ~ 1431 こより
1429	文久 4 年 正月	証	雲門寺知事(印)→上村奥本氏	切紙	水引戸帳、包紙
1430	文化 15 年 2 月	覚	雲門寺納所(印)→上村七郎左衛門	切紙	織舟鋼堅祠堂
1431	明治 12 年 10 月	証券	雲門寺住職槐安(印)→上村井上奥 本殿	切紙	永代居士大姉免許、包 紙
1432	大正 5 年 4 月 吉日	連綿院号追贈証	雲門禅寺温宗大諒(印)→井上奥本 殿	豎紙	戸張華鬘、1432 ~ 1434 包紙
1433	文政 5 年 正月 15 日	寄進銀覚	雲門寺納所(印)→井上七郎左衛門 殿	切紙	大般若経 20 巻
1434	延享 4 年 11 月 15 日	被寄附祠堂米之事	雲門寺亨別(印)→上村七郎左衛門 殿	切紙	追善供養
1435	明治 29 年 7 月 2 日	連綿院号免許証	雲門見住槐安(印)→井上奥本殿	豎紙	実父実母、1435・1436 包紙
1436	明治 33 年 11 月 8 日	官資受領証	雲門寺納所(印)→井上奥本殿	豎紙	院号官資
1437	寛政 9 年 11 月	取立式拾四人講之帳	雲門寺→	豎帳	
1438	明治 14 年 12 月	方丈再建仕法牒	講本雲門寺→	豎帳	
1439	-	材木寄進帳	雲門寺執事→	豎帳	
1440	5 月 15 日	[書状]	種山→井上様	継紙	海軍関係、測量工夫差 出相談
1441	文政元年 12 月	寅米方差引覚	北吸村庄屋五郎左衛門→上村七郎 左衛門様	継紙	
1442	未 3 月 24 日	覚	北吸村庄屋五郎左衛門→上村七郎 左衛門様	継紙	頼母子取銀
1443	子 12 月	指引覚	北吸村五郎左衛門→上村七郎左衛 門殿	継紙	
1444	午 12 月 28 日	[書状]	北吸村五郎左衛門→上村七郎左衛 門殿	継紙	頼母子銀にての差引依 頼
1445	子 12 月 27 日	覚	北吸村五郎左衛門→上村七郎左衛 門殿	継紙	頼母子・成詰他勘定書
1446	丑 3 月	丑年通差引納り	北吸村五郎左衛門→上村七郎左衛 門様	継紙	
1447	天明元年 12 月	質入田地添証文之事	田地主余部上村世話人同村又左衛 門(印)、同村年寄六郎右衛門(印)、 同村庄屋七郎左衛門(印)→御連中	継紙	包紙、奥書：大庄屋倉 谷村武左衛門
1448	文政 9 年 12 月	別紙一札之事	受取主五郎左衛門(印)、請人源兵 衛(印)→七郎左衛門様	継紙	与左衛門頼母子手取札
1449	-	覚		切紙 2	1449・1450 こより
1450	文久元年 12 月 28 日	覚	余部上村武兵衛→余部上村惣七様、 源左衛門様、文右衛門様	切紙	
1451	-	附送り之覚		継紙	武兵衛未進
1452	-	当御代之奥歌	水戸浪士国分新太郎→	切紙	行年 14 歳
1453	-	[和歌壺首]		切紙	色紙
1454	-	永代譲田地	嘉兵衛→庄屋奥本様	切紙	
1455	元治 2 年 4 月 10 日	種揃覚		切紙	
1456	-	[年賦算勘]		切紙	
1457	-	[包紙]	上村井上朔蔵 →余部上村井上豊 治郎様	罫紙	
1458	-	[包紙]	松尾 [ ] →上村井上七郎右衛門様	切紙	
1459	(明治) 28 年 4 月 18 日	仮請取	土井店→余部村井上喜右衛門様、 代人奥本様	切紙	
1460	旧 3 月 3 日	演代	時岡重太郎→井上閣下	切紙	
1461	-	記	喜右衛門→	罫紙	地券枚数
1462	旧 2 月 26 日	[金請取]	余部下村時岡重太郎→全上村井上 奥本様	切紙	
1463	午 6 月	記	田中長五郎→ [ ] 様	切紙	破損
1464	旧 3 月 3 日	記	井上奥本→井上藤右衛門殿	切紙	

1465	□ 18 日	記	小杉屋喜兵衛→上村奥元様	切紙	破損
1466	明治 18 年 5 月	地所永代売渡し証	井上喜右衛門、証人井上奥本→井上初蔵殿	罫紙	
1467	-	〔借付金覚〕		綴	
1468	-	地所裂地券状書換願	井上喜右衛門→	罫紙	下書
1469	(明治) 18 年旧 3 月 3 日	記	井上奥本→高橋豊右衛門殿	切紙	畑山売渡
1470	(明治) 18 年 3 月 14 日	金借用書	上村井上朔蔵(印)→瀬野喜左衛門様	罫紙	
1471	安永 8 年	大峰修行勘化帳	地福院弟子円学敬白→	罫紙	
1472	万延元年 12 月	奉願口上之覚	余部上村七郎右衛門→木戸益蔵様	罫紙	私方へ盗賊入込
1473	寛保 4 年春	御添畑之覚	余部上村→御奉行様	切紙	苗 600 本
1474	宝暦 6 年 6 月晦日	〔田畑高書上〕	庄屋弥右衛門(印)、年寄七郎右衛門(印)→御奉行様	切紙	紙背文書
1475	-	御立藪ヶ所覚		切紙	
1476	宝暦 9 年 11 月	かり入覚	上村三郎兵衛→庄屋七郎左衛門殿、年寄口右衛門殿	罫紙	破損
1477	-	御定免七ツ三步		罫紙	
1478	明治 13 年 8 月 5 日	御届	右井上利左衛門→第 6 組戸長役場御中	罫紙	忠吉養子、本文抹消
1479	酉	酉之御取書	→上村七郎左衛門殿	切紙	
1480	-	〔書状〕		切紙	平助殿浮気
1481	文久 2 年 4 月	〔年賦改法拵帳他〕		切紙	反古
1482	嘉永 3 年 12 月	借用申銀札之事	借主余部上村奥本七郎左衛門、受人麴屋忠兵衛→西野嘉右衛門殿	切紙	
1483	-	〔土地売買覚書〕		切紙	
1484	-	百姓立会勘定之覚		切紙	
1485	子 12 月 22 日	覚	六兵衛→七郎左衛門殿	罫紙	高割、材木代他
1486	元治元年 12 月	濟口一札之事	北吸村惣代三郎左衛門(印)、同利左衛門(印)他 2 名→余部上村七郎左衛門殿	罫紙	七郎左衛門より借用金、包紙
1487	2 月 7 日	口上	田辺余部上村奥本→宮津京街道二而矢野屋茂助様	切紙	親 7 回忌、他所親類行永・浜・上安・真野は呼寄、包紙
1488	-	〔橋木代他書上〕		切紙	横帳はずれ
1489	巳	覚	北吸村五郎左衛門→上村七郎左衛門殿	切紙	高割、材木代他、後欠
1490	安永 7 年 12 月	〔土地畝数書上〕	七郎右衛門→藤右衛門	折紙	畑高
1491	戌 9 月	覚	余部上村→	切紙	先納米
1492	-	奉願口上之覚	願主→御代官名	罫紙	余部上・北吸猪鹿荒のため、丹波上林おがうち村兵七獵師雇雛形
1493	-	永代書文之事	売主余部上村太兵衛(印)、請人長左衛門(印)、年寄六郎左衛門(印)→庄屋七郎左衛門殿	罫紙	売渡山林入木
1494	午 11 月	覚	かうしや忠兵衛→上村七郎左衛門、同弥右衛門様	罫紙	借米
1495	辛未 3 月 25 日	覚	大庄屋源三郎→余部上村庄屋七郎左衛門様	切紙	銀納
1496	辰 11 月 22 日	覚	上村庄屋七郎左衛門→浜村庄屋吉左衛門、同村庄屋佐兵衛	罫紙	頼母子米
1497	未 3 月	午ノ差引覚		罫紙	年貢
1498	辰 12 月	卯指引納り覚	北吸村庄屋五郎左衛門→上村庄屋七郎左衛門様	罫紙	年貢
1499	-	覚	余部上村庄屋七郎左衛門→野田弟之丞様	罫紙	御介抱組割
1500	申 12 月	借用書文之事	余部上村百姓連中→上村庄屋藤右衛門殿、同村年寄六郎兵衛殿	罫紙	高・人名

1501	-	乍恐口上之覚	余部村庄屋七郎左衛門(印)、年寄八右衛門(印)、百姓中→	豎紙	江戸御屋敷類焼、冥加夫役銀子240目差上
1502	卯12月	卯之差引覚	北吸村五郎左衛門→上村七郎左衛門様	継紙	頼母子等勘定差引
1503	-	預り申御蔵米之事		豎紙	合御蔵米15石、案文
1504	-	[書状]	新屋清兵衛→余部上村七郎左衛門様、同村長五郎様名代	継紙	頼母子講掛銀連絡
1505	未3月10日	奉願狩人之事	和田村庄屋彌右衛門、余部上村庄屋七郎左衛門→筒井権平様	豎紙	丹波上林いね村茂平
1506	辛丑12月22日	[利息勘定差引]	壺屋(印)→余部上村庄屋七郎左衛門様	継紙	前欠
1507	酉12月	覚	庄屋奥本→源左衛門殿	継紙	諸運上等差引、端裏書「源左衛門」
1508	巳3月	[諸運上等書上]		継紙	
1509	巳12月	借用仕ル銀札之事	余部上村五郎左衛門(印)、藤次郎(印)、惣兵衛(印)他5名、年寄六郎右衛門(印)→取次庄屋七郎左衛門殿	継紙	銀札1貫目
1510	寅12月15日切	覚	集メ番下安久村仁左衛門、同余部上村七郎左衛門→	豎紙	150 勾岸谷村太郎左衛門
1511	亥3月朔日	覚	舟屋治右衛門→余部上村七郎右衛門様	継紙	種米売掛
1512	酉12月14日	覚	志ま屋→余部上村庄屋七郎左衛門殿	継紙	受取銀札
1513	戌12月	戌年成詰		継紙	
1514	申5月	[年貢納儀仕様]		切紙	前欠
1515	-	[田畑見積]		継紙	
1516	-	[願書下書]		継紙	
1517	-	[書状]	田中儀右衛門→余部上村役人中	切紙	七郎左衛門呼出
1518	申	申年小通		横帳	
1519	申10月8日	申之小通うつし		横帳	
1520	-	[成詰書上]		横帳	破損
1521	子9月22日	子之小通うつし		横帳	
1522	戌12月29日	戌年七郎左衛門		横帳	
1523	酉9月24日	酉之小通七郎左衛門		横帳	
1524	午9月18日	午之小通七郎左衛門		横帳	
1525	申9月19日	申小通七郎左衛門		横帳	
1526	子3月21日	子之小通七郎左衛門		横帳	
1527	申	申之成詰之内		横帳	
1528	子	子之小通		横帳	
1529	亥9月17日	亥之小通		横帳	こより付
1530	寅3月28日	寅之小通七郎左衛門		横帳	
1531	-	[小通]		横帳	
1532	明和5年2月	触割物帳		横帳	宗門銀札割、反古紙
1533	-	[田痛書上]		横帳	
1534	-	[書上]		横帳	頼母子掛金他
1535	-	[田書上]		横帳	
1536	-	[米高書上]		横帳	
1537	宝暦6年8月	子之年御年貢米水[ ]		横帳	破損
1538	宝暦9年12月	三郎兵衛、孫兵衛、甚左衛門つふれみしん割帳		横帳	
1539	宝暦(9)卯8月	御蔵入用[ ]		横帳	破損、反古紙
1540	-	切山困蔵		横帳	本文抹消
1541	-	落米下村へ之覚		横帳	
1542	-	種籾割覚		横帳	
1543-1	-	桐実代札支配改算		綴	1543-1 ~ 2 綴
1543-2	-	惣遣不足受取方		綴	
1544	亥正月5日	酉年小通七郎左衛門		横帳	
1545	-	[余部上村高内訳]		横帳	地所別・人別年貢割

1546	-	北吸村差引		横帳	卯之年納り、成詰他差引内訳、逸見与一左衛門借用内訳
1547	-	亥之小通 武兵衛		横帳	落米、武兵衛経費内訳
1548	-	申之小通 七郎右衛門		横帳	1548 ~ 1550 こより
1549	-	卯之小通 七郎左衛門		横帳	同上
1550	-	丑之小通 七郎左衛門		横帳	同上
1551	明治 30 年旧 12 月 28 日	[不足金書上]		横帳	綴じ外
1552	-	[まつり入用書上]		横帳	
1553	-	[運上書上]		横帳	
1554	-	寺しとう利米		横帳	
1555	-	高成詰		横帳	
1556	-	家運上		横帳	
1557	午 12 月	[頼母子金書上]		横帳	
1558	-	不足割覚		横帳	
1559	卯 9 月 19 日	卯之年 七郎左衛門		横帳	
1560	文化 4 年 11 月	余部上村新砂入歩畝改帳	関根信介、牛田物右衛門(印)、岡野市左衛門(印)→庄屋百姓中	竖帳	
1561	-	内見帳	丹後国加佐郡上村→	竖帳	
1562	安永 7 年 11 月	借用申御蔵米之事	余部上村庄屋藤右衛門(印)他 11 名→丹後上林村波多野作左衛門様、取次平村六郎左衛門様	継紙	奥書：大庄屋倉谷村武左衛門
1563	天明 5 年 3 月	借用申銀子之事	余部上村借主伊平次(印)、請人市郎左衛門(印)他 3 名→上林波多野作左衛門殿、取次平村六郎左衛門殿	継紙	奥書：大庄屋倉谷村武左衛門
1564	寛政 7 年正月	覚	余部上村庄屋七郎衛門→秋保五郎右衛門様	竖紙	木材、裏書：秋保五郎右衛門
1565	明和 9 年 11 月	奉願かまこり之覚	余部上村願主仁左衛門(印)他 6 名→	継紙	腰林立木
1566	辰正月	借用仕儿御蔵米之事	三郎左衛門(印)他 24 名→余部上村庄屋七郎左衛門殿(印)、年寄六郎右衛門殿(印)	継紙	未進差詰
1567	安永 9 年 3 月	覚	余部上村庄屋七郎衛門(印)→御奉行様	竖紙	平八 19 歳かけおち届
1568	文化 11 年 2 月	奉願他所出之事	庄屋七郎左衛門→荒川儀十郎様	継紙	京都但馬他所稼
1569	嘉永 5 年 12 月	本物証文之事	本物主藤左衛門(印)、請人作左衛門(印)、年寄嘉平(印)→七郎左衛門殿	竖紙	奥書：庄屋六兵衛
1570	天明 8 年 4 月	[虚無僧仕置]	京大仏明暗寺院代寛哲印→丹後国加佐郡余部上村庄屋中	継紙	
1571	宝暦 4 年 12 月	永代売渡申田地之事	余部上村売主嘉右衛門(印)、同村庄屋弥左衛門(印)、同村年寄七郎右衛門(印)、同村口入惣兵衛(印)→同村七郎右衛門殿	竖紙	1 石 8 合 4 夕
1572	宝暦 6 年 11 月	田地本物書入借用申米之事	余部上村地主与惣兵衛(印)、同村庄屋弥左衛門(印)、同村年寄七郎右衛門(印)→糶屋忠兵衛殿	竖紙	元米 1 石 1 斗
1573	安永 4 年 12 月	銀札借用覚	かり主伊左衛門(印)、佐平治(印)、与惣左衛門(印)他 13 名、請人惣村中→庄屋七郎右衛門殿、年寄六郎兵衛殿	継紙	ころひ当、50 匁
1574	宝暦 13 年 6 月	一札之事	六人組六兵衛(印)、弥助(印)、甚左衛門(印)、惣兵衛(印)、利兵衛(印)、長衛門(印)→上村庄屋七郎左衛門殿、同年寄八右衛門殿	継紙	他所出差留諸々御法度請状
1575	宝暦 10 年 3 月	乍恐奉願口上之覚	余部下村庄屋作兵衛、同村年寄次兵衛、百姓中→御奉行様	継紙	余部下村との山論、諸山立入願出



1576	明和4年12月	借用申御蔵米之事	かりぬし伊平次、同与右衛門(印) 同市左衛門(印)、同長左衛門(印) →余部上村庄屋七郎左衛門殿、同 村六郎兵衛殿	継紙	20石5斗伊平次
1577	-	覚		継紙	小谷山・家之上山板代 金勘定覚
1578	丑12月	銀札借用覚	かりぬし右之人々→庄屋七郎左衛門	継紙	質地下谷、67匁、ころ ひ当、七左衛門(印) 他29名
1579	申12月	銀札借用書文之事	余部上村百姓小屋敷中→上村庄屋 藤右衛門殿、同村年寄六郎兵衛殿	継紙	57匁5分2厘兵右衛門 他28名
1580	明和7年12月	借用覚	請入惣村中、武兵衛(印)、五郎左 衛門(印)、太郎兵衛(印)、太左 衛門(印)、惣兵衛(印)、惣左衛 門(印)、八左衛門(印)→余部上 村庄屋七郎左衛門殿、同村六郎兵 衛殿	継紙	4斗藤次郎(印)他26 名
1581	明和元年12月	借用申御蔵米之事	惣村百しよ(ママ)水呑衆中→庄屋 七郎左衛門、年寄八右衛門	継紙	久三郎他27名
1582	文化4年11月	年貢米可納事	庄賢蔵印、林六三郎印→庄屋百姓 中	切紙	裏書：登印、1582～ 1590包紙
1583	3月27日	御用	森下藤左衛門→余部上村庄屋七郎 左衛門殿	継紙	肥草勝手刈取沙汰
1584	-	覚		折紙	人名
1585	-	[山一ヶ所書上]	同村願主仁左衛門→	継紙	
1586	-	[高内訳]		折紙	
1587	-	帳面目録	北吸村→	一紙	包紙
1588	-	[包紙]	下村兵左衛門→	一紙	包紙
1589	-	送状	但州迫留村庄屋太郎左衛門→丹後 田邊余部上村弥三右衛門	一紙	包紙
1590	-	永代請証文	六兵衛→	一紙	包紙
1591	文化12年12月	覚	壺屋(印)→余部上村庄屋七郎左衛 門殿	継紙	貸銀
1592	文政3年12月	亥子ノ通差引覚	北吸村五郎左衛門→上村七郎左衛 門様	継紙	
1593	文化8年12月	覚	壺屋(印)→余部上村庄屋七郎左衛 門殿	継紙	貸銀
1594	宝暦13年6月	一札之事	六人組印→上村庄屋七郎左衛門殿、 同年寄八右衛門殿	継紙	他所出
1595	寛政3年4月	奉願他所出之覚	余部上村庄屋七郎衛門→驅野傳兵 衛様	豎紙	
1596	文化11年9月	三番収納割	余部上村→	継紙	
1597	宝暦9年2月	乍恐口上之覚	余部上村六左衛門→庄屋七郎左衛 門殿	豎紙	地坪の節替地
1598	文化8年4月	宗旨送状之事	但州朝来郡与布土村玉林寺(印)→ 丹後田辺上村雲門寺執事位	豎紙	迫間村四郎右衛門娘つ ま、弥三右衛門子善四 郎へ縁付
1599	文化4年2月6日	濟状一札之事	藤左衛門(印)、請入市郎左衛門(印)、 六郎右衛門(印)→七郎左衛 門様	切紙	返銀
1600	文化10年4月	乍恐奉願上口上之覚	上安村年寄茂八、甚左衛門他3名 →関根浅右衛門様	継紙	上安村との山論、奥書： 大庄屋大家
1601	文化8年4月	送状之事	但州朝来郡迫間村四郎右衛門(印)、 庄屋太郎左衛門→丹後田邊余部上 村庄屋七郎左衛門殿	豎紙	迫間村四郎右衛門娘つ ま、弥三右衛門子善四 郎へ縁付
1602	文化4年3月	奉願口上之覚	福来村庄屋次左衛門、余部上村同 七郎左衛門(印)→寺嶋助太夫様、 清水源七様	豎紙	丹波井根村長兵衛、猪 鹿為打申度願、奥書： 大庄屋武左衛門
1603	享和3年2月	奉願口上之覚	余部上村庄屋七郎左衛門(印)、同 下村同兵左衛門(印)、北吸村同余 部上村七郎左衛門→戸野半兵衛様	豎紙	丹波何鹿郡物部村森右 衛門、猪鹿為打申度願、 奥書：大庄屋重左衛門、 手習裏書



1604	享和2年8月10日	相渡申帳面之覚	余部下村兵左衛門→北吸村年寄惣右衛門様、同年寄善九郎様	繼紙	高名寄帳他
1605	安永4年3月	奉願口上之覚	余部上村庄屋七郎左衛門、和田村庄屋弥右衛門→筒井権平様	豎紙	丹波上林井根村茂兵衛、猪鹿為打申度願
1606	安永4年3月	指上申一札之事	丹波上林井根村茂平(印)→和田村庄屋弥右衛門殿、長濱村庄屋甚兵衛殿、余部上村庄屋七郎左衛門殿	繼紙	鹿打札拝借に付
1607	寛政5年8月	覚	次左衛門(印)、三郎兵衛(印)他17名→駟野(裏書)	繼紙	諸勘定立会承知、奥書：余部上村年寄六郎左衛門、同村庄屋七郎左衛門
1608	寛政4年11月26日	質入証文之事	取主余部上村七郎左衛門→御連中様	豎紙	合銀950目
1609	天保3年3月	本物地之覚	借主清右衛門(印)、請人平次(印)→七郎左衛門様	豎紙	銀札高250目
1610	天明5年8月	[覚]	余部上村七右衛門(印)→年寄六郎右衛門、庄屋七郎左衛門、村百升	繼紙	村中江相渡石高
1611	文政11年12月	借用仕年符証文之事	借主庄右衛門(印)、請人平次(印)→七郎右衛門様	切紙	銀札168匁、(包紙ウハ書)「上 余部上村庄左衛門」
1612	天保12年8月日	送状添書之事	讓主余部上村七郎左衛門→下村助左衛門殿	繼紙	銀札1貫目、下村兵右衛門殿田地為樽料、(包紙ウハ書)「七郎左衛門殿 五左衛門」
1613	天保3年3月	借用仕証文之事	借主清右衛門(印)、請人利左衛門(印)→七郎左衛門様	豎紙	銀札420匁1割10年賦、(包紙ウハ書)「証文 上村 文四郎」
1614	寛(政)2戌年12月	借用仕る御蔵米之事	かり主北吸村太右衛門(印)、請人上村惣兵衛、年寄北吸村次右衛門(印)、同五郎右衛門(印)→余部上村七郎左衛門殿	切紙	4石8斗9年、包紙
1615	文政13年12月	本持証文之事	借主市左衛門(印)、同市右衛門(印)、年寄弥平(印)、同久蔵(印)、庄屋嘉右衛門(印)→藤右衛門殿	豎紙	寅之御上納に差詰り、包紙
1616	嘉永7年3月	永代譲り証文之事	譲り主藤左衛門(印)、請人市左衛門(印)、年寄嘉兵衛(印)→七郎左衛門様	豎紙	のしろ谷下田4畝8歩、稲30かり、深因縁有之候家筋、包紙、奥書：六兵衛
1617	嘉永6年12月	永代譲り証文之事	讓主兵右衛門(印)、受人五平(印)、年寄嘉平(印)→七郎左衛門殿	豎紙	桐実畑1ヶ所、清水谷奥之分、包紙、奥書：六兵衛
1618	天保11年12月	永代譲り状之事	譲り主太助(印)、請人嘉平(印)、年寄作左衛門(印)→七郎左衛門様	豎紙	銀札257匁、72匁、包紙、奥書：六兵衛
1619	文政13年12月	本持証文之事	借用主源三郎(印)、年寄治平(印)、同久兵衛(印)、庄屋嘉右衛門(印)→藤右衛門殿	繼紙	1貫900目、破損
1620	寛政元年12月	永代売渡し申田地之事	余部上村売主六兵衛(印)、請人三郎兵衛(印)、年寄六郎右衛門(印)→七郎左衛門殿	豎紙	3斗1升4合7勺
1621	宝暦13年12月	給用申御蔵米之事	村百しよ中→庄屋七郎左衛門殿、年寄八右衛門殿	繼紙	未の未進差詰、七右衛門他21名
1622	享和3年正月	永代二売渡し申証文之事	売主次右衛門(印)、年寄善九郎(印)、同断五郎右衛門(印)→清助殿	豎紙	中田3畝13歩半他2筆
1623	2月27日	借用申証文之事	借主北吸村久兵衛(印)、年寄惣右衛門(印)、同断善九郎(印)→上村庄や七郎左衛門様	豎紙	銀札300目
1624	天明2年12月	永代売渡し申田地之事	売主弥右衛門(印)、作右衛門(印)、六右衛門他5名→七郎左衛門殿	繼紙	24石
1625	享和元年3月	借用仕ル銀札之事	うり主余部上村文四郎(印)、証人利左衛門(印)、年寄伊右衛門(印)→庄屋七郎左衛門殿	豎紙	銀札200目

1626	享和元年 3 月	譲渡し申山之事	譲方地主余部上村文四郎(印)、証人利左衛門(印)、年寄伊右衛門(印)→庄屋七郎左衛門殿	豎紙	大い子ノ上
1627	享和元年 12 月	永代売渡し申田地之事	請人嘉兵衛(印)、売主文七(印)、年寄伊右衛門(印)→庄屋七郎左衛門殿	豎紙	3 石 4 合 2 勺、包紙「証文 清右衛門」
1628	弘化 3 年 12 月	永代譲り申証文之事	譲主余部上村文四郎(印)、請人佐平次(印)、年寄作左衛門(印)、庄屋六兵衛(印)→七郎左衛門様	豎紙	銀札 738 匁 1 分 3 厘、深因縁有之家筋
1629	寛政 7 年 12 月	永代売渡し申田地之事	売主余部上村作右衛門(印)、請人長左衛門(印)、年寄六郎右衛門(印)→庄屋七郎左衛門殿	豎紙	卯未進
1630	寛政 8 年 12 月	永代売渡し申田地之事	売主余部上村作 [ ], 請人六郎左衛門、庄屋七郎左衛門→六右衛門殿	豎紙	辰未進、下部破損
1631	寛政 7 年 12 月	永代書文之事	余部上村伊三郎、請人七左衛門(印)、年寄六郎左衛門(印)→庄屋七郎左衛門殿	豎紙	桐畑 1 力所
1632	寛政 5 年 2 月	借用仕ル銀子之覚	借主余部上村文七(印)、年寄六郎左衛門(印)→上村七郎左衛門殿	豎紙	415 匁
1633	辰 5 月	口上之覚	壺屋嘉兵衛(印)→御役人中様	豎紙	寛政 7 年 12 月 20 日口入年貢入証文、借銀
1634	寛政 9 年 12 月	借用仕ル銀札之事	借主余部上村源左衛門(印)、請人次左衛門(印)、年寄伊右衛門(印)→上村七郎左衛門殿	豎紙	200 目
1635	寛政 8 年 2 月	田地証文奥印之事	北吸村五郎右衛門(印)→上村七郎左衛門様	切紙	
1636	寛政 8 年 2 月	永代売渡し申田地証文之事	売主北吸村利助(印)、嘉(加)判同村与右衛門(印)他 2 名→五郎右衛門殿	切紙	8 石借り
1637	寛政 8 年 12 月	永代売渡し申畑之事	売主余部上村徳兵衛(印)、請人与右衛門(印)、年寄六郎右衛門(印)→庄屋七郎左衛門殿	切紙	桐畑 2 力所
1638	寛政 7 年 12 月	永代書文之事	余部上村太兵衛(印)→村百姓中様	切紙	辰未進
1639	寛政 5 年 4 月	借用申銀子之事	借り主倉谷村庄屋三右衛門(印)、請人上村五郎右衛門(印)→余部上村七郎左衛門殿	切紙	425 匁
1640	寛政 4 年正月	永代売渡し申田地之事	余部上村売主太兵衛(印)、請人太左衛門(印)、年寄六郎左衛門(印)→庄屋七郎左衛門殿	豎紙	
1641	寛政 3 年正月	永代売渡し申畑地之事	売主下村永谷、嘉判同村利右衛門(印)、同村庄屋兵右衛門(印)→上村七郎左衛門殿	切紙	
1642	寛政元年 12 月	永代売渡し申畑地之事	売主上村五郎左衛門(印)、請人作右衛門(印)、同又右衛門(印)、年寄六郎右衛門(印)→余部上村七郎左衛門殿	切紙	
1643	天明 4 年 12 月吉日	奉願本物証文之事	余部上村借主五郎左衛門(印)、請人年寄六郎右衛門(印)→余部上村庄屋七郎左衛門殿	切紙	
1644	天明 4 年 12 月吉日	借用申証文之事	余部上村借主五郎左衛門(印)、同村請人又右衛門(印)→余部上村庄屋七郎左衛門殿	切紙	
1645	天明 4 年 12 月	借用申御蔵米之事	余部上村借主三郎兵衛(印)他 9 名→上林馬場村波多野作左衛門殿、取次平村六郎左衛門殿	継紙	奥書：大庄屋倉谷村武左衛門
1646	安永 8 年 12 月	永代売渡し申山之事	売主余部上村伊左衛門(印)、請人武兵衛(印)→七郎左衛門殿	切紙	
1647	文化 5 年 2 月 12 日	借用申銀札之事	借主浜村又左衛門(印)、請人同村与七郎(印)他 3 名→上村七郎左衛門様	豎紙	250 目

1648	安政2年6月	右譲り状添書之事	譲り主六兵衛(印)、親類惣代太左衛門(印)、受人彌左衛門(印)→七郎左衛門様	切紙	3貫400目
1649	文化6年12月	永久譲り申田地之事	譲り主嘉左衛門(印)、年寄茂左衛門(印)、→市右衛門殿	継紙	
1650	享和2年2月	借用申証文之事	借主久兵衛請人與惣左衛門(印)、→上村七郎左衛門様	切紙	
1651	弘化4年3月	本持証文之事	借用主市右衛門(印)→取次嘉右衛門殿	継紙	奥書：年寄藤作、同嘉左衛門、庄屋弥左衛門
1652	宝暦6年11月	田地本物書入借用申米之事	余部上村地主惣兵衛(印)、同所庄屋弥左衛門(印)、同所年寄七郎右衛門(印)→糶屋忠兵衛殿	切紙	
1653	宝暦10年12月	永代売譲申山之事	村惣百姓中、庄屋七郎左衛門(印)、年寄八右衛門(印)→七郎左衛門様	切紙	山2力所
1654	弘化3年正月	本物証文之事	本物主六之助(印)、請人治左衛門(印)、同作左衛門(印)→七郎左衛門様	継紙	403匁8分、奥書：年寄作左衛門、庄屋六兵衛
1655	寛延元年11月	永代売譲申田地之事	売主同村甚左衛門(印)、同村庄屋弥左衛門(印)他2名→余部上村七郎左衛門殿	切紙	
1656	天保3年3月	借用申証文之事	請人彌右衛門(印)、定右衛門(印)、借主五左衛門(印)→七郎左衛門様	切紙	
1657	延享2年11月	売渡申田地之事	売主上村又助(印)、請人同村与惣兵衛(印)、加判弥五兵衛(印)→余部上村七郎左衛門殿	切紙	
1658	安政2年6月	永代譲状之事	譲主六兵衛(印)、親類惣代太左衛門(印)、受人弥左衛門(印)→七郎左衛門様	継紙	奥書：年寄嘉兵衛、庄屋武兵衛、庄屋七郎右衛門
1659	安永8年12月	借用申御蔵米之事	余部上村年寄六郎右衛門(印)、庄屋七郎左衛門(印)→上林波多野作左衛門殿、取次平村庄屋六郎左衛門殿	継紙	奥書：大庄屋武左衛門
1660	安永8年12月	入用	余部上村庄屋七郎左衛門、同年寄六郎兵衛→壺屋与一左衛門殿	切紙	借銀
1661	安永元年12月	借用申御蔵米之事	又右衛門(印)他18名→庄屋七郎左衛門、年寄六郎左衛門	継紙	
1662	安永7年12月	永代売渡し申田地之事	余部上村売主七右衛門(印)他5人→藤右衛門殿	継紙	
1663	安永4年8月	永代売渡し申田地之事	売主余部上村藤右衛門(印)、請人庄屋七郎左衛門(印)→つほや与市左衛門様	継紙	
1664	安永2年12月	借用申御蔵米之事	余部上村借主七右衛門(印)他5名→上林波多野作左衛門殿、平村六郎左衛門殿取次	継紙	
1665	明和7年2月17日	永代売渡し申ころび畑之事	余部上村売主八助(印)、同口入五郎左衛門(印)他2名→同村七郎左衛門殿	切紙	こにし
1666	-	覚	藤左衛門→七郎左衛門様	切紙	借銀
1667	寛延3年4月16日	永代売渡し申山林之事	余部上村売主甚左衛門(印)、同村庄屋弥左衛門(印)、請人同村三郎右衛門(印)→同村七郎右衛門殿	切紙	むかい山
1668	安永4年4月	[田地売渡証文]	ゆずりぬし七右衛門、年寄六郎兵衛、請人作右衛門→上村庄屋七郎左衛門殿、つほや藤左衛門様	切紙	
1669	寛政4年12月	永代売渡し申田地之事	売主余部上村文七、請人又右衛門(印)、年寄六郎右衛門(印)→余部上村七郎左衛門殿	継紙	
1670	天明5年12月	[田地売渡証文]	彌右衛門(印)→余部上村百姓中、年寄六郎左衛門殿、庄屋七郎左衛門殿	継紙	

1671	安永8年11月	借用御蔵之事	余部上村伊平次、加印庄屋七郎左衛門、同年寄六右衛門→上林波多野作左衛門殿、取次平村庄屋六郎左衛門殿	切紙	10石、奥書：大庄屋、案文
1672	安政5年12月	借用申一札之事	行永村清左衛門(印)→余部上村七郎左衛門殿	豎紙	札1貫目、奥書：庄屋弥太夫、同与惣右衛門、下部破損
1673	寛政5年2月	借用[ ]	かり主余部上村文七、年寄六郎左衛門→同村七郎左衛門殿	切紙	450匁、前欠
1674	安永4年11月	借用申御蔵米之事	借主余部上村伊平次(印)、同村庄屋七郎左衛門(印)、年寄市兵衛(印)→取次平村六郎左衛門殿	豎紙	9石、奥書：大庄屋倉谷村武左衛門、破損
1675	寛政9年12月	書入申質物之事	余部上村借主与惣兵衛(印)、請人嘉右衛門(印)、年寄作右衛門(印)→庄屋七郎左衛門殿	豎紙	500目、下部破損
1676	[ ]年正月29日	永代売渡申田地之事	売ぬし太兵衛(印)、請人長左衛門(印)、同人武兵衛(印)、年寄六郎兵衛(印)→[ ]	豎紙	3石8斗、上部奥半分破損
1677	寛政10年2月	借用仕証文之事	借主下村兵右衛門(印)→上村七郎左衛門様	切紙	500目、一部破損
1678	寛政元年12月	永代書文之事	上村[ ]→庄屋七郎左衛門殿、年寄六郎左衛門殿村百姓中	切紙	下部破損
1679	-	仮名手本忠臣蔵 九段目文句		豎帳	権之丞、1679～1782包紙、1679～1728麻紐
1680	巳12月	覚	庄屋→七郎左衛門殿	繼紙	入用勘定
1681	明和7年5月	借入覚	上村かりぬし利兵衛→余部上村庄屋七郎左衛門殿、同村年寄六郎兵衛殿	切紙	
1682	-	[貸銀覚]		横帳	北吸村孫右衛門様、切紙4枚
1683	卯月17日	口上	井上七郎右衛門→忠次郎様	切紙	御無心御願
1684	9月	[和歌]	井上氏敬白→	切紙	奉帰国心魂にては
1685	申12月	覚	下東村勇七→秋田御氏様	繼紙	芝居、菓子、酒、寿司代
1686	戌2月	[触]		繼紙	商売関係、遠国奉行所へも
1687	正月25日	覚	ずしや吉右衛門→上村奥本様	繼紙	生作り鯛、こより
1688	4月13日	[書状]	豊次郎→七郎右衛門様	繼紙	依頼状
1689	-	式百五拾人講受取通	雲門寺講元→	切紙	
1690	-	[書]		一紙	孟浩然「春暁」の書写
1691	10月25日	[出産見舞断状]		繼紙	
1692	-	[断簡一括]		切紙	書き損じ断簡こより一括46
1693	-	種揃覚		切紙	
1694	-	口上		繼紙	借用出入、下書、繼目外
1695	11月8日	御報	松尾寺→井上七郎右衛門様	繼紙	栄介様の件、来山面会依頼、1695～1724こより
1696	戌12月	覚	本庄右衛門→上村七郎左衛門様	切紙	勘定書
1697	正月晦日	[書状]	甚吾→七郎右衛門様	切紙	浄瑠璃会御招待に付風邪気味のための御断
1698	8月10日	覚	ふ屋宗右衛門→余上村奥本様	繼紙	勘定書、繼目外
1699	-	[書状]	→桑屋忠兵衛様	切紙	来所延引依頼
1700	6月吉日	舌代	みよ→おしゆん殿	切紙	時節見舞
1701	2月朔日	[書状]		切紙	おとめ出産に付お世話御礼相談
1702	5月吉日	口上	みよより→御内室殿	切紙	御機嫌伺
1703	8月5日	[書状]	松尾納所→上村井上七郎左衛門様	繼紙	市蔵遣しの件断
1704	8月20日	[書状]	ゆあさ勘兵衛→井上御氏	繼紙	石山殿の件に付、明日推参の旨、表書「上村井上奥本様、高濱勘兵衛、無急用」

1705	5月28日	口上	みよ方→孫兵衛様	継紙	御機嫌伺
1706	7月28日	〔書状〕	つやより→五郎右衛門様	継紙	藤吉奉公に付、状況報告、表書「京蛸薬師東洞院東入郎路丹後屋喜三良様、京蛸薬師東洞院東入つやより、丹後国上村五郎右衛門様、急用」
1707	8月2日	〔書状案〕	奥本→湯浅勘兵衛様	継紙	先日祭り訪問御礼
1708	5月8日	口上	七郎右衛門→清左衛門様	継紙	浜村の話し合の一件
1709	3月24日	〔書状〕	米屋久兵衛→井上奥本様	継紙	白木綿一反末広受納御礼
1710	5月13日	〔書状〕	和助→御両親様、皆々様	継紙	奉公先(船宿佐野屋長左衛門)よりの無事安堵状、表書「大坂南堀江五丁目和助、丹後国上村喜作様、貴下」
1711	3月10日	〔書状〕	武藤團→井上豊治郎様	継紙	西方寺様先月御遷化、表書「丹後餘部上村、井上奥本様内豊次郎様行、武藤團」
1712	-	口上	本屋庄右衛門→上村七郎左衛門様	切紙	返金
1713	7月2日	覚	本屋庄右衛門→上村七郎左衛門様	切紙	真田、島津
1714	8月24日	覚	本屋庄右衛門→上村七郎右衛門様	切紙	受取
1715	丑12月	覚	本屋庄右衛門→上村七郎左衛門様	継紙	伊賀、大原、継目外
1716	6月9日	覚	本屋庄右衛門→上村七郎右衛門様	切紙	受取
1717	5月20日	覚	本屋庄右衛門→上村七郎右衛門様	切紙	受取
1718	申12月	覚	本屋庄右衛門→上村七郎右衛門様	継紙	継目外
1719	辰12月	覚	本屋庄右衛門→上村〔 〕	切紙	受取、後欠
1720	午7月	覚	本屋庄右衛門→上村七郎左衛門様	切紙	受取
1721	4月	口上	七郎左衛門→忠兵衛様	継紙	御祝儀並びに桧苗御礼と栄助消息安堵報告、糊外
1722	6月吉祥日	口上	みよ→平野屋孫兵衛様	継紙	御機嫌伺状
1723	-	種揃覚		継紙	前欠
1724	正月20日	〔書状〕	松尾寺納所→井上七郎左衛門様	継紙	借用物、前欠
1725	文久2年10月	稲刈上覚帳		横帳	7束5把なしのき、4束8把うまの下、中程破損
1726	12月29日	〔書状〕	大庄屋→余部上村	継紙	奥本へ正月4日年頭御礼出仕
1727	子9月晦日	〔書状〕	松尾寺内善右衛門實相坊→奥本権蔵様	継紙	代理人差遣断
1728	寛政13年正月	宗門一札之事	地福寺(印)→余边上村雲門禅師	縦紙	三郎左衛門悴つね、藤左衛門縁付、破損
1729	-	手取覚	取人七郎左衛門→	切紙	1729～1752紐
1730	寅3月朔日	覚	壺屋→余部上村庄屋七郎左衛門殿	継紙	受取
1731	安政4年5月	別紙一札之事	北吸村借用主惣代請人他6名→	縦紙	年貢年延願雛形
1732	-	覚		切紙	成語内訳
1733	1月8日	〔書状〕	上村保護人井上奥本→下村保護人瀬野利右衛門様	切紙	本日開校、新規入学の件、裏に記
1734	申12月25日	覚	壺屋(印)→余部上村庄屋七郎右衛門殿	切紙	受取
1735	-	手取覚	取人七郎左衛門→	切紙	作右衛門頼母子
1736	-	〔頼母子勘定覚〕	奥本→	切紙	
1737	8月4日	御目録	大波村藤村与五郎→	継紙	鯛、御樽
1738	子10月11日	覚	かうしや忠兵衛→上村七郎左衛門様	継紙	酒、寿司、氷こんにやく
1739	-	覚		継紙	井上七郎右衛門他名前
1740	10月21日	〔書状〕	田中次右衛門→余部上村庄屋武兵衛殿	切紙	七郎右衛門呼出、包紙
1741	12月20日	〔書状〕	秋田収太→余部上村役人中	切紙	七郎右衛門上納金督促
1742	12月	〔書状〕	倉内四郎左衛門→井上七郎右衛門様	切紙	婚礼不参加挨拶
1743	10月3日	〔書状〕	泉源寺村弥三郎→行永村清左衛門様	継紙	養子打合せ

1744	申 12 月	覚	秋田収太→余部上村庄屋七郎左衛門殿	継紙	受取
1745	7 月 26 日	〔書状〕	政次郎→七郎右衛門様	切紙	聖正様 250 回忌
1746	2 月 23 日	覚	浜屋茂七→上村七郎右衛門様	切紙	吸物、刺身
1747	-	手取覚	取入七郎左衛門、清右衛門→	切紙	
1748	2 月	〔借用書〕	借用主清右衛門(印)請人佐平次(印)→七郎左衛門様	継紙	本文なし奥書：年寄作左衛門、庄屋六兵衛
1749	-	一札	行永村清左衛門→	切紙	包紙
1750	-	〔手習〕		切紙 5	往来物
1751	-	〔反古紙〕		切紙 18	
1752	-	〔毛髪包〕		切紙	
1753	丑 3 月 15 日	覚	六兵衛→七郎左衛門様	継紙	受取
1754	12 月 20 日	〔書状〕	庄屋忠右衛門→余部上村七郎左衛門様	継紙	書付差上、前欠
1755	慶応 3 年 9 月 28 日	別紙一札之事	借用主井上喜右衛門、代筆矢野屋茂助→井上奥本様	継紙	借用書
1756	文化 10 年 12 月	借用申銀札之事	和田村借主庄左衛門判→上村七郎左衛門様	縦紙	
1757	12 月 26 日	覚	ふしや治七→余部上村庄屋様	切紙	請取書
1758	-	口上	七郎左衛門→武兵衛様	切紙	年寄 1 俵取、1758・1759 こより
1759	庚申 12 月	覚	庄屋武兵衛→七郎右衛門殿	切紙	諸色明細
1760	辰 12 月 17 日	覚	壺屋→余部上村庄屋七郎左衛門殿	継紙	請取書
1761	亥	酒御通	なや(印「丹後田辺納屋孫八良」) →余上村御惣分	横半 帳	
1762	-	ひらかな五行、道行の たん、近江源氏先陣館		縦帳	書写、丹後田辺余部上村井上七郎左衛門
1763	明治 4 年 8 月 吉祥日	早稲晩稲苧上覚帳	井上奥本→	横帳	
1764	-	〔手本〕		縦帳	樹徳庵、綴じはずれ
1765	-	覚		切紙	村未進
1766	丑 12 月	覚	壺屋→余部上村庄屋七郎左衛門殿	継紙	米元利
1767	7 月 25 日	〔書状〕	安久兵左衛門→余部上村奥本様	切紙	勘定書確認依頼
1768	文化 6 年 8 月	余部上村巳年分入木 通	庄屋七郎右衛門→寺嶋助太夫支配 所	横帳	中は白紙
1769	辰 12 月 10 日	酒御通	糺屋安左衛門→余部上村七郎左衛門様	横帳	
1770	卯正月	田地所書覚	弥三郎→	継紙	弥三郎分
1771	卯 12 月	覚	壺屋→余部上村七郎左衛門殿	継紙	差引勘定
1772	辰 3 月	口達		継紙	困窮に付御用金依頼、 獵師威筒
1773	巳 12 月	覚	壺屋→余部上村庄屋七郎左衛門殿	継紙	蔵米勘定
1774	辰 2 月	〔書状〕	明暗寺印→	継紙	紛敷虚無僧入込、前欠
1775	6 月 13 日	覚	武兵衛→七郎右衛門様	切紙	入木運上割調依頼
1776	-	覚	武兵衛→七郎右衛門様	継紙	成詰勘定
1777	文久 3 年 12 月	濟口一札之事	余部下村惣百姓中、庄屋半兵衛、 同作左衛門→大庄屋様	継紙	雛形、水無月浜にて居 村の真木盗取
1778	巳 2 月	覚	庄屋武兵衛→七郎右衛門殿	継紙	拝借金返利指引
1779	午 12 月 17 日	覚	壺屋→余部上村庄屋七郎左衛門様	継紙	御蔵米請取
1780	明治 31 年 正月 吉日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
1781	8 月 21 日	〔普請禁忌書付〕		切紙	63、32 歳男
1782	-	〔下書一括〕		切紙 一括	
1783	壬午 4 月	御通	(印「丹後市場油太」)→上村井上 奥本様	横半 帳	
1784	-	目録	村上忠兵衛→	継紙	御土産
1785	明治 14 年	諸色御通	(印「丹后舞鶴屋町、船屋惣右衛門」) →余部上村井上奥本様	横半 帳	
1786	明治 14 年	御通	(印「加佐郡舞鶴木船取司」)→余 部上村総代瀬野太左衛門様	横半 帳	
1787	安永 4 年 9 月	万覚帳		横帳	

1788	-	〔高書上帳〕		横帳	
1789	明治 11 年 3 月 3 日	分家願	瀬野乙蔵、瀬野元蔵、戸長井上豊次郎→	綴	
1790	(明治) 13 年 8 月 21 日	〔領収書〕	第 6 組戸長役場(印)→余部上村	綴	役場費
1791	12 月 27 日	記	行永村国松平兵衛→上村太左衛門様	綴	
1792	(明治) 12 年 12 月 24 日	〔書状〕	下村保護人瀬野利右衛門→上村保護人井上豊次郎様	継紙	学校諸費用の件に付相談
1793	-	記		切紙	半紙3束
1794	-	官許万金丹	御薬調合所伊勢国野間国彦謹製→	切紙	木版
1795	-	〔書状〕		継紙	学校縄わらの件、下書
1796	明治 13 年 12 月 29 日	勘定書		継紙	学校割他
1797	明治 12 年 6 月 21 日	〔書状〕	上村保護人井上豊次郎(印)→北吸村保護人堀崎新谷様	継紙	出頭願
1798	-	記		継紙	金銭渡
1799	21 日	〔書状〕	大石質→井上賢■	継紙	御機嫌伺
1800	5 月 24 日	〔書状〕	下村代布川→上村井上豊次郎様	切紙	不在に付上伸仕
1801	2 月 1 日	〔書状〕	下村総代→上村総代御中	継紙	学資金に付
1802	-	記		切紙	頼母子金、後欠
1803	-	〔書状〕		切紙	学校縄ワラの義に付
1804	-	〔記〕		切紙	諸人足他、前後欠
1805	丑 2 月 14 日	〔記〕	奥本→太左衛門殿	継紙	金銭勘定、前欠
1806	-	〔書状〕		切紙	雲門寺仕法講世話方、後欠
1807	11 月 17 日	〔書状〕	第 6 組戸長役場→北吸村、余部下村	継紙	前欠
1808	-	〔熨斗紙〕	(印「かうしや忠兵衛」)→	切紙	
1809	明治 15 年	御通	小西屋長左衛門→井上奥本様	切紙	請取、袋、1809 ~ 1826 袋
1810	(明治) 15 年 8 月	記	(印「丹後舞鶴、一村志兵衛」)→上村奥本様	切紙	酒
1811	午旧 7 月	記	上安久村紺屋利兵衛→余部上村奥本様	切紙	請取
1812	午 7 月	記	下村利左衛門→上村奥本様	切紙	請取
1813	(明治) 16 年 1 月	記	山本儀兵衛→奥本様	切紙	坪・平・硯蓋、料理代
1814	-	記	原田店→上村奥本御氏様	切紙	請取
1815	(明治) 15 年 8 月	記	原田店(印「丹後舞鶴新橋原田源作、万金物所」)→奥本御氏様	切紙	花いけ、蔵の鍵
1816	12 月 23 日	おほへ	金物屋仁右衛門(印「丹後舞鶴竹屋町原田仁右衛門、ぬり物仕入所」)→上	切紙	はんぞ、ぬり箱
1817	巳 7 月	酒御通	(印「タンコマイヅル、糶屋忠兵衛」)→上村奥本様	継紙	請取
1818	午 7 月 30 日	記	(印「加佐郡余部上村、算盤屋、瀬尾廣之助製」)→奥本様	切紙	請取
1819	4 月	記	かめい→おせき様	切紙	ちぢみしま織、より掛、染代
1820	午 8 月 14 日	記	上林屋治左衛門→上村井上奥本様	継紙	人足酒肴、湯波・椎茸
1821	5 月 2 日	記	舟屋利兵衛→余上村奥本様	切紙	請取
1822	(明治) 15 年旧 7 月 16 日	記	上安久村紺屋利兵衛→余部上村井上奥本様	切紙	請取
1823	午 7 月	記	福来村九郎左衛門→	切紙	請取、上安久村甚兵衛
1824	7 月	証	浜村西村孫作→上村井上奥本様	切紙	請取、1824 ~ 1872 巻込
1825	-	〔記〕		継紙 2	糸島綿入
1826	-	記	原田旬作→余部上村奥本様	罪紙	くきかくし、かすかい
1827	(明治) 14 年 1 月 16 日	記	生長→余部村学校御掛り御中	継紙	金銭、1827 ~ 1866 包紙 10 月 16 日〔回覧依頼分〕副区長→森村・濱村・北吸村・余部上村、上部・後部欠損



1828	-	記		継紙	金銭
1829	旧7月9日	[書状]	下村学務委員→上村学務委員御中	継紙	学校割金延日依頼
1830	9月24日	[書状]	長濱村江上仁左衛門→上村井上奥本様	継紙	学校集会廻達
1831	旧正月5日	[書状]	井上奥本→福村平八	継紙	妹不快に相成、前欠
1832	2月4日	[書状]	長濱村戸長→下村、上村、北吸村戸長御中	切紙	社寺改官員出張、学校用集会出席依頼
1833	10月2日	口代	下村瀬野又左衛門→上村井上豊治郎様	継紙	学校会議日延べ依頼
1834	旧7月22日	[書状]	白杉村奥山五郎左衛門→上村井上奥本様	切紙	いとどの義に付
1835	-	記		切紙	唐草
1836	旧2月16日	口演	雲門寺→井上奥本殿	罫紙	御詠品の手付金
1837	3月24日	記	上林屋治左衛門→井上奥本様	継紙	入手品、献立
1838	(明治)15年1月6日	記	下村與平衛→余部上村奥本様	切紙	受取
1839	-	[覚]		切紙	唐草引手
1840	旧7月12日	記	原田旬作→奥本様	切紙	金銭受取
1841	9月4日	証	滑東徳玄(印)→余部上村井上豊次郎殿	切紙	診察後の問合
1842	3月25日	記	石東與七郎(印)→井上様	継紙	入金通知
1843	(明治)14年旧7月	記	生長→上林屋治左衛門様	切紙	掛たら
1844	3月23日	おぼへ	竹屋町金物屋仁右衛門→あまるべおく本様	切紙	ぬり箱、よふじ
1845	辰2月7日	覚	こま物屋他三郎→奥本様	切紙	金銭受取
1846	-	[記]		折紙	大工代他
1847	(明治)14年旧9月9日	[書状]	井上奥本→村上志兵衛様	罫紙	濱村嘉右衛門死去通知
1848	3月4日	記	(印「西京四条通富小路東入、萬錫細工所、原田伊右衛門」)→上様	切紙	錫瓶子
1849	8月13日	記	原田店→上様	切紙	いろつけコマ入
1850	巳7月	記	濱村作右衛門→上村奥本様	切紙	金銭受取
1851	(明治)16年旧7月	記	舟登屋→余上村総代御中	切紙	金銭
1852	(明治)14年旧7月	記	濱村内藤玄誠(印)→余部上村奥本様	継紙	貼薬
1853	-	[記]		折紙	金銭
1854	-	記		継紙	石高
1855	12月20日	記	山雄長兵衛→上村奥本様	切紙	金銭請取
1856	29日	記	宮義→上	切紙	金銭受取
1857	(明治)12年11月9日	記	野村六右衛門→豊次郎様、久右衛門様	罫紙	借用
1858	4月1日	記	瀬野長兵衛→上様	継紙	請取
1859	-	記	厚田→奥本様	継紙	請取
1860	2月12日	証	金田仁右衛門→奥本様	継紙	請取
1861	旧7月31日	記	喜多村→井上奥本様	切紙	注文書
1862	3月	記	舟と宗右衛門→余部下村井上奥本様	切紙	請取
1863	8月7日	記	秋保逸平(印)→井上豊次郎様	罫紙	請取
1864	2月6日	記	垣波嘉左衛門(印「丹後舞鶴、角嘉」)→余部上村奥本様	切紙	杉上長持
1865	5月31日	記	木船取司→余部上村井上奥本様	切紙	半切
1866	辰7月15日	記		切紙	年貢、地券
1867	12月9日	[書状]	下村瀬野拝→上村井上御氏	切紙	三納金徴収
1868	明治12年1月30日	[勘定書]	戸長井上豊次郎→武兵衛殿	継紙	
1869	-	[記]		横帳	勘定書、こより綴じ
1870	-	記		切紙	山岳原由、地租金項目書
1871	-	[記]		罫紙	勘定書
1872	-	送籍券	戸長井上豊次郎→	罫紙	瀬野孫兵衛娘さと、大内町橋本熊治郎妻、後欠
1873	3月30日	口上	市場上羽玄甫→上村奥本様	継紙	せんやく、粉末、丸薬、人参

1874	-	申ノ銀方覚		継紙	
1875	-	手取覚		切紙	金額、人名
1876	旧4月23日	[書状]	武藤團→井上奥本様	切紙	私方金蔵三松村岸本氏へ寄留
1877	明治9年旧12月30日	[記]	藤左衛門→利左衛門殿	切紙	長持、戸棚
1878	申3月	覚	六兵衛→七郎左衛門様	継紙	由良川人足、御蔵筵代
1879	2月4日	酒御通	(印「タンコマイヅル、靴屋忠兵衛」) →奥本様	横半帳	請取、酒御通袋入
1880	明治15年旧7月7日	記	岸薬局→余部下村井上御氏	切紙	別丸薬、水薬
1881	-	記	木舟収司→井上豊次郎様	切紙	罰紙
1882	明治14年	万染物通	富田→余部上村奥本様	横半帳	書入なし
1883	4月31日	口上		切紙	請取
1884	-	記		切紙	借用
1885	4月27日	[書状]	上村戸長瀬野利右衛門→前戸長井上豊次郎様	罰紙	地券証書換連絡
1886	-	記		切紙	請取
1887	明治9年	記		切紙	質物、後欠
1888	8月10日	再述	松尾寺→井上七左衛門様御家内様	切紙	当月は大師様千年忌、先住様150年忌
1889	(明治)12年1月28日	[出頭依頼状]	下村保護人瀬野利右衛門(印)→余上村保護人井上豊次郎様	罰紙	学校新築等閑
1890	-	明治十一年十二月惣分勘定書		切紙	
1891	-	[書状断簡]		切紙	
1892	巳	染物御通	こんや(印「丹後濱村、西作」)→上村奥本様	横半帳	
1893	-	[餞別包紙]	御祝儀喜右衛門、御餞別瀬野市左衛門、御餞別三郎左衛門、御餞別作右衛門、のし惣七、のし嘉右衛門、五郎左衛門→	切紙	封筒「舞鶴分署當直御中 余部出張 巡查(印「井崎」)」
1894	明治10年正月3日	記	瀬野太左衛門→御惣方様	継紙	若宮桧木、山の神木代
1895	-	キ		折紙	度量衡検査、9年度地券費、行永事件、帳外堤防関係、文書明早天出伺
1896	10月20日	[書状]	上村戸長井上豊次郎(印)→区務御中	切紙	
1897	12月14日	[廻状]	第十区区務所(印「京都府下丹後国加佐郡第十区長印」)→森村方余部上村迄戸長御中	継紙	山岳改租收穫地価に付市場村へ村々戸長・評価人・村惣代3名印形持参出頭、森邨・濱邨・北吸村・余部下村・上村戸長御中、角印封印
1898	(明治)11年10月3日	[書状]	宮津京街道萬町矢野常造→余部上村井上豊次郎様	継紙	先日入来の礼、芋余量あれば世話依頼
1899	明治12年1月19日	貴報	余下村布川莊兵衛→余上戸長井上豊次郎様	切紙	貴家発起宜掛金掛合
1900	-	記	五郎左衛門→奥本様	切紙	金銭
1901	旧4月16日	[書状]	吉坂村福村辰造(印)→加佐郡第六組上村井上奥本様	切紙	見舞忙しく断
1902	巳7月	記	上林屋治左衛門→上村井上様	継紙	料理内訳、1902～1912巻込
1903	明治14年旧7月14日	記	井上奥本→惣兵衛殿	切紙	勘定不足、抹消
1904	-	[買物覚]		切紙	線香・仏茶碗・御菓子・元結
1905	巳7月	記	(印「倉谷紺作」)→上村奥本様	切紙	総染賃
1906	巳7月12日	記	下村利右衛門→上村奥本様	切紙	
1907	巳8月	記	上安久村紺甚→余部上邨奥本様	切紙	染賃
1908	2月14日	証	治左衛門→奥本様	罰紙	渡済
1909	ミ7月14日	証	治左衛門→奥本様	罰紙	渡済

1910	(明治) 14 年旧 7 月 10 日	記	金屋六左衛門(印「丹舞鶴引土新、国松六左衛門」) → 余部上村奥本様	切紙	1 円梅上等 7 升、國松受取印
1911	7 月 5 日	記	原田店 → 奥本御氏様	切紙	新釘
1912	-	[買物覚]		切紙	酒・酢・豆腐・なすび・からし・かんひよ
1913	旧 6 月 11 日	[書状案]	井上奥本 → 若州大飯郡高浜村横町湯浅勘兵衛様	継紙	遠方不都合に付断、端裏書 湯浅勘兵衛様 井上奥本 大至急用
1914	-	小児むしおさへ一角疳虫圖	御免調合所、丹後田辺新町南側田中孫三郎製(印) →	切紙	効能書、包紙「(朱印「一角疳虫圖」) 小児むしおさへ、ねつさまし」木版、薬 10 粒
1915	-	毎月改正明治官員録全	大崎清重編輯 →	一紙	九月改正、東京書舗須原屋茂兵衛・伊勢屋安兵衛発兌、包紙、印刷、表紙のみ 朱書代ツケ
1916	-	人参五 [ ]	越中 [ ] →	一紙	「第一風一切のぼせ、せんき寸白ちの [ ]」袋、下欠、木版
1917	-	酒御通	タンコマイツル糺屋忠兵衛 → 上村御惣分入用	一紙	6 月 12 月 二季勘定、袋
1918	-	議員投票	加佐郡第 6 組余部上村平民井上豊次郎 →	一紙	袋
1919	-	[廻状封筒]	第七番組戸長役場 → 森村、濱村、北吸村、余部下村、余部上村戸長御中	封筒	
1920	-	[封筒]	井上奥本 → 若狭国大飯郡菌部村松岡新助様	封筒	
1921	-	[封筒]	丹後上村井上奥本 → 石山村武藤團様	封筒	
1922	-	[封筒]	丹後国加佐郡余部上村井上奥本 → 若狭大飯郡石山邨武藤團様	封筒	
1923	10 月 6 日	[封筒]	丹後上村井上奥本 → 若州大飯郡石山村武藤團様	封筒	
1924	12 月 17 日	覚	高のや地三郎 → 上	切紙	木綿・たひ等、抹消
1925	(明治) 15 年旧 12 月	記	井上奥本 → 瀬野長右衛門様	継紙	寺頼母子掛金銭渡し送り、抹消
1926	6 月 12 日	覚	牧野主膳 →	切紙	茅五束受納状
1927	7 月 25 日	[出頭依頼状]	第 6 組戸長役場(印) → 余部上村惣代井上豊治郎様	切紙	
1928	-	[御家老御達写]		折紙	今年御領地 200 年御祝、御米下賜、御門主宮津通行人足船川渡等、六條御殿浄念寺 御母堂様病状御伺、すっぽんの生血宜し
1929	4 月 27 日	[書状]	井上奥本 → 湯浅勘兵衛様	継紙	金銭内訳、抹消・イ印 抹消
1930	明治 11 年旧 12 月	記	上村戸長(印「丹後国加佐郡余部上村戸長印」) → 御寺様	継紙	小判代銀送付
1931	2 月 3 日	覚	高野屋地三郎 → 奥本様	切紙	請取
1932	7 月 11 日	覚	六兵衛 → 奥本様	切紙	勘定
1933	-	覚		切紙	
1934	正月 27 日	[書状]	北吸村二而智性院 → 奥元七郎左衛門様	継紙	当月 3 日家祈祷へ迎依頼
1935	8 月 22 日	[書状]	栄助 → 御納所様	継紙	加茂瓜松竹贈物案内
1936	-	記		継紙	菓子、仏、法要品
1937	12 月 13 日	[書状]		継紙	御礼籠酒入来依頼
1938	-	[書状下書]	→ 余部上村井上奥様	継紙	
1939	-	嫡子二家名ヲ譲ラズ後夫入家嘆願書		切紙	悴幼少のため
1940	-	[記]		切紙	白はし、浅草のり品書
1941	旧正月 7 日	[書状]	井上奥本 → 矢野常造様	継紙	招待状、抹消
1942	-	上籠木綿	上安邑仲井清治郎 → 上安邨	切紙	熨斗紙

1943	-	記		繼紙	墨・筆・かんてら、裏節句御礼、御厩青葛葉、海岸防禦
1944	12月9日	記	丹後舞鶴高雄半兵衛(印)→	繼紙	古新酒
1945	(明治)16年7月12日	[書状]	井上豊次郎→秋保圓平様	罫紙	返済依頼、封筒「秋保圓平 井上豊次郎様」
1946	-	[断簡]		切紙 63	断簡、包紙
1947	午	午之年酒之通	壺屋(印)→余部上村庄屋七郎左衛門殿	折紙	
1948	文久2年10月	奉願口上之覚	余部上村庄屋奥本、同断市左衛門→石黒易兵衛様	繼紙	雑木下樵分売払願
1949	安政4年2月	一札之事	北吸村借人惣代三郎左衛門印他3名→余部上村奥本七郎左衛門様	繼紙	勘定手延願、後欠(奥書破損)
1950	戊8月	[触]	→大庄屋共へ	繼紙	村方風水干虫痛検見願、嚴重省略
1951	辰7月21日	[覚]	壺屋(印)→余部上村七郎左衛門殿	繼紙	頼母子取番、前欠
1952	寅12月	覚		繼紙	貸米、破損
1953	天保4年正月吉日	目録	真壁村村上忠兵衛→余部上村井上七郎左衛門様	繼紙	婚礼土産目録
1954	寛政2年11月	伊勢家普請御寄附張	公文名村世話人、伊勢屋九兵衛(印)→余部上村御檀家衆中	縦帳	御師上部因幡太夫
1955	寛政12年7月	酉之年先納銀割帳	余部上村七郎右衛門→	横帳	
1956	酉12月	酒御通	かうしや忠兵衛→余部上村御庄屋七郎左衛門様	横帳	
1957	文久2年10月	奉願口上之覚	余部上村庄屋市左衛門、同断奥本(印)→石黒易兵衛様	繼紙	雑木下樵分売払
1958	享和3年12月20日	進上御目録覚	余部上村七郎右衛門→山内清左衛門様	繼紙	白米・御樽・御肴・扇子
1959	-	奉差上済状一札之事		繼紙	水無月波止場上納、野山・腰林の件
1960	亥12月	戌ノ年指引覚	→上村七郎左衛門様	繼紙	頼母子に付、破損
1961	天保6年12月吉日	状通案紙	井上氏市蔵→	写本	消息手本
1962	文化9年	文化九乃年能始乃申廻し		縦紙	大小曆
1963	-	[和歌]		縦紙	
1964	正月吉日	進上目録	森村助左衛門→上村七郎左衛門様	繼紙	白米・扇子・樽・さかな・手風呂敷、七郎左衛門様、ほうしやう・をふぎ、藤右衛門様、帽子、御内室様、足袋、おつい様、扇子・樽、嘉右衛門様
1965	明治23年3月	[家見取図]	濱村大工野村喜八、今田村木挽嵯峨根由兵衛→	図	明治23年3月家移り、同2月建前
1966	-	乍恐奉願口上之覚		繼紙	御用金三步一減少願、17年前9歳妹疱瘡死去、下部破損
1967	-	[利左衛門石高書上]		横帳	
1968	安永7年2月27日	御香典帳	余部上村藤右衛門→	横帳	銀札1匁 長浜村勘兵衛
1969	酉12月25日	覚	和田村久右衛門→	切紙	銀札300目借用
1970	6月19日	[御用状]	大庄屋九右衛門→余部上村庄屋七郎左衛門殿	繼紙	役所へ召連れ状、庄屋七郎左衛門、年寄長五郎、百姓源蔵
1971	巳9月1日	覚	市郎衛門→上村七郎左衛門様	切紙	はこ鉋、けんのう
1972	辰12月7日	覚	壺屋→余部上村庄屋七郎左衛門様	繼紙	蔵米勘定
1973	-	[記]		横帳	借用、質地
1974	明治18年旧6月20日	記	布川丹治(印「加佐郡余部布川丹治」)→井上七郎左衛門殿代理井上奥本殿	綴3	貸金
1975	-	記		切紙	請取
1976	旧3月3日	記	井上奥本→高橋文七殿	切紙	山
1977	-	地所裂地券状書換願		罫紙	余部上村森が奥山林
1978	-	覚		繼紙	みしまのり、つけき

1979	7月14日	口上	井上奥本→湯浅勘兵衛様	継紙	おとめ身の上案事
1980	5月28日	[書状]	松尾寺→上村二而矢野茂介様	継紙	京にて呉春、大雅堂掛軸、茶碗依頼
1981	-	[横帳断簡]		折紙9	
1982	-	[反古紙]		一紙11	
1983	-	[下書]		一紙130	
1984	-	[包紙]		一紙	大極定長箱
1985	-	山庄略由来	余部上村七左衛門、権之丞→	写本	
1986	享保7年12月	余部上村地坪高帳		豎帳	うつし也、付箋5カ所
1987	宝永8年5月22日	余戸里上村地株高帳		豎帳	
1988	文久元年8月	御高成詰張	庄屋武兵衛→	豎帳	
1989	寛政9年7月	余部村稲草帳	年寄伝右衛門(印)、庄屋七郎左衛門(印)→御奉行様	豎帳	
1990	安政3年2月	卯年諸勘定帳	余部上村、年寄嘉兵衛(印)、庄屋武兵衛(印)、庄屋七郎右衛門(印)→大庄屋真部様	豎帳	
1991	文化10年2月	余部上村高名寄帳	年寄五兵衛、庄屋七左衛門→大庄屋九右衛門	豎帳	
1992	文化5年10月	余部上村新砂入歩畝改帳	関根信介、牛田惣右衛門(印)、莊野市左衛門(印)→庄屋百姓中	豎帳	
1993	明治10年	山論濟口証文写	井上奥本所持→	豎帳	内表紙「山論証文心記」、文化8年、文政8年3月23日
1994	宝永8年4月	余部上村地坪水帳	大庄屋兵左衛門(印)他3名→	豎帳	
1995	貞享2年2月	若狭国佐柿國吉籠城之覚		豎帳	合戦始末の記、書写、喜張、観中、家勝
1996	-	加佐郡城主記録		豎帳	天正10年3月、築城次第・城主名一覽
1997	-	余戸調書	加佐郡余部上村→	綴	地名考・各地収穫高・一色氏調書
1998	明治22年3月8日	墓地反別取調書		豎帳	余部上村各戸墓地
1999	宝暦11年正月吉日	丹後田邊在々高書帳	瀬野味政写→	豎帳	田邊各村取高
2000	安政午(5)年12月	田邊御領内高帳		豎帳	田邊領内米取高一覽、一部散逸
2001	天明元年9月吉日	高物成定引帳		横半帳	
2002	天明2年	高定引覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横半帳	破損
2003	寛(政)6年寅正月	高定引覚帳	余部上村庄屋七郎左衛門→	横半帳	
2004	天明9年正月	余部上村惣遺帳	年寄六郎右衛門(印)、庄屋七郎左衛門(印)→大庄屋武左衛門	豎帳	
2005	天明8年正月	余部上村惣遺帳	年寄六郎右衛門(印)、庄屋七郎左衛門(印)→大庄屋武左衛門	豎帳	
2006	文化12年4月	御会講証文之覚	大庄屋九右衛門組→	豎帳	融通講
2007	弘化3年	年々両会三拾九人拾年半濟仕法講	講元大飯郡両役所→	豎帳	3割1口分
2008	天明元年12月	割合憑母子質地覚帳	余部上村、年寄六郎右衛門(印)、庄屋七郎左衛門(印)→大庄屋倉谷村武左衛門殿	豎帳	奥書：大庄屋倉谷村武左衛門
2009	大正14年4月16日	丹後田邊在々高書帳		豎帳	宝暦11年正月吉日本を伝写、朱字旧語集より訂正分
2010	明治41年3月	丹後旧事記卷十	井上奥本→	豎帳	写
2011	明和4年6月	高物成定引帳		横半帳	
2012	明治	[丹後野乗]	丹後宮津関清謙謹識→	豎帳	写
2013	-	帝国年代一覽		罫紙2	

2014	明治 42 年	余部町史稿	井上奥本→	縦帳	雲門寺、春屋妙葩、応安 3、天正 12、慶長 2 文書、高倉神社所蔵棟札写、綴挟み込み
2015	明治 22 年 2 月	稲害虫取除褒賞割帳	余部上村→	縦帳	
2016	大正 8 年 11 月	蔵書目録	井上奥本→	縦帳	典籍、文書
2017	明治 5 年 11 月 11 日	地券渡方規則	豊岡県田中参事→副戸長瀬野太左衛門、戸長井上奥本	縦帳	井上奥本詰所
2018	明治 5 年 9 月	勝手作願帳	余部上村副戸長瀬野太左衛門、井上奥本、戸長瀬野六兵衛→池田弥太郎様、梅垣西浦様	縦帳	
2019	明治 35 年 7 月	丹州三家物語	近藤圭造→	縦帳	再校、写、一色満範丹後拝領
2020	明治 9 年 6 月	種痘検査年齢表	該村副戸長(印)→	縦帳	余部上村
2021	明治 5 年 5 月	川堤防事間目箇所元調帳	余部上村扣、戸長瀬野六兵衛→	縦帳	普請
2022	明治 10 年 12 月	券状讓書換願	讓渡人瀬野元蔵(印)、讓渡人瀬野乙造(印)、証人井上与右衛門(印)→京都府知事榎村正直殿代理京都府大書記官国重正文殿	縦帳	
2023	明治 20 年 3 月	金円二係ル領収書并二書類綴込	余部上村→戸長役場御中	縦帳	
2024	明治 9 年	[証券印税規則等法令集]	上村→	縦帳	印刷
2025	明治 6 年 1 月 9 日	地券願帳	余部上村井上奥本→	縦帳	文書挟込
2026	-	丹後国諸庄郷保総田数帳目録	成相寺→	縦帳	写、古社寺保存法告示、成相寺、元文 3 年修補
2027	-	国史大系丹但志料		縦帳	
2028	明治 8 年 8 月	余部上村名寄水帳	井上奥本所持→	縦帳	万延元年 12 月の写本、地租改正関係
2029	明治 15 年 12 月	加佐全郡地誌	井上奥本所持→	縦帳	
2030	安政 5 年 10 月	御検見目録仕出シ帳	余部上村奥本→	縦帳	
2031	文化 7 年 6 月	余部上村稻草帳	年寄七五良、庄屋吉左衛門→御奉行様	縦帳	定免 8 つ、惣高 270 石 5 升 4 合 定引：森をく・こゆり・うしろ山・をく山・屋敷引、19 石 7 斗 4 升 3 合 9 勺畑、合 294 石 7 斗 1 升
2032	-	[地租改正反別書上]		綴	山林反別 27 町 3 反、前欠
2033	文久 2 年 2 月	酉之年諸勘定帳	庄屋市左衛門、庄屋奥本→大庄屋甚兵衛様	縦帳	高 294 石 7 斗 2 升 2 合、成詰 260 石 1 合 5 勺、50 石 4 斗御介抱 7 步痛 3 步高、組頭中作右衛門他 7 名→庄屋奥本殿、庄屋市左衛門殿
2034	明治 10 年 9 月	諸式御達類	戸長井上TdbnMoto(印「丹後国加佐郡余部上村戸長印」)→	縦帳	丙 97 号、区長戸長、明治 8 年実地丈地租改正、明治 9 年 7 月 27 日～12 年 4 月 30 日
2035	明治 5 年 3 月	口演	大川神社氏子中→余部上村御役人衆中	縦帳	大川神社破損、寄付依頼
2036	明治 18 年 1 月	地租金及雑種納金簿	余部上村井上奥本→	縦帳	明治 18～昭和 10
2037	明治 5 年 4 月	孫田井根井山ノ神いね願帳	余部上村庄屋六兵衛(印)→豊岡御県庁	縦帳	黒綴代
2038	明治 6 年 3 月	蚕種原紙壳捌改正規則	豊岡県大野権参事→正権区長	縦帳	大蔵省規則・原紙雛形庶務課第 47 号、木版
2039	明治 21 年 9 月	証明願	布川惣七(印)→戸長木船衛門殿	綴	願書控綴
2040	明治 20 年	明治廿年度通常会号外議案		縦帳	地方税戸数割当村負担高戸数等級別一覽表
2041	慶応 4 年正月	[岩倉前中将様御達写]	余部上村井上奥本→	綴	徳川慶喜大政返上將軍職辞退の諸事情達

2042	明治 14 年 3 月	府会議員被撰挙人名簿四	井上奥本所持→	豎帳	京都府布令書、與謝郡新庄村森岡儀兵衛～熊野郡油池村小國仁三郎、印刷
2043	文化 10 年 7 月	作方年中行事	年寄長五郎、庄屋七郎左衛門→筒井権平様	豎帳	元日～大晦日行事、耕作
2044	-	光秀と藤孝 鬼城、吉美村高倉神社縁起、諸州めぐり 益軒		豎帳	新聞切抜
2045	明治 10 年 9 月	諸願伺届雛形	戸長井上（印「丹後国加佐郡余部上村戸長印」）→	豎帳	縁組届～地券讓御裏書願
2046	(大正 13 年)	家名変遷表	余部上村→	豎帳	大正 13～元禄前後約 250 年間、高帳・宗門帳・過去帳
2047	明治 22 年 2 月 17 日	烟草收穫乾上葉量御届	余部上村総代井上奥本→京都府知事北垣國道殿	豎帳	種類劍崎、瀬野金藏（印）他 26 名
2048	明治 11 年 8 月 28 日	不就学年齡取調帳	加佐郡第 10 区余部上村（印「京都府加佐郡余部上村戸長役場印」）戸長井上豊次郎→京都府知事榎村正直殿	豎帳	余部上村井上福蔵妹さよ 11 年 7 ヶ月、平日病身他 13 通
2049	明治 6 年 12 月 27 日	明治七年一月御布告	豊岡県参事田中光儀→正権区長	豎帳	太政大臣三条実美他、印刷
2050	明治 21 年	酒之通	（印「丹舞鶴竹屋町真下仁藏」）→余部上村御役人中様	横半帳	明治 21 年 2 月～22 年 1 月
2051	明治 30 年旧 6 月 18 日	村諸帳面并諸道具受取簿	区長瀬野相藏（印）他 9 名→元区長井上奥本殿	豎帳	地坪水帳他
2052	明治 5 年 5 月	諸色証文控帳	戸長六兵衛→	豎帳	地所永代売買
2053	明治 5 年 5 月	慶応三卯方明治四未迄村割川除間積帳	余部上村副戸長与右衛門、戸長六兵衛→豊岡県御役所	豎帳	
2054	明治 5 年 5 月	慶応三卯方明治四未迄村割川除間積帳	余部上村控→	豎帳	
2055	明治 11 年 9 月	諸願伺進達類	戸長井上TdbnMo→	豎帳	出産報告
2056	明治 6 年 4 月	〔諸通達法令集〕	豊岡県大野権参事→正権区長	豎帳	金穀貸借利息、印刷
2057	明治 10 年 2 月 10 日	〔諸通達法令集〕	第 10 区区務扱所（印）→溝尻村他 11 村	豎帳	医師履歷再送、印刷
2058	明治 4 年 7 月	稲草ノ書帳	庄屋六兵衛→	豎帳	
2059	明治 3 年 3 月	〔出産届綴〕	余部上村 41 番戸平民瀬野兵左衛門（印）他→第 10 区区務所御中	綴	明治 11 年 3 月～12 年 1 月
2060	-	〔山林地租書綴〕		豎帳	余部上村
2061	-	〔諸土地反別地租書雛形〕		豎帳	
2062	-	所持田畑一筆限帳	余部上村副戸長瀬野太左衛門、戸長井上奥本→	豎帳	余部上村持主井上奥本
2063	明治 12 年旧正月	〔地稅等諸納金書綴〕		綴	
2064	-	式番帳		豎帳	田別畝数・人名
2065	文久 3 年 9 月	晩田稲痛下見帳	余部上村→	豎帳	〔田別畝数人名書上帳〕と合冊
2066	明治 6 年 1 月 12 日	地券願上候二付反別調帳	余部上村奥本→	豎帳	
2067	-	地所売渡し取調控		豎帳	
2068	明治 9 年 4 月	現地反別總計簿	第拾区余部上村井上奥本所持→	豎帳	
2069	-	〔俳句帳〕		横半帳	
2070	-	〔俳句帳〕		横帳	
2071	慶応 3 年 3 月 吉祥日	天台金毘羅様再建寄進覚帳	余部上村世話方武兵衛、奥本→	横帳	
2072	明治 2 年正月 13 日	死去之節香代覚帳		横帳	
2073	明治 14 年 1 月	巡回簿	余部上村総代→	横帳	宮津警察署市場分署
2074	明治 5 年 11 月	家数番号覚帳	余部上村戸長井上奥本→	横帳	表題抹消線、2074・2075 紐
2075	-	〔異動届〕		横帳	稼・縁付・養子
2076	明治 3 年正月 10 日	天台寺寄進帳	余部上村世話方中→	横帳	2076～2099 紐「井上家関係」



2077	慶応4年正月吉日	天台寺寄進名寄帳	余部上村世話方中武兵衛、奥本→	横帳	
2078	弘化4年12月吉日	孫兵衛働人数帳		横帳	
2079	嘉永2年正月吉日	孫兵衛働人数帳	奥本→	横帳	
2080	嘉永4年正月吉日	亥之年日記帳	奥本→	横帳	米つき、餅つき、みのあみ、たわらあみ
2081	嘉永2年正月吉日	田畑預ケ口覚帳	奥本→	横帳	
2082	明治9年旧正月	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2083	明治19年旧正月	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2084	明治23年旧正月	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2085	明治21年旧正月	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2086	明治16年旧正月	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2087	明治13年旧正月吉日	金銭出入相改帳	井上性→	横帳	
2088	明治11年旧正月	金銭出入相改帳	井上豊次郎→	横帳	
2089	明治25年旧正月	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2090	明治12年旧正月吉日	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2091	明治26年旧正月	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2092	明治14年旧正月吉日	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2093	明治22年旧正月上3日	金銭出入相改帳	余部上村井上奥本→	横帳	
2094	明治15年旧正月	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2095	明治20年旧正月	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2096	明治24年旧正月	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2097	明治10年旧正月	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2098	明治17年正月	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2099	明治18年旧正月	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2100	-	[御見分出郷書上]		横帳	人数、献立
2101	(明治)18年3月5日	村金預り金高記帳	余部上村井上喜右衛門→	横帳	
2102	-	[榎川石堰図]		図	彩色、2102～2109包紙「絵図入、余部上村戸長」一括
2103	-	[榎川石井堰埋土図]		図	字谷、前田
2104	-	[余部上村山図]		図	彩色、奥山、才が谷、後山、森が奥
2105	-	[余部上村図]		図	彩色、河川、道
2106	-	[余部上村葉竹山焼失図]		図	彩色、余部上村・北吸村入会
2107	-	[耕地図]		図	彩色、原図
2108	文化10年	[江戸御府内図]	神田弁慶はし丸屋文右衛門→	図	彩色、木版
2109	明治6年5月	[村見取図雛形]		図	彩色、田畑、墓地、寺社、郷蔵、小物成場、山林、土手
2110	(文政5)12月22日	松平伯耆守様御領地丹後宮津郷訴之荒増	鍋屋喜兵衛→水嶋何某様	継紙	文政一揆、文政6年正月20日写
2111	9月26日	[書状]	松尾寺納所→	継紙	京都へ取引、銀御返納依頼
2112	2月20日	[書状]	鹿原山納所→上村七郎左衛門様	継紙	拙寺会講開催
2113	6月6日	[書状]	松尾寺→井上七郎左衛門様	継紙	脇差調達
2114	初冬4日	[書状]	松尾寺→井上七郎左衛門様	継紙	先月札1貫目出来延引
2115	8月9日	覚	鍋屋嘉兵衛(印「但州豊岡鍋屋嘉兵衛」)→余部上村井上奥本様、瀬野太左衛門様、惣兵衛様	折紙	酒、鯖すし、鯖作り身
2116	11月11日	[書状]	松尾寺→井上七郎左衛門様	継紙	来春御恩借依頼
2117	-	[書状]		一紙	後欠
2118	1月24日	口上	松尾寺納所→七郎左衛門様	継紙	結縁勸請授与
2119	7月6日	[書状]	松尾寺→余部上村井上七郎左衛門様	継紙	痲瘡御守子供衆3人分進上

2120	7月18日	[書状]		一紙	堀村覚右衛門様より内々取持
2121	12月1日	[書状]	松尾寺→上村井上御内様	継紙	市蔵翁清書見事、手本差上
2122	-	記		一紙	金額、名前
2123	-	[書状]	文口口→井上様	継紙	貴殿不都合、出席依頼、前欠
2124	午12月9日	[書状]	松尾寺納所小林雅楽(印)→井上七郎左衛門様	継紙	御借用早速調達
2125	-	[書状]	松尾寺納所→余部上村井上七郎左衛門様	一紙	後欠
2126	11月17日	[書状]	松尾寺理観→上村奥本七郎左衛門様	一紙	京都院主方より金子
2127	-	丸亀ヨリ金毘羅善通寺彌谷寺案内図	富屋町原田屋→	図	木版、破損、2127～2132
2128	-	[立花図]		図	
2129	-	[立花図]		図	
2130	-	[立花図]		図	
2131	天保13年春	[立花図]	(印「御家元書林摺り物所村上勤兵衛」)→	図	家元41世立調、木版、破損
2132	-	[立花図]		図	2128と同図
2133	(明治38年)	非常特別税々率及新税一覧表		一紙	印刷
2134	(明治)26年2月8日	[葉書]	余内村農会(印)→余部下布川範兵衛殿	一紙	農事統計表調査
2135	(明治)26年2月4日	[葉書]	加佐郡余内村農会事務所→余部下布川範兵衛殿、井上豊治郎殿	一紙	本府勸業課村上属出張
2136	(明治)5月14日	[葉書]	紺屋町依田勤兵衛→余部上村井上奥本殿	一紙	西京より下り荷物
2137	(明治)39年3月21日	[書状]	但馬城崎郡氣比村山本秀一→余部上井上奥本様	罰紙	父在世中御厚情、封筒
2138	(明治)旧12月9日	[書状]	滋賀県大飯郡武藤團→井上豊次郎様	一紙	当瞬金子借用返済、封筒
2139	明治19年5月26日	[通知]	元京都駅通出張局心得一等郵便局長大野省内→井上豊次郎	罰紙	郵便切手売下所廃止、印鑑掛札返納、2139・2140封筒「市場村村田弥惣兵衛、郵便局」
2140	明治19年5月30日	[書状]	市場郵便局(印)→	一紙	別紙印鑑掛札返納
2141	-	[書状]		継紙	出産子の初節句
2142	明治22年7月	廢嫡願	余部上村井上嘉右衛門→	罰紙	病虚弱、親類惣代井上豊次郎
2143	-	町買物覚		継紙	親3回忌
2144	-	舞鶴局ヨリ各地小包取扱局二至ル里程表	舞鶴郵便電信局→	一紙	印刷
2145	明治26年3月	小包郵便物差出人注意	舞鶴郵便電信局→	一紙	印刷
2146	-	[田畑面積図]		図	
2147	明治10年8月	上村諸上納判取簿	上村戸長(印)→	罰紙	表紙、破損
2148	明治11年1月	御布告綴込	加佐郡第拾区戸長井上豊次郎→	豎帳	京都府布告、印刷
2149	明治12年1月	御布告綴込	戸長井上奥本→	豎帳	京都府布告、印刷
2150	明治24年7月20日	日本昔噺第十九号大江山(OYEYAMA)	東京下谷上根岸町17番地長谷川武次郎発行→	刊本	彩色、印刷
2151	明治6年5月	地方官心得書	井上奥本所持→	豎帳	大蔵省達、写
2152	明治16年12月4日	決衆講社	丹後国加佐郡余部上村→	豎帳	黒住教教徒、教会
2153	明治15年4月	諸記録文書保存目録	余部上村戸長役場、用掛瀬野太左衛門→京都府知事北垣国道殿	豎帳	表紙朱字「甲号」
2154	明治5年4月	[高反別調帳]	余部上村大兵衛→大庄屋江上甚兵衛様	豎帳	裏表紙「御名寄水帳」
2155	明治7年8月	申之民費取調帳	加佐郡余部上村(印)→	豎帳	
2156	明治20年10月15日	告諭第八号	井上奥本→	豎帳	西南戦争に紙幣増発、銀貨の差拡大、戸数掛金

2157	明治5年4月	高反別調帳	余部上村庄屋六兵衛(印)→	豎帳	
2158	明治5年8月	御倭見内見願帳	余部上村副戸長瀨野太左衛門(印)、井上奥本(印)、戸長瀨野六兵衛→15第区区長所	豎帳	
2159	明治5年正月	三区之内十八戸籍改帳	余部上村副戸長瀨野六兵衛(印)→御役所様	豎帳	
2160	明治21年12月31日	村諸帳面并諸道具附送簿	元総代瀨野喜佐吉他5名→総代井上奥本殿	豎帳	
2161	明治21年1月5日	明治廿一年度後期勤勉蓄金取立帳	加佐郡余部上村総代井上奥本→	豎帳	
2162	-	所持田畑年限り減余歩調		綴	雛形
2163-1	明治5年4月	高反別調帳	余部上村控→	豎帳	
2163-2	明治5年4月	高反別調帳	余部上村庄屋六兵衛(印)→大庄屋江上甚兵衛様、副区長見習上羽與左衛門様、副区長木船衛門様	豎帳	
2163-3	明治5年8月	高反別調帳上り帳控	余部上村副戸長瀨野太郎左衛門、同奥本(印)、戸長瀨野六兵衛→豊岡御役所	豎帳	
2164	明治17年5月15日	券状裏書願	加佐郡余部上村譲渡人井上豊次郎、譲請人井上奥本、濱村親類惣代西埜米蔵→加佐郡長野田新殿	綴	
2165	明治15年4月	戸籍番号并二名簿	余部上村戸長井上豊次郎(印)→	豎帳	
2166	明治3年11月	余部上村新砂入歩畝改帳	高嶋史生(印)、秋田史生(印)→庄屋百姓中	豎帳	
2167	明治6年5月29日	御布告	戸長→	豎帳	太政大臣三条実美他布達、印刷
2168	明治4年2月	古砂入帳	余部上村→	豎帳	裏表紙「新砂入帳」
2169	明治9年1月	現地反別地価総計帳	加佐郡第15大区5小区余部上村→	豎帳	
2170	明治6年2月15日	屋敷高反別改帳	余部上村副戸長瀨野太左衛門、戸長井上奥本→	豎帳	
2171	明治12年	[村内20歳届]	→第六組戸長上羽與左衛門殿	綴	
2172	明治6年6月	[諸通達法令集]	豊岡県大野権参事→正権区長	豎帳	印刷
2173	明治16年5月1日	村総代日勤瀨野喜佐吉帳簿渡し口	加佐郡第6区余部上村井上豊次郎→	豎帳	帳簿引渡目録
2174	明治13年3月22日	券状裏書願	売渡人井上清兵衛、買請人瀨野太郎兵衛、戸長上羽與三左衛門→加佐郡長野田新殿	豎帳	
2175	-	書帳告精調候条伺		綴	土地再調査
2176	明治11年5月9日	券状讓書換願	譲渡人瀨野元藏、譲渡人瀨野直左衛門、戸長井上豊次郎→京都府知事榎村正直殿	豎帳	
2177	明治10年12月	券状讓書換願		豎帳 2	雛形、田畑売渡証を添付
2178	明治9年4月	現地反別地価総計帳	余部上村百姓総代瀨野作左衛門、上野嘉兵衛、井上與衛門→	豎帳	
2179	明治9年4月	現地反別地価総計帳	余部上村百姓総代瀨野作左衛門、上野嘉兵衛、井上與衛門→	豎帳	
2180	明治6年11月7日	御布告	豊岡県参事田中光儀→正権区長	豎帳	井上奥本、瀨野太左衛門、印刷
2181	明治30年	後証綴	余部上区長→	豎帳	区長事務引渡済御届
2182	明治30年	達示綴	余部上区→	豎帳	
2183	明治5年4月	高反別調帳	余部上村庄屋瀨野六兵衛(印)→豊岡御県庁	豎帳	
2184	明治5年4月	高反別調帳	余部上村庄屋瀨野六兵衛(印)→豊岡御県庁	豎帳	
2185	明治5年4月	高反別調帳	余部上村庄屋瀨野六兵衛(印)→豊岡御県庁	豎帳	
2186	明治29年	契約書雛形		横帳	鎮守府開設による土地買上、コンニャク版
2187	明治5年9月	御布令書写帳	井上奥本→	豎帳	宮華族寺院名目貸付銀

2188	明治5年8月	高反別調帳上り帳控	余部上村→	豎帳	余部上村副戸長瀬野太左衛門・戸長井上奥本→豊岡県参事田中光儀殿
2189	明治5年2月	舞鶴局管下第三区之内戸籍調帳	余部上村、第3区戸長江上甚兵衛、副戸長瀬野六兵衛→御役所様	豎帳	50軒、214人
2190	明治5年8月	御検見内見願帳	余部上村副戸長瀬野太左衛門(印)、井上奥本(印)、戸長瀬野六兵衛→豊岡御役所	豎帳	
2191	明治5年2月	舞鶴局管下第三区之内戸籍調帳	余部上村副戸長瀬野太左衛門(印)、井上奥本(印)、戸長瀬野六兵衛→	豎帳	
2192	明治12年3月20日	地価小前総計簿	加佐郡余部上村戸長井上→	豎帳	
2193	明治11年	[諸書類綴]		綴	綴外
2194	明治6年12月	[村内20歳免役届]	加佐郡余部上村戸長井上奥本→	豎紙	
2195	-	[田痛反別書]		豎紙	
2196	明治5年9月	人別調帳	副井上奥本(印)、同瀬野太左衛門(印)→玖津見弘人様	豎帳	生年月日、続柄、名前、旦那寺、表紙に「宿魚吉」記入、2196～2202箱
2197	明治15年1月	地所質入書入売買奥印簿	余部上村戸長井上豊治郎(印「京都府加佐郡余部上村戸長役場印」)→	豎帳	
2198	-	奉願口上書之覚		豎帳	余部下村雲門寺先住・生野銀山禅祖寺隠居師直至道和尚弟子恵寿一件、裁許願状
2199	明治8年3月1日	戸籍取調帳	余部上村井上奥本→	横帳	生年月日、続柄、名歳、13軒
2200	明治20年3月12日	諸願伺進達控	加佐郡余部上村→	豎帳	退校御届他、表紙は反古紙
2201	明治29年5月	軍港市街記	井上春光→	豎帳	明治29年5月より工事築造建築土木請負諸物品買上等の次第、本村従前の沿革軍港に接し村内の新市街道路間数家作り、鉄道着手一切の模様、鎮守府附近地図添付
2202	明治35年5月20日	初版舞鶴鎮守府例規全	舞鶴鎮守府→	刊本	舞鶴鎮守府司令官東郷平八郎命令書、印刷
2203	明治36年6月14日	鎮守府所在地余部町市街町名明細図	余部本町1丁目田刻→	図	海軍所轄地塚、山岳、道路、彩色、印刷、2203～2216木箱一括
2204	-	[余部町区域図]		図	小字名、新旧道路、印刷、手書
2205	明治33年8月	鎮守府玉座正面		図	建築着手
2206	-	丹後国沿革		綴	京都府所轄まで
2207	-	舞鶴軍港道路開通式順序		綴	式次第、配置図
2208	明治36年1月26日	舞鶴鎮守府付近倉梯新市街町名明細図		図	明治35年11月21日命名式、彩色、印刷
2209	-	[ボートレース・余興次第・図]	舞鶴鎮守府→	図	印刷
2210	-	舞鶴水交社西洋館新築之図	舞鶴鎮守府→	図	正面、妻側、平面、印刷
2211	明治37年2月14日	清韓日露地図	大阪心齋橋筋安堂寺町西入又間精華堂発売→	図	彩色、印刷
2212	-	[鎮守府建物外観間取図]		図	司令長官、玉座
2213	-	舞鶴軍港道路開通式順序		綴	式次第、余興演目・煙火打上順、印刷
2214	-	舞鶴新市街道路改修略図		図	東舞鶴市街・中舞鶴市街配置図、印刷

2215	-	加佐郡余部町全図		図	山林、人家、耕地、彩色
2216	-	[書、行万水最処]	大坪道人書→	一紙	
2217	明治8年12月	現地反別地価一筆限明細帳	余部上村井上奥本所持→	豎帳	計36町9反8畝17歩
2218	明治6年3月	御布告	第15大区5小区余部上村→	豎帳	太政官、印刷
2219	明治6年2月1日	御高改帳	戸長井上奥本→	豎帳	287石3斗5升1勺
2220	明治6年6月	田畑屋敷山林小前帳	加佐郡余部上村→	豎帳	
2221	明治5年5月	慶応三卯方明治四未迄村割川除間積帳	余部上村副戸長井上与右衛門(印)、戸長瀬野六兵衛(印)→豊岡県御役所	豎帳	
2222	明治6年1月14日	屋敷反別覚帳	余部上村戸長奥本→	豎帳	
2223	-	[田畑屋敷書上帳]		豎帳	
2224	明治5年8月	御検見内見帳	余部上村戸長井上奥本→	豎帳	反古紙使用
2225	明治5年5月	丹後国加佐郡余部上村川々堤防等目箇所取調帳	余部上村副戸長瀬野太郎衛門、戸長井上奥本→	豎帳	井上奥本扣
2226	明治6年1月14日	御布告	余部上村、井上奥本信秀(花押)→	豎帳	豊岡県庁
2227	明治22年1月1日	諸達綴込	余部上村総代井上奥本→	豎帳	
2228	(明治)22年2月6日	村有物慣行調書	余部上村井上奥本→行永村外11ヶ村戸長役場御中	豎帳	村中持、午頭天王社、薬王寺社、用水慣行
2229	明治22年3月6日	地方税地租割戸数割共、地租調帳	加佐郡余部上村→	豎帳	
2230	明治22年6月9日	ながうたむかしはしのわけ	おくもとまさより→	豎帳	「童話長編」、写
2231-1	明治22年1月	自家用料醤油製造届	加佐郡加佐郡餘部上村→	豎帳	余部上村瀬野金蔵(印)他43名→第4区租税検査員御中、2231-1~2合冊
2231-2	明治22年1月	自家用料醤油石数及人員調書	加佐郡加佐郡餘部上村→	豎帳	
2232	明治15年1月31日	証	加佐郡余部上村戸長井上豊治郎(印)→加佐郡長野田新殿	豎帳	地租税・戸数税他租税
2233	明治7年2月	奉伺口上之覚	→地券御役所	綴	堤防入費御規則伺
2234	明治16年	皇国地誌編輯之例則調査	加佐郡余部上村戸長瀬野喜佐吉→	豎帳	郡村誌控
2235	明治22年1月1日	諸願伺進達控	加佐郡余部上村→	罫紙	入学・出稼・結婚届他
2236	明治7年1月3日	元大神宮正遷宮報知書文	丹後外宮神官(印)、祠掌河田正雄→	冊子	木版、破損
2237	明治20年3月11日	諸達綴込	加佐郡余部上村→	綴	村集会員点数表他
2238	明治13年	御布令綴込	丹後国加佐郡第6組余部上村→	豎帳	虎列刺病人届他
2239	明治7年4月11日	野山取調帳	豊岡県官下15大区5小区余部上村、戸長井上奥本、副戸長瀬野太左衛門→	豎帳	
2240	明治5年	文化十一年宗門帳、明治五年戸籍	余部上村→	豎帳	表、反古利用
2241	明治5年8月19日	加佐郡余部上村土目録	副戸長瀬野太郎衛門(印)、戸長井上奥本(印)→	豎帳	
2242	明治7年2月	産物取調帳扣	余部上村、副戸長瀬野太左衛門、戸長井上奥本→田中光儀殿	豎帳	
2243	明治29年旧12月29日	村諸帳面并諸道具附送簿	元区长瀬野磯蔵(印)→区长井上奥本殿	豎帳	
2244	明治8年10月29日	木小屋普請職人日雇諸事覚帳	余部上村井上奥本→	横帳	
2245-1	明治8年1月	金残穀貸附判取帳	加佐郡第15大区5小区余部上村井上奥本→	横帳	2245-1~2綴
2245-2	明治8年1月	金残渡シ口判取帳	加佐郡第15大区5小区余部上村井上奥本→	横帳	
2246	-	上安久堤普請人足覚		綴	
2247	-	十二月取納		横帳	
2248	明治7年5月吉祥日	地券懸役別段之勤覚帳	井上奥本→	横帳	

2249	明治3年正月	万金方覚帳	井上奥本→	横帳	
2250	明治4年正月吉日	金方万覚帳之控	奥本→	横帳	
2251	明治5年正月	借入金方覚帳	井上奥本→	横帳	
2252	明治7年1月	万覚帳自身心覚	余部上村井上奥本→	横帳	
2253	明治30年正月吉辰	年中日傭雇記入帳	井上奥本→	横帳	
2254	明治21年旧12月	総遣割帳	余部上村総代井上奥本→	横帳	
2255	明治22年1月4日	明治二十二年度人足記帳	加佐郡余部上村総代井上奥本→	横帳	
2256	明治6年5月朔日	戸長留守中万事受取預り置帳	井上奥本戸長留守中名代→	横帳	
2257	明治22年1月6日	明治二十一年度第四期教育費役場費村費取立帳	加佐郡余部上村総代井上奥本→	横帳	
2258	明治29年旧12月	総遣帳	余部上区長→	横帳	
2259	明治22年1月1日	村惣分諸費取替帳	余部上村総代→	横帳	
2260	-	[年賦元利書上]		折紙	安政2年12月より
2261	明治11年8月4日	太鞍井二屋具楽金割帳	余部上村戸長井上豊次郎→	横帳	出金覚添付
2262	明治14年1月1日	郵便切手売下簿	第6組余部上村井上奥本→	横帳	
2263	明治7年1月	地所質入并二売買諸証文控帳	余部上村役人中→	横帳	
2264	明治11年1月	証券印紙郵便切手配分帳	余部上村→	横帳	
2265	明治20年旧2月19日	村惣分并二総代事務所入用帳	井上豊次郎→	横帳	
2266	-	村金利子	奥本→	横帳	
2267	明治9年1月31日	村積金帳	受付井上豊次良、上野弥右衛門→	横帳	
2268	明治12年1月30日	村積金出入帳 扣	井上奥本→	横帳	
2269	明治21年旧12月21日	惣分基金割二付入費買物		横帳	
2270	慶応2年8月吉日	早稲晚稲刈上覚帳	井上奥本→	横帳	
2271	明治9年旧10月29日	祭礼入用割帳		横帳	
2272	明治4年9月	御見分入用取替帳	庄屋六兵衛→	横帳	
2273-1	明治7年2月吉日	年中万覚帳	井上奥本→	横帳	2273-1～2綴、文書こより綴
2273-2	明治7年2月吉日	種揃田畑預ケ口覚帳	井上奥本→	横帳	
2274-1	-	種揃覚		横帳	2274-1～2綴
2274-2	明治3年正月吉日	田畑預ケ口覚帳	井上奥本→	横帳	
2275	明治30年正月吉日	種揃并田畑預ケ口人別帳	井上奥本→	横帳	
2276	明治31年正月吉日	種揃并田畑預ケ口人別帳	井上奥本→	横帳	
2277	明治29年正月吉日	種揃并田畑預ケ口人別帳	井上奥本→	横帳	
2278-1	明治12年1月20日	八田村ヨリ上福井迄字大船峠迄車道入費割帳	総代井上式蔵→	横帳	
2278-2	明治22年3月	明治廿年七月より廿一年六月迄村費割帳	餘部上村→	横帳	
2279	明治3年9月吉日	早稲晚稲茹上覚帳	井上奥本→	横帳	
2280	明治2年正月吉日	田畑預ケ口人々名寄覚帳	井上奥本→	横帳	



2281	(明治 14 ~ 32 年)	〔受取書等綴〕	丹後国加佐郡余部上村井上奥本所持→	綴	「明治 14 年分田税四期納」～「記、加佐郡地図等、32 年旧 3 月 丹後国舞鶴町字丹波榮正堂坂根善蔵」、表紙欠損木版
2282	寛政 11 年	丹波国大絵図 全	皇都書肆堀川六角下儿町中川藤四郎、三条通柳馬場角堺屋仁兵衛→	図	
2283	-	丹後旧事記 卷一卷二共三冊		縦帳	蔵書印「井上諧堂蔵書」、写
2284	-	丹後旧事記 卷三四共三冊		縦帳	蔵書印「井上諧堂蔵書」、写、同上
2285	-	丹後州宮津府志拾遺	小林玄章再校→	縦帳	写
2286	-	宮津記		縦帳	表紙破損
2287	-	丹後国延喜式神社考誌 加佐郡之部		縦帳	
2288	-	丹後国一色軍記		縦帳	
2289	-	大日本史抄		縦帳	
2290	-	丹後旧事記 卷三拾遺 卷五 卷六 卷七 卷八 卷九 卷十		縦帳	天明 3 年其白堂信佶撰、文化 7 年国康訂正、写、共三冊
2291	-	味進受取覚	市左衛門→奥本様	継紙	
2292	11 月 7 日	口述	学校訓導→上村井上豊次郎様	切紙	米肉受取礼、学校標札
2293	旧 12 月 25 日	〔書状〕	はま村嘉右衛門→上村奥本様	継紙	頼母子会講
2294	明治 9 年旧正月 25 日	〔書状〕	井上奥本→矢野茂助様	継紙	年賀挨拶
2295	9 月 25 日	代舌	同長滨江上泰助→保護人上村井上豊次郎様	切紙	出町印形持参依頼
2296	-	覚	奥本→喜右衛門殿	継紙	貸金
2297	12 月 9 日	〔書状〕	武藤團→井上奥本様	罫紙	愛子御祝申上、羽織進呈
2298	明治 9 年 12 月 17 日	〔詰所移転通知〕	拾区詰所詰合中(印)→濱村ヨリ余部上村迄受付所中	罫紙	詰所森村長雲寺から行永村怡雲庵移転、封筒
2299	6 月 28 日	〔封筒〕	保護人下村瀬野利右衛門(印)→保護人上村井上豊次郎様	封筒	
2300	3 月 2 日	覚	小倉村大右衛門→余部上村七郎左衛門様	切紙	受取、2300 ~ 2303 綴
2301	巳 2 月 20 日	覚	魚屋清右衛門→上村七郎左衛門殿	切紙	ころひ
2302	巳正月 18 日	覚	上安久村兵右衛門→上村七郎左衛門殿	継紙	勘定
2303	-	人数覚		切紙	
2304	-	元余部上村公民		罫紙	余内村議員見込人
2305	-	〔上畑方下〕		罫紙	村畑地等級
2306	明治 35 年 11 月 11 日	〔福知山連隊司令官新任通知〕	余部町役場(印)→	一紙	
2307	明治 35 年	府税戸数割等差方法		綴	等級別人名簿
2308	-	献立記		一紙	
2309	-	覚		縦紙	借用銀、弘化元、嘉永元、下書
2310	昭和 23 年 4 月 25 日	新舞鶴	地理調査所→	図	大正 9 年測図 1/25,000、2310 ~ 2329 袋
2311	昭和 23 年 4 月 25 日	舞鶴	地理調査所→	図	大正 9 年測図 1/25,000
2312	昭和 29 年 11 月 25 日	宮津	地理調査所→	図	明治 25 年測図 1/50,000
2313	昭和 27 年 2 月 25 日	舞鶴	地理調査所→	図	明治 26 年測図 1/50,000
2314	昭和 26 年 5 月 25 日	綾部	地理調査所→	図	明治 26 年測図 1/50,000
2315	昭和 30 年 4 月 25 日	綾部	地理調査所→	図	明治 26 年測図 1/50,000
2316	昭和 27 年 8 月 25 日	京都東南部	地理調査所→	図	明治 42 年測図 1/50,000、川彩色
2317	昭和 22 年 10 月 25 日	宮津	地理調査所→	図	明治 25 年測図 1/25,000



2318	(昭和 39 年)	第 1 回日本建築祭案内 図		図	東京、早大理工学部、 オリンピック関連施設
2319	-	京都市街図	立誠社→	図	観光案内図、西京大学
2320	-	京都観光案内図	福井朝日堂→	図	西京大学
2321	昭和 27 年 12 月	日本商工業別明細図、 福知山市、綾部市	東京交通社→	図	
2322	昭和 30 年 8 月 25 日	大江山	地理調査所→	図	明治 26 年測図 1/50,000、一部彩色
2323	-	新日本分県地図滋賀 県	日地出版→	図	1/200,000
2324	昭和 8 年 4 月 1 日	新東京中央全図	九段書房→	図	1/33,000
2325	-	東京遊覧はとパス	新日本観光→	図	
2326	-	東京遊覧はとパス	新日本観光→	図	
2327	-	東京遊覧はとパス	新日本観光→	図	
2328	-	京都府	日下和樂路屋→	図	1/400,000
2329	5 月 27 日	[葉書]	大連満州第 3112 部隊中道隊宇留間 昂之→東舞鶴市余部井上七良様	一紙	満州も夏、裏：南山の 乃木將軍詩碑写真
2330	昭和 6 年 10 月	郷土調査	中舞鶴尋常高等小学校→	刊本	ガリ版刷
2331	昭和 6 年 9 月	郷土史	中舞鶴小学校調査部→謹呈井上奥 本殿	刊本	ガリ版刷
2332	大正 15 年 8 月	大正十四年加佐郡中 舞鶴町現勢一斑	中舞鶴印刷所印行→	一紙	印刷
2333	明治 45 年 4 月	維新以前地方民政制 度沿革及事蹟調査書	京都府加佐郡余部町→	刊本	調査委員井上奥本、「余 部町井上奥本」印、印 刷
2334	昭和 7 年 6 月 1 日	置町参拾年史	中舞鶴町役場→	刊本	編輯者瀬野泰蔵
2335	明治 44 年 5 月 8 日	[舞鶴軍港余部案内 記]	余部案内編纂会→	刊本	前後欠
2336	-	[丹後守護・国主書上]		一紙	元亨～天正、方眼紙
2337	大正 13 年 10 月 1 日	日刊丹州時報	発行所舞鶴町字堀上 185 番地株式 会社丹州時報社→	刊本	発明奨励の必要他
2338	明治 43 年 5 月 18 日	大阪朝日新聞		刊本	大破
2339	昭和 14 年 12 月 28 日	大阪朝日新聞		刊本	山西省殲滅戦の花他、 大破
2340	昭和 16 年 9 月	日本諸学振興委員会 研究報告 特輯第二篇 (哲学)	教学局編纂→	刊本	
2341	平成 2 年 5 月 31 日	新興の舞鶴、中舞鶴号	新興の舞鶴発行所→	刊本	明治 44 年 10 月 5 日発 行、復刻版、瀬野祐幸、 出版センターまひつる
2342	-	岡本氏孫流系譜巻		冊子	原稿用紙
2343	-	宮津町の母体に就いて	永濱宇平→井上奥本大雅	刊本	
2344	-	丹後守護一色家系譜 私考		冊子	吉津村誌編纂原稿用紙
2345	-	丹後一色氏系譜		一紙	元亨～慶長、方眼紙
2346	-	達第 159 号	余内村役場→区長御中	切紙	教員講習会開催、コンニ ャク版
2347		維新以前民政制度沿 革及事蹟調査		冊子	西大浦村分、他地区「維 新以前民政制度沿革及 事蹟調査」は明治 44 年 調査、コピー
2348	-	[写真]		写真 31	家族写真、袋入
2349	昭和 48 年 4 月 29 日	虹	嵯峨根藤枝→	刊本	我が父に捧ぐ
2350	昭和 7 年 10 月 8 日	創立十周年記念地方 先賢追慕会講話集	京都府立舞鶴中学校→	刊本	谷口元三郎編集
2351	昭和 59 年 2 月 5 日	独り居のたわごと	瀬野シズ、編集瀬野昌彦→	刊本	明治 40 年 8 月 29 日生 の婦人の思出記録
2352	昭和 59 年 5 月 13 日	独り居のたわごと (II)	瀬野シズ、編集瀬野昌彦→	刊本	明治 40 年 8 月 30 日生 の婦人の思出記録

2353	-	丹後志資料 夕 雑纂 三		冊子	田数目録・御檀家帳・ 大日本史等抜粋、原稿 用紙
2354	-	〔丹後志資料〕 スセソ		冊子	寺院・地名、原稿用紙
2355	-	〔丹後志資料〕 ナ行		冊子	寺院・地名、原稿用紙
2356	-	〔丹後志資料〕 ヤ行		冊子	寺院・地名、原稿用紙
2357	大正 15 年 6 月	郷土史料		冊子	雲門寺縁起概要、余部 下村誌、瀬野りつ女、丹 後一色氏年譜
2358	大正 15 年 2 月	丹後志資料 田数帳ト 尾張史系図	井上奥本→	冊子	
2359	-	加佐郡余部町全部		冊子	維新以前民政制度沿革 及事蹟調査
2360	-	加佐郡東雲村		冊子	三日市・上東・下東・ 中山・水間
2361	-	維新以前地方民政制 度沿革及事蹟調査 加 佐郡丸八江村		冊子	八戸地及八田、「加佐郡 域町村小字名一覧表」 綴挟み込み
2362	-	加佐郡丸八江村、全有 路上村		冊子	丸田・和江・北有路・ 南有路
2363	-	加佐郡岡田下村、全西 大浦村、全朝来村		冊子	大川・久田美・志高
2364	大正 9 年 10 月 10 日	尋常小学国語書キ方手 本 第四学年用上	発行所東京書籍株式会社、発行者 文部省→	刊本	裏表紙「中舞鶴校四年 生井上規雄」
2365	-	諸祭文	和歌山県高野山各宗御経調進所経 師久五郎→	卷子	印刷
2366	昭和 16 年 12 月 26 日	卒業証書	横浜工業高等学校長従 4 位理学博 士富山保 (印) →井上規雄	一紙	建築学科、2366 ~ 2368 筒
2367	昭和 19 年 9 月 21 日	卒業証書	東京工業大学長従 3 位勲 2 等工学 博士八木秀次 (印) →井上規雄	一紙	建築学科
2368	昭和 18 年 12 月 8 日	合格証書	京都帝国大学総長従 3 位勲 2 等文 学博士羽田亨 (印) →井上理	一紙	文学部哲学科
2369	明治 26 年 12 月 11 日	褒賞	京都府加佐郡農会 (印) →加佐郡 余内村井上豊次郎	一紙	米 4 等賞、明治 35 年 1 月 1 日付大阪朝日新聞 に 2369 ~ 2375
2370	明治 27 年 11 月 15 日	褒賞授与証	京都府加佐郡余内村農会 (印) → 井上豊次郎	一紙	第 2 回村農産物品評会 米 3 等賞
2371	明治 26 年 11 月 17 日	褒賞授与証	京都府加佐郡余内村農会 (印) → 井上豊次郎	一紙	第 1 回村農産物品評会 米 3 等賞
2372	明治 28 年 10 月 10 日	〔賞状〕	平安遷都 1100 年記念祭協賛総裁 大勲位彰仁親王 (印)、平安遷都 1100 記念祭協賛会会長従 3 位公爵 近衛篤麿 (印) →井上奥本氏	一紙	金 2 円を寄付
2373	明治 28 年 10 月	広告	京都市上京区岡崎町平安遷都記念 祭協賛会→	一紙	
2374	10 月 19 日	〔覚〕	余内村役場→井上奥本殿	継紙	参拝章他配布に付
2375	明治 27 年 11 月 1 日	平安遷都千百年記念 祭参拝必携図	京都市岡崎町記念祭協賛会事務所、 編輯并発行者京都市上京区押小路 通東洞院東入左京町 25 番戸平民山 崎嘉三郎→	一紙	趣意書
2376	皇紀 2549 年春	〔書〕	(印「井豊」) →	一紙	破損
2377	-	余部町全図		図	彩色、縮尺 6000 分の 1
2378	-	〔余部町全図下絵〕		図	破損
2379	-	〔書〕	(印) →	一紙	包紙「上、円袖道場松 蔭老師親筆 良寛」
2380	-	〔書〕	辰昌書 (印) →	一紙	
2381	紀元 2571 年夏	〔書〕	井上春光 (印) →	一紙	
2382	紀元 2571 年秋	〔書〕	井上春光 (印) →	一紙	68 翁
2383	明治 33 年 6 月 27 日	〔引札〕	舞鶴町平野屋横町志摩商店→	一紙	呉服太物・小袖帯地、 2383 ~ 2386 巻込
2384	-	〔引札〕	舞鶴港平野屋町志摩呉服店商号よ ろづ屋→	一紙	呉服太物・小袖帯地

2385	-	[引札]	舞鶴町宮本山内國蔵→	一紙	嫁入道具・戸障子襖・板割物
2386	-	[引札]	舞鶴軍港余部上本町3丁目高見商店→	一紙	酒類生酢
2387	-	[教育勅語]	源希典→	一紙	2387～2389巻込
2388	-	[御製・御歌]		一紙	
2389	大正9年11月1日	[大正天皇肖像画]	京都日出新聞社付録→	一紙	破損、印刷
2390	-	[短冊]		短冊 23	内4枚は歌、短冊箱
2391	-	[チラシ]	京都六角富小路宮脇売扇庵→	一紙	2391～2394木箱
2392	-	[扇子]		物品	
2393	-	[扇子]		物品	波・松・太陽
2394	-	[扇子]		物品	錦織袋入
2395	-	[書](花)	青葉山々閑人→	一紙	裏打(まくり)、印刷
2396	天明戊申(8)初春	[画](梅に鶯)	心拳(印)→	一紙	裏打(まくり)、印刷
2397	-	[画](源氏物語)	訥言(印)→	一紙	裏打(まくり)、印刷
2398	-	[画](美人画)	勝春章(花押)→	一紙	裏打(まくり)、印刷
2399	-	[画](富士山)	洞白愛信口→	一紙	裏打(まくり)、絹本
2400	明治42年1月	[美人図]	大阪朝日新聞→	一紙	2400～2413新聞紙(明治28年12月19日大阪朝日新聞)一括、「諸新聞附録」の札
2401	明治20年	日清両国全権講和談判の図	東京市浅草区西鳥越町2番地太田節次→	一紙	
2402	明治28年7月30日	台湾逆賊征伐近衛師団ノ一部隊鉄道線路付近ノ賊ヲ破	東京文栄社(東京京橋区辻本仁兵衛)→	一紙	文栄社発刊目録付
2403	明治45年4月	[昭和天皇兄弟殿下写真]	大阪朝日新聞→	一紙	
2404	明治45年1月	[大正天皇・皇后写真]	大阪朝日新聞→	一紙	
2405	明治44年1月	[明治天皇写真]	大阪朝日新聞→	一紙	
2406	明治44年1月	[昭権皇太后写真]	大阪朝日新聞→	一紙	
2407	大正7年1月	[大正天皇写真]	京都日出新聞→	一紙	
2408	明治39年2月	教祖二十年祭式場全図	奈良市破石町橋本信吉→	一紙	
2409	明治30年	日光山図	栃木県都賀郡神山春五郎→	一紙	
2410	明治39年2月	教祖二十年祭式場全図附録	奈良市破石町橋本信吉→	一紙	
2411	大正3年4月	天理教会本部全図	奈良市破石町橋本信吉→	一紙	
2412	明治28年9月	第二軍金州城攻撃大和尚山附近の戦闘	東京市辻本仁兵衛→	一紙	図
2413	大正元年11月	[明治天皇陵写真]	大阪朝日新聞→	一紙	
2414	-	古代硝子盃一对		物品 2	木箱入、包紙は大正15年12月15日付京都滋賀毎日新聞
2415	-	[杯]	帝国電灯株式会社→	物品	純銀服部製、箱入、服部・銀座
2416	-	出征旗	片岡類一→井上理君	物品	
2417	12月6日	記	上安村戸長→上村戸長様	切紙	御用状受取書、2417～2452箱
2418	嘉永4年3月16日	覚証文之事	上村作右衛門→下村嘉右衛門様	竪紙	をりせ・忠兵衛縁談、親不幸・盗み・間男以外は親の預かり知らぬ所である
2419	-	[和歌草稿書]		竪紙	
2420	(明治)10年12月	記	神官田中照海(印)→余部上村戸長御中	罫紙	2斗6升9合受取
2421	明治17年12月20日	大日本農会通常会員之証	大日本農会→	切紙	井上奥本
2422	明治31年2月	正会大日本武徳会員之証	大日本武徳会→	切紙	井上奥本君
2423	-	[和歌]	釋昭空→	竪紙	
2424	-	港千鳥	恒忠→	一紙	色紙
2425	-	年内早梅		一紙	色紙

2426	明治 10 年 3 月 5 日	鹿児島県有のそのまま拾号	阪府第 3 大区 6 中区新町南通 1 丁目 11 番地金井徳兵衛→	一紙	錦絵
2427	-	鹿児島県有のそのまま拾六号	阪府第 3 大区 6 中区新町南通 1 丁目 11 番地金井徳兵衛→	一紙	錦絵
2428	-	鹿児島県有のそのまま拾八号	阪府第 3 大区 6 中区新町南通 1 丁目 11 番地金井徳兵衛→	一紙	錦絵
2429	明治 10 年 3 月 5 日	鹿児島県有のそのまま八号	阪府第 3 大区 6 中区新町南通 1 丁目 11 番地金井徳兵衛→	一紙	錦絵
2430	-	越中之国富山神通川 従来船橋之所今般板 橋二架設之図	富山星井町 39 番地小泉重兵衛→	一紙	錦絵
2431	-	楠公記吉野合戦	金鱗堂、一魁齋芳年筆→	一紙	錦絵
2432	明治 10 年 3 月 5 日	鹿児島県有のそのまま六号	阪府第 3 大区 6 中区新町南通 1 丁目 11 番地金井徳兵衛→	一紙	錦絵
2433	明治 10 年 3 月 5 日	鹿児島県有のそのまま 三号 熊本城外地雷火	阪府第 3 大区 6 中区新町南通 1 丁目 11 番地金井徳兵衛→	一紙	錦絵
2434	明治 10 年 3 月 5 日	鹿児島県有のそのまま 四号 はら切坂官軍大 勝利	阪府第 3 大区 6 中区新町南通 1 丁目 11 番地金井徳兵衛→	一紙	錦絵
2435	明治 10 年 3 月 5 日	鹿児島県有のそのまま 七号	阪府第 3 大区 6 中区新町南通 1 丁目 11 番地金井徳兵衛→	一紙	錦絵
2436	明治 10 年 3 月 5 日	鹿児島県有のそのまま 五号 西郷隆盛本営	阪府第 3 大区 6 中区新町南通 1 丁目 11 番地金井徳兵衛→	一紙	錦絵
2437	明治 10 年 3 月 5 日	鹿児島県有のそのまま 初号	阪府第 3 大区 6 中区新町南通 1 丁目 11 番地金井徳兵衛→	一紙	錦絵
2438	-	菊地武光の奮戦	羽石弘志筆→	一紙	裏面：嗚呼筑後川、西 條八十、雜誌挟み込みカ 彩色、異国船大小 4 艘、 朱書 地域分担藩主名
2439	嘉永 6 年 6 月	[江戸湾海防絵図]	海防御用掛り→	図	木版、配置陣割 惣人数 750 人余、フリガット 5 艘・ 蒸気船 3 艘
2440	-	[江戸湾海防陣立図]		図	
2441	-	[和歌一首]	僧昭宜→	竪紙	
2442	-	[役儀代計算書]		切紙	
2443	昭和 5 年 6 月 16 日	実用新案登録証	特許局長官崎川才四郎（印）→京 都府加佐郡中舞鶴町字余部上 14 番 戸井上奥本	一紙	発音状態ニ於テ咽頭ノ環 状軟骨ノ運動ヲ記録スル 装置
2444	-	実用新案登録料納付 心得	特許局→	刊本	
2445	昭和 5 年 10 月 29 日	特許証	特許局長官中松眞卿（印）→京都 府加佐郡中舞鶴町字余部上一四番 戸井上奥本	一紙	音調記録装置
2446	-	特許料納付心得	特許局→	刊本	
2447	昭和 5 年 8 月 3 日	褒状	帝国商工振興会（印）→京都府井 上奥本	一紙	名誉優等賞、音調記録 装置
2448	昭和 5 年 8 月 3 日	褒状	帝国商工振興会（印）→京都府井 上奥本	一紙	名誉優等賞、音調記録 装置
2449	-	帰雁		一紙	色紙
2450	明治 35 年 10 月	[日本赤十字社京都支 部落成式臨席案内状]	日本赤十字社京都支部長大森鐘一 →井上奥本殿	切紙	
2451	-	皇后宮御歌	御歌所長子爵入江為守謹書→	一紙	色紙、包紙
2452	大正 15 年 11 月	[色紙御下賜趣意書]	日本赤十字社社長男爵平山成信→	刊本	
2453	-	[写真帳]		冊子	寺院、仏像、写真 32 枚、 クレヨン画他 3 枚
2454	大正 13 年 10 月 2 日	日刊丹州時報	株式会社丹州時報社→	刊本	
2455	昭和 19 年 5 月 21 日	京都新聞	株式会社京都新聞社→	刊本	
2456	昭和 19 年 5 月 21 日	朝日新聞	朝日新聞大阪本社→	刊本	
2457	-	[印判]		物品	印判 3、印肉、文書、袋
2458- 1	-	[黒白紋入幟]		物品	井桁・五三桐紋、布、 252 × 36

2458-2	-	[武者幟]		物品	富士の巻狩図、布、290 × 33
2458-3	-	[武者幟]	春信(印)→	物品	立武者・座武者、1対、布、36.2 × 14.8
2458-4	-	[武者幟飾、黒弘子形]		物品	全長 70、持手 10
2458-5	-	[武者幟飾、馬印、赤紐]		物品	全長 47
2458-6	-	[武者幟飾、黒毛]		物品	全長 7
2458-7	-	[武者幟飾、白毛]		物品	全長 6
2458-8	-	[武者幟飾、球]		物品	全長 10.5
2458-9	-	[武者幟飾、球小]		物品	全長 10.5
2458-10	-	[武者幟飾、棒]		物品	長① 74、② 73、③ 60.5、④ 60、⑤ 49.5、⑥ 19.5
2458-11	-	[武者幟飾、台]		物品	12 × 55 × 23
2458-12	-	[武者幟飾、矢屏風]		物品	
2459	-	日本書紀八～十		版本	仲哀天皇、神功天皇、応神天皇、破損
2460	-	日本書紀六・七		版本	垂仁天皇、景行天皇、成務天皇、破損
2461	-	日本書紀三～五		版本	神武天皇、綏靖天皇、安寧天皇他7名、破損
2462	-	日本書紀十三～十五		版本	允恭天皇、安康天皇、雄略天皇他3名、破損
2463	-	日本書紀二		版本	神代下、破損
2464	-	日本書紀一		版本	神代上、破損
2465	-	日本書紀三十		版本	持統天皇、破損
2466	-	日本書紀二十九		版本	天武天皇、破損
2467	-	日本書紀二十六		版本	齊明天皇、天智天皇、天武天皇、破損
2468	-	日本書紀		版本	孝徳天皇、題箋欠、破損
2469	-	日本書紀二十三・二十四		版本	舒明天皇、皇極天皇、破損
2470	-	日本書紀二十～二十二		版本	敏達天皇、用明堪能、嵩峻天皇他1名、破損
2471	-	日本書紀十九		版本	欽明天皇、破損
2472	-	日本書紀十一～十八		版本	武烈天皇、継体天皇、安閑天皇他1名、破損
2473	-	日本書紀		版本	仁徳天皇、履中天皇、反正天皇、題箋欠、破損
2474	-	折りたくしハの記中		写本	
2475	-	折りたくしハの記上		写本	宇野蔵
2476	-	折りたくしハの記下		写本	奥書：正徳6年5月下源君美(白石)
2477	天保11年12月	声のしらへ上巻		写本	表紙欠
2478	天保15年9月	聲調篇下巻	備中関政方→	写本	
2479	-	うらのしほ貝下	摂東夢華園蔵→	版本	和漢洋書籍売捌所京都寺町通四条北江入町文求堂田中治兵衛裏表紙「井上信造」
2480	明治8年11月14日	国史略一	音博士岩垣先生編次、版權免許五車楼梓→	版本	
2481	-	国史略二	従五位下行大舎人助兼音博士源朝臣松苗編次→	版本	
2482	大正7年4月6日	披講案譜附作法	東京市牛込区薬王寺町74番地大原重朝発行→	刊本	和歌披講式次第・座席表

2483	天明 8 年 5 月	摩多体文	西海蓮華沙門源昭、良認、皇都經師→	折本	木版、元禄 7 年秋 8 月日書
2484	-	般若心經秘鍵訓読		折本	印刷
2485	元禄 16 年 7 月	俳諧をたまき大成目録	洛下書林新井彌兵衛版→	版本	俳諧関係辞書、裏表紙：天保 7 年 5 月 21 日、表紙・裏表紙欠
2486	大正 4 年 10 月 20 日	京都府誌 上	京都府→	刊本	2486・2487 帙入
2487	大正 4 年 10 月 20 日	京都府志 下	京都府→	刊本	
2488	安政 2 年 11 月	再版神道九種太袂	寺町通御池下ル大和屋勘兵衛 寺町通三条下ル三河屋利兵衛 皇都經師 五条通富小路西入經師屋伊三郎→	版本	中臣祓他祝詞集
2489	-	唯一神祇太袂		版本	大袂
2490	安永 10 年正月	をたまき 全	京寺町通五条上ル町書林田中庄兵衛→	版本	いろは引き辞書、跋「元禄十年丁丑孟春穀旦、洛下書林新井彌兵衛版」「改板をたまき之跋、京極五橋石壽庵」、題箋欠
2491	弘化 4 年孟秋	正字玉篇大全 下	東都芝神明前三島町 甘泉堂和泉屋市兵衛藏版→	版本	漢和辞書、表紙手書・綴直
2492	-	妙法蓮華經序品第一		折本	
2493	-	妙法蓮華經譬喩品第三 二		折本	
2494	-	妙法蓮華經藥草喩品第五 三		折本	
2495	-	妙法蓮華經五百弟子受記品第八 四		折本	
2496	-	妙法蓮華經提婆達多品第十二 五		折本	
2497	-	妙法蓮華經常不輕菩薩品第二十七		折本	
2498	天保 6 年 11 月 24 日	妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五 八	天台座主一品親王承真撰→	折本	
2499	-	仁王護国般若波羅密多經 天地		折本	手書、後に由緒書抹消
2500	-	文徵明千字文		刊本	印刷徵明書千字文、奥書：嘉靖辛亥（1551）8 月 10 日書
2501	-	妙法蓮華經安樂行品		折本	貼札にオコト点付、金一円、京都姉小路寺町東羽田竹僊堂
2502	大正 9 年 3 月 15 日	増補神道八部大袂、毎朝神拜此心得	京都市富小路三條北入、中村風祥堂→	折本	
2503	-	般若心經秘鍵		折本	遍照金剛撰、入唐沙門空海上表
2504	文久 2 年秋	新板摩多体文	京都市木屋町二條、貝葉書院→	折本	梵字発音説明譜
2505	昭和 4 年 4 月 1 日	旅の歌	龜井宕山著→	刊本	大阪市南区鹽町 4 丁目濱田成山堂発行所、京都府舞鶴市本町 32 村田篤二発行者
2506	昭和 2 年 7 月	参考伊勢物語（岩波文庫）	屋代弘賢校訂→	刊本	文化 14 年仲春刻成、東京市神田区南神保町 16 番地岩波書店
2507	-	〔浄土真宗用読経本〕		版本	真宗用、読経開闢音用他
2508	安永 7 年季夏穀旦	〔真言宗読経本カ〕	武州高幡山金剛寺 18 世裕盛口口六波羅蜜寺住 快説再校→	版本	2508・2509 帙、題箋無地、奥付「享保元丙申稔下秋日武陽鏡寛誌」
2509	-	〔真言宗読経本カ〕	京都市高倉通松原北入 平井文永堂經房 東京市本郷区春木町（本郷 3 丁目）森江書店発売所→	版本	安永 7 年林鐘布口星日、六波羅蜜寺住快説鑲瑞

2510	-	覚	三郎兵衛→	継紙	田畑米高
2511	閏9月15日	覚	播磨屋市郎右衛門→余部上村奥本様	継紙	紫縮緬小袖、真綿、黒繻子
2512	4月25日	[書状]	松尾寺納所→井上七郎左衛門様	継紙	借用依頼
2513	乙未9月7日	覚	逸見講元(印)→余部上村七郎左衛門様	切紙	利息受取
2514	8月20日	[書状]	松尾寺→井上七郎左衛門様	継紙	高浜行留守、面談依頼
2515	丑12月	覚	いずや久三郎→余部上村七郎左衛門様	継紙	焼物、汁魚、たひ、あら、なます魚、たこ、みこい
2516	-	手取覚		継紙	金額、人名
2517	12月5日	[書状]	翹屋忠兵衛→奥本七郎左衛門様	継紙	丹波屋より銀札1貫目借用
2518	丑3月28日	[借用依頼状]	六兵衛→七郎左衛門様	切紙	
2519	2月17日	[書状]	ぬ屋庄兵衛→井上奥本文	継紙	借金返済
2520	2月2日	[書状]	大庄屋六三郎→長浜村甚兵衛殿余部上村七郎左衛門様	継紙	来訪依頼
2521	酉12月26日	[書状]	松尾寺納所→上村奥本七郎左衛門様	継紙	訪問通知
2522	寅12月22日	[書状]	松尾寺納所→井上七郎左衛門様	継紙	借金返済
2523	戌12月	覚	鍋屋忠兵衛→上村井上七郎左衛門様	切紙	受取
2524	未12月	覚	大俣上村久三郎→余部上村七郎左衛門様	切紙	頼母子通知
2525	辰12月14日	[元利書上]	壺屋(印)→余部上村七郎左衛門殿	継紙	
2526	-	覚		継紙	金額、人名
2527	未2月24日	覚	逸見講元中、世話人中→余部上村七郎左衛門様	継紙	掛金明細
2528	申2月27日	覚	壺屋(印)→余部上村七郎左衛門殿	切紙	受取
2529	文久元年11月22日	覚	前庄屋武兵衛(印)→庄屋奥本殿同市左衛門殿	継紙	文書引継明細
2530	元禄9年6月	余部上村土目録	余部上村庄屋清兵衛、同年寄又右衛門→御奉行様	継紙	
2531	-	御献立		継紙	祝儀献立記
2532	3月9日	[達書]	大庄屋伊左衛門→	継紙	菜種綿実
2533	-	壬申貢金納通	豊岡県租税課(印)→加佐郡余部上村	折紙	
2534	明治18年5月	明治十八年度教育費戸数割等差課出表	京都府丹後国加佐郡余部上村→	綴	
2535	-	壬申仮免状	(印「豊岡県」)→丹後国加佐郡余部上村	切紙	田米高
2536	-	[壬申仮免状]	→丹後国加佐郡余部上村	切紙	畑石高、壬申仮免状に内封
2537	-	奉願口上之覚		継紙	質物田地5力所、下書
2538	宝暦10年3月	乍恐応答書之覚下書	余部上村百姓中、年寄八右衛門、庄屋七郎左衛門→御奉行様	継紙	余部下村との山論
2539	-	奉願口上之覚	願主余部上村七郎左衛門→木戸益蔵様	継紙	盗賊赦免願
2540	文化10年8月	乍恐奉願上口上之覚	上安村年寄茂八、同伊左衛門、庄屋太郎左衛門、天台村加庄屋八郎右衛門→御奉行様	継紙	上安村との山論
2541	文化10年8月	乍恐返答書之覚	余部上村百姓中、同年寄長五郎、同庄屋七郎左衛門→御奉行様	継紙	上安村との山論
2542	嘉永5年3月	一札之事	丹後加佐郡田辺栄助、同親類惣代行永村清右衛門判、同真壁村忠兵衛判→室町四条下ル鶴鉾町年寄治郎右衛門殿御町中	切紙	萬屋宇兵衛養子離縁
2543	4月28日	[書状]	仲万右衛門→松尾寺納所民部様	継紙	栄助入家祝、商売繁昌の祝
2544	戌12月28日	[書状]	松尾寺役僧中→井上奥本殿	継紙	拝借金受領
2545	-	御定免七ツ之歩		継紙	分米、粳、取米高明細
2546	文政4年4月	乍恐返答書之覚	余部上村百姓中、年寄久右衛門、庄屋源右衛門→今西久内様	継紙	北吸村との山論、2913下書
2547	文化4年3月	鉄炮御札拝借仕証文之事	福来村庄屋次左衛門、余部上村庄屋七郎左衛門(印)→御奉行様	継紙	猪鹿荒、奥書大庄屋武左衛門



2548	文久2年	一札之事	丹後田辺加佐郡余部上村役人(印) →諸国在町御役人衆中	継紙	長左衛門倅佐七道中手形
2549	天明4年12月	質入証文之事	岸谷村太郎左衛門(印)、受人同村 年寄太右衛門(印)→御連中様	継紙	奥書：大庄屋倉谷村武左衛門
2550	卯3月	定		継紙	藩札使用法
2551	戊12月25日	〔書状〕	浜村嘉右衛門→上村井上奥本様	継紙	年貢米明細
2552	未2月25日	〔書状〕	松尾寺役僧→余部上村井上七郎左衛門様	継紙	病人見舞、来訪依頼
2553	6月24日	〔書状〕	松尾寺納所→井上奥本様	継紙	拝借金依頼
2554	宝暦10年3月	乍恐返度書之覚	上村庄屋七郎左衛門、下村年寄八右衛門、百姓中→御奉行様	継紙	余部下村との山論
2555	宝暦10年4月	乍恐口上之覚	百姓中、年寄八右衛門、庄屋七郎左衛門→藤山源内様、相馬友左衛門様	継紙	余部下村との山論
2556	文久2年正月吉日	田畑預ケ口覚帳	井上奥本→	横帳	後半開披不能
2557-1	-	和田村庄左衛門江貸附覚		横帳	文化12年帳面写、2557-1～2こより綴、文書綴
2557-2	明治壬申(5)年8月	万雑用覚帳	戸長奥本→	横帳	
2558	明治6年正月	万事取替もの覚帳	奥本→	横帳	綴に文書
2559	明治20年旧8月8日	早中晩稲数帳	京都府加佐郡井上姓→	横帳	裏：「此大帳に、政治よく、人気よろしく、稲もよく、付処なし」、開披不能
2560	明治21年旧8月20日	稲刈数覚帳	井上奥本→	横帳	
2561	明治24年旧8月23日	いねのかず	あまうちむらあまるべかみのうえおくもと→	横帳	
2562	明治25年旧8月5日	いねのかず	あまうちむらあまるべみのうえおくもと→	横帳	
2563	明治24年旧8月18日	いねのかず	あまうちむらあまるべみのうえおくもと→	横帳	
2564	明治27年旧正月11日	種揃并二田畑預ケ口人別帳	井上奥本→	横帳	開披不能
2565	明治27年旧8月23日	いねのかず	あまうちむらあまるべみのうえおくもと→	横帳	
2566	明治27年旧正月	年中日傭附込帳	井上奥本→	横帳	開披不能
2567	明治28年旧正月	年中日傭附込帳	井上奥本→	横帳	開披不能
2568	明治28年旧正月吉日	種揃并二田畑預ケ口人別帳	井上奥本→	横帳	
2569	明治28年旧8月2日	いねのかず	あまうちむらあまるべみのうえおくもと→	横帳	
2570	明治29年旧8月17日	いねのかずおぼへ	井上奥本→	横帳	
2571	-	〔稲刈数覚帳〕		横帳	前欠
2572	明治30年旧9月1日	いねのかずをぼへ	井上奥本→	横帳	
2573	明治31年旧8月5日	稲刈数覚帳	井上奥本→	横帳	
2574	明治32年旧正月吉日	種揃并二田畑預ケ口人別帳	井上奥本→	横帳	
2575	明治32年旧8月	稲之数	井上奥本→	横帳	
2576	明治33年旧正月	年中日傭帳	井上奥本→	横帳	
2577	明治33年旧正月吉日	種揃并二田畑預ケ口人別帳	井上奥本→	横帳	
2578	明治33年閏8月3日	稲之数覚帳	井上奥本→	横帳	
2579	明治34年旧正月	年中日傭帳	井上奥本→	横帳	開披不能
2580	明治34年旧正月吉日	種揃并二田畑預ケ口人別帳	井上奥本→	横帳	
2581	明治35年2月吉日	年中日傭帳	井上奥本→	横帳	開披不能

2582	明治 34 年 2 月吉日	種揃并二田畑預ケ口人別帳	井上奥本→	横帳	
2583	明治 36 年	田畑作付人別帳	井上奥本→	横帳	稲品種
2584	明治 37 年 2 月吉日	田畑作付人別帳	井上奥本→	横帳	稲品種
2585	明治 38 年 1 月吉日	雇傭人日記帳	井上奥本→	横帳	
2586	明治 38 年 2 月吉日	田畑作付人別帳	井上奥本→	横帳	稲品種
2587	明治 39 年 2 月吉日	田畑作付人別帳	井上奥本→	横帳	稲品種
2588	明治 40 年 2 月吉日	田畑作付人別帳	井上奥本→	横帳	
2589	明治 41 年 2 月	田畑作付人別帳	井上奥本→	横帳	
2590	明治 42 年	田畑作付人別帳	井上奥本→	横帳	
2591	明治 35 年 2 月	日記帳	井上奥本→	横帳	年始廻礼、破損
2592	明治 36 年 2 月	雇傭人日記帳	井上奥本→	横帳	
2593	明治 37 年 1 月吉日	日記帳	井上奥本→	横帳	
2594	明治 38 年 1 月吉日	日記帳	井上奥本→	横帳	年始廻礼
2595	明治 39 年 1 月吉日	日記帳	井上奥本→	横帳	
2596	明治 40 年 1 月 1 日	日記帳	井上奥本→	横帳	
2597	明治 42 年 1 月吉辰	日記帳	井上奥本→	横帳	
2598	明治 41 年 1 月吉日	日記帳	井上奥本→	横帳	
2599	明治 43 年 1 月吉辰	日記帳	井上奥本→	横帳	
2600	明治 44 年 1 月佳辰	日記帳	井上奥本→	横帳	
2601	明治 45 年 1 月佳辰	日記帳	井上奥本→	横帳	
2602	大正 2 年 1 月吉辰	日記帳	井上奥本→	横帳	
2603	大正 3 年 1 月吉辰	日記帳	井上奥本→	横帳	
2604	大正 4 年 1 月	日記帳	井上奥本→	横帳	
2605	大正 5 年 1 月	日記帳	井上奥本→	横帳	
2606	大正 6 年 1 月	日記帳	井上奥本→	横帳	
2607	大正 7 年 1 月	日記帳	井上奥本→	横帳	
2608	明治 38 年 1 月吉日	金銭出入帳	井上奥本→	横帳	
2609	明治 39 年 1 月吉日	金銭出入帳	井上奥本→	横帳	
2610	明治 40 年 1 月吉日	金銭出入帳	井上奥本→	横帳	
2611	明治 41 年 1 月吉辰	金銭出入帳	井上奥本→	横帳	
2612	明治 42 年 1 月佳辰	金銭出入帳	井上奥本→	横帳	
2613	明治 43 年 1 月佳辰	金銭出入帳	井上奥本→	横帳	
2614	明治 44 年 1 月 1 日	金銭出入帳	井上奥本→	横帳	
2615	明治 45 年 1 月	金銭出入帳	井上奥本→	横帳	
2616	大正 2 年 1 月	金銭出入帳	井上奥本→	横帳	
2617	大正 3 年	金銭出入帳	井上奥本→	横帳	
2618	明治 18 年旧正月	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
2619	明治 26 年旧正月吉日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
2620	明治 27 年旧正月吉日	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2621	明治 28 年旧正月吉日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	
2622	明治 27 年旧正月吉日	元利差引覚帳	井上奥本→	横帳	

2623	明治 28 年旧正月吉日	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2624	-	[材木書上]		横帳	反古紙使用
2625	明治 29 年旧正月吉日	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2626	明治 30 年旧正月吉日	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2627	明治 31 年旧正月吉日	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2628	明治 32 年旧正月吉日	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2629	明治 33 年旧正月吉日	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2630	明治 34 年旧正月吉日	金銭出入相改帳	井上奥本→	横帳	
2631	明治 35 年 2 月吉日	金銭出入帳	井上奥本→	横帳	
2632	明治 36 年 1 月吉日	金銭出入帳	井上奥本→	横帳	
2633	明治 37 年 1 月吉日	金銭出入帳	井上奥本→	横帳	
2634	大正 4 年 1 月	金銭出入帳	井上奥本→	横帳	
2635	大正 5 年 1 月	金銭出納帳	井上奥本→	横帳	
2636	大正 6 年 1 月	金銭出納帳	井上奥本→	横帳	
2637	大正 7 年 1 月	金銭出納帳	井上奥本力→	横帳	
2638	明治 40 年 1 月 1 日	家賃取立帳	井上奥本→	横帳	~大正元年 8 月
2639	明治 32 年 11 月	貸家賃取立帳	井上奥本→	横帳	
2640	大正 6 年 4 月	家賃受継帳	管理者布川甚蔵→	横帳	
2641	明治 32 年 1 月	貸地料取立帳	井上奥本→	横帳	契約解除分
2642	明治 36 年 2 月	質方会計帳	井上奥本→	横帳	
2643	明治 24 年 11 月 26 日午前 4 時	兵役二付出発之時	井上奥本→	横帳	錢別
2644	明治 38 年	質家地上ケ費用帳	瀬野佐平→井上様	横帳	
2645	旧 3 月 10 日	記		綴	傘、かんだし、菓子代他、本文抹消
2646	明治 17 年旧 2 月	明治十一年喜右衛門貸付帳写	井上奥本→井上喜右衛門様	横帳	
2647	明治 18 年旧 2 月 26 日	喜右衛門諸勘定取調帳扣		横帳	土井市兵衛より借入金
2648	-	売家残り物覚		切紙	戸棚、ふすま、引きうす他
2649	明治 22 年旧 12 月	建家売渡約定証	売渡人井上奥本、証人井上初蔵→上野榮蔵殿	綴	家簷上下道具、屋根下、障子窓分他
2650	明治 23 年旧 2 月	建家売渡約定証		罫紙	家簷上下道具、屋根下、障子窓分他
2651	明治 20 年 11 月	裁縫室出仕表	井上奥本→	竖帳	
2652	明治 35 年 4 月 10 日	道路開鑿之義二付稟請	加佐郡余内村字余部上井上奥本、同郡同村字同上野榮蔵、加佐郡余内村字余部上上野勇吉他 2 名→	竖帳	
2653	明治 19 年 6 月 30 日	強盗難御届	加佐郡余部上村 14 番井上奥本→京都府知事北垣國道殿	竖帳	金 4 円他
2654	明治 22 年 9 月	家普請大工木挽勤隋表	井上奥本→	竖帳	明治 22 年~明治 36 年 9 月
2655	明治 12 年 2 月 13 日	節分ノ夜調相場		竖帳	明治 12 年~大正 4 年
2656	大正 2 年 9 月	金銭出入帳	井上いそ→	竖帳	
2657	明治 34 年旧正月	万控帳	井上弥重郎→	横半帳	頼母子講
2658	大正 2 年 9 月	貸家賃受取帳	井上いそ→	竖帳	
2659	明治 35 年 9 月	下岡のぶ貸家料計算帳	井上彌十郎→	竖帳	
2660	明治 31 年旧 12 月 25 日	金子借用証	井上奥本(印)→上野榮蔵様	罫紙	金 50 円、本文○印

2661	明治 30 年 6 月 22 日	自五月廿四日至六月廿二日消耗品表	井上奥本→堀池好之助様	罫紙	木炭、石油、白米
2662	31 年 5 月 24 日	自五月四日至全廿二日消耗品表	井上奥本→堀池好之助様	罫紙	使用物表
2729	明治 38 年 3 月 27 日	修業証書	京都府加佐郡余部町立余部尋常小学校 (印「加佐郡余部尋常小学校」) →京都府平民初藏女井上のゑ	一紙	明治 30 年 11 月 8 日生、2729 ~ 2807 黒水引、2730 ~ 2807 を 2729 巻込
2730	(大正) 1 年 9 月 10 日	証券交付通知書	郵便貯金局→京都府余部町字余部上本町 3 丁目 309 井上弥十郎殿	一紙	
2731	(明治) 44 年 8 月 12 日	保管証券償還當籤通知書	郵便貯金局→京都府丹後国余部本町 3 丁目 309 番地井上弥十郎殿	一紙	
2732	明治 44 年 7 月 27 日	証	京都府度量衡営業組合員、余部上 4 丁目渡邊商店→井上弥十郎殿	一紙	棹秤
2733	大正 2 年 6 月 15 日	金子借用書	借主加佐郡余部町奥母通井上いそ(印)、受人全郡全町全字井上奥本(印)→債主惣代瀬野千藏殿	罫紙	2733・2734 封筒「証書井上五市頼母子」
2734	大正 2 年 6 月 25 日	記	井上いそ代井上奥本→債主惣代瀬野千藏殿	一紙	井上五市頼母子金受取
2735	大正 2 年 1 月 14 日	[信用組合通常総会席通知状]	保証責任余部信用組合組合長理事瀬野磯藏 (印) →井上いそ殿	一紙	本組合第三年度事業報告
2736	明治 45 年 7 月 13 日	売渡し証	舞鶴余部上本町 2 丁目、箆笥洋鏡新道具一式呉服太物商、八百仙号小菅仙太郎→井上奥本様	罫紙	唐間半腰子店台、唐間ノ屋タイ店台、畳四帖ハシゴ、封筒「古物 小菅仙太郎証書」
2737	-	証券購入保管請求書	郵便貯金局→	切紙	用紙
2738	明治 39 年 4 月 12 日	土地賃貸借証書	借主竹野郡徳光村字徳光百番戸永嶋長藏 (印)、引受人原籍竹野郡間人村寄留加佐郡余部町字余部上 309 番地下岡のぶ (印) →貸主加佐郡余部町字余部上 2 番戸井上彌十郎 (印)	罫帳	田、封筒「永島長藏土地賃貸借証書」本紙に印紙貼付契印・割印
2739	大正 3 年 12 月 29 日	告訴取下申立書	加佐郡余部町字余部上 309 番地告訴人井上いそ→新舞鶴警察署御中	一紙	被告訴人字上 7 丁目番地不詳向川サク、示談、2739 ~ 2746 封筒「向川サク書類」、カーボン紙使用
2740	大正 3 年 11 月 30 日	告訴状	代人加佐郡余部町字 5 丁目 444 番地平民農代人道家柳藏→新舞鶴警察署長 警部山崎一殿	一紙	被告訴人向川サク家賃金不足、引受人沢井政治、私書偽造の井上いそ告訴状、カーボン紙使用
2741	大正 3 年 5 月 3 日	債権譲渡通知書、書留内容証明郵便差出証明書	差出人加佐郡余部町字余部上 309 番地井上いそ (印) →受取人加佐郡余部町字余部上 209 番地向川サク殿、加佐郡余部町字余部下 5 丁目沢井政治殿	綴	弁済金債権譲渡、余部局特殊郵便物受領書 2 通、新舞鶴局郵便物配達証明書 2 通
2742	大正 4 年 1 月 10 日	第壱号証		切紙	姉上様御逝去、戸籍謄本之儀、書類剥離
2743	大正 3 年 9 月 18 日	家屋明渡証	借受人向川サク (拇印) 保証人磯見石次 (印) →井上いそ殿	罫紙	
2744	大正 3 年 11 月 30 日	告訴状	加佐郡余部町字余部上 309 番地井上いそ→新舞鶴警察署長 警部山崎一殿	一紙	奥書：大正 4 年 1 月 10 日警察署、カーボン紙
2745	大正 3 年 11 月 30 日	委任状	加佐郡余部町字余部上 309 番地 井上いそ (印) →	一紙	道家柳藏を代人とする、カーボン紙
2746	大正 3 年 12 月 29 日	精算書	井上いそ、代人道家柳藏→向川サク引受人沢井政治様	一紙	家賃精算書

2747	明治 43 年 6 月 29 日	金員連帯借用証書	連帯借主余部町字余部上 309 番地 井上弥十郎 (印)、全町字全拾 4 番 戸連帯借主井上奥本 (印)、全町字 全 15 番戸瀬野萬吉 (印) →梅垣藤 吉殿 井上時藏殿	綴	封筒表書「布川甚藏頼 母子証書」
2748	大正 5 年 1 月	土地賃貸契約証書	地主加佐郡余部町字余部上 309 番 地井上はる子親権者井上いそ→	縦帳	カーボン紙
2749	大正 5 年 1 月	土地賃貸契約証書	地主加佐郡余部町字余部上 309 番 地井上はる子親権者井上いそ→	縦帳	カーボン紙
2750	-	土地賃貸契約証書	地主加佐郡余部町字余部上 309 番 地井上はる子親権者井上いそ→	罫紙	カーボン紙 後欠
2751	大正 5 年 3 月	[株式会社組織移行換 拶状]	高木銀行舞鶴支店→井上いそ殿	一紙	印刷、封筒「井上いそ殿」
2752	(大正) 5 年 11 月 17 日	[特別五分利証券、新 証券引換通知書]	余部郵便局→	一紙	2752 ~ 2759 封筒「通 信事務 加佐郡余部町奥 母通三〇九井上いそ殿」
2753	(大正) 6 年 5 月 12 日	通帳受領証	余部郵便局→井上いそ	一紙	
2754	(大正) 6 年 5 月 12 日	通帳受領証	余部郵便局→井上はる子	一紙	
2755	(大正) 7 年 4 月 19 日	通帳受領証	余部郵便局→井上いそ	一紙	
2756	(大正) 7 年 4 月 19 日	通帳受領証	余部郵便局→井上はる子	一紙	
2757	-	証券購入済通知書	爲替貯金局→京都府余部町奥母通 り 309 井上いそ殿	一紙	
2758	(大正) 4 年 8 月 14 日	証券購入済通知書	爲替貯金局→京都府余部町奥母通 り 310 井上いそ殿	一紙	
2759	(大正) 4 年 3 月 19 日	証券購入済通知書	爲替貯金局→京都府余部町奥母通 り 311 井上いそ殿	一紙	
2760	明治 42 年 5 月 15 日	保険料領収証	神戸海上運送火災保険株式会社余 部代理店主藤井常三郎代理朝井憲 勲 (印「神戸海上運送火災保険株 式会社余部代理店印」) →井上弥十 郎殿	一紙	保険金 1000 円、保険料 10 円
2761	明治 42 年 5 月 18 日	火災保険証券	神戸海上運送火災保険株式会社常 務取締役田中省三 (印) (印「神戸 海上運送火災保険株式会社余部代 理店印」) →保険契約者井上弥十郎 殿	一紙	
2762	明治 41 年 5 月 21 日	火災保険証券	大阪市東区備後町 4 丁目 5 番屋敷 大阪火災海上運送保険株式会社社 長右近權左衛門 (印) (印「大阪火 災海上運送保険株式会社之印」) → 被保険者保険契約者井上弥十郎殿	一紙	保険金 1000 円、保険料 6 円 50 銭
2763	(明治) 43 年 2 月 5 日	仮領収証	志楽村字安岡上林太左衛門→井上 弥重郎殿	罫紙	36 円、2763 ~ 2772 封 筒「借用証書控、但し 井上奥本及其他頼母子 次第損益鑑」
2764	明治 42 年 12 月 31 日	借用金証書	借用主加佐郡余部町字余部上 289 番地ノ 4 井上佐助 (印)、保証人加 佐郡余部町字余部上 309 番地井上 弥十郎 (印) →上林太左衛門殿	罫紙	300 円
2765	明治 38 年 7 月 30 日	連帯金借用証書	連帯借用主加佐郡余部町字余部上 2 番戸井上初藏 (印)、連帯借用主 全郡全町字全 404 番地 井上五郎右 衛門 (印) →志楽村字安岡上林太左 衛門殿	罫紙	300 円
2766	明治 43 年 2 月 7 日	借用金証書	加佐郡余部町字余部上 308 番地井 上弥十郎 (印) →井上奥本殿	罫紙	550 円、全体抹消
2767	-	記		一紙	550 円、元利金計算

2768	-	十六人講第十一番取 入手金		罫紙	十八人講第五番会取
2769	-	[利歩計算方法書上]		一紙	
2770	明治 43 年 6 月 29 日	受取証	井上奥本（印）→井上弥十郎殿	一紙	320 円
2771	明治 43 年 7 月 1 日	受取書	井上奥本（印）→井上弥十郎殿	一紙	80 円
2772	明治 44 年 1 月 7 日	記	井上奥本（印）→井上弥十郎殿	一紙	50 円
2773	大正 7 年 8 月 10 日	証券保管原簿登記済 通知書	爲替貯金局→京都府下余部上奥田 （ママ）通 309 井上いそ殿	一紙	
2774- 1	明治 43 年 2 月 5 日	建家売渡証	売主加佐郡志楽村字安岡 10 番戸上 林太左衛門（印）保証人全郡全村 全字 3 番戸上林太吉（印）→加佐 郡余部町字余部上井上弥十郎殿	罫帳	加佐郡余部町字大余部 上小余部上 290 番地郡 村宅地建設、木造瓦葺 式階建住家、2 棟畳建 具附、2774・2775 封筒「上 林太左衛門ヨリ建家売渡 証」
2774- 2	-	余部町市街地甲区内 建物平面図	上林太左衛門代人井上初藏（印） →	一紙	
2775	-	[建物平面図]		一紙	加佐郡余部町字大余部 上小余部上 444 番郡村 宅地建設、木造瓦葺式 階建住宅、木造瓦葺平 屋建住宅
2776	明治 42 年 12 月 7 日	土地賃貸借契約証書	貸主加佐郡余部町字余部上 309 番 地井上彌十郎（印）、借主 本籍地 徳島県板野郡松坂村字矢武 112 番 地、現住地加佐郡新舞鶴町字 1130 番地井上春臺（印）、引請人本籍地 新舞鶴町字浜 196 番地、現住地同 上井上頼太郎（印）→	罫帳	加佐郡余部町字大余部 上小余部上 817 番地ノ 4 郡村宅地、「証明書」「証 取証」「申込書」「土地 賃貸借契約証書」、封筒 「井上春臺土地賃貸借証 書」
2777	大正 3 年	義務貯金領収書	保証責任余部信用組合→井上いそ 殿	冊子	大正 3 ~ 5 積立
2778	明治 44 年	義務貯金領収書	保証責任余部信用組合→井上弥十 郎殿（訂正）いそ殿	冊子	明治 44 ~ 46 積立
2779	-	記	天理教教会本部（印）→井上イソ殿	一紙	50 銭普請費献納金
2780	-	家付物品目録		罫紙	二階梯子他計 149 点
2781	(明治) 43 年 1 月 29 日	郵便貯金通帳	大阪郵便爲替貯金管理支所→余部 町上奥母通井上弥十郎方井上はる 子	冊子	封筒「余部町奥母通井 上弥十郎方井上はる子 殿」、通帳付箋
2782	(大正) 1 年 8 月 30 日	郵便貯金通帳	大阪郵便貯金支局→余部町奥母通 309 井上いそ	冊子	封筒「京都府余部町上 奥母通井上弥十郎方井 上はる子殿」「廃物分」
2783	(大正) 6 年 2 月 14 日	[書状]	京都市佛光寺通り千本東入ル西野 嘉寿夫→加佐郡余部町奥母通り井 上いそ様	一紙	金子御礼状、封筒
2784	(大正) 4 年 3 月 25 日	[書状]	西野嘉寿夫→府下加佐郡余部町上 奥母通井上いそ様	一紙	無事通学、近況報告返 答状、封筒
2785	-	[書状]	西村まき→井上御いそ様	一紙	嘉寿夫商業学校 1 年、 封筒
2786	(大正) 2 年 8 月 17 日	郵便物受領証	加佐郡余部町字余部上 309 番地井 上いそ→加佐郡余部町字余部上 290 番地齊藤新太郎	一紙	内容証明、2786 ~ 2797 封筒「債務者齊藤新太 郎」
2787	(大正) 3 年 5 月 4 日	郵便物配達証明書	新舞鶴郵便局→余部町余部上井上 いそ殿	一紙	内容証明受取人余部町 余部上 290 番地齊藤新 太郎
2788	(大正 3 年 8 月 8 日)	郵便物配達証明書	新舞鶴郵便局→余部上 309 井上い そ殿	一紙	内容証明受取人余部町 余部上 290 番地齊藤新 太郎
2789	-	[家賃入金覚]		一紙	
2790	明治 44 年 2 月 25 日	約定書	齊藤新太郎（印）→井上弥十郎殿	一紙	家賃滞納、支払月日約 定



2791-1	明治 43 年 2 月 5 日	建家売渡証	売主加佐郡志楽村字安岡 10 番戸上林太左衛門、保証人全郡全村全字 3 番戸上林太吉→加佐郡余部町字余部上井上弥十郎殿	罫紙	加佐郡余部町字大余部上小余部上 209 拾番地郡村宅地、木造瓦葺式階建住家、2 棟畳建具附、写
2791-2	大正 2 年 8 月 17 日	債権譲渡証	加佐郡余部町字余部上 309 番地井上いそ →道家柳藏殿	罫紙	12 円、写
2791-3	大正 3 年 5 月 2 日	債権譲渡証	加佐郡余部町字余部上 309 番地井上いそ →道家柳藏殿	罫紙	12 円 80 銭、写
2792	-	郵便物配達証明書	道家柳藏→余部上 309 井上いそ殿	罫紙	新舞鶴郵便局、写
2793	大正 2 年 8 月 17 日	[債権譲渡通知書]	余部郵便局(印)→受取人加佐郡余部町字余部上 290 番地齊藤新太郎	罫紙	差出人加佐郡余部町字余部上 309 番地井上いそ(印)
2794	-	郵便物配達証明書	道家柳藏→余部町余部上井上いそ殿	罫紙	写
2795	大正 3 年 5 月 3 日	[債権譲渡通知書]	余部郵便局(印)→受取人加佐郡余部町字余部上 290 番地齊藤新太郎	罫紙	差出人加佐郡余部町字余部上 309 番地井上いそ(印)
2796	明治 44 年 7 月 1 日	支払命令正本	舞鶴区裁判所判事加古宣治、裁判所書記西田清(印)→債権者加佐郡余部町字余部上 309 番地平民井上弥十郎、債務者同上 290 番地平民人力車夫齋藤新太郎	罫紙	25 円家賃金催促、1 円 79 銭催促手続費用
2797	明治 44 年 7 月 5 日	通知書	舞鶴区裁判所裁判所書記西田清(印)→仮住所塩尻薫一郎方井上弥十郎殿	一紙	債権者井上弥十郎、債務者齋藤新太郎
2798	明治 44 年 6 月 22 日	証	舞鶴区裁判所執達吏役場(印)→井上弥十郎殿	一紙	手数料 2 円納、2798 ~ 2800 封筒「齋藤新太郎借家証」
2799	明治 44 年 7 月 1 日	約定書	加佐郡余部町字余部上 290 番地所榮三郎(印)→井上弥十郎殿	罫紙	家賃支払
2800	明治 44 年 7 月 1 日	借家証書	加佐郡余部町字余部上 290 番地所榮三郎(印)→加佐郡余部町字余部上井上弥十郎殿	罫紙	
2801	大正 3 年 5 月 12 日	領収書	道家柳藏→向川殿	一紙	10 円、2801 ~ 2803 封筒「家賃受取証」
2802	大正 3 年 5 月 16 日	領収書	余部上 5 丁目 444 道家柳藏→齊藤新太郎殿	一紙	5 円
2803	大正 3 年 5 月 8 日	領収書		一紙	5 円
2804	大正 2 年 11 月 4 日	領収証書	舞鶴支金庫(印)→余部町字余部上井上はる子納	一紙	37 円 9 銭、2804・2805 封筒「課税価格井上はる子」
2805	大正 2 年 10 月 6 日	相続税課税価格決定通知書	舞鶴税務署長副司税官芹澤秀雄(印)→相続人余部町大字余部上井上はる子殿	一紙	課税価 6997 円 78 銭
2806	(明治 40 年) 10 月 29 日	[書状]	美造→伯父様、井上様	継紙	人見様、心配事に付助け依頼、2806・2807 封筒「丹後舞鶴町井上初藏様親展」「注意書在中、京都市竹屋町通室町東入米穀商人見政吉」
2807	明治 40 年 10 月 28 日	[書状]	人見政吉(印)→井上初藏様	罫紙	約束手形一件に付至急引替依頼
2808	明治 37 年 11 月	[新市街地住家建設認可]	舞鶴警察署長柚木角衛(印)→井上初藏	罫紙	仕様書、建設物変更届、申請書、建物図面
2809	明治 37 年 4 月 27 日	領収書	余部上雑貨商増田易藏→井上様	罫紙	借用書も含む
2810	明治 36 年 8 月 11 日	約定書	下岡のぶ(印)→井上初藏殿	罫紙	家賃
2811	明治 35 年 9 月 1 日	建家借用証書	借主加佐郡余部町字余部上反物商下岡のぶ→家主余部上 2 番戸平民農井上初藏殿	罫紙	
2812	6 月 18 日	[書状]	小嶋乙吉→竹原安藏様	一紙	橋本馬藏の件相談依頼



2813	6月19日	〔書状〕	余内村字倉谷武原安蔵→余部町字上井上初蔵様	葉書	建物登記案内
2814	明治39年6月10日	契約証	加佐郡余部町字余部上井上弥十郎→津田信司殿	罫紙	畑売買
2815	明治40年旧11月1日	記	字長浜梅垣藤吉(印)→余部上井上初蔵殿	罫紙	受取書
2816	明治36年5月9日	金子借用証書	余部町字余部上井上初蔵→瀬野嘉右衛門殿	罫紙	
2817	明治37年11月16日	借金証書	余部町字余部上井上初蔵→梅垣藤吉殿	罫紙	
2818	明治36年2月21日	贈与証	余部町字余部上井上五郎右衛門→瀬野儀蔵殿、井上初蔵殿	罫紙	田畑山林
2819	明治37年2月2日	贈与証	加佐郡余部町字余部上井上初蔵(印)→井上弥十郎殿	罫紙	
2820	明治44年8月3日	土地表示変更登記申請書	加佐郡余部町字余部上井上弥十郎→舞鶴区裁判所御中	綴	
2821	明治37年11月30日	未登記之建物所有権保存登記申請	申請人加佐郡余部町字余部上2番戸井上弥十郎(印)→舞鶴区裁判所御中	罫紙	
2822	明治35年2月11日	未登記ノ土地所有権保存登記申請	申請人加佐郡余内村字余部上1番戸瀬野金蔵、右代理人同郡舞鶴町字本54番戸西野嘉左衛門(印)→舞鶴区裁判所御中	罫紙	
2823	明治37年6月2日	土地表示変更登記申請書	申請人加佐郡余内村字余部上1番戸瀬野金蔵、右代理人同郡舞鶴町字本55番戸西野嘉左衛門(印)→[舞鶴区裁判所]	罫紙	
2824	明治37年3月1日	売渡証	売渡人加佐郡余部町字余部上29番戸瀬野トメ(印)→井上初蔵殿	罫紙	山林
2825	明治37年3月1日	保証書	保証人加佐郡余部町字余部上44番戸瀬野儀蔵(印)、保証人加佐郡余部町字余部下45番戸瀬野義男(印)→舞鶴区裁判所御中	罫紙	山林
2826	明治39年1月29日	土地所有権保存登記申請	申請人加佐郡余部町字余部上2番戸井上初蔵、右代人同郡舞鶴町字北田辺28番山田信男(印)→舞鶴区裁判所御中	罫紙	
2827	明治39年1月29日	土地表示変更登記申請書	申請人加佐郡余部町字余部上2番戸井上初蔵、右代人同郡舞鶴町字北田辺28番山田信男(印)→舞鶴区裁判所御中	罫紙	
2828	明治39年1月29日	土地表示変更登記申請書	申請人加佐郡余部町字余部上2番戸井上初蔵、右代人同郡舞鶴町字北田辺28番山田信男(印)→舞鶴区裁判所御中	罫紙	
2829	明治39年6月12日	不動産表示変更登記申請書	申請人加佐郡余部町字余部上2番戸井上弥十郎、代理人同郡同町字余部下45番戸瀬野義男(印)→舞鶴区裁判所御中	罫紙	
2830	明治41年9月18日	不動産表示変更登記申請書	初蔵相続人加佐郡余部町字余部上309番地井上弥十郎(印)→舞鶴区裁判所御中	罫紙	
2831	明治41年9月18日	不動産表示変更登記申請書	初蔵相続人加佐郡余部町字余部上309番地井上弥十郎(印)→舞鶴区裁判所御中	罫紙	
2832	明治37年11月30日	不動産表示変更登記申請書	申請人加佐郡余部町字余部上2番戸井上弥十郎→舞鶴区裁判所御中	罫紙	
2833	明治41年9月18日	未登記ノ土地所有権保存登記申請	初蔵相続人加佐郡余部町字余部上309番地井上弥十郎(印)→舞鶴区裁判所御中	罫紙	

2834	明治 41 年 9 月 18 日	土地所有権移転登記申請書	初蔵相続人加佐郡余部町字余部上 309 番地井上弥十郎(印)→舞鶴区裁判所御中	豎帳	
2835	明治 37 年 3 月 1 日	保証書	保証人加佐郡余部町字余部上 44 番戸瀨野礒蔵(印)、保証人加佐郡余部町字余部下 45 番戸瀨野義男(印)→舞鶴区裁判所御中	豎帳	
2836	明治 37 年 11 月 30 日	未登記之土地所有権保存登記申請書	加佐郡余部町字余部上 2 番戸申請人井上弥十郎(印)→舞鶴区裁判所御中	罫紙	
2837	明治 35 年 11 月	賃貸借契約証書正本	賃貸主京都府加佐郡余部町字余部上貳番戸井上初蔵→賃借主余部上 289 番地下岡ノブ	豎帳	
2838	明治 39 年 6 月 4 日	領収書	株式会社百三十七銀行取締役波部本治郎(印)、右代人同銀行綾部支店支配人中山頼五郎(印)→井上弥十郎殿	豎帳	
2839	-	元瀨野万吉所有地		豎帳	土地台帳
2840	-	[井上初蔵所有地]	井上初蔵→	豎帳	土地台帳
2841	大正元年 8 月 2 日	相続税法二依ル申告	井上はる子幼年二付親権者井上いそ→舞鶴税務署御中	豎帳	相続財産明細書
2842	-	相続財産明細書		豎帳	土地ノ部
2843	明治 41 年 10 月 31 日	相続税課税価格決定通知書	舞鶴税務署長税務官藤堂金太郎(印)→相続人加佐郡余部町字余部上 39 番地井上弥十郎殿	綴	相続財産明細書
2844	-	[財産明細書]		豎帳	土地建物価格、綴外
2845	大正 7 年 5 月 15 日	[出納帳]	京都府加佐郡余部町上奥母通 309 番地井上いそ→	冊子	手帳、牛乳、みぞれ、水
2846	-	[のし袋]	→はる子様	一紙	
2847	明治 33 年 1 月	金品出納証	丹後加佐郡余部井上奥本→	綴	領収証等
2848	明治 36 年	金品出納証	井上奥本→	綴	領収証等、~ 39 年分
2849	明治 40 年	金品出納証	井上奥本→	綴	領収証等
2850	大正 8 年 1 月	金品出納証	井上奥本→	綴	領収証等
2851	大正 4 年 3 月	金品出納証	井上奥本→	綴	領収証等
2852	明治 44 年 1 月	金品出納証	井上奥本→	綴	領収証等、~大正 4 年 3 月
2853	2 月 6 日	記	上村治左衛門→上村奥本様	切紙	酒、2853 ~ 2873 こより
2854	12 月 7 日	覚	京田三衛門→井上奥本様	切紙	産着
2855	-	記		一紙	抹消
2856	-	[名前札]	惣七→	切紙	押印
2857	-	記		切紙	松の木代、抹消
2858	-	覚		切紙	受取書
2859	11 月 3 日	覚	原田宗右衛門→井上奥本様	切紙	鼠文仙縮緬
2860	5 月 4 日	覚	行永平兵衛→	切紙	酒、抹消
2861	-	桑記		切紙	目方、場所、抹消
2862	-	[記]		切紙	名前
2863	-	[記]		切紙	金額
2864	-	[記]	(印「播州コモへ播州織屋事藤野弥三郎、諸流御筆所」)→	封筒	筆値段
2865	旧 10 月 1 日	[書状]	村上野栄蔵→同井上奥本様	切紙	頼母子金依頼
2866	(明治) 24 年 12 月 12 日	記	(印「丹後加佐郡余部港増田印」)→井上様	切紙	酒代
2867	-	[記]	奥本→	切紙	福井道路工事費、学資積立金
2868	12 月 7 日	記	瀨野→上様	切紙	金額内訳
2869	-	記		切紙	売米
2870	-	[記]		切紙	金額、名前
2871	旧 12 月 20 日	[記]	井上奥本→惣代上野栄蔵様	切紙	金銭出納、抹消
2872	-	記		切紙	金銭出納、抹消
2873	-	[名前札]		切紙	井上丈一、布川惣七
2874	-	下苗代		切紙	場所、坪数、2874 ~ 2909 こより

2875	-	払口		綴	金額、名前、入口
2876	-	[祝膳献立表]	井上奥本→	綴	本膳、次の膳、招待者名
2877	-	[記]		切紙	金額、名前
2878	-	方鑿		一紙	本宅普請の節方位占、家族の年齢
2879	明治31年旧5月5日	金子借用証	借用人井上奥本→井上初蔵様	罫紙	抹消
2880-1	明治27年旧12月25日	金子借用証	借用人井上奥本(印)→安久兵左衛門様	罫紙	抹消
2880-2	明治27年旧12月28日	金子借用証	借用人井上奥本(印)→瀬野六三郎様	罫紙	抹消
2881	明治36年	明治三六年朝日新聞代一二三、三ヶ月分		切紙	金額、氏名
2882	明治31年旧7月1日	金子借用証	借用人井上奥本→井上初蔵様	罫紙	抹消
2883	明治29年旧8月6日	金子借用証	借用人井上奥本→上野弥右衛門様	罫紙	抹消
2884	明治31年旧7月1日	金子借用証	借用人井上奥本(印)→井上初蔵様	罫紙	抹消
2885	明治30年旧6月5日	金子借用証	借用人井上奥本(印)→上野勇吉様	一紙	抹消
2886	明治29年旧11月6日	借用証	借主井上奥本(印)、受人井上喜右衛門(印)→請主総代瀬野磯藏殿	罫紙	金額請主抹消
2887	明治31年3月9日	証	京都府加佐郡余内村字余部上井上奥本(印)→福井県大飯郡高浜村湯浅勘兵衛様	罫紙	金借用、抹消
2888	明治31年旧12月26日	金子借用証	借用人井上奥本→井上初蔵様	罫紙	抹消
2889	明治29年旧8月6日	金子借用証	借用人井上奥本(印)→上野弥右衛門様	罫紙	抹消
2890	明治30年3月8日	金子借用証	借用人井上奥本(印)→加佐郡舞鶴町字竹屋近藤久兵衛様	罫紙	抹消
2891	明治30年3月8日	金子借用証控	借用人井上奥本→舞鶴町字竹屋近藤久兵衛様	罫紙	抹消
2892	-	記		折紙	買物代人別割当
2893	-	古米記		綴	米高、人名、支払金額
2894	-	献立		綴	本膳、酒肴、朝、翌日
2895	-	種揃覚		折紙	こまる、ひがんもち、うちぐり
2896	12月21日	記	住屋傳兵衛→井上御氏様	継紙	献立
2897	-	記		切紙	支払内訳
2898	-	本膳献立		折紙	
2899	5月24日	[書状]	余部村役場→字余部上区長御中	切紙	柴草、松林
2900	-	記		切紙	頼母子、酒、抹消
2901	8月16日	[封筒]	余内村役場→字余部上井上豊次郎殿	封筒	反古
2902	-	[通知]	加佐郡高等小学校→井上奥本殿	切紙	授業料納付、封筒
2903	-	[覚]		切紙	神社用具
2904	亥12月	証	上林や治左衛門→上村井上奥本様	切紙	
2905	-	証	村田拜→余上村奥本様	切紙	油
2906	-	献立		切紙	
2907	-	記	瀬野與平次→井上奥本様	切紙	
2908	明治25年3月30日	金子借用証	借用人井上奥本(印)→	罫紙	抹消
2909	-	[記]		切紙	頼母子、抹消
2910	明治13年7月	刑法	京都東洞院通上珠数屋町上ル柳口活版所→	切紙	印刷物
2911	明治10年11月22日	証	神道黒住派神納所→余部上村井上奥本	綴	神文・東修、～明治17年
2912	明治9年11月	[家族書]	豊次郎→	切紙	七郎左衛門、奥本、豊治郎
2913	文政4年4月	乍恐返答書之覚	余部上村百姓中、年寄久右衛門、庄屋源蔵→御奉行様	継紙	北吸村との山論

2914	-	議事細則		継紙	明治 16 年 1 月の村会細則
2915	旧 11 月 23 日	買物記		折紙	大祭入用
2916	-	入用金記		切紙	抹消
2917	-	記		切紙	買物、抹消
2918	明治 38 年 6 月 5 日	〔書状〕	大阪市南区三体橋南詰西入福田吉兵衛様方西野いと→御両親様、丹後加佐郡余部町上奥母通一丁目井上奥本様	切紙	大海戦大勝利、封筒
2919	明治 38 年 7 月 20 日	〔書状〕	出征第 4 師団第 16 補助輸卒隊附看護長井上奥本→父上様、大日本帝国丹後加佐郡余部町奥母通井上奥本宅行	切紙	地料家賃取立方、封書、軍事郵便、2919 ~ 2930 紐、2919 ~ 2924 こより、2919 ~ 2920 封筒
2920	-	〔恩給法質問書〕		切紙	2919 に同封
2921	明治 38 年 7 月 23 日	〔書状〕	出征第 4 師団第 16 補助輸卒隊附看護長井上奥本→大日本帝国丹後加佐郡余部町奥母通井上奥本宅行	継紙	封書、軍事郵便、画像不明
2922	明治 38 年 5 月	〔書状〕	第 10 師団臨時衛生隊附井上奥本→大日本帝国丹後加佐郡余部町奥母通井上奥本宅行	一紙	封書、軍事郵便、便箋、2922 ~ 2923 封筒
2923	-	〔ビスケットの中包紙〕	西洋菓子製造所横浜市山下町 59 番レン・クロフォルド株式会社→	一紙	恩賜ビスケット
2924	明治 38 年 6 月 29 日	〔書状〕	出征第 4 師団第 16 補助輸卒隊附看護長井上奥本→大日本帝国丹後加佐郡余部町奥母通井上奥本宅行	継紙	封書、軍事郵便 2919 ~ 2924 綴
2925	明治 38 年 8 月 15 日	〔書状〕	出征第 4 師団第 16 補助輸卒隊附看護長井上奥本→大日本帝国丹後加佐郡余部町奥母通井上奥本宅行	切紙	封書、軍事郵便、便箋、2925 ~ 2926 封筒
2926	明治 38 年 6 月 24 日	〔書状〕	丹後国加佐郡河守町川崎福太郎→第 10 師団臨時衛生隊附看護長井上奥本殿	継紙	日露開戦以来大勝利、封書、軍事郵便
2927	明治 38 年 8 月 8 日	〔書状〕	出征第 4 師団第 16 補助輸卒隊附看護長井上奥本→大日本帝国丹後加佐郡余部町奥母通井上奥本宅行	継紙	年金の件、封書、軍事郵便
2928	明治 38 年 7 月 10 日	〔書状〕	西野末藏→井上奥本様	継紙	封書、軍事郵便、2928 ~ 2930 封筒「大日本丹後国加佐郡余部町奥母通井上奥本宅行、出征第四師団第十六補助輸卒隊附看護長井上奥本」
2929	明治 38 年 7 月 29 日	〔書状〕	奥本→父上様	切紙	
2930	-	〔書状〕	西野末藏→井上奥本様	継紙	
2931	明治 11 年 2 月 15 日	〔学校生徒調〕	保護人井上豊次郎→学務課、余部校当直学校御中	綴	
2932	明治 11 年 7 月	〔余部学校経費綴〕	余部学校(印)→余部上村戸長御中	綴	明治 11 年分、27 部綴
2933	明治 16 年 1 月	議事細則	丹後国加佐郡余部上村井上豊次郎→	縦帳	余部上村村会
2934	-	三百円以下二百円以上所得スル者取調書	何町村何某→	縦帳	綴破損、綴じ糸破損
2935	-	〔所得取調〕		綴	
2936	(明治) 9 年 9 月 29 日	〔学校経費〕	余部学校→	綴	
2937	明治 9 年	学費支払部分帳扣六月七月之分	余部学校(印)→	縦帳	
2938	明治 10 年 2 月	学資金勘定書	加佐郡第 10 区余部校保護人堀家新谷→京都府宮津市支庁御中	縦帳	本文抹消
2939	明治 11 年 6 月	学齢人員取調簿	加佐郡第 10 区余部上村余部校保護人→	縦帳	
2940	明治 14 年 12 月 2 日	記	秋保圓平、恒川隼太→余部上村井上豊次郎殿	綴	学校用
2941	-	取調条件		縦帳	学校
2942	11 月	十一月之部薪炭油費		綴	学校

2943	明治9年3月	学費受払部分帳	余部学校事務掛り瀨野利右衛門(印)→	豎帳	
2944	明治9年7月	学費受払部分帳六月七月之部	余部学校保護人瀨野利右衛門、井上豊次郎(印)→	豎帳	
2945	-	[学齡児童調]		豎帳	印刷、手書交り
2946	明治14年6月	学事取調条件	丹後国加佐郡第6組余部校→	豎帳	
2947	-	学資金勘定書	加佐郡第10区余部校保護人堀家新谷→京都府宮津支庁御中	豎帳	本文抹消線
2948	明治14年12月15日	約定証之事	余部上村布川惣吉→余部学校学務委員御中、新築係御中	罫紙	
2949	明治14年12月12日	学事取調	加佐郡余部上村戸長井上豊次郎(印)→加佐郡役所御中	罫紙	
2950	明治10年2月6日	[書状]	第10区詰所(印)→余部校保護人中	罫紙	学校学資金勘定書
2951	-	記		罫紙	学資金の件
2952	1月28日	記	上村保護人井上豊次郎→保護人御中様	罫紙	金銭、抹消
2953	-	記		罫紙	金銭、抹消
2954	明治31年旧12月26日	金子借用証	借用人井上奥本(印)→井上初蔵様	罫紙	金50円、抹消
2955	明治31年旧12月26日	金子借用証	借用人井上奥本(印)→井上初蔵様	罫紙	金90円、抹消
2956	明治31年旧12月26日	金子借用証	借用人井上奥本(印)→井上初蔵様	罫紙	金90円、抹消
2957	-	記		繼紙	貸地代米、抹消
2958	-	[覚]		切紙	石高、抹消
2959	(明治)32年旧7月24日	記	井上奥本(印)→井上初蔵様	切紙	金65円預、抹消
2960	-	[覚]		切紙	羽織・襦袢他、抹消
2961	-	記		切紙	戸割金
2962	-	[覚]		切紙	地価、余部校印
2963	正月27日	[書状]	余部学校ニテ秋保圓平→井上奥本様	罫紙	学資金取替の件、封筒
2964	-	[建物見取図]		切紙	
2965	-	[新築金見積]		切紙	5ヶ村戸割計算
2966	明治33年度	京都府加佐郡蚕糸同業組合員証文之覚	(印「京都府加佐郡蚕糸同業組合事務所印」)→	切紙	印刷
2967	文久4年2月	証文之覚	余部上村庄屋市左衛門、同断奥本→	豎紙	銀札1貫975匁
2968	寅12月26日	学校取替口	上村保護人井上豊次郎→保護人御中様	切紙	本箱・諸入用・薪代他
2969	9月26日	[書状]	長浜保護江上泰助→学校秋保圓平様	一紙	別紙願書之件、便箋
2970	26日	[書状]	学校訓導秋保圓平→北吸村堀池新谷様	切紙	願書の件に付
2971	10月22日	[学校支払書上]	教員→井上様	切紙	採点紙、美濃紙、罫紙他
2972	-	豊岡県小学夜学課業表		一紙	印刷
2973	明治10年1月	学賃金勘定書	加佐郡第10区余部保護人井上奥本→京都府宮津市庁御中	豎帳	
2974	明治9年10月18日	月給請取証	余部学校代判井上豊次郎(印)→区会所御中	罫紙	准10等訓導秋保圓平月給、抹消
2975	明治9年10月18日	日当請取証	余部学校代判井上豊次郎(印)→区会所御中	罫紙	准10等訓導秋保圓平月給、抹消
2976	-	[日付書上]		罫紙	
2977	-	回達	堂奥校羽賀樺二郎(印)→余部校保護人御中	罫紙	諸入費割之義
2978	3月28日	口上		罫紙	別証差上候、2978~2980封筒「余部上邨井上奥本様 秋保圓平
2979	4月4日	[書状]		罫紙	図書買物依頼
2980	明治10年3月24日	記	秋保圓平(印)→井上奥本様	罫紙	月給受取

2981	10月24日	〔書状〕	嘉右衛門→井上七郎右衛門様	切紙	宮津茂介様方安産、綿入れ差上げ候
2982	-	覚		継紙	拝借金他
2983	文久3年12月	濟口札之事	余部下村惣百姓中、庄屋半兵衛、同作左衛門→大庄屋様	切紙	水無月浜一件、書式雛形
2984	-	〔旅立句2首〕		切紙	
2985	天明8年12月1日	〔申ノ御未進書上〕	余部上村安右衛門(印)→村百姓中、年寄六郎右衛門殿、庄屋七郎左衛門殿	切紙	
2986	9月27日	〔書状〕	同武兵衛→庄屋七郎右衛門様	切紙	高名寄帳拵依頼
2987	6月17日	〔書状〕	武兵衛→七郎右衛門様	継紙	御礼の酒送付
2988	-	〔封筒〕	舞鶴稅務署(印)→余内村字余部上井上奥本殿	封筒	所得税
2989	安政2年3月	宗門入用割帳	武兵衛→	横帳	29匁1分9厘、47軒
2990	文政9年2月21日 差上	先大庄屋兵左衛門殿 手控返事覚	余部上村庄屋徳藏控→	横帳	山論一件顛末控
2991	-	記		綴	法事到来物・金品控
2992	明治39年9月吉日	進上茂久録	井上奥本→井上初藏様	綴	熨斗、扇子、不老泉、鯉節、精米、白髪
2993	明治43年5月13日	おすえ縁附心覚帳		横帳	祝儀受控・輿入当日費用11月2日聲響応祝儀受控・献立覚
2994	明治36年4月	本宅瓦屋根普請帳	井上奥本→	横帳	木材・瓦・人夫諸費用
2995	明治27年旧12月16日	天龍講勘定帳	講中→	横帳	諸費用勘定
2996-1	明治22年旧9月21日	家普請万覚帳	〔井上奥本〕→	横帳	旧9月21日始、諸道具・材料買物付、大工・木挽日当支払覚、普請に付祝儀覚手斧始メ祝儀、明治23年旧3月27日棟上家移ル祝儀覚、2996-1～4綴
2996-2	明治23年1月24日	家普請大工木挽手間相改帳	井上奥本→	横帳	
2996-3	明治23年旧11月13日	普請材木配賃錢調帳	井上奥本→	横帳	
2996-4	明治22年旧11月	普請中日庸合力附込帳	井上奥本→	横帳	
2996-5	-	〔献立覚〕		横帳	本膳献立43人前、次ノ膳36人前、三番ノ膳10人前
2997	-	順帳巻		横帳	地所別水田畝耕作人
2998	-	証		綴	余部校学務委員、教員他
2999	-	〔石高人名書上〕		綴	紙背明和元年12月「新畑新林改帳」
3000	宝曆7年12月	村夫寄覚帳		横帳	人別内訳、破損
3001	-	壹はん帳		横帳	田畝耕作人、破損
3002	-	記		一紙	祝儀・祭礼土産覚、ろうめん
3003	-	嘉右衛門田地之覚		一紙	破損
3004	安政3年正月吉祥日	雜費取替覚帳	七郎左衛門→	一紙	表紙のみ
3005	-	〔絵画まくり〕	呉春(印)→	一紙	8
3006	明治36年4月	屋根普請受取書類入	井上奥本→	綴	請求書、封筒
3007	-	記		綴	家普請、3007～3058封筒「受負証書類」
3008	明治35年2月7日	建家受負代金受取証	受取人高雄善四郎(印)→渡人井上奥本	折紙	1002円
3009	明治35年6月26日	記	呉湊和樂町青盛常八郎(印)→井上奥本殿	綴	小作米代金請求書
3010	明治34年	記	森本六蔵→井上奥本様	綴	受取書
3011	2月1日	記	岡庄→奥本様	切紙	受取書

3012	-	[小作料]	高嶋定吉→	切紙	
3013	4月	記	瀬野峯藏→上井上奥本様	切紙	
3014	-	[出入記]		切紙	収支控
3015	-	記		繼紙	入金控
3016	明治35年7月22日	[普請材手間賃明細]		罫紙	普請材、手間賃明細
3017	明治35年1月27日	記	舞鶴軍港藤川勝治郎→余部上井上殿	罫紙	請求書
3018	明治35年2月4日	[受取書]	藤川店(印)→井上様	罫紙	
3019	明治35年2月7日	記	藤川勝藏(印)→	罫紙	瓦代
3020	3月	[記]	(印「東舞鶴軍港内余部上、銀扇堂表具師小畑銀藏」)→井上奥本様	切紙	襖・掛物
3021	-	土地借用証書		罫紙	雛形
3022	-	[家屋図面]		切紙	
3023	2月4日	[受取書]	銀扇堂、岡本庄吉→	切紙	
3024	明治34年11月16日	契約証	東大浦字栃尾25番地高雄善四郎(印)→井上奥本殿	罫紙	建家延引
3025	旧6月24日	瓦送り記	字倉谷瓦製造所原田清三郎(印)→余部上井上奥本様	繼紙	
3026	明治32年6月21日	請取証	字くら谷原田清三郎(印)→字上村井上奥本様	切紙	
3027	(明治)32年10月10日	請取証	余内村字倉谷原田清三郎(印)→余内村字余部上井上奥本様	切紙	
3028	明治32年6月14日	契約証	加佐郡余内村字倉谷請負人原田清三郎(印)→本郡余内村字余部上井上奥本様	罫紙	瓦4000枚
3029	明治36年12月2日	新市街地建設物落成届	原籍京都府加佐郡余部町字余部上14番戸住所全前平民農業井上奥本→舞鶴警察署長警視柚木角衛殿	罫紙	井戸
3030	明治34年5月26日	受負証	瓦販売所藤川勝次(印)→井上奥本殿	罫紙	倉谷山内嘉蔵製中上等瓦2万枚
3031	明治34年4月9日	新市街地建設物落成届	原籍京都府加佐郡余部町字余部上14番戸住所全前平民農業井上奥本→舞鶴警察署長警視柚木角衛殿	罫紙	住家
3032	(明治)33年12月14日	瓦請負証	請負者余部上瓦合資会社本店支配人藤川勝治郎(印)→井上奥本様	罫紙	5000枚
3033	(明治)33年12月14日	屋根葺請負証	請負者余部上瓦合資会社藤川勝治郎(印)→井上奥本様	罫紙	
3034	10月2日	記	瀬野峯藏→井上奥本様	繼紙	壁塗工事代明細
3035	-	[建築見積書]		縦帳	
3036	-	建築地坪式拾坪全部明サイ書		綴	建築図
3037	-	[元利出納]		切紙	
3038	旧11月16日	記		切紙	瓦葺代勘定書
3039	12月19日	勘定書	大工高雄善四郎(印)→井上奥本様	切紙	
3040	明治33年12月21日	家屋建築請負証	舞鶴町字丹波森本六蔵(印)→井上奥本様	縦帳	図面、仕様書
3041	-	[家屋図面]		切紙	
3042	明治36年11月4日	[認可書]	舞鶴警察署長警視柚木角衛(印)→加佐郡余部町字余部上井上奥本	綴	家屋建築落成使用、井戸掘削
3043	明治34年6月5日	請負証	受負人大工高雄善四郎(印)→井上奥本様	縦帳	
3044	-	仕様書	瀬野峯藏→井上様	罫紙	
3045	4月25日	定約書	瀬野峯藏→井上奥本殿	切紙	
3046	明治37年8月8日	新市街地建設物落成御届	原籍京都府加佐郡余部町字余部上14番戸住所全前平民農業井上奥本→舞鶴警察署長警視柚木角衛殿	綴	図面
3047	明治34年4月1日	新市街地建設物使用変更届	原籍京都府加佐郡余部町字余部上14番戸住所全前平民農業井上奥本→舞鶴警察署長警視柚木角衛殿	縦帳	図面、鎮守府街道
3048	2月7日	[受取書]	岡本庄吉→	切紙	
3049	(明治)34年5月9日	家屋建築受負証	余内村字余部下磯貝宗三郎方横田定吉(印)→井上奥本殿	縦帳	図面、仕様書



3050	明治 34 年 12 月 20 日	新市街地建設物落成届	原籍京都府加佐郡余部町字余部上 14 番戸住所全前平民農業井上奥本→舞鶴警察署長警視袖木角衛殿	罫紙	
3051	明治 34 年 4 月	新市街地建設物落成届	原籍京都府加佐郡余部町字余部上 14 番戸住所全前平民農業井上奥本→舞鶴警察署長警視袖木角衛殿	罫紙	
3052	明治 37 年 4 月 24 日	御届	加佐郡余部町字余部上 14 番戸井上奥本→舞鶴警察署御中	罫紙	
3053	明治 34 年 4 月	新市街地建設物落成届	原籍京都府加佐郡余部町字余部上 14 番戸住所全前平民農業井上奥本→舞鶴警察署長警視袖木角衛殿	罫紙	新市街地建設物建設取消届下書添
3054	明治 32 年旧 6 月 4 日	建築請負証	加佐郡東大浦村字栃尾 25 番地請負主高雄善四郎(印)→全郡余内村字余部上井上奥本殿	罫紙	
3055	-	設計書		綴	
3056	-	[設計書]		罫紙	
3057	-	[家屋図面]		切紙	
3058	明治 32 年旧 6 月 4 日	金子借用通	借主東大浦村字栃尾高雄善四郎(印)→貸主井上奥本	切紙	手附、材木
3059	午 12 月	覚	壺屋(印)→余部上村庄屋七郎左衛門殿	継紙	米銀勘定
3060	2 月 16 日	[書状]	龍勝寺→奥本七郎左衛門様	継紙	一山西堂当秋受持金子無心
3061	12 月 27 日	卯之小通七郎左衛門		継紙	
3062	寅 12 月 17 日	[覚]	壺屋(印)→余部上村庄屋七郎左衛門殿	継紙	米銀勘定、前欠、下部破損
3063	午 12 月 17 日	[覚]	壺屋→余部上村庄屋七郎左衛門殿	継紙	米銀勘定、前欠
3064	文化 11 年 12 月	百姓立会連判致高改証文事	次右衛門(印)他 33 名、年寄長五郎(印)、庄屋七左衛門(印)→	継紙	
3065	丑正月	覚	大波下村孫三郎→上村七郎左衛門様	切紙	頼母子銀相渡
3066	12 月 16 日	一桐壳長覚	余部上村庄屋七郎左衛門→えひすや藤兵衛様	切紙	
3067	-	[覚]		切紙	惣分成詰他
3068	庚子 9 月 5 日	覚	壺屋世話方→余部上村庄屋七郎左衛門様	切紙	60 人講利息請取
3069	子 12 月 24 日	覚	瓦屋忠衛門→余部上村七郎左衛門様	切紙	瓦代
3070	戌 1 月 4 日	覚		切紙	端裏「米方差引書」
3071	神無月 24 日	[書状]	松尾寺納所→上村井上七郎左衛門様	継紙	来月京都へ使、古金引替
3072	子 12 月 24 日	覚	舟屋宗右衛門→上村七郎左衛門様	切紙	茶碗他
3073	子 11 月	覚	こん屋六郎兵衛→上村七郎左衛門様	切紙	こもん、布羽織
3074	-	[占書上]		継紙	6 ~ 12 月
3075	7 月 4 日	[書状]	下谷村四郎左衛門→はま村藤右衛門様、上村七郎左衛門様	継紙	当年村方殊外やかましき事出来
3076	6 月 18 日	[書状]	松尾寺→上村井上七郎左衛門様	継紙	御内室参詣御礼
3077	10 月 18 日	[書状]	安井大介→余部上村七郎左衛門殿	継紙	三宅氏御家内相談
3078	亥 12 月 18 日	[書状]	浜村嘉右衛門→上村七郎左衛門様	継紙	行永村清左衛門発起 2 番跡掛
3079	6 月 24 日	[書状]	雲門寺→上村七郎左衛門殿	継紙	銀札 500 目借用依頼
3080-1	12 月 10 日	覚(借用書上)	松尾寺納所手代小谷佐平次→井上七郎左衛門様	継紙	借用
3080-2	申 12 月 10 日	覚(借用銀渡)	松尾寺納所→井上七郎左衛門様	継紙	3080-1 巻込
3081	明治 9 年 7 月	余部学校学費受払部分帳六月七月之部	保護人瀬野利右衛門他行二付代井上豊次郎(印)→	罫帳	薪炭油費
3082-1	文化 8 年 3 月	大峯執行勸化帳	使宝院観通役内→	罫帳	余部上村
3082-2	宝曆 9 年正月	御参宮帳	余部上村→	罫帳	「覚」折紙添付
3083	-	[山林反別地租書上]		罫帳	字奥母 410 番寺等持主井上豊次郎、付箋

3084	-	奉願口上之覚		横帳	北吸村貸付勘定年延、 下書
3085	-	[勘定書上]		折紙 4	
3086	-	記		切紙	土地敷金
3087	大清光緒 32 年正月 22 日	[漢詩]	薫鉄嶺銀岡学堂事金瑞徵書(印)→	一紙	黒雲翻墨、七言律詩、 3087～3105 こと「天 龍寺大徳寺雲門寺支那 人其外書類」
3088	-	[蟹画]	清国古技余居士西岡筆→	一紙	桜翻大人補警池玩
3089	光緒丙午春	忠孝	補用知県劉東煥(印)→	一紙	
3090	戊午冬日	[漢詩]	雪堂恒(印)→	一紙	江城寒菊・・・・
3091	戊午歳暮	[漢詩]	雪堂恒(印)→	一紙	伯春未己・・・・
3092	-	[和歌]	辰昌→	一紙	あしひきの・・・・
3093	-	松間月	辰昌→	一紙	松間月
3094	-	[和歌]	龍山瑞愛(印)→	一紙	わかれなは・・・・
3095	-	[和歌]	龍山瑞愛(印)→	一紙	世の中と・・・・、明治 天皇御述懐
3096	-	[和歌]	龍山瑞愛(印)→	一紙	子を思ふ・・・・
3097	-	[和歌]		一紙	たゝ人ハ・・・・
3098	-	日清戦役凱旋之詩	天龍蒼玉(印)→	一紙	弾丸如霰・・・・、井上 春光翁作
3099	-	奉祝御即位大典拙偈	天龍管長台岳(印)→	一紙	鎮海転頭・・・・
3100	-	[漢詩]	天龍蒼玉道人(印)→	一紙	風吹柳條・・・・
3101	-	[漢詩]	天龍蒼玉叟(印)→	一紙	万軽松風・・・・
3102	-	[漢詩]	天龍蒼玉叟(印)→	一紙	無心猶場・・・・
3103	-	自意	紫野松安(印)→	一紙	
3104	-	[俳画]	瑞愛→	一紙	子もちかめ
3105	大正 8 年 1 月 22 日	[日出新聞]		刊本	3087～3104 包紙
3106	明治 38 年 10 月	横浜沖凱旋観艦式艦 隊排列図	水路部→	一紙	
3107	明治 38 年 6 月	日露軍艦存失比較	大本営海軍幕僚→	一紙	
3108	-	[九州方面図]	井上寅次郎→	一紙	鉄道線路、対馬竹敷、 手描、彩色
3109	-	[北海道方面図]	井上寅次郎→	一紙	鉄道線路、手描、彩色
3110	明治 38 年 10 月 25 日	日本海大海戦実況	東京都神田区一ツ橋通町 17 番地尚 美堂、横須賀旭町角屋書店→	一紙	彩色、破損
3111	(大正 4 年)	京都府全図	京都二条合資商報会社→	一紙	大正 3 年 2 月 26 日舞鶴 鎮守府検閲済、大正 3 年 3 月 9 日舞鶴要塞司 令部検閲済、大正 4 年 8 月 25 日舞鶴要塞司令 部検閲済
3113	元禄 13 年青和上浣	伊勢物語	大澤山人風観斎(印)→侍従殿	写本	3112・3113 桐箱
3112	昭和 6 年 12 月	元禄十三年風観斎施 点伊勢物語	井上諧→	冊子	表題墨書 内容ペン字
3114	寛政 7 年 9 月	重刻発字便蒙解	東都書肆小川彦九郎、前川六左衛 門発行(印)→	版本	叙：宝暦庚辰(10)年 8 月守山小川道記謹誌、 挟込文書
3115	天保 14 年 9 月	正字玉篇大全上	東都書林甘泉堂蔵梓→	版本	序：池田義真識、画引 字典、上・下に分冊
3116	弘化 2 年夏	貫之集類題 完	鈴木縫殿助穂積信庸蔵板→	版本	凡例：天保 13 年秋鈴木 信成
3117	明治庚寅(23)夏	流芳遺墨	海舟書屋→	折帖	著名人遺墨集、3117・ 3118 帙「流芳遺墨納入 附追賛一話」
3118	明治 24 年 7 月 10 日	追讚一話	編集者福田敬業、発行兼印刷者大 橋新太郎日本橋区本石町 3 丁目 16 番地、発兌元博文館東京日本橋区 本石町 3 丁目 13 番地(印「小浜吉 岡書籍館」)→	刊本	人物略評伝、奥書：明 治庚寅仲春勝安芳(印)

3119	-	[短冊集]		短冊帖	短冊・白紙あり、原や小塩の山の小松原（後撰和歌集）、紙箱
3120	大正7年4月	記紀中の国語の声符	井上奥本、(印「井上諧堂」)→	冊子	書写、古事記・日本書紀の声符
3121	-	論語序説		版本	
3122	-	中庸章句		版本	
3123	-	八雲抄 序・一・二		版本	「諧堂蔵書」印
3124	-	八雲抄 三		版本	「諧堂蔵書」印
3125	-	八雲抄 四・五・六		版本	「諧堂蔵書」印
3126	明治36年1月30日	小倉帖 上	筆者小野綱之助東京市神田区猿楽町3丁目2番地、発行兼印刷社吉川半七東京市京橋区南伝馬町1丁目12番地→	刊本	吉川半七蔵、小倉百人一首50首、3126・3127紙箱
3127	明治36年1月30日	小倉帖 下	筆者小野綱之助東京市神田区猿楽町3丁目2番地、発行兼印刷社吉川半七東京市京橋区南伝馬町1丁目12番地→	刊本	小倉百人一首50首
3128	-	山田武太郎著 日本大辞書緒言		冊子	書写、序、明治25年7月美妙齋
3129	文政庚辰(3)年2月	百首異見一	帝都寺町通本能寺前、銭屋惣四郎→	版本	小倉百人一首注釈書、3129～3133帙「香川景樹大人著 百首異見 全五冊 出雲寺蔵版(印)」
3130	文政庚辰(3)年2月	百首異見二	帝都寺町通本能寺前、銭屋惣四郎→	版本	小倉百人一首注釈書
3131	文政庚辰(3)年2月	百首異見三	帝都寺町通本能寺前、銭屋惣四郎→	版本	小倉百人一首注釈書
3132	文政庚辰(3)年2月	百首異見四	帝都寺町通本能寺前、銭屋惣四郎→	版本	小倉百人一首注釈書
3133	文政庚辰(3)年2月	百首異見五	帝都寺町通本能寺前、銭屋惣四郎→	版本	小倉百人一首注釈書
3134	大正4年2月11日	一日一信		刊本	奥本紹介記事、読売新聞切抜、3134～3155袋「大正三年一月名家手簡、井上奥本」
3135	11年9月12日	[書状]	京都市内大原野上俊夫→京都府加佐郡中舞鶴町井上奥本様	一紙	調査結果御礼、封筒
3136	(大正)3年7月30日	[書状]	京都市内下切通新烏丸新村出→京都府下加佐郡余部町井上奥本殿	一紙	玉稿御礼、封筒
3137	5年1月29日	[葉書]	伊沢(修二)→京都府下加佐郡余部町井上奥本殿	一紙	下平も上声も声帯を閉じる
3138	大正2年10月2日	[葉書]	伊沢(修二)→京都府下加佐郡余部町井上奥本殿	一紙	国語のアクセント
3139	3年7月12日	[書状]	京都市武者小路小川東入吉澤義則→府下加佐郡余部町井上奥本様	継紙	取材一地方に偏りたる、封筒
3140	9月9日	[葉書]	東京文科大学国語研究室東條操→京都府下加佐郡余部町井上奥本殿	一紙	論文を毎号読み、ポリワノーフ氏も読む
3141	8月14日	山居備成		継紙	添削、3141～3144封筒「井上奥本殿」
3142	-	[添削]		罫紙	
3143	-	[日出冠句]		刊本	切り抜き
3144	-	[小説]		刊本	切り抜き
3145	(明治)43年5月7日	[書状]	牛込区矢来町3番地吉田東伍→丹後国加佐郡余部町奥母通井上奥本様	継紙	丹後田数目録、近年改定史籍集覧に編入印刷、友人に写本所持、封筒
3146	5年12月5日	[書状]	東京帝国大学文科大学国語研究室藤岡勝二→京都府加佐郡余部村井上奥本様	罫紙	官集1巻図書館筆写不許可、封筒
3147-1	5年3月15日	[葉書]	東京市牛込区白銀町20番地国語研究会保科孝一→京都府加佐郡余部町井上奥本様	一紙	国語教育初号発送

3147-2	3年5月16日	[葉書]	吉澤義則→府下加佐郡余部町井上奥本殿	一紙	論文閲覧
3148	3年5月21日	[葉書]	吉澤生→府下加佐郡余部町井上奥本様	一紙	名家の声調記落手
3149	大正4年1月5日	[葉書]	三矢重松→京都府加佐郡余部町井上奥本殿	一紙	賀状
3150	旧4月18日	[書状]	若狭国大飯郡高浜湯浅勘兵衛→丹後加佐郡余部上村井上奥本様	継紙	貴母疾病見舞、封筒、3150・3151同封
3151	5月24日	[書状]	湯浅哲次郎拜→井上奥本様	罪紙	貴母不快見舞
3152	3年1月29日	[書状]	東京小石川区第六三町伊沢修二→京都府加佐郡余部町井上奥本殿	罪紙	奥本の教示依頼に対する返信
3153	(大正)3年2月12日	[葉書]	東京下谷区根岸御行の松西大槻文彦→京都府加佐郡余部町井上奥本殿	一紙	老生近年衰弱臥床
3154	(大正)3年5月7日	[書状]	牛込加賀町行徳赤堀又次郎→京都府加佐郡余部町井上奥本殿	切紙	高野山・智積院・三千院の声明
3155	(大正)5年12月25日	[書状]	京都今出川烏丸東入冷泉為系→府下余部町井上奥本殿	継紙	当家古今集序最初の所
3156	元禄13年5月11日	的之書	鹿原伝兵衛→井上清兵衛殿	継紙	吉田流射術皆伝巻物、彩色、3156～3163黄色布、3156～3164木箱木箱
3157	元禄13年5月11日	頭書	鹿原伝兵衛→井上清兵衛殿	卷子	奥：吉田六左衛門、川村江右衛門、鈴木彦左衛門
3158	元禄13年5月11日	[歌書]	鹿原伝兵衛→井上清兵衛殿	卷子	十徳の歌
3159	-	當家鞆箭之次第		卷子	矢図
3160	-	[八張弓]		卷子	弓図
3161	-	弓之惣名		卷子	射術皆伝巻物
3162	元禄13年5月	琴玉大事	鹿原伝兵衛→井上清兵衛殿	卷子	射術皆伝巻物
3163	-	射御日記上巻之		卷子	射術皆伝巻物
3164	大正13年1月	井上家重宝射術皆伝巻物写し	井上奥本→	冊子	元禄9年土目録と共に当家重代宝物、万延2年「乍恐奉願上口上之覚」写、本家分家
3165	昭和15年2月11日	詔書	御名御璽→	一紙	紀元2600年紀元節二賜リタル詔書、3165～3180紐・新聞紙
3166-1	大正13年12月	明治元年戊辰三月十四日	青雲謹書(印)→	一紙	天皇公卿諸侯ヲ会シテ五事ヲ誓ヒ給フ
3166-2	(大正13年12月)	明治元年戊辰三月十四日		切紙	
3167	-	[俳句]	八十一叟聽秋(印)→	一紙	軍港の…
3168	昭和壬申(7)盛口	[漢詩]	鐵心書(印)→	一紙	兩人…
3169	明治44年5月	堪忍	井上春光(印)→	一紙	
3170	明治44年夏	堪忍	井上春光(印)→	一紙	
3171	明治44年夏	堪忍	井上春光(印)→	一紙	
3172	明治44年夏	堪忍	井上春光(印)→	一紙	
3173	-	第3集(既刊)の紹介と正誤表		一紙	『碑とその語るもの』、昭和50年
3174	昭和7年11月2日	修了証書	岐阜県→井上さや	一紙	工場鉦山基本体操講習会
3175	昭和7年6月28日	領收証	井上さや代(印)→日本毛織株式会社御中	一紙	
3176	昭和7年8月6日	雇二採用	日本毛織株式会社→井上さや	罪紙	岐阜工場寄宿舎々母勤務
3177	昭和7年8月12日	修了証	岐阜県第1工業学校(印)→井上さや	一紙	夏季工業講習会
3178	昭和7年8月6日	修了証書	文部省(印)→井上さや	一紙	体育講習会
3179	明治25年4月1日	証	京都府加佐郡余内尋常小学校(印)→井上あき	一紙	尋常小学1年

3180	昭和 15 年	井上七良氏経営共同住宅設計参考図		一紙	
3181	大正 5 年 7 月 10 日	[謝状]	京都府知事正 4 位勲 2 等木内重四郎(印)→加佐郡余部町勲 7 等井上奥本	一紙	余部小へ函 2 個寄付
3182	明治 36 年 5 月 11 日	[謝状]	京都府知事従 3 位勲 2 等大森鍾一(印)→京都府平民勲 8 等井上奥本	一紙	余部高等小学校敷地買収費 259 円寄付
3183	明治 39 年 9 月 20 日	[謝状]	加佐郡尚武会長従 6 位勲 6 等山縣軌之助→陸軍 2 等看護長勲 8 等井上奥本殿	一紙	明治 37・8 年戦役
3184	大正 7 年 9 月 18 日	[謝状]	京都府知事正 4 位勲 2 等馬淵鋭太郎(印)→加佐郡余部町勲 7 等井上奥本	一紙	余部町糧米供給費 100 円寄付
3185	明治 41 年 2 月 1 日	[謝状]	宮城県知事亀井英三郎(印)、福島県知事平岡定太郎(印)、岩手県知事笠井信一(印)→京都府加佐郡余部町井上奥本	一紙	明治 38 年県下凶作窮民救恤 1 円寄付
3186	明治 36 年 12 月 15 日	[謝状]	京都府知事従 3 位勲 2 等大森鍾一(印)→京都府平民井上奥本	一紙	余部町消防費 21 円 40 銭寄付
3187	明治 38 年 3 月 18 日	[謝状]	京都府知事従 3 位勲 2 等大森鍾一(印)→京都府平民勲 8 等井上奥本	一紙	余部小学校建築費 37 円 50 銭寄付
3188	明治 43 年 12 月 20 日	[謝状]	大日本武徳会京都支部長正 3 位勲 1 等大森鍾一(印)→代表者井上奥本殿	一紙	支部基金 8 円 20 銭 5 厘寄付
3189	-	覚		切紙	3194 関連、丁銀、金、小玉銀、銀札、3189 ~ 3194 桐箱
3190	-	[金子書上]		切紙	前欠
3191	-	貯銀覚		切紙	小玉銀、後欠
3192	-	貯銀覚		切紙	後欠
3193	-	銀覚		切紙	
3194	万延元年	うせ物覚		切紙	大坂にて盗賊白状覚
3195	明治 8 年 3 月 10 日	田地永代売渡証券	売主布川惣兵衛(印)、受人瀬野作右衛門(印)、世話人井上藤左衛門(印)→井上奥本殿	罫紙	20 円、奥書：上羽與三右衛門、3195 ~ 3198 桐箱「末廣舞筵司精長堂」
3196	明治 14 年 3 月 5 日	地所売渡し証	売渡人第 6 組余部上村上野栄蔵(印)、証人同村瀬野弥蔵(印)→井上奥本殿	罫紙	5 円、奥書：上羽與三右衛門
3197	5 月 15 日	券状百四拾六通	余部上村 14 番井上豊次→	切紙	
3198	-	[断簡]		切紙	3197 関連
3199	-	[先祖戒名調]		一紙	寛文 4 ~ 文政、方眼紙、3199 ~ 3403 木箱「明治八乙亥年十二月地租御改正、地券箱、井上奥本所持」
3200	明治 9 年 5 月	[余部学校保護人申付証]	豊岡県(印)→井上豊次郎	一紙	3200 ~ 3203 封筒
3201	明治 14 年 11 月 25 日	[余部上村戸長申付証]	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	
3202	明治 10 年 10 月	[余部上村戸長申付証]	京都府→井上豊次郎	一紙	
3203	明治 15 年 4 月 29 日	[職務差免証]	京都府→加佐郡余部上村戸長井上豊次郎	一紙	
3204	-	[覚]	→余部上村七郎左衛門	切紙	年頭御城御酒御吸物被下、3204 ~ 3206 包紙「長浜村甚兵衛殿、余部上村七郎左衛門殿、大庄屋安久兵左衛門」
3205	-	[覚]	大庄屋安久兵左衛門→	切紙	御承知確認
3206	-	[包紙]		一紙	200 疋
3207	明治 20 年 12 月 8 日	[認定証]	黒住教天田内中教会所(印)→井上豊治郎	切紙	級外一等信徒、3207 ~ 3224 封筒「辞令入」

3208	明治9年7月3日	〔認定〕	4 小区戸長(印)→余部上村井上豊次郎	切紙	事務取扱
3209	明治24年3月1日	煙草耕作人之証	京都府(印)→京都府丹後国加佐郡余内村字余部上14番戸井上奥本	一紙	
3210	明治9年5月27日	〔書状〕	戸長(印)→井上豊次郎殿	切紙	仮辞令返却依頼
3211	明治10年12月13日	記	(印「京都府管下丹後国加佐郡第七区印」)→余部上村	切紙	戸長給料
3212	明治9年5月18日	〔呼出状〕	第15大区区会所(印)→西弥治右衛門、瀨野利右衛門、堀家新屋、井上豊治郎	切紙	
3213	明治13年6月	〔余部校学務委員当選証〕	加佐郡長野田新(印)→余部上村平民井上豊次郎	切紙	
3214	明治39年5月16日	感謝状	京都救済院(印)→井上奥本殿	切紙	金1円寄付
3215	明治13年8月	〔総代差免状〕	第6組戸長役場(印)→第6組余部上村井上豊治郎	切紙	
3216	明治13年6月	〔月俸札〕	→余部校組合村担当平民井上豊次郎	切紙	月俸30銭
3217	明治9年4月29日	乙第50号	豊岡県権令三吉周亮代理、豊岡県権参事大野右仲→正副区戸長、学区取締	一紙	小学保護人月番料支給、印刷
3218	10月11日	〔呼出状〕	京都府宮津支庁→余部上村井上豊次郎	一紙	木版
3219	明治29年度	〔組合証〕	(印「京都府加佐郡蚕糸同業組合事務所」)→	一紙	3219～3223包紙
3220	明治30年	〔組合証〕	(印「京都府加佐郡蚕糸同業組合事務所」)→	一紙	
3221	明治31年	〔組合証〕	(印「京都府加佐郡蚕糸同業組合事務所」)→	一紙	
3222	明治32年	〔組合証〕	(印「京都府加佐郡蚕糸同業組合事務所」)→	一紙	
3223	明治31年6月	〔組合証〕	京都府加佐郡蚕糸同業組合事務所(印)→井上奥本	一紙	
3224	-	大日本農会通常会員之証	大日本農会→井上豊次郎	一紙	会員証
3225	明治11年6月	〔三等教徒証〕	神道黒住派本局講師少講義黒住忠弘(印)→井上豊次郎	一紙	
3226	-	〔包紙〕		一紙	真綿100目
3227	-	〔手習〕		一紙	
3228	-	貯之銀子覚		切紙	数量、金額、3228、3229綴
3229	-	貯之銀子覚		切紙	数量、金額
3230	文化2年2月	永代売渡し候田地之事	売主市郎左衛門(印)→買主清助殿	切紙	包紙、奥書：庄屋七郎左衛門(印)他2名
3231	-	覚	奥本→	切紙	已小通、3231～3248包紙「又之丞屋太平へ譲り証文之控也、譲主奥本」
3232	亥正月6日	覚	□□民助→上村七郎左衛門様	切紙	請取
3233	-	安久兵左衛門味進年賦之事		切紙	
3234	-	伍長井上奥本組		切紙	人名、16戸
3235	-	覚		継紙	土目録
3236	午8月	覚	庄屋六兵衛→奥本様	継紙	村勘定
3237	(宝曆12)午閏4月	〔他所稼差留触〕		継紙	
3238	安政6年3月	用立申手形之事	余部上村奥本→行永村梶右衛門様	継紙	清左衛門屋敷私方へ質地
3239	(文化10年8月)	乍恐返答書之覚		継紙	上安村との山論、2541下書
3240	-	奉願口上之覚		継紙	余部下村兵左衛門質地証文争論下書
3241	天保12年閏1月	永代譲状之事	譲主下村兵左衛門(印)、受人組頭又左衛門(印)、年寄半兵衛(印)→上村七郎左衛門様	継紙	送り状添書付
3242	-	別紙一札之事		継紙	借用銀願雛形

3243	明和5年正月	借用申銀札之事	借主清兵衛(印)、請人与右衛門(印)→七郎左衛門殿	竪紙	
3244	-	御頼申口上書		継紙	北吸村と山論下書
3245	嘉永3年12月	本物証文之事	本物主太助(印)、受人下村半六年寄嘉兵衛(印)→七郎左衛門様	切紙	田、奥書:庄屋六兵衛
3246	(文政4年4月)	[乍恐返答書之書]		切紙	北吸村との山論、2913下書
3247	寛政6年2月	借用仕一札之事	借主北吸村孫右衛門(印)、年寄五郎右衛門(印)、庄屋下村兵右衛門(印)→上村七郎左衛門殿	切紙	銀札100目、質物下田
3248	文久3年	讓状一札之事	余部上村讓主奥本印、世話人三郎左衛門印→同村太平殿	継紙	儀助分宅地、又之丞屋敷跡、奥書:庄屋市左衛門
3249	明治16年1月1日	大政始祝詞 佐久間種		一紙	天皇の大御政の祝詞、3249~3253封筒表「古文書」裏「東京府下渋谷町字宮益六三番地 帝國電燈株式会社仮事務所
3250	-	三言四句		一紙	神皇成 君地義 夷国競天失光…
3251	(明治13年)1月21日	[出頭依頼状]	行なか村池田梶五郎→浜村西莖米蔵殿	切紙	13年下半季勘定決算
3252	-	三言四句		一紙	3250と同
3253	慶応4年正月	[達]		一紙	仁和寺宮征討將軍設置
3254	明治10年12月30日	地所書入金子借用証	借用主井上初蔵、請人井上五郎右衛門→井上豊次郎殿	罫紙	33円他、下書
3255	-	[訴状下書]		切紙	前後欠
3256	-	[金子包紙]		一紙	金200疋
3257	-	[証文包紙]	余部上村→	一紙	
3258	明治9年4月	記		竪帳	金銀子在庫有高、明治35年2月、38年12月、大正12年7月、昭和4年5月追加
3259	明治39年4月15日	目録	余部町→井上奥本殿	竪紙	鉄瓶、明治37・8年戦役凱旋紀念品贈呈、包紙、包紙
3260	平成3年11月3日	[新聞切抜]	朝日新聞→	刊本	秋の叙勲受章、井上充夫(横国大名譽教授)、井上充夫書簡
3261	明治10年5月10日	地券第824号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	谷口、耕地8畝11歩、裏書(以下同):明治17年5月15日井上奥本家督相続
3262	明治16年5月1日	地券第18号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	森ヶ奥山地、墓地3畝10歩
3263	明治11年9月9日	地券第1528号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	濱村中ヶ坪尻、田7畝8歩
3264	明治10年5月10日	地券第508号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	白戸、耕地8畝28歩
3265	明治10年5月10日	地券第516号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	白戸、耕地3畝9歩
3266	明治10年5月10日	地券第599号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	白戸、耕地1畝27歩
3267	明治10年5月10日	地券第600号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	白戸、耕地3畝24歩
3268	明治10年5月10日	地券第604号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	白戸、耕地2畝12歩
3269	明治10年5月10日	地券第618号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	白戸、耕地5畝13歩
3270	明治10年5月10日	地券第619号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	白戸、耕地2畝14歩
3271	明治10年5月10日	地券第621号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	白戸、耕地5畝7歩
3272	明治10年5月10日	地券第823号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	谷口、耕地6畝20歩
3273	明治10年5月10日	地券第825号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	谷口、耕地20歩
3274	明治10年5月10日	地券第827号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	谷口、耕地9畝9歩
3275	明治10年5月10日	地券第828号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	谷口、耕地7畝23歩





3327	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 970 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	奥山、耕地 5 畝 26 步
3328	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 971 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	奥山、耕地 5 畝 7 步
3329	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 977 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	奥山、耕地 3 畝 步
3330	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 1014 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	奥山、耕地 3 畝 19 步
3331	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 668 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	婿ヶ坪、耕地 2 畝 21 步
3332	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 669 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	婿ヶ坪、耕地 1 畝 17 步
3333	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 468 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	前田、耕地 3 畝 29 步
3334	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 466 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	前田、耕地 2 畝 27 步
3335	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 449 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	前田、耕地 4 畝 4 步
3336	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 448 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	前田、耕地 9 畝 19 步
3337	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 447 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	前田、耕地 8 畝 28 步
3338	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 446 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	前田、耕地 1 反 5 步
3339	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 232 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	前田、耕地 3 畝 9 步
3340	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 233 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	前田、耕地 1 畝 26 步
3341	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 237 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	前田、耕地 5 畝 24 步
3342	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 290 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	前田、耕地 8 畝 16 步
3343	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 497 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	北安、耕地 2 畝 13 步
3344	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 506 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	北安、耕地 5 畝 3 步
3345	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 501 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	北安、耕地 2 畝 10 步
3346	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 163 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	森ヶ奥、耕地 6 畝 17 步
3347	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 143 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	森ヶ奥、耕地 4 畝 14 步
3348	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 142 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	森ヶ奥、耕地 2 畝 6 步
3349	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 141 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	森ヶ奥、耕地 4 畝 28 步
3350	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 127 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	森ヶ奥、耕地 3 畝 3 步
3351	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 126 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	森ヶ奥、耕地 5 畝 10 步
3352	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 125 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	森ヶ奥、耕地 5 畝 18 步
3353	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 124 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	森ヶ奥、耕地 5 畝 6 步
3354	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 116 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	森ヶ奥、耕地 6 畝 12 步
3355	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 115 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	森ヶ奥、耕地 5 畝 13 步
3356	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 97 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	森ヶ奥、耕地 4 畝 3 步
3357	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 96 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	森ヶ奥、耕地 4 畝 10 步
3358	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 56 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	森ヶ奥、耕地 4 畝 18 步
3359	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 44 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	森ヶ奥、耕地 1 畝 3 步
3360	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 42 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	森ヶ奥、耕地 1 畝 8 步
3361	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 33 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	森ヶ奥、耕地 14 步
3362	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 195 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	久田、耕地 5 畝 27 步
3363	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 187 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	久田、耕地 1 畝 15 步
3364	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 186 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	久田、耕地 1 畝 2 步
3365	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 185 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	久田、耕地 3 畝 2 步
3366	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 27 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	土井ノ内、耕地 4 畝 21 步
3367	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 26 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	土井ノ内、耕地 6 畝 29 步
3368	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 25 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	土井ノ内、耕地 6 畝 5 步
3369	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 24 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	土井ノ内、耕地 3 畝 4 步
3370	明治 10 年 5 月 10 日	地券第 12 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	土井ノ内、耕地 1 畝 10 步
3371	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 10 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	スコ、山林 3 反 8 畝 14 步
3372	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 14 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	スコ、山林 5 畝 19 步
3373	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 24 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	北安、山林 2 反 16 步

3374	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 403 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	小西、山林 9 反 20 步
3375	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 405 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	小西、山林 9 畝 4 步
3376	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 421 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	宇柳、山林 1 反 1 畝 4 步
3377	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 430 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	宇柳、山林 16 步
3378	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 531 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	森ヶヲク、山林 3 反 4 畝 步
3379	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 501 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	森ヶヲク、山林 7 畝 26 步
3380	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 330 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	下谷、山林 2 反 24 畝 步
3381	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 316 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	ヲク山、山林 7 步
3382	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 493 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	ヲク母、山林 3 反 2 畝 13 步
3383	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 477 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	宇柳、山林 8 畝 23 步
3384	明治 15 年 4 月 10 日	地券第 573 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	後山、山林 1 畝 13 步
3385	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 446 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	宇柳、山林 1 畝 9 步
3386	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 501 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	宇柳、山林 1 反 3 畝 1 步
3387	明治 15 年 4 月 10 日	地券第 580 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	奥山、山林 2 畝 16 步
3388	明治 15 年 4 月 10 日	地券第 579 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	奥山、山林 6 畝 5 步
3389	明治 15 年 4 月 10 日	地券第 575 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	後山、山林 7 畝 26 步
3390	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 108 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	後山、山林 1 畝 19 步
3391	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 214 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	ヲク山、山林 1 畝 19 步
3392	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 239 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	ヲク山、山林 1 反 2 畝 10 步
3393	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 377 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	下谷、山林 1 反 2 畝 18 步
3394	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 361 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	下谷、山林 3 畝 24 步
3395	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 357 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	下谷、山林 3 畝 8 步
3396	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 541 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	森ヶヲク、山林 29 步
3397	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 27 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	北安、山林 1 反 4 畝 18 步
3398	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 40 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	後山、山林 2 畝 27 步
3399	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 60 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	後山、山林 1 反 26 步
3400	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 83 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	後山、山林 1 畝 19 步
3401	明治 19 年 6 月 10 日	地券第 587 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	宇柳、山林 23 步
3402	明治 15 年 4 月 10 日	地券第 569 号	京都府(印)→井上奥本	一紙	宇柳、山林 6 畝 2 步
3403	明治 14 年 6 月 17 日	地券第 390 号	京都府(印)→井上豊次郎	一紙	小西、山林 3 步
3404	明治 42 年 3 月 30 日	帝国学士院蔵版、仮名遣及仮名字体沿革史料 全	著作権者帝国学士院、発行者東京市日本橋区新右衛門町 16 番地株式会社国定教科書共同販売所→	刊本	高尾山神護寺蔵「沙門勝道曆山瑩玄珠碑」～宮内省蔵「周易傳義大全」、印刷、帙、新聞切抜大阪朝日新聞、大正 7 年 8 月 25 日学士院授賞式記念記事
3405	-	[木製紙巻たばこ盆]		物品	銅製灰皿・安芸宮島風景彫のたばこ蓋付、21 × 14
3406	-	[皮製紙入]		物品	内側和紙製、14 × 10.5
3407	-	[鍵]		物品	紐、巻貝殻、長径 3.8
3408	大正 11 年 6 月 24 日	[鉄製文鎮]	舞鶴工廠→	物品	なみかぜ進水記念、円形・中央に鳳凰図、径 6.3
3409	-	[紫地木綿製更紗風呂敷]		物品	3405 ~ 3409 入
3410	-	[縞木綿地風呂敷]		物品	3411 ~ 3420 入、「ヲクモト」
3411	-	[木綿長着袖]		物品	紐、袋に代用力

3412	-	[古銭・一分金・二朱金・一分銀・二分銀・一朱銀・二朱銀・南鐐二朱銀・南鐐一朱銀]		貨幣 23	一分金 2・二分金 1・一分銀 7・二分銀 2・一朱銀 7・二朱銀 1・南鐐二朱銀 1・南鐐一朱銀 2、3412～3414 青地裂、包紙：宝暦 8 年 8 月「余部上村寅之年分入木通」表紙
3413	-	[古銭・丁銀]		貨幣 3	丁銀 3、包紙、卯 7 月横帳断簡
3414	-	[古銭・豆板銀]		貨幣 27	豆板銀 27、毛糸包、包紙：明治 35 年「日傭帳」
3415	-	[古銭・近代銀貨・外国銀貨]		貨幣 35	一圓銀貨 2・貿易銀 1・五十錢銀貨 9・二十錢銀貨 3・十錢銀貨 4・五錢銀貨 10・ONEDOLLAR 一圓銀貨 1・中華民國銀貨 2・光緒元寶 1・朝鮮一兩銀貨 1・大韓二錢五分銀貨 1、更紗麻布包・包紙「味進勘定書」
3416	-	[古銭・近代銅貨・外国銅貨]		貨幣 22	二錢銅貨 2・一錢銅貨 5・半錢銅貨 2・一厘銅貨 2・十円銅貨 1・大清銅幣銅貨 2・光緒元宝福建官局造 1・香港一錢銅貨 1・大朝鮮五分銅貨 2・ロシア 5 ルーブル銅貨 1・ロシア 1 ルーブル 3、包紙金銭書上
3417	-	[古銭・穴あき銭 寛永通宝・文久通宝他]		貨幣 87	寛永通宝・光緒通宝他、包紙金銭書上
3418	-	[古銭]		貨幣 55	五円 2・一円 3・五十錢 10・十錢 15・五錢 18・一錢 6・上海 5 セント 1、包紙罫紙
3419	-	[懐中時計・ウォルサム製]		物品	3419・3420 布
3420	-	[懐中時計・タバネス製]		物品	
3421	-	[キセル]		物品	龍の彫刻、包紙

# 井上奥本による 明治42年「余部町史稿」編纂

東 昇

## 1 地元の歴史への関心

井上奥本（1871～1933）は、「井上奥本家文書解題」（35頁）で記したように、余部町の町長代理・助役・区長・議員を勤め、また在野の国語学者として知られていた。しかし井上奥本家文書の整理を進めると、奥本は、井上家・地元余部・加佐郡・丹後の歴史にも関心を持ち、調査・研究していたことが判明した。そのなかで明治42年（1909）に奥本が編纂した「余部町史稿」（文書番号2014、以下同）は、この調査・研究の成果が盛り込まれており、史料紹介をかねて、内容とその後の明治45年「維新以前地方民政制度調査」への展開について述べたい。

## 2 明治42年「余部町史稿」の内容

明治42年「余部町史稿」は、稿本の名の通り、追加史料や加筆修正が多く、明治42年から開始しその後も継続し編纂している。内容は、①地理・歴史、②現勢状況、③高倉神社・雲門寺、④史料の4部構成である。

**位置** 舞鶴鎮守府所在地ナル餘部町ハ丹後国加佐郡ニアリ、四部落ニテナル  
**丹後**（タニハノミチノシリ）丹後ハ続日本紀元明天皇和銅六年四月ノ条ニ、「割テ丹波ノ国五郡ヲ、始テ置ク丹後ノ国ヲ」トアルヲ元トス  
**加佐** 加佐郡ハ上古與謝郡ト一ナリシモノ、如ク、全帝三十九年、天照大神ヲ大和笠縫邑ヨリ、丹波吉佐宮ニ遷シタル、当時豊受大神ト共ニ遷幸セラレシ、吉佐宮ナルモノ丹後ニ三所アリテ、其二所ハ加佐郡内ニアリ、而シテ正史ニ此郡名ニ顯ハレタルハ、日本書紀天武天皇白鳳五年九月ノ条ニ、「神官奏シテ曰ク、為メニ新嘗トフニ国郡ヲ也、齋忌（ユキ）ハ齋忌此云踰既、東左即チ尾張国ノ山田郡、次（スキ）ハ次此云須岐也、西右丹波国訶沙郡並ニ食リトニ」トアルヲ以テ、尤トモ古シトス

まず①地理・歴史では、余部町の位置からはじまり、丹後・加佐・余部の由来・歴史、地積・石高、私人（村の旧家）である。丹後では、「続日本紀」から和銅6年（713）の丹後分国を記し、加佐では「日本書紀」から、白鳳5年（665）新嘗の主基国となった丹後国訶沙郡を引用している。余部では、「和名類聚抄」を引用し、加佐郡十郷について私見を述べる。

**地積** 正応田数帳（丹後国田数目録トモ称シ）ハ、鎌倉幕府ノトキ、即チ正応元年ノ但馬ノ太田文（太田文トハ弘安八年、鎌倉幕府ノ命ニヨリ、但馬ノ太田太郎左衛門尉政頼太田文ヲ注進ス、其書ハ守護人大江某署名之後世ニ伝播スト云フモノコレナリ）ヲ本トシテ百七十年ノ後長祿三年ニ、其庄郷里保ノ下地田数及ビ知行人ヲ檢注シタルモノナリ、之ニ加佐郡、倉橋郷、百六十七町七反

百八町一反七十五歩、領家延永左京亮  
二十七町九反八十三歩、興保呂 小倉筑後守  
三十一町六反二百二歩、地頭 小野寺  
餘部里六十町八反二百九歩、鹿王院  
大内庄九十七町二反三反歩、三上江州  
田辺郷百九十九町五反二歩、細川讃州

トアリ、此餘部ハ餘部上、餘部下、長和ノ四部落ヲ指シタルモノニシテ、現今餘部上ニ天龍寺鹿王院末ナル雲門寺アリテ、開山ハ普明国師ナリ、且ツ其寺記ニモ、餘戸ハ鹿王院古領ナリシ由ヲ記サレアリト云フ（出雲風土記ニ曰ク、「意宇郡餘戸里、郡家正東六里二百六十歩、依神龜四年編戸天平里、元來里故云餘戸、他郡且如之」）

**石高** 元祿九年六月、奉行ヘ差出セル、古文書土目録ニ依ルニ

二百七十四石九斗五升、和田村  
百九十七石七斗八升一合、長濱村  
三百六十石三斗、余部下村  
二百九十四石七斗一升、余部上村

トアリテ、當時余部上ハ拾五軒ト記サレタリ、以テ他部落ヲモ類推スベシ

**私人** 余部上井上家ノ古記ニハ、十一世前ノ祖ハ、天和元年亡トアリテ、今ヨリ二百二十八年前ニ当ル、當時ノ余戸上ハ瀬野、井上、上野、高橋、布川ノ五姓ナリシト

地積では「正応田数帳（丹後国田数目録トモ称シ）」を引用しているが、その基になったと思われる「丹後国諸庄郷保総田数帳目録」（2026）が現存する。石高では「元祿九年六月、奉行ヘ差出セル、古文書土目録ニ依」とあり、井上家所蔵の「土目録」（821、2530）を典拠としている。私人でも、井上家の古記を引用し、11世前の祖が天和元年（1681）亡とあり、現在（明治42年）から228年前としている。そして当時の余部上には、瀬野、井上、上野、高橋、布川の5姓があったとする。この古記年代と、井上家歴代を記した「〔先祖戒名調〕」（3199）の、初代七右衛門の死去年が一致している。

**劇場** 歌舞伎座三六・八、余部座三五・三、寿亭

**神社** 高倉社（中古山上ヨリ下シ、天正年間若狭高濱ノ城主逸見駿河守、当町附近ヲ占領シ、其臣岡本某ナルモノ、宝殿ヲ新造セリ）若宮社、稻荷社、村社一、無格七、計八

**寺院** 雲門寺、長江寺（貞観年中、慈覚大師立）、計二

**教会** 東本願寺、西本願寺、浄土宗、天理教、金光教、日蓮宗、曹洞宗

**座廊** 賀津良

**学校** 第一、第二

**温泉** 薬師

**古木**

**警察** 出張所二

**郵便** 受取所、郵便局

**憲兵屯所**

海軍地墓 三千坪、三十三年

市街計画 〈三十一年八月ヨリ三十二年三月迄、費額〉

交通 〈エノキ七万円、道芝三十五万円〉、惣計百万五千円、〈三十四年一月着、三十五年七月成〉

銀行 高木、多可

病院一、出張所一、医師七

つぎに余部町の②現勢状況、劇場・神社・寺院・教会・座廓・学校・温泉・警察・郵便・憲兵屯所・海軍地墓・市街計画・交通・銀行・病院の項目である。第1、2小学校や劇場・銀行・病院など、当時の発展する余部町の様子を記す。また市街計画に31年8月～32年3月と開発年代があり、発展の経過を歴史として付記し、現在の余部町も記録している。

一高倉神社祭神（村社）、中誉田別命、〈左春日大神、右天満天神〉

一天正年間、若狭高濱城主逸見駿河守、餘部町附近ヲ占領シタルトキ、其臣同国和田ノ城士岡本主馬ノ助、餘戸ノ地ヲ領シ、社地一町六反アリシヲ取り上げ、終ニ田畑一反余ヲ残セシ旨、天正十二年ノ社領書ニ有リ、其頃宝殿ヲ新営セリト〈旧諸書ニ曰、慶長五年七月小野木兵乱ノ節、玄旨ヨリ田井・成生へ廻状ノ宛名岡本新兵衛殿書之、天正十二ヨリ慶長五迄十七年〉

一全社棟札ノ文ニ曰ク、天文六年丁酉十月十四日、願主南部修理亮源膳行、〈全書ニ曰、（余部下、佐波賀、田中村ニカカル文）、南部門主伊賀ニ預ケラル云々、従五位橘氏親、鳥羽弥三郎榮秀、下代小林伊賀守行忠、（天文六ヨリ天正十二迄四十八年目）〉

一全壺枚、文政五年八月七日、阿遮（闍）梨法師諦寛代〈泉源寺智往院住職カ〉

一祭神、誉田別尊、天兒屋根命、菅原道真公

一全社宝物、高麗犬壺対〈備前壺焼、慶長十四年八月十五日ト銘有〉

一全社額、「高倉八幡宮」、宝暦甲戌年二月〈旧語集曰、貞享二年境谷村天神の額を、持明院基時御筆、貞享二ヨリ宝暦四戌迄七十年〉、左近衛権中将藤宗時書（持明院書）右添翰、宝暦四甲戌二月正四位上（牧野カ）豊前守狛近任（書判）

一全社文書、天正十二甲申八月吉日、岡本主馬之助之幸

余部六ヶ村百姓中

そして③高倉神社では、祭神・歴史・宝物を記しているが、「天正十二年ノ社領書」や棟札、額など資料名と概要をあげている。雲門寺については、まず『国史大辞典』の春屋妙葩の解説や、「普明録摘記」の「雲門寺偶伉」を全文引用する。この『国史大辞典』は八代国治他編、吉川弘文館が明治41年に刊行したもので、大正8年「蔵書目録」（2016）にも記され、最新の情報を取り入れていたことがわかる。

### 余戸之内長濱八幡宮へ寄進書

合田壺段者 壺（所ハ濱中）

合畠式百四拾五歩者 壺所ハ池尻ニ壺（所ハ）

右之田畠者拙者に永代被下領知之内たりといへとも八幡宮へ寄進申候、然上者社之修理神事等之御供已下無由断可被執行事専一候、子々孫々異儀有間敷候、仍寄進状如件

天正十二甲申八月吉日

岡本主馬助

元幸（花押）

余戸六ヶ村

百姓中



(裏書) 岡本主馬寄進之通得御意候処、神方之事二候間以檢地之上壘段五十歩任寄進  
状之旨不可有相違由二候間可得其意者也

慶長三年

十月二十二日

里夕(花押)

#### 高倉神社所蔵棟札

(表) 願主南部修理亮源膳行

鳥羽弥三郎栄秀

下代小林伊賀守行忠

奉造立丹州加佐郡余戸里高倉八幡宮武運長久子孫繁昌所也敬白

従五位橘氏親 天文六年丁酉十月十四日

(裏) 高濱

大工 三郎左衛門尉

上林

太郎次郎

#### 高倉神社所蔵棟札

峯正徳五乙未歳 大工朝代町

林田與三左衛門房昌

奉建立高蔵八幡宮余戸里六ヶ村氏子中敬白

五月吉祥日

長濱村肝煎

江上太郎左衛門

(裏)

大工東梁朝代町

林田與三左衛門房昌

同 傳之亟 房章

#### 全社所蔵備前焼高麗狗銘

あこ前二おき

びせんつほやき衆

きしん仕申候也

慶長十八年

八月十五日

④史料では、本文・改行など形態を維持しながら、出典、註釈とともに掲載する。収載しているのは、応安3年(1370)春屋妙葩の寄進状、天正12年(1584)岡本主馬ノ介の長浜八幡宮寄進書と慶長2年(1597)の寄進書裏書、高倉神社所蔵の天文6年(1537)、正徳5年(1715)の棟札、舞鶴市指定文化財の高倉神社の慶長18年の狛犬銘文、元禄13年(1700)井上清兵衛の弓印可状である。おそらく現地で原文書を確認し筆写したと考えられる。また弓印可状は、井上家所蔵の「射術皆伝巻物」8巻(3156～3163)であり、「土目録」と同じく自家所蔵の史料も利用している。挟み込みの文書には『国文論纂』の「定使」の項目を頁数も含めて引用しており、徹底した調査・研究手法であった。この「余部町史稿」は、余部の歴史を各種資料から実証する基礎作業であると同時に、鎮守府開設に伴い急激に変化する郷土余部の歴史・現在を残したいという思いから執筆した可能性がある。

### 3 明治45年「維新以前地方民政制度調査」への参加

その後、奥本の「余部町史稿」編纂が活かされたのが、明治45年京都府が編纂した「維新以前地方民政制度調査」である。この調査は、京都府が明治44～45年にかけて実施した、維新以前の民政自治制度に関する事業で、日露戦争後の地方改良運動の一環として行われた（『京都府立総合資料館所蔵文書解題』改訂増補、1993）。加佐郡は町村単位で現存し、各項目は詳細で史料本文の引用も多い。

この調査結果を余部町で出版したものが、明治45年4月「維新以前地方民政制度沿革及事蹟調査書」（2333）である。本調査書は、調査委員井上奥本、前田史郎、土井禎吉、亀井新太郎とあり、なかでも「本誌ハ専ラ井上奥本、前田史郎、両氏ノ調査ニ係ルモノナリ」とあることから、奥本が調査の中心人物であった。

内容をみていくと「町名ノ起源」では、余部の地名が全国100カ所以上あることなど「余部町史稿」にはない記述があり、「余部調書」（1997）などを引用している。「習慣恒例」には、文化10年「作方年中行事」（2043、翻刻①）を用い、概略をまとめている。附録の1余戸之内長濱八幡宮へ寄進書、3応安3年（1370）春屋妙葩の寄進状は「余部町史稿」と同じ史料、2文化11年2月「幾利死丹宗門御改帳」（1419）は井上家文書、そして4明治11年瀬野りつ貞節褒賞の明治期の史料が掲載される。また奥本は、関連する資料として、加佐郡内の「維新以前民政制度沿革及事蹟調査」を収集しており、東雲村、丸八江村、有路上村、岡田下村、西大浦村、朝来村分（2360～2363）が現存している。

この後、奥本は、大正14年4月16日「丹後田邊在々高書帳」（2009）などを写し、丹後全体に関する大正15年2月「丹後志資料」（2358）をまとめる。余部に関しては、大正15年6月「郷土史料」（2357）として、雲門寺縁起概要、余部下村誌、瀬野りつ女、丹後一色氏年譜などを収載する。また大正13年頃編纂の「家名変遷表」（2046）は、明治15年改正戸番号を基準に、余部上村52軒分の家名（屋号）の変遷（明治、安政、文化、宝暦）をまとめている。元禄前後より大正13年までの約250年間を掲載するとあり、その典拠として「当村保存ノ高帳・宗門帳及ビ雲門寺保存ノ過去帳」を調査した、しかし誤脱があるので後日の訂正を待つと記している。ここから、奥本は自家や村内の近世文書、雲門寺の過去帳など、資料に基づいた調査方法に徹していたことがうかがえる。

他にも、明治35年7月「丹州三家物語」（2019）、明治41年3月「丹後旧事記」（2010）などの写本も存在し、後にこれらを集大成した『丹後史料叢書』を編纂する、京丹後大宮の郷土史家永浜宇平との関連や、同時期に郷土史を研究した人々との交流などが考えられる（京丹後市教育委員会編『丹後が生んだ偉大な郷土史家』永浜宇平の生涯1.2、2011.2012）。なお、永浜宇平は「宮津町の母体に就いて」（2343）という論考を、奥本へ贈呈している。また明治43年5月7日歴史地理学者吉田東伍からの書簡（3145）に、丹後田数目録は近年「改定史籍集覧」に編入された、友人が写本を所持しているなどの情報を得ている。このように国語学の研究と同じく、全国の学者との交流なども想定できる。今後は井上奥本家文書をはじめ、関連資料を調査することにより、井上奥本の郷土調査・研究について分析を進めていきたい。

②明治一六年「皇国地誌編輯之例則調査」(2234)

(表紙)

「明治十六年

皇国地誌編輯之例則調査

加佐郡餘部上村

戸長瀬野喜佐吉

皇国地誌編輯例則二抛り一村之最状調査

丹后国加佐郡餘部上村

従来当郡餘部郷ト唱エ、餘部谷則、本村ヨリ全下村迄

二ヶ村ヲ、餘部谷ト称ス、今湮滅シテ存セス、然レ

トモ往昔ヨリ餘部ニテモ有之ケ、従来加佐郡二属シ餘

部郷ト称ス、最本村ノ古時年号、干支不詳

疆域 東ハ全郡北吸村ニテ後山ヲ以テ境トス、南ハ全

郡上安村ニテ奥山ヲ以テ境トス、西ハ全郡和田

村ニテ如柳・小西・森ケ奥ノ山ヲ以テ境トス、

北ハ全郡下村ニテ森ケ奥ノ田畑、野山、里道、

野道ヲ以テ界トス

幅員 東西八百間、南北千五十間、坪数七十万六千

七百五十坪

管轄沿革 往古、織田氏執政之時、天正十一年五月

十八日迄御支配ナリ、三万五千四百二十六石壹

斗五升五合ヲ拜領、知行ノ内二百九拾四石七斗

壹升餘部上村総高ナリ、細川兵部大輔藤孝ノ所

領タリ、全嫡子越中守忠興相統、徳川氏執政之

トキ、慶長五年細川忠興豊前国小倉へ移サレ、

全年ヨリ京極丹后守高知之所領タリ、全二男修

理太夫高三相統、全嫡子飛騨守高直、寛文八年

但馬国豊岡ニ移サレ、全年六月ヨリ牧野佐渡守

里程

親成ノ所領トナリ、以後牧野家相統、明治二年  
牧野内匠頭弼成版籍返上、舞鶴藩トナル、全四  
年七月廢藩、舞鶴県トナル、全年十月豊岡県へ  
編入、全九年八月京都府之管轄ニ属ス

京都府庁ヨリ「西北方ヨリ」(朱書、以下同)

本村ノ元標迄二十四里余リ、「宮津支庁ヨリ東

南方凡七里」加佐郡役所ヨリ本村ノ元標迄壹里

十八町余リ、「三隣本村元標ヨリ北方」全郡「餘

部」下村元標迄七町八間、本村ノ元標ヨリ「西

方」全郡和田村ノ元標迄十八町三十七間、本村

ノ元標ヨリ「南方」全郡上安村ノ元標迄三十町

三十六間

地勢

東ハ山林ヲ負ヒ、南ハ草山ヲ負ヒ、西ハ山林ヲ

負ヒ、北ハ耕地、全郡「餘部」下村へ連接ス、

本村ハ山間ノ地ニシテ運輸不便也、薪ハ村民ノ

需用ニ乏シカラス

地味

其色黒赤ニシテ、其實五穀ニ悪シク、柿、桐実

ニハ悪シカラス、桑茶等ニハ適シ、「水利不便

ニシテ、時々旱ヲ患フ」

税地

田反別二十八町七反六畝七步、畑反別六町四反

五畝拾步、宅反別一町六反九畝二拾六步、山林

反別二拾七町三反步、柴草山反別二拾一町步、

總計反別八拾五町二反一畝拾三歩

字地

東ノ部 後山ハ本村東ニシテへ東西四百間、南

北三百間

南ノ部 ○奥山ハ本村南ニシテへ東西七百三十

間、南北五百五十間

西ノ部 小西ハ本村西ニシテへ東西二百五十

間、南北三十間、如柳ハ本村西ニシテへ東西

三百二十間、南北四十間、奥母ハ本村西ニシ

テへ東西百三十間、南北三百五十間、○森ケ

奥ハ本村西ニシテへ東西四百間、南北百二十間

貢租

北ノ部 久田ハ本村北ニシテへ東西七十二間、  
南北百十五間、土井ノ内ハ本村北ニシテへ東  
西百三十五間、南北九十八間

地租金四百六拾三円九拾四錢二厘、賦金貳拾四

円拾八錢三厘、總計四百八拾八円拾貳錢五厘

戸数 本籍五拾一戸、社一戸

人数 男百拾壹人、女九拾四人、總計貳百五人

牛馬 牝牛十二頭

川 「餘部川」、水源ハ榎峠ノ麓ヨリ発シテ、字奥山

耕地ノ間ヲ過キテ、本村ニ入ルへ村民ノ称、

深サ五寸、幅壹間半、長サ千百拾貳間、直ニ「北

方」全郡「餘部」下村ニ入ル、「清ニシテ急」

里道一等ニ属ス、本村ノ北全郡「餘部」下村境

ヨリ、全郡上安村ノ境ニ至ル、其長サ千貳百八

拾八間、幅三尺五寸、順路小下村ノ境ヨリ本村

ノ耕地ヲ右左ニ曳キ至リ奥山ニ至ル奥山ノ道過キ

全郡上安村ノ境ニ至リ榎峠アリ、其峠ヲ過キ

至車工上安村ノ屬ス

社 「八幡」小西神社、社格未定、東西三間半、南

北七間、面積貳拾六坪、本村ノ南方ニアリ、其

由緒不詳、祭日六月六日

稲荷神社、社格未定、東西二間、南北壹間、面

積貳坪、本村ノ南方ニアリ、其由緒不詳

物産植物 米貳百八拾四石五升、麦三拾壹石三斗三升、

大豆三石六斗、菜種三石二斗二升、右各種其性質

美ナラス、中等品ニシテ、最モ舞鶴市街工輸出ス

男農業ヲ事トスル者七十五人、女農業ヲ事トス

ル者六十五人

右之通ニ御座候也

丹後国加佐郡餘部上村

戸長 瀬野喜佐吉

大蓋は鯛などの姿造り（生物）を盛り、松の木を背景に据えて竹・梅を飾り白髪大根（海波を表す）等であしらいにする。婚礼は嶋臺の代わりにもし尉と姥が飾られる。上棟式には赤が禁忌の為、南天・紅梅等は飾らない。当家にも「大蓋」と墨書の箱に大皿とともに入れてある（祖母）。台引ならば塗台（鉢台・皿台と言う）に乗せた取看で焼物・煮物が多い。

○茶碗 磁器製で用途は菓子碗と同じ、菓子碗よりおおぶりで種類が多く盛れる。生菓子専用に使っていた。煮物は菓子碗に（祖母）。

○菓子碗 本来は菓子（果物）を盛ったものが煮物を盛る器となつた漆塗碗（膳部菓子と言ひ、祝儀は鶴・亀・松など、不祝儀は野菜などが横られた生菓子が盛られた）で茶碗と同様。膳部菓子は「坪・平・茶碗」と称され現在でも和菓子店で作られている。

○硯蓋 焼物皿を代用し口取等を盛るものも硯蓋と言ひ盛込皿とも言う（盛込みも口取等を皿に盛付けたもの）。祝儀に硯蓋、不祝儀に盛込皿と使い分けをしてきた可能性もある（祖母）。

話者 大正二四年生、福井県高浜町小黒飯・男性、昭和九年生、同町宮尾・男性、明治四〇年生、故人、女性（祖母）

### ②明治三十八年井上奥本書状（2921）

尚々写真杯は支那人にて営業として致居候者多数有之当品も同様候に候  
拜啓酷暑之候に候処、皆々様御変り無之候哉、当地は此頃は御地の梅雨之様にて、多少つ、毎日降り申候故、割合あつくは之なく候らへ共、道路はどろ、どろとなり皆交通にはこまり居申候、扱此頃別紙写真三枚とり申

候に付、不出来には候らへ共送り申候、平野又は其他の写真屋にて台紙をあてさせ被下度候、何処へくばると云ふ思案一寸つきかね候に付、可然御取斗らひ被下度候、先は要件のみ、如此 勿々頓首  
三十八年七月二十三日  
井上奥本

両上様

追而台紙の裏には左之通り記し候ては如何にやと存候宜敷御願申上候、已上

為征露記念撮影

於清国鉄嶺

明治三十八年七月 井上奥本

再伸書状の表書に「医務室」の三字は不要に付一寸申置候也

### ③明治三十八年井上奥本書状（2922）

謹啓 本月十一日出封書及大封菓子書状共、今廿八日隨に受取申候間、此如御安心被下度候、時報も十六日分迄全く着仕候間、是又御安心被下度候、おあき義も無事川崎様へ縁附候趣安心仕候、其内先方へも書面いたし度考に候間此如御承知被下度候、当方は不相変以前之地に滞在致居候、今日は上村艦隊が敵ノ重艦九隻を打沈めたりとの説をも聞及喜び居申候、先は御返事旁如此候  
勿々頓首

明治三十八年五月廿八日

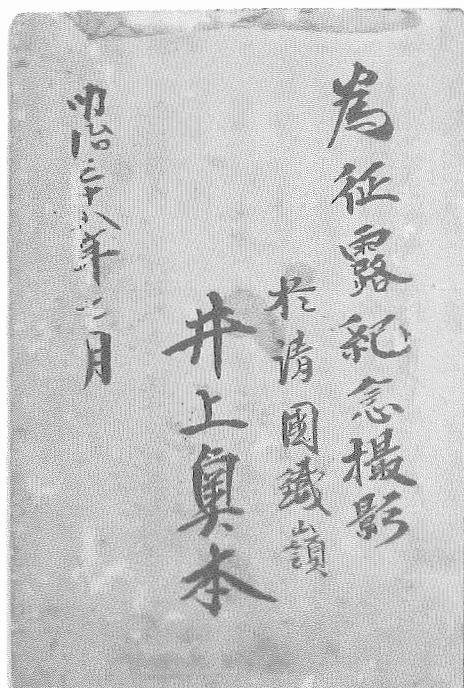
奥本

父上様

外皆々へ

別紙は昨冬侍従武官が当満州軍ヲ御慰問候節賜はりしビスケット袋の中包紙二付、乍延引送り申候已上

図 井上奥本写真（②関連）



一全

きす

みそ

一生作り

生大だい

一吸物

糸び

かわむき

一臺引

うたまくら  
てこいも

一菓子

三ツ 箱入

一鉢肴

やき大たい

一まきずし

一鉢

次の膳

一飯

一汁

とうふ

いも

一坪

ヤキとうふ

ちくわ

いも

一猪口

たこ

ちよく

一なます

大根

さかな

一平

しん上

てこいも

かんびよう

ごぼう

まつたけ

一菓子わん

めまき

しいたけ

ふ

てこいも

ゆば

一硯ふた

かまぼこ

小だい

たこ

みかん

まきずし

てこいも

ヤキゆば

一吸物

切目

一全

そうめん

かまぼこ

雑用

一まぜずし

二はち

一まきずし

一五本

一さんとう

一鉢

一なます

二鉢

天長節用

一もち

一■(箱カ)ずし 五枚

一まきずし 五本

一むしり たい一枚

参考 献立・料理方法の聞書(上井彦雄)

○鯛鱈吸物 婚礼の座付に出る吸物。結納に鯛の贈答

が行われ、承諾の印に鯛を全て料理し鱈を使用した吸物を出した名残か。

○池盛(生盛) 俊寛皿に刺身をメインに覗きを入れてあしらいを盛り付けた物で、祝儀によっては松竹

梅・鶴亀(野菜の作物)を飾るものもある。また取

肴として大蓋(硯蓋を大きくして足が付いたもので、大硯蓋を略した称・角形で口取肴を盛る)に鯛などの

姿造りを飾り付けた祝儀ものを言うこともある。ここは前者であろう。

○猪口 木皿・陶器があり、大振り・小振りのものがある。鱈皿の代用ともされた。

○取肴 本膳が出た後、大盃を回す機会を作るために

宴席の中央に引きだされる肴で、給仕人が取り分け

各膳に供される。最低三回出され、一に生物、二に

焼物、三に煮物の順である。酒を勧める手段でこれが

不手際であると饗し方が悪いと言われる。大盃には

謡いが出され、婚礼ならば嫁方・婿方が競い、上

棟式なら親族の力量が囃される。肴が出る度に吸物

も趣を変えて出されるが略されることもある。留に

茶碗蒸し・味噌汁(留椀)が出れば宴も終わりである

が、手を付ける者は少ない。

○大引(大蓋引の略か) 大蓋に盛られて出される肴。

一吸物 肴切身  
吸口ふき

一取肴 鯛

一まきすし 二鉢

一こもくすし

一汁 次ノ膳 ざこ 白豆ふ

一平 にんじん  
切いも  
しんじよ  
くわい  
かんひよ

一坪 中板赤  
焼豆ふ  
こんふ

一皿あへまぜ 大根  
ざこ

一硯ふだ てこいも  
まきすし  
みかん  
ゆば  
しなのいも

あか板肴  
かれ

子供

一平 赤中板

田いも

焼豆ふ

かんひよ  
くわい

一なます

②明治四三年「おす系縁附心覚帳」(2993)

献立

本膳

一飯 きす

一汁 みそ

一猪口 たこ  
青あ糸

一坪 切目ほら  
きぬまき

一生盛 きんし  
高砂づけ  
赤のり  
さしみさわら

大根  
山あわび  
しいたけ

一平 たい切目大  
あしらい てぎ

一茶わんむし うなぎ  
かしわ  
たまご

一菓子わん 玉子まき  
切目はも  
いか  
しいたけ  
かんぴよう  
たい

一焼物

一香の物

一硯蓋 さより  
はも  
たい  
たこ  
みかん  
巻ずし  
ゆべし

一吸物 すぎき  
わさび  
すまし

一平

鯛切身  
切いも  
青み

一池盛

きんし  
さしみ  
赤のり  
海そうめん  
大根  
しいたけ  
青み見合

一猪口

たこ  
青あい

一菓子椀

しいたけ  
大ゆば  
めまき  
肴切み  
くわい  
かんひよ  
青み

一硯ふた

赤白大板  
糸び  
たこ  
はも  
いか  
みかん  
まきずし

くわい

やきたまこ  
うたまくら  
水から

一吸物

さより  
うすゆき

一吸物

ほら  
ゆう(柚)

一吸物

肴  
ほうぼう

一大引

扇地がみ板  
山いも

一焼物

鯛 但し壱尺位  
十二人前

一鉢肴

鯛 壱枚  
二鉢

一作身肴

壱枚

一引菓子

拾式人前

一汁 本膳  
つみ入  
白豆ふ

明治二〇一三〇年代 本膳・招待客名(2876)

一坪

てこいも  
めまき  
焼豆ふ

一猪口

たこ  
ゆり

一平

ふりご  
切いも  
にんじん

一皿

一菓子椀

きぬまき  
大ゆば  
かんひよ  
くわい  
ふ

一大引

てこいも  
大かまぼこ

一硯ふた

酒ノ肴  
てこいも  
まきずし  
白赤中板肴  
くわい  
みかん  
ゆば  
たこ



一 硯ぶた

みかん  
赤白大板

糸び

はも

いか

くわい

うたまくら

やきたまこ

水から

まきすし

たこ

一 吸

さより

みそにて

一 作身肴

二皿  
わさびしたじ

一 吸物

糸び  
すましにて

一 吸物

くじ鯛  
みそにて

一 取肴

鯛巻枚

大根

赤のり

きんし

海そうめん  
巻枚

一 吸物

わさび

かつ魚ふし

浅草のり

ゆうにて

一 平  
朝の分

かんひよ

白かまぼこ

花ふ

しいたけ

うすゆき

一 汁

竹わ

にんじん

すまし

外二  
拾貳人前

一 硯ぶた巻枚

まきすし

みかん

青いた

翌日の分

一 汁

みそにて

白豆ふ

さこ

一 坪

こんにやく  
やき豆ふ  
いも

竹わ

こんふ

しいたけ

しんじよ

切いも

かんひよ

青み

大根

つじ

あゑませ

一 硯ぶた

まきすし

いた赤白

くわい

みかん

竹わ

外二  
拾五人前

⑨明治二〇〜三〇年代「本膳献立」(2898)

本膳献立

萱部の新客

一 御飯

一 汁

一 坪

むすびぎす

めまき

肴切身

松茸

一坪

牛房  
竹わ

一猪口

いも  
こんふ  
焼豆ふ

一平

しなのいも(馬鈴薯)  
たこ  
青あい

一皿

しんじよ  
切いも  
くわい  
まつたけ  
かんひよ

一硯ぶた  
酒ノ肴

ちさ  
いわし

きんかん  
ゆば  
青赤板

まきすし  
しなのいも  
くわい  
かれ

一吸物

焼板

メ三拾六人前

白豆ふ

一平

三番ノ膳

くわい  
しんじよ  
切いも

かんひよ  
焼豆ふ

二十人前  
子供平

赤板  
メ十人前

⑱明治二〇〜三〇年代「献立」(2894)

献立

一吸物

鯛ひれ吸物

本膳

座付

一御飯

みそ二て

一汁

むすびぎす

一坪

切身肴

しぼりあげ

松茸

一平

鯛切身

切いも

一池盛

青み

大根

きんし

くずきり

さしみ

海ぞうめん

きくらげ

生が

わさひしたじ

一猪口

たこ  
青あい

一茶碗

大しいたけ  
大ゆば

めまき

切身肴

いかまき

かんひよ

くわい

一大引

扇地がみ  
山いも

一焼物

鯛壹枚ツゝ

メ一このもの

是を酒ノ肴

一平菓子椀

あつ焼

かんひよう

大ゆば

麩

くわい

一皿

小鯛 壺ツ

一猪口

糸かんでん

但ししたじ三とう うり青み

あられ麩

するめ

きんしゆば

酒ノ肴

一硯ぶた

かんでん砂糖

あつやき肴

りんご

辻浦こんぶ

きす

さわら

くわい

菓子

ゆば

焼鯛 二枚

一鉢肴

(後欠)

⑰明治三三年「本膳」(2996—5)

本膳

一汁

つみ入

白豆腐

一坪

しら玉

松たけ

てこいも

一猪口

たこ

あをあい

一平

ぼら

切いも

かんひよ

一池(生)盛

生が

大根

きんし

さしみ

あかのり

青のり

しいたけ

一茶碗

めまき

大ゆば

かんひよ

切いも

くわい

一大引

かまぼこ

てこいも

一焼物

紅板

一このもの(香の物)

✕

酒ノ肴

一硯ぶた

てこいも

きんかん

たこ

白赤板

まきすし

くわい

水から

一吸物

肴切身

わさび

一菓子椀

きぬまき

焼板

うすゆき

一取肴

鯛三枚

一作身肴

鉢三枚

✕ 四拾三人前

次ノ膳

一汁

干大根

白豆腐

ざこ

わ子

重引

かうのもの(香の物)  
したし

焼もの 鯛

塩かけ

引添

大蒲鉾

氷りほら

中酒

色かまほこ

硯蓋

桜煮たこ

焼海老

山ノいも

ふくさ

吸もの

甘鯛

こノめ(木の芽)

残肴 鯛

すまし

吸物

切め

房大根

生の黍

生作りこい

水もの

海そうめん

かんでん煮もとき

赤のり

吸もの

うれしの

小梅干

△

⑮明治一〇〜二〇年代「記」(2896)

記

一水物

一鉢肴

外二大鯨子式本

一菓子椀当て 三十人前

大くじ九本

一平 切メ たい三十人前

十六枚

一坪当て 大ぼら拾本

一吸物 此之しろ

拾本甘人前

一ひれ子たい

十人前

一海老吸物

廿人前

一結吸物

きす 三十人前

一吸物

すすき 大七本前

一生素当て さしみ

大ぼら五本

一同 細作り

大いか十式ばい

一鱒肴

一たい焼物

つ十三本

一台引

地紙昆布

一引添

大伊勢海老

一新ん上

六枚

一大板

八枚

一絹巻

壺本

一昆布巻

二本

一素合鯨子極

拾人前

一のし

壺組

十二月廿一日

住傳 拝

井上 御氏様

⑯明治一〇〜二〇年代「献立」(2906)

献立

一御飯

一汁

茶碗ニテ

鯛むしり

あられ麩

一汁 豆ふ

いも

一ごもくすし 米貳升

ざこ其外取合

一うどん しつぷく

一切目肴 吸物

一ゆき平だき くわへ・にんじん

何角取合

但シあんかけ二而

一大根なます

一にんじんのひたし

一酒之段 盃茶碗

御講様引渡し之酒福椀也

⑭幕末〜明治期「御献立」(2531)

御献立

引渡し

長のし

三方 昆布

勝栗

田作り

色振煮

吸もの

鰯肉

蝶花形

銚子

同 かえ

松竹梅

白海老

嶋台 小梅干

昆布

巻するめ

かつの子(数の子)

鱈 大うを

白髪大根

くり生か (栗生姜)

かへ

汁 いてう大根(銀杏大根)

生ふし(生節)

平皿 小鯛

坪皿 あらめ

高盃

大福茶

本膳

若狭 平作り鯛

長皿 白髪大根

赤のり

海そうめん

金子(糸)湯波

椎茸

うと

くり生か

かへ

汁 つみ入

きくらげ

青ミ

猪口 いか

すあへ

坪皿 松かさ

ほら

あんかけ

すり生か

平皿 火取鯛

房松竹

竹の子

糸切あへ

三ツ葉ふ

引添

くすたゝき

茶わん

海老 椎茸

火取はも

山ノ芋

方わらひ

銀なん

一 船仙割合加入帳 壹冊  
 一 御困粉種粉帳 壹冊  
 一 安久兵左衛門年賦帳 壹冊  
 一 同年賦拝借主証文 七本  
 一 宮寺太夫割帳 壹冊  
 一 他所出割帳 壹冊  
 一 稲痛願下見帳 壹冊  
 一 早晚正味取帳 貳冊  
 一 小通差引帳 壹冊  
 一 水吞小通帳 壹冊  
 一 人足帳 壹冊  
 一 当座覚帳 壹冊  
 一 御用古金御渡し帳 壹冊  
 一 万米方割物帳 壹冊  
 一 惣遣割覚帳 壹冊  
 一 幟 竹共  
 一 鉾  
 一 しやかま  
 一 たすき  
 一 むなあて  
 一 かるさん  
 一 まく  
 一 のれん  
 一 太夫座  
 一 大太鼓  
 一 同台  
 一 踊子古太鼓  
 一 太鼓蔵鍵

壹挺  
 二ツ  
 箱入

一 濱蔵鍵 壹ツ  
 一 目安箱鍵 壹ツ

右之通り附譲り申候、為証如件  
 文久元年辛酉年  
 十一月二十二日

前庄屋武兵衛(印)

庄屋 奥本殿  
 同 市左衛門殿

⑬文久元年「庄屋役披露儀式」(1390「万事記録  
 覚帳」)

一 膳付献立覚  
 一 平 焼とふ  
 竹輪

いも  
 牛房  
 くにんじん  
 くわい  
 こんにやく

一 汁 ざこ  
 とふ  
 大根

一 なます いはし  
 大根

一 吸物 素麺

竹輪  
 くわい  
 ねぎ

一 取肴ごもくすし

白六升  
 さかな  
 ひじき

にんじん  
 牛房  
 べにしやうが

一 同取肴 大根鱈  
 以上

一 引渡し 孟福椀  
 (中略)

一 本膳献立之式  
 一 平 はんべん  
 四ツ切焼豆腐  
 にんじん  
 牛房

くわへ  
 こんにやく  
 里いも

一 なます 大根  
 たれくちいわし  
 二品あへませ

平 黙右衛門様  
杓 八郎様

右之通り壹通御懸様へ差上申候

為取替証文之事

一 樵物諸

右者此度杭木打立有之分外二少シも相増不申、依之  
後二至毛頭申分無御座候、為後日仍而如件

文政八年丙年三月

餘部上村庄屋 源藏印

年寄 久右衛門印

百姓惣中 七郎左衛門印

同 太左衛門印

同 嘉兵衛印

同 武兵衛印

同 定右衛門印

北吸村庄屋

年寄

惣百姓中

一札

一 毎年年々山明之儀者、前日案内可仕候、為後日仍而如  
件

文政八乙酉年三月廿三日

余部上村庄屋 源藏印

年寄 久右衛門印

北吸村庄屋 五郎左衛門殿

年寄 惣右衛門殿

相渡申帳面之覚

一 高名寄帳 壹冊

一 高改帳 壹冊

一 高改名寄帳 壹冊

一 高改名寄畑方帳 壹冊

一 畑方歩畝帳 壹冊

一 西ノ宗門帳 壹冊

一 西ノ御蔵通 壹冊

一 西ノ惣百姓小通 壹冊

一 西ノ他村指引通 壹冊

一 西ノ米方諸色割物帳 壹冊

一 西ノ分取頼母子帳 壹冊

一 西ノ運上割帳 壹冊

一 高入替指引帳 壹冊

一 傳四郎証文 壹本

一 与平証文 壹本

一 新屋証文 壹本

一 久兵衛田地割賦帳 壹冊

一 二郎左衛門割賦帳 壹冊

一 新屋田地割賦帳 壹冊

一 三郎兵衛田地傳四郎与平惣分田地割賦帳 壹冊

一 傳四郎与平田地割賦帳 壹冊

一 西ノ過不足帳 壹冊

一 申ノ年改高定帳 壹冊

一 西ノ稲草帳 壹冊

一 高成諸仕定帳 壹冊

右之通相渡シ申候以上

享和二壬戌年八月十日

餘部下村

兵左衛門

北吹村年寄

惣左衛門様

同 年寄

善九郎様

⑫文久元年庄屋引繼文書・道具目録(2529)

覚

一 宗門御改帳 壹冊

一 木御印鑑 壹面

一 孝子伝 壹部

一 紙御印鑑 壹枚

一 宗門入用割帳 壹冊

一 地坪帳 三冊

一 高名寄古帳 壹冊

一 同 新帳 壹冊

一 高成話帳 壹冊

一 御蔵通入木通 箱袋入

一 稲草帳 壹冊

一 諸運上帳 壹冊

一 祭礼入用割帳 壹冊

一 大麦麻苧胡麻帳 壹冊

一 一切山困蔵古帳 壹冊

一 同困稗拝借新帳 壹冊

一 雲門寺祠堂帳 壹冊

一 農料米粉拝借帳 壹冊

一 腰林山株帳 壹冊

一 今田村割合講帳 壹冊



上

文化十癸酉年八月

上安村年寄

茂八

同

伊左衛門

庄屋

大郎右衛門

天台村加庄屋

八郎右衛門

御奉行様

⑨文政四年北吸村山論(2913)

乍恐返答書之覺

一此度北吸村方餘部上村野山之うしろ山より一之谷之東平江入込肥草苅取御田地開作仕り、年来薪等迄苅取候趣申上候へども、古來方入込と申場所二ハ一切無御座候、入込二候得ハ何方ニ而も山之口明候節申遣又事ニ御座候、尤も先例左様之次第ハ無御座候、但シ字ナ道志ばと申所方高だけ迄ハ入込と申二ハ無御座候へ共、尾入之事故察度も不仕、依之森・清道江附候尾通ニ而苅来り候儀も御座候、然ル所近来ハ下夕之分江も深入仕候様ニ相成、去年例年之通下村入込場所之山之口明上下兩村可苅取日・北吸村方才か谷辺江大勢参り候を村前を見附、山明も無之所江尾通江も立入又事不相成様申候得ハ、然者山明之所江可参強申募候、然共先例無之事ニ故不相成様申候得共一向聞入不申、下村立入所江参り候故、直二取上参り争論ニ及難渋仕候、然ル所大庄屋殿ニも御存

知通り無抛下村入込之場所東側之尾通り当一廻為苅申候、又大庄屋殿方馬之せ谷も当一廻尾通り少々為苅候様被仰付候、是又無例事ニ候得共為苅取申候、又当年も兩大庄屋殿方去年通り二五月草をも相添当一廻為苅候様被仰付御断申上候得共、御聞届ケ無御座候故、五月草を御断申上去年通り二為苅申候、扱又山道之儀を往古より入込証拠之様申上候へ共、是も近来忍之作り候儀御座候、扱又宝曆年中下村山論之絵図面之儀を申上候へ者、此儀ハ宝曆年中之頃大庄屋武左衛門殿御裁許被成下候而、入込二相成候様申出候二付村方之老人ニ相尋候処、其節北吸村との山論扱可有次第無之、全体其時分ハ上安久村兵左衛門殿御役中ニ而下村山論有之、則其節絵図面有之筈と申故証拠ニも相成候ハ、御上様江難渋不申上可相濟哉と存候故、先大庄屋殿江其段申上御口上ヲ以当大庄屋殿ニ而村役人借出シ候儀ニ御座候、此絵図ニ而も北吸村入込扱申次第ハ一切無御座候、然ル所只今ニ而ハ北吸村何之口論も不仕入来り候様申上候得共、三十年斗以前ニも深入仕り論所ニ及、北吸村より大庄屋殿江願出被差留候も御座候、且又新林・桐実畑等多成候扱御訴訟申上候得共却而北吸村方松・桐実等盜切取候儀も御座候、其上是迄惣壹面ニ入込候而も且り不申扱不法不実之儀共申上候、右様之次第ニ相成薪牛草迄入込候而ハ上村相立不申候、猶又肥草之儀ハ右尾通之外江ハ立入不申候、以御慈悲を被為仰付被下置候ハ、難有奉存候、以上

余部上村

百姓中

文政四年巳四月 年寄 久右衛門

庄屋 源蔵

御奉行様

⑩北吸村山論(1993)

(表紙)

「山論済口証文写」

(内表紙)

明治十年

山論証文心記

井上奥本 所持

本紙

差上申一札之事

一兩村論所先達而御見分之上奉請御吟味之処、御吟味之趣屈伏仕、双方熟談之上致内済済口証文差上候処、当於御奉行所御糺明之上済口之趣、御右願之通御聞済被成候ハ、難有奉存候、以上

文化八乙酉年

北吸村庄屋 五郎左衛門印

加庄屋長濱村 甚兵衛印

年寄 惣右衛門印

百姓惣代 伝四郎印

同 新蔵印

同 次右衛門印

同 作右衛門印

同 李右衛門印

大庄屋上安久村取扱人 兵左衛門

魚屋町 武内孫八郎

今田村庄屋 仁左衛門

乍恐口上之覺

一此度餘部上村野山之内森ヶ奥山・甚吉山・桂谷山各三ヶ所御見分之上、尾通式歩下村江裾通八歩上村江申候分御貸難有奉存候、然所桂谷山之儀尾通式歩之場所二而下村之者苻取候、こ系苻桂谷山江者一切通シ申間鋪様申上候儀、悔先悲(非)重々奉誤候、何卒御慈悲以御免被為下様難有奉存候、猶又被仰付候通奉畏候、桂谷山東尾通二而苻取候、こ系草谷へ下村之者往来仕候儀二付少茂申分仕間鋪候、為後日一札如件

宝曆十辰四月

百姓中

年寄

八右衛門

庄屋

七郎左衛門

藤山源内様

相馬友左衛門様

⑥文化一〇年上安村山論(1600)

乍恐奉願上口上之覺

一餘部上村山之内さいか谷ト申所迄、古来入込肥草薪木迄伐り刈り仕候処、此度不法差留甚難渋仕候、此度之儀者正徳年中之頃及出入候節、境目被仰付濟口書物御座候、然ル処先年大庄屋御役相勤申候五郎左衛門火難之節焼失仕候趣申伝候、何卒御上様江御苦勞不申上和談二相済申度奉存候二付、上村役元江数度掛合仕候得共、百姓衆存寄御座候趣二而一向聴届不申候二付甚難渋仕候、何分御上様御慈悲を以古

来仕来之通、上村致承知候様被仰付被下置候ハ、難有奉存候、乍恐此段奉願上候、以上

上安村年寄 茂八

文化十四年四月

関根浅右衛門様

同 甚左衛門

庄屋 太郎左衛門

加庄屋天台村 八郎右衛門

前書之通相違無御座候

大庄屋 大家

⑦文化一〇年上安村山論(2541)

乍恐返答書之覺

一上安村の餘部上村山江肥草入込苻取候様申上候得共、此儀ハ一切無之事ニ御座候、全体折二ハ薪ヲ樵二忍入候得共、前々ハ見附候得者逃去リ近年ニ至而ハ近不申故、見附次第ニ樵取候薪ヲ取上ケ或ハ口論等仕候、然共大村之事故、吟味行届キ不申候、然ル処当春茂一兩度参り候処取上ケ申候処、上安村方入込証拠之書物有之旨申聞置、以後村方一統候哉多数人参りふ法ヲ申券候、右様次第ニ相成候而ハ柴肥之妨ニ茂相成御田地之肥等茂払底ニ相成候而ハ、上村ハ勿論下村・北吸村迄茂難渋二相成候二附、無抛争論ニ及候処、上安村二入込之書物有之様申二付其儀相尋、上安村庄屋所江再三掛合仕候得共、一向誤合相分り不申候、然ル処此度之願書ニハ先年焼失仕候趣ニ申上ケ是等ハ甚(理力)ケ間敷申分二而、乍恐御上様を茂申掠候次第ニ奉存候、其上和談相済シ度上村江数度懸合申上ケ候得共、是茂一渡(度)之

儀ニ御座候、又百姓存寄有之趣ニ申上ケ候得共、左様成儀ハ不存候、猶又下村等ハ山内払底之処候得共、薪二ハ一切立入不申候、然ルニ上安村方薪之入込可有筈決而無御座候、肥草之儀ハ猶更之事ニ而当年始而可立入由、上安村方両三人参り候而申聞候得共、此儀ハ決而先例無之事御座候、何卒以御慈悲ヲ以後急度立入不申様被仰附被下置候ハ、難有奉存候、以上

文化十癸酉年八月

餘部上村

百姓中

同年寄

長五郎

同庄屋

七郎左衛門

御奉行様

⑧文化一〇年上安村山論(2540)

乍恐奉願上口上之覺

一餘部上村野山之内が谷と申処迄、古来入込肥草薪迄伐り苻仕候処、此度不法二差留り甚難渋仕候、此度之儀ハ正徳年中之頃及出入候節、境目被仰付濟口書面御座候、然ル処先年大庄屋御役相勤申候五郎左衛門火難之節焼失仕候趣ニ申伝候、何卒御上様江御苦勞不申上和談二相済シ申度奉存候二付、上村役元江数渡(度力)掛合仕候得共、百姓衆存寄御座候趣二而一向聞届ケ不申候二付甚難渋仕候、何分御上様以御慈悲ヲ古来仕来之通上村致承知候様被仰付被下置候ハ、難有奉存候、乍恐此段奉願上候、以

且又村方家、又ハ稲小屋修復、屋根替等ハ、作方透ケ見合仕候

年中休日、 $\times$ 式拾八日半

右之通ニ御座候、以上

文化十癸酉年

年寄 長五郎

七月

庄屋 太郎左衛門

筒井權平様

②宝曆一〇年余部下村山論(2538)

乍恐返答書之覺下書

一先年方下村方上村江ニ系草刈立入申候山之儀者瀧谷・よ谷・一ノ谷・二ノ谷・ろくろ谷此谷数五ヶ所先年こ系草刈候事、入込ニ仕候様被為 仰付候事

一此外甚吉山・桂谷山・森か奥山右三ヶ所者先年方年来曾而外方立入不申候、然処去多年(宝曆五年)右之桂谷山へ下村方大勢入込ニ系草刈候付、上村方こ系草三十荷余差留メ申候処、段々断申候付重而入来不申候様申渡了簡仕遣申候、夫方去々年寅年(宝曆八年)迄四年が間曾而立入刈不申候処、去ル卯年又々五人三人ツ、忍入込草刈候故上村之者共右之草式十七荷取申候得者、其草預申抔と申越候故、中々預ル儀二而ハ無之、四年已前二も急度草刈二已後不參候様申渡候二又々參候故、差留申候旨申遣候得者、段々断申候得共承知不仕候事

一其節断申候ハ桂谷山へ立入不申候而ハ清道山・上安山へ忍二立入候事難成候間、何とそ立入候様頼申候得共是又承知不仕候、右之段々申聞候得共承知不仕候而、御上江御難題懸候儀何共迷惑奉存候、御慈悲ヲ以御聞届被為遊、年来之通被為 仰付被下候者難

有仕合可奉存候、以上

余部上村

宝曆十庚辰年三月

百姓中

同年寄

八右衛門

庄屋

七郎左衛門

御奉行様

③宝曆一〇年余部下村山論(2554)

乍恐返度書之覺

一先年方下村立入申候山之儀ハたき谷・よ谷・一ノ谷・二ノ谷・六ろ谷此谷数五ヶ所先年御上るこ系草入込ニ被為仰付候御事

一此外山江ハ一切不入来候、去ル卯年下村中も様(模様)仕り谷入申候故山せいと(制度)二付こ系取申候御事

一かつら谷山入込ニ願申儀ハうら・上安・清道村山共ぬすみたかく(かたく)願道谷二願申候へ共一切成不申候御事

一下村庄屋作兵衛殿へ村百姓中一当(統)仕り上村へむほ(無法)の族申候へ共、外山へ入申候而ハ上村御田地不作ニ罷成難儀仕り一切入申事成不申候御事、右之通り被為仰付被下候ハ、難有奉存候、以上

宝曆十年

辰ノ三月

上村庄屋

七郎左衛門

同村年寄

八右衛門

御奉行様

百姓中

④宝曆一〇年余部下村山論(1575)

乍恐奉願口上之覺

一余部下村野山少々二而別而御田地こえ草難儀仕□□隣在之野山□□□□御事

一上村山之儀一ノ谷・二ノ谷・六ろ谷・瀧谷・よ谷・甚吉谷・かつら谷・森奥山へ昔方立入来申候御事

一森山江ハ尾方立入谷□□ハ不仕候、尾越之通り三ヶ所慥ニ御座候御事

一かつら谷山之儀ハ、去ル亥之年二もこえ草三拾三荷差とめ候間、大庄や殿江申上ヶ候所段々御慶二而、右之こえ草無滞上村方被相戻無相違請取相濟申候間、去々年まで無申分立入申候所、去年こえ草式拾七荷差とめられ難儀仕候故、渡之もらいニ百姓遣候得共、何分不被相戻、此以後かつら谷・森か奥山江一切下村者立入間敷段、上村庄屋七郎左衛門殿方御返事ゆへ難儀奉存候、先々之通立入候様二乍恐奉願上度候御事

右奉願上ヶ候通、御慈悲古来之趣立入候様二乍恐為仰付被下候ハ者難有可奉存候、以上

余部下村庄や 作兵衛  
同村年寄 源兵衛  
百姓中

同村年寄

源兵衛

宝曆十年辰ノ三月

御奉行様

⑤宝曆一〇年余部下村山論(2555)

大根引

五日 こへもち、諸作中打、女ハ薪樵

六日 半日休 右同断

七日 男女共厩こゑ出し、雨天二而ハ藁仕事、又ハ綿打、女木綿糸引

八日 御取納相勤申候、男女共蒔樵、厩こゑ出し

九日 麦ノ中打、薪樵、雨天二而ハ藁仕事、又ハ綿打、女木綿糸引

十日 右同断

十一日 右同断

十二日 御取納相勤申候、男女共薪樵、雨天二而ハ藁仕事、女木綿糸引

十三日 男女共蒔樵、雨天二而ハ藁仕事、又ハ綿打、女木綿糸引

十四日 右同断

十五日 右同断

十六日 御取納相勤申候、男女共蒔樵、雨天二而ハ藁仕事、女木綿糸引

十七日 こゑもち、女薪樵、雨天二而ハ藁仕事、又ハ綿打、女木綿糸引

十八日 右同断

十九日 右同断

廿日 御取納相勤申候、男女ハ薪樵、雨天二而ハ藁仕事、女ハ木綿糸引

廿一日 男女薪樵、又ハこへ持、雨天二而ハ藁仕事、或ハ綿打、女ハ木綿糸引

廿二日 右同断、此時分ニ大豆上納致候

廿三日 右同断

廿四日 半日休 半日男女薪樵

廿五日 こへ持、男女薪樵、雨天二而ハ藁仕事、或ハ綿打、女木綿糸引

綿打、女木綿糸引

廿六日 右同断

廿七日 右同断

廿八日 右同断

廿九日 右同断

晦日 右同断

十二月

朔日 男女薪樵、雪天二而ハ、男女共内仕事

二日 右同断、此時分ニ小豆上納致候

三日 右同断

四日 稲木あと菜種中打、或ハ薪樵、雨天二而ハ藁仕事、又綿打、女ハ木綿糸引

五日 右同断

六日 右同断

七日 右同断

八日 右同断

九日 こゑもち、薪樵、雨天二而ハ藁仕事、或綿打、女ハ木綿糸引

十日 右同断、此時分ニ胡麻上納致候

十一日 右同断

十二日 右同断

十三日 すゝ払い、下人男女入替、此日定也

十四日 こへ持、或ハ薪樵、雨天二而藁仕事、又ハ綿打、女木綿糸引

十五日 右同断

十六日 右同断

十七日 右同断

十八日 右同断、且又無少々引、残り春引

十九日 右同断

廿日 右同断

廿一日 右同断

廿二日 こゑもち、薪樵、雨天二而ハ藁仕事、又ハ綿打、女木綿糸引

廿三日 右同断

廿四日 右同断

廿五日 右同断

廿六日 右同断

廿七日 右同断

廿八日 正月御供分限相成式升、三升程ツ、御供致、又粟・きび・ゆり粉餅致候

廿九日 出町致、何角諸払差引致候

大晦日 松箒、家内掃除致、何角相仕舞候而、夜分に村方歳末祝儀、互ニ相勤申候

一年内給物、菜・大根、其外時分之物入、粟・麦飯、又菜・大こんたき、其外時分之作物二而、雑水、又はつたいと申実なし粉之しかし、又ハ稗・大麦煎、から白或ハ引白二而粉ニ致候、又ハゆりこ・きびニ、えもき、じざい交て餅ニ致候

右様之儀ニ御座候

一 女夕なひ之儀ハ年内致、春木綿糸引、或ハ引物二而ゆりこ引、夏ハ小麦・大麦引、又ハ麻苧うみ、秋ハ綿くり、木綿糸引、冬茂様又からうす二而はたき物之儀ハ、年内折々仕候事

一 男夕なひ之儀ハ、稲苧初より稲扱仕舞之日迄、縄俵いたし、又夫繩・はき物ハ、年内夕なびニ仕候、右日々書加江不仕候得共、此趣ニ御座候

一、当年十一月、閏月御座候得共、前後ノ月之仕業ニ御座候得ハ、別而雪中之時分故、別ニ書認メ不申候

十一日 こへ持、田すき、水さかり致、女八桐実ひろい、  
 或ハ稲苺、牛之草苺、田畑見廻り、晩方に干稲入込  
 十二日 右同断、女御上納米致  
 十三日 右同断  
 十四日 半日休 早朝、氏神江参り、正月通り日持致  
 し、又男女菜・大根しやうやく、田畑見廻り、女牛草  
 苺、晩方に干稲入込  
 十五日 大麦まき、女御上納米致、或綿取、牛之草苺、  
 晩方に干稲入込  
 十六日 「御收納割直シ方但し三番也」(付箋)、歸り  
 て大麦まき、女御上納米致、田畑見廻り、晩方に干稲  
 入込  
 十七日 大麦まき、こゑもち、女八御上納米致、或牛  
 之草苺、晩方二千稲入込  
 十八日 右同断  
 十九日 右同断  
 廿日 御收納相勤残り大麦まき、女御上納米致、晩方  
 に干稲入込  
 廿一日 男女共厩こへ出し、麦之うわこゑいたし、又  
 ハ大麦蒔、女御上納米致、或牛草苺、田畑見廻り  
 廿二日 右同断  
 廿三日 右同断  
 廿四日 半日休 御收納相勤残り大麦まき、女八綿取、  
 或牛之草苺、田畑見廻り、晩方に干稲入込  
 廿五日 大麦まき、或男女共大豆かち、女八御上納米、  
 晩田畑見廻り  
 廿六日 右同断  
 廿七日 右同断  
 廿八日 御收納相勤残り大麦まき、こへもち、女御上  
 納米致、又ハ綿取、牛之草苺、晩方に干稲入込

廿九日 小麦蒔、こへもち、はいまき、うわこへ置、  
 或ハ御上納米致、田畑見廻り  
 晦日 右同断

十月

朔日 男女共稲苺、或牛之草苺、女八綿取  
 二日 御收納相勤申候、男女共稲苺、或牛之草苺  
 一此時分方女八朝樫木しさい、ほうそじさいひろい置、  
 天氣二千、からうす二而はたき、かわ取困置、水二而  
 さらし、ゆりこ餅交候  
 三日 男女共稲苺、女八綿取  
 四日 右同断  
 五日 右同断、晩方に干稲入込  
 六日 御收納相勤申候、男女共稲苺、又女御上納米致、  
 晩方に干稲入込  
 一亥之子日ハ春之通、粟餅・ゆりこ餅致、田神江備江  
 申候  
 七日 稲苺、こへ持、女御上納米致  
 八日 天氣二而ハ大豆、小豆かち  
 九日 こへ持、或男女稲苺、晩方干稲入込  
 十日 御收納相勤残り菜種中打、或稲苺、女御上納米  
 致、晩方に干稲入込  
 十一日 稲苺、女綿取御上納米致、男女蕎麦かり  
 十二日 右同断  
 十三日 右同断  
 十四日 御收納相勤申候、男女稲苺  
 十五日 稲苺、男女とも蕎麦苺  
 十六日 男女稲苺  
 十七日 右同断、晩方に干稲入込  
 此時分に稲苺相済申候

十八日 御收納相勤申候、こゑもち、麦之中打、女御  
 上納米致、晩方に干稲入込  
 十九日 「参納与申」(付箋)、麦中打、こへ持、水田すき、  
 女御上納米致、晩方に干稲入込  
 廿日 右同断

廿一日 右同断

廿二日 御收納相勤申候残り、麦之中打、藁片付、女  
 御上米致、晩方に干稲入込  
 廿三日 諸作中打、藁片付、女御上納米致、晩方に干  
 稲入込  
 廿四日 半日休 麦之中打、女御上納米致、又ハ男藁  
 片付、晩方に干稲入込  
 廿五日 麦中打、藁片付、女八御上納致、晩方に干稲  
 入込  
 廿六日 御收納相勤残り、諸作中打、藁片付、又女御  
 上納米致、晩方に干蕎麦入込  
 一此時分方稲扱相済申候  
 廿七日 諸作中打、女蕎麦かち、或稲木下落粉等掃除  
 致、夫ハ男ハ稲木片付、あとをすき、菜種植拵  
 廿八日 右同断  
 廿九日 稲木あとに菜種植、こゑもち、女ハ菜種草取  
 晦日 御收納相勤残り、綿木(木綿)引、中打、又ハ  
 こへ打、女綿木引、草取  
 十一月  
 朔日 男女共大根引、綿木引、或ハ中打、女ハ菜種草  
 取  
 二日 右同断  
 三日 右同断  
 四日 御收納相勤残り、諸作中打、女そら豆草取、又

廿六日 右同断、女きび苳

廿七日 男女共あせ稗苳、畑稗并きひ苳、蕎麦まき、大根まき、こゑもち、或男女共したきかり、田畑見廻り

廿八日 右同断、此時分ニ麻苳上納仕候

廿九日 脇切と申て、田方早田・中田・晩田之中野稗切取、男女共綿之しやうやく、或したき苳、田畑見廻り  
晦日 右同断

八月

朔日 休日 朝草苳、田畑見廻、夫方村方互二礼いたし候

二日 男女共脇切、したき苳、又綿之しやうやく、田畑見廻り

三日 右同断

四日 こへ持、蕎麦中打、男女共しだきかり、或綿しやうやく、田畑見廻り

五日 右同断

六日 右同断

七日 右同断

一彼岸五、六日前に、ちさ時、けし時、且又稲苳、稲木拵、稲苳初候へハ、男夕なひ致縄俵拵、此儀ハ秋中稲扱仕舞之日迄、夕なひ致候

八日 男ハ稲苳、稲木拵、女きびかち、或ハ粟かち、稗かち、田畑見廻り

九日 右同断

十日 右同断

十一日 男女稲苳、男ハ牛二而田すき、水さかり致、女ハのらく引、或牛草かり、田畑共見廻り

十二日 右同断

十三日 半日休 高倉祭礼二付、但し当年祭礼当番故、当番ニハ無御座候得ハ、休日不仕候、半日、男女畑作之しやうやく

十四日 休日 高倉祭礼当年番故、笹おどり、ふり物掛申候、半日、男牛草苳、田畑見廻り

十五日 休日 男女共朝草苳、田畑見廻り

十六日 稲苳、菜種まき、こへ持、女ハはいまき、うわこゑおき、或ハ牛之草苳

一先達而苳候稲干候へハ入込置

十七日 男女共稲苳、菜種まき、こゑもち、女うわこゑ置、或牛之草苳、晩方に干稲入込

十八日 菜・大根しやうやく、女御上納米、又ハ牛之草苳、男ハ蕎麦之中に麦まき、或ハそら豆種、晩方に干稲入込

十九日 右同断

廿日 右同断

廿一日 男女共稲苳、或牛草苳、又ハ男ハ多葉粉かき、あとに菜種時、女ハ綿取、晩方に干稲入込

廿二日 右同断

廿三日 右同断、女御上納米致候

廿四日 初御納与仕、村役人并百姓御蔵へ相勤申候、半日稲苳、女牛之草苳、且又是方未御取納日二而、百姓家并耆人ツつ御蔵江相勤申候

廿五日 男女共稲苳、こへ持、田畑見廻り、晩方に干稲入込

廿六日 田すき、水さかり致、或ハ稲苳、女ハ御上納米致、田畑見廻り、晩方に干稲入込

廿七日 右同断

廿八日 稲苳、田すき、水さかり致、或こへ持、女綿

取、牛之草苳、又ハ御上納米いたし、田畑見廻り、晩方干稲入込

廿九日 御取納相勤申候、稲苳、すき、水さかり致、田畑見廻り候、女御上納米致、又牛草苳、干稲入込

晦日 稲苳、田すき、水さかり致、そら豆・ゑんど種、御上納米いたし、晩方に干稲入込、或牛草苳、田畑見廻り

九月

朔日 右同断

二日 男女共桐実ひろい、歸りて稲苳、女綿取、或あせ大豆引、晩方干稲入込、田畑見廻り

三日 田すき、水さかり致、或男女共小豆引、又女ハ御上納米致、晩方干稲入込、女ハ牛之草かり

四日 御取納、田畑見廻り、男女共大豆引、女御上納米致、晩方に干稲入込

一此時方女は朝時計、栗ひろい、かわ取、水へつけ、しづ取、秋中麦飯并ゆりこ餅に交申候

五日 こへ持、稲苳、或麦田こなし、女綿取、或御上納米致、又ハ牛之草苳、田畑見廻り、晩方に干稲入込

六日 右同断

七日 稲苳り、田すき、田こなし、或ハ大豆引、女御上納米致、綿取、牛草苳、晩方に干稲入込

八日 右同断

九日 節句、早朝氏神江参り、田畑見廻り、村方互二礼致し、町祭礼見物に出候

十日 半日休 御取納相勤、残りハ稲苳、女綿取、或牛之草苳、昼方吉原町方高倉八幡宮江、振物并船うたい相懸候二付参詣致候「去申年之趣二而ハ取納ハ相済候積りかき入」(付箋)

此時分る胡麻・大根を蒔候事

廿五日 厩こへ出し、大根・胡麻蒔、こへ持、はいまき、厩こ糸ひろ出し、田畑見廻り

廿六日 右同断

廿七日 諸作中打、女小麦かち、或そら豆・糸ん豆かち、雨天二而ハ、熊手二而稲中打、女ハ田草取、田畑廻り

廿八日 右同断

廿九日 右同断

晦日 右同断

六月

朔日 男女共田草取、或ハ牛之草蒔、田畑見廻り

二日 右同断

三日 右同断

四日 右同断

五日 右同断、晩方に若宮大明神夜祭り二而参詣致し

六日 休日 早朝男女共牛之草蒔、田畑見廻り

七日 こへ持、男女共田草取、或ハ畑作しやうやく、

田畑見廻り、女ハ牛草蒔

八日 右同断

九日 畑作しやうやく、こ糸もち、田畑見廻り、女ハ牛之草蒔

十日 右同断

十一日 右同断

十二日 綿草取、粟・大豆之草取、或中打、女牛草蒔、

田畑見廻り

十三日 右同断

十四日 多葉粉土かい、粟・大豆土かい、女牛之草蒔、

田畑見廻り

十五日 右同断

十六日 男女田草取、粟・大豆土かい、女ハ牛之草蒔、

田畑見廻り

十七日 右同断

十八日 右同断

一半土用くれ候へハ、追々麻芋引候

十九日 こへ持、田草取、或ハ男女共麻芋引、田畑見廻り

廿日 右同断、且又日中に、男女共麻芋はな打

廿一日 右同断、此時分二大麦利之分上納仕候、但し取麦ハ御預ケ

廿二日 右同断

廿三日 右同断

廿四日 半日休 右同断、且又晩方麻芋川つけ

廿五日 綿草取、男ハ土かい、或田草取、あせ岸しやうやく、田畑見廻り、晩方に麻芋川つけ上ケ

廿六日 右同断、女ハ麻芋へき

廿七日 右同断

廿八日 右同断

廿九日 こへ持、田草取、あ(ぜ)岸しやうやく、又女牛草蒔、田畑見廻り

晦日 右同断

七月

朔日 男女共田草取、牛之草蒔、田畑見廻り

二日 右同断

三日 田草取、田畑見廻り、女牛之草蒔、且又女ハ御上納麻芋拵

四日 右同断

五日 右同断

六日 こへ持、男女田草取、或ハ麦うわこ糸、しだき

蒔、田畑見廻り

七日 休日 朝草蒔、墓所掃除致し、田畑見廻り

八日 こへもち、田草取、田畑見廻り、女ハしたき蒔

九日 右同断

十日 右同断

十一日 半日休 田草取、牛之草蒔

一此時分二田草取相済候事

十二日 綿之草取、日中二菜種蒔、田畑見廻り、女ハしたき蒔

十三日 男女共したき蒔、歸りて掃除致し、晩方墓所へ灯笼灯し申候、但十五日晩方迄

十四日 休日 朝七つ時に先祖之墓所参り、朝草蒔、

田畑見廻り、夫方村方例年六斎打申候

十五日 休日 朝草蒔、田畑見廻り、中元祝儀村方互二相勤申候

十六日 男女共したき蒔、田畑見廻り、昼方寺へせがき参り

十七日 半日休 男女共したき蒔、菜・大根蒔、こへ持、田畑見廻り

十八日 右同断

十九日 右同断

廿日 右同断

此時分る粟蒔、あとに蕎麦蒔、ひかん十五六日前より蒔候事

廿一日 男女したき蒔、或粟かり、あとに蕎麦蒔、こへ持、女ハはいまき、田畑見廻り

廿二日 右同断

廿三日 半日休 右同断

廿五日 粟蒔、蕎麦蒔、こ糸持、女はいまき、或男女共したきかり、田畑見廻り



女わらび又ハぜんまい取、又ハ牛之草茹  
晦日 右同断

四月

朔日 苗代へ種まき致し、又ハ水田岸おろし、女大麦  
つき、又ハ牛之草茹

二日 男女共肥草茹、苗代干

三日 右同断、苗代見廻り

四日 右同断

五日 右同断、且又菜種之稲木拵

六日 右同断

七日 右同断

八日 半日休 男女肥草茹、昼方寺参り、又ハ松尾参  
り致し

九日 男女共肥草茹、又ハ菜種茹、苗代見廻り

十日 右同断

十一日 右同断

十二日 右同断

十三日 半日休 男女共肥草茹

十四日 こへもち、或水田あぜぬり、女肥草茹、水田  
岸かり、昼方あせものと申大豆植地生により、小豆又  
ハ稗植

十五日 右同断

十六日 右同断

十七日 水田こなし、女子供ハ肥草茹、又ハ水田岸茹

十八日 右同断

十九日 水田こなし、菜種あとすき、女子共ハ肥草茹

廿日 右同断

一此時分早麦茹追々仕こなし植付、飯米致し

廿一日 こへ持、水田こなし、女子供ハ肥草茹、又ハ

早麦かり

廿二日 右同断

廿三日 右同断

廿四日 半日休 水田こなし、女ハ牛之草茹、早麦茹

廿五日 男女共菜種もみ、雨天二而ハ水田こなし、女  
ハ牛之草茹

廿六日 右同断、又ハ早麦茹

廿七日 男女共大麦茹、田すき、菜種地すきつめ打、

女ハ牛草茹、又ハ畑きび植

廿八日 右同断

廿九日 右同断

晦日 男女共麦茹、又ハすきつめ打、女麦うねこなし、  
岸かり、又ハ牛之草茹

五月

朔日 右同断

二日 こへ持、男女共厩こへ出し、麦田こなし、又ハ  
はいまき、油かすまき、あとよりみぞを斗通つゝ合す  
き致し、女牛草茹、そら豆茹、えんと

三日 右同断

四日 右同断、且又晩方にしやうぶ・糸もきをやね江  
さし候

五日 休日 節句、早朝氏神江参り、村方礼致し、晩  
方井溝さらへ掃除致、土俵入、水あて致し

六日 早朝あせ拵、先下あせと申て牛二而すき、鍬二  
而能練すき十べん通り候へハ練候、大鍬二而よせ、先  
向高前ひくによせ、朝致し候分ハ、昼方本あせ致、又  
女牛草茹歸りて、あせものと申大豆・小豆・稗植申候

七日 右同断

八日 右同断、あせ練相濟候へハ、弥植付致、先山谷

田方植付致、晩田二御座候へ共植初に仕候、又段々早

田・中田・晩田与御座候へ共、此儀ハ交込、植付致し

九日 女ハ苗取、田牛二而田かき、鍬二而能ならし、  
苗くほり、夫方女植付致し

十日 右同断、且又麦田之儀ハ牛遣候あと、鍬二而能  
ならし、肥草或厩こゑひろ出し、夫方苗みほり、女ハ  
植付致し

十一日 右同断

十二日 右同断

十三日 右同断、植付相濟候

一植付相濟候而、牛能洗、牛農道具等能洗、片付致し

十四日 半日休 こへ持、女子共ハ牛草茹、又綿草取、  
粟草取、昼方小休申、牛に針養生致し、田畑見廻り

十五日 こへ持、あせもの見廻り植直シ致、女ハ牛草  
茹、綿之草取、又ハ男女共大麦かち致し、田畑見廻り

十六日 右同断

十七日 男女共小麦茹、或綿草取、粟・大豆草取、男  
中打、田畑見廻り

十八日 右同断

十九日 諸作中打、女子共ハ牛草茹、或ハ男女ちやつ  
み、小麦あとの畑すき、田畑見廻り

廿日 右同断

廿一日 休日 田畑見廻り、此日は植付無滞相濟為祝  
と、小豆・そら豆・えんなどをヲ入、麦飯致

廿二日 こゑもち、諸作中打、女草取、牛之草茹、且  
又下人男女洗濯休二、三日間親里江遣申候、田畑見廻  
り

廿三日 こへもち、諸作中打、女ハ草取、又ハ牛之草  
茹、田畑見廻り

廿四日 半日休 右同断

二月

旦 小の月無御座候て八年二五、六日違御座候得共、月々やはり大之月二仕候

朔日 麦中打、或ハ男女薪樵、雨天二ハ藁仕事、女木綿拵

二日 右同断

三日 右同断

四日 右同断

五日 麻苧蒔、こへもち、男女共薪樵、雨天二ハ藁仕事、女木綿糸引

一初午之日は半日休、稲刈参り二而

七日 右同断

八日 右同断

九日 菜種土かい、麦中打、女ハ草取、雨天二ハ男女

厩こへ出し

十日 右同断

一亥之子之日ハ粟餅・ゆりこ餅致、月数程田ノ神江備

江申候

十一日 諸作中打、又ハこへもち、女麦草取、雨天二

ハ男女薪樵、或ハ木綿糸引

十二日 右同断

一宗門御改之日ハ男ハ休日

十三日 右同断

十四日 右同断

十五日 半日休 諸作中打、女草取、昼方ねはん会参

り

十六日 諸作中打、或こへもち、女麦草取、雨天二ハ

男女共薪樵

十七日 右同断

十八日 右同断

十九日 右同断

廿日 右同断

廿一日 麦中打、そら豆・えんどう中打、女草取、雨

天二ハ男女薪樵

廿二日 右同断

廿三日 右同断

廿四日 半日休 諸作中打、女草取、雨天二ハ男女薪

樵

廿五日 右同断

廿六日 休日 荒神祭り、例年覚養院頼村祈祷致し

廿七日 こへ持、男女薪樵、又女ハ糸もき取、是ゆで

干てから白二而はたき、囲置、年内ゆりこ餅交申候

廿八日 右同断

廿九日 右同断

晦日 右同断

三月

朔日 右同断

二日 右同断

三日 休日 節句、早朝氏神参、村方礼致し

四日 麦土かい、女ハ諸作草取、糸もき取、雨天二ハ

男女薪樵

五日 右同断

六日 こへ持、麦土かい、女草取、雨天二而ハ男女薪

樵、女糸もき取、此時分二下人男女洗濯休二、三日之

間親里へ遣し申候

七日 右同断

八日 右同断

一土用時分より目立候得ハ、追々里いも植付仕候、且

又土用入之前日二、なたね他揃仕候

九日 諸作土かい、又ハ水田打、女わらび取、柿之葉

取、是ゆで干て囲置、年内麦交雑飯致し

十日 右同断

十一日 右同断

十二日 右同断

十三日 右同断

十四日 こへ持、水田打、又ハ薪持、女ハ糸もき取、

りよふ取

十五日 右同断

十六日 休日 此日は御ことと申、粟餅・糸もき餅

致作、神江備江申候

十七日 種初揃池へつヶ、又ハ水田打、女ハ薪樵、り

うぶ取

十八日 水田中こなし、女わらび・ぜんまい取、切干、

囲置、年内麦飯に交申候

十九日 右同断

廿日 男女綿蒔、或大角豆種、畑に大豆種、のうらく

まき、又こえもち、女わらび取、或ぜんまい取

廿一日 右同断

廿二日 粟、きび或ハ稗まき、女共ハまきうわ、こへ

おき、又ハ綿蒔、或ハ水田中こなし致し

廿三日 右同断

廿四日 半日休 右同断

廿五日 男女草むしり、苗代肥にいたし歸りて苗代打、

女ハ大麦つき、又牛草蒔

廿六日 右同断

廿七日 水田中こなし、下肥に藁或ハ蕎麦からひろ出

し、女わらび・ぜんまい取、又ハ牛草蒔

廿八日 右同断、且又池方種上げ致し

廿九日 苗代ならし、種まき拵、或ハ水田岸おろし、

# 翻刻

井上奥本家文書の内、余部上村や井上家の状況、当時の舞鶴の食文化が判明する史料などを選定して翻刻した。翻刻は、主に京都府立大学歴史学科文化情報学研究室、舞鶴地方史研究会の上井吉雄、於久田推、小室智子が行った。

## 目次

- ・「作方年中行事」 ①
- ・周辺村との山論 ②～⑩
- ・庄屋引継文書目録 ⑪⑫
- ・幕末～明治期の献立 ⑬～⑳
- ・日露戦争井上奥本従軍書簡 ㉑㉒
- ・皇国地誌調査 ㉔

## 凡例

- ・翻刻にあたって基本的には原史料の記述を尊重しているが、つぎの点については変更を加えている。
- ・文字は原則として常用漢字を用いた。但し人名・地名は表記のまま記した。
- ・誤字・脱字・朱書などで、原本の文字に疑問がある場合は(力)とし、正字を○で注記した。
- ・虫損・汚損などによって文字が判読できない箇所は、□・「」で示した。また判読不明な文字は■で示した。
- ・読みやすくするため、適宜読点を施した。
- ・表紙、内表紙などは、該当する部分を「」で囲んだ。
- ・人名など原史料では改行しているが、余白の関係で一行にまとめたものがある。

①文化一〇年「作方年中行事」(文書番号2043)  
(表紙)

「文化十癸酉年

作方年中行事

七月 餘部上村」

百姓作方年中行事  
但節早遅御座候へ共、先中ヲ取月々中十五日之年之心得二而

元日 休日 先朝七ツ時二おき、雑煮を給、村役人初村中礼いたし候事

二日 休日 早朝氏神江参り、帰りにて寺江礼致候事

三日 休日 朝七ツ時前々藁を打、牛之綱又ハおもかい等致、年徳神備江、夫若菜取、町方鍛冶杯又町宿へ礼拵致候事

四日 町方鍛冶杯町宿江礼致、出町不致者ハ藁仕事、女木綿糸引

五日 薪樵、雨天二而ハ藁二而牛農道具致し、又ハ田みの致し、女木綿糸引

六日 右同断

七日 休日 七草、蕪菜雑水致し

八日 薪樵、雨天二而ハ藁仕事、又ハ田みの致、女木綿糸引

九日 右同断

十日 右同断

十一日 早朝為作り初藁三本植、是早稲・中稲・晚稲与致、女にわ初致、いかし・稗煎白二而引、昼給申候、昼より庄屋所へ寄合二参り、其余ハ薪樵、雨天二而ハ藁仕事、女ハ木綿糸引

十二日 菜種之中打、或ハ薪樵、雨天二而藁仕事、又

ハ田みの拵、綿一打、女木綿糸引

十三日 右同断

十四日 早朝氏神江参り、例年日持致し、薪樵、雨天二而ハ藁仕事、女木綿糸引

十五日 休日 朝小豆かゆ致、村方礼致し

十六日 薪樵、菜種之中打、仏法初ひるる念仏講致、六斎打申候

十七日 こゑもち、麦之中打、雨天二而ハ藁仕事・綿打、女木綿糸引

十八日 右同断

十九日 右同断

廿日 男女共薪樵、或麦中打、雨天二而ハ藁仕事、女木綿糸引

廿一日 右同断

廿二日 右同断

廿三日 右同断

廿四日 半日休 薪樵、麦中打、雨天二而藁仕事、女綿拵、夜分に男先例百万へん念仏申候

廿五日 男女共薪樵、又ハ麦中打、雨天二而ハ藁仕事、女木綿拵、男夜分に百万へん之念仏申候

廿六日 休日 百万へん供養任、且又堺谷村陰陽師頼、村祈禱致し

一春彼岸前よりひかかん中二麻苧蒔、茄子ふせ、多葉粉ふせ、牛蒡蒔

廿七日 こへもち、麦中打、女ハ菜種之草取、雨天二而ハ藁仕事、女木綿糸引

廿八日 右同断

廿九日 右同断

晦日 右同断

表紙の解説

	1	2	3
5		4	
(裏)		(表)	

- 1 「舞鶴の歴史アラカルト」パンフレット
- 2 文書蔵出し調査風景 東昇撮影
- 3 舞鶴地方史研究会との共同調査 東昇撮影
- 4 舞鶴クレインブリッジ 松岡秀雄氏撮影
- 5 東舞鶴高校での授業風景 廣瀬邦彦氏撮影

京都府立大学文化遺産叢書 (2008 ～)

- 1 南山城・宇治地域を中心とする歴史遺産・文化的景観の研究
- 2 近世伊予越智島地域における流動する人・物・情報  
—御用日記・諸願控の総合的研究—
- 3 八幡地域の古文書と石清水八幡宮の絵図—地域文化遺産の情報化—
- 4 八幡地域の古文書・石造物・景観—地域文化遺産の情報化—
- 5 丹後・宮津の街道と信仰
- 6 城陽市域の地域文化遺産—神社・街道の文化遺産と景観—
- 7 熊野の信仰と景観—宗教遺産学の試み—
- 8 石見銀山域の歴史と景観—世界遺産と地域遺産—
- 9 和束地域の歴史と文化遺産
- 10 八幡・南山城地域の寺院資料と信仰—京都府歴史資料調査—
- 11 舞鶴の文化遺産と活用
- 12 「丹後の海」の歴史と文化
- 13 古代寺院の儀礼・経営に関する分野横断的研究
- 14 舞鶴・京丹後地域の文化遺産
- 15 沖縄の宗教・葬送儀礼・戦没者慰霊



京都府立大学文化遺産叢書 第16集  
舞鶴の地域連携と世代間交流  
井上奥本家文書調査報告

編集 東 昇  
発行 京都府立大学文学部歴史学科  
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5  
発行日 2019年3月30日  
印刷